

---

# IV 教育課程表

(授業科目開講一覧表)

---

2023 年度入学生用



科目区分	科目コード	科目ナンバリング	保健医療学部 授業科	看護学 科目	単位数			時間数	開講年次									
					必修	選択	自由		1年		2年		3年		4年			
									春	秋	春	秋	春	秋	春	秋		
専門基礎科目	960C	NREM2005	臨床心理学	1			15				●							
	960D	NRCM1005	社会システムと人間	1			15	●										
	961A	NRCM2002	臨床薬理学	1			30			●								
	961B	NREM1002	臨床栄養学	1			15		●									
	9609	NRFM1001	生化学	1			30		●									
	961D	NRCM1006	病原体と感染	1			15		●									
	9651	NRFM1002	病態と治療の基礎	1			15		●									
	9652	NRGM1001	病態と治療Ⅰ(内科系)	2			30		●									
	9653	NRDM2001	病態と治療Ⅱ(内科系)	2			30			●								
	9654	NRAM2001	病態と治療Ⅲ(外科系)	2			30			●								
	9655	NRBM2002	病態と治療Ⅳ(小児)	1			15			●								
	9656	NRBM2003	病態と治療Ⅴ(産科・婦人科)	1			15			●								
	9657	NRCM2004	病態と治療Ⅵ(精神)	1			15			●								
	9621	NRGM1002	公衆衛生学	2			30		●									
	9627	NREM2006	保健医療福祉行政論☆	2			30				●							
	9628	NRCM2005	保健医療統計学Ⅰ☆	1			15			●								
	9629	NRFM2005	保健医療統計学Ⅱ☆	1			15				●							
	962A	NREM1003	環境と人間	1			15	●										
	専門科目	970A	NRCM1001	看護学原論	2			30	●									
		970B	NREM1004	看護理論概説	1			15		●								
970C		NRAM3004	看護倫理☆★	2			30					●						
970E		NRFM1005	ヘルスアセスメント論★	2			60		●									
980D		NRFM1006	基礎看護学方法論Ⅰ	2			60		●									
980E		NRDM2004	基礎看護学方法論Ⅱ	2			60			●								
980F		NRAM2004	基礎看護学方法論Ⅲ	1			30			●								
9861		NRGM1003	基礎看護学実習Ⅰ	1			45		●									
9862		NRFM2006	基礎看護学実習Ⅱ	2			90				●							
984A		NRBM1002	在宅看護学原論Ⅰ☆	2			30		●									
9848		NRBM2007	在宅看護学原論Ⅱ☆	1			15			●								
984E		NRGM2007	在宅看護学方法論	1			15			●								
984C		NRAM2008	在宅看護学演習Ⅰ	1			30				●							
984D	NRAM3009	在宅看護学演習Ⅱ	1			30					●							
986C	NREM3011	在宅看護学実習	2			90						●						
成熟期看護学	988A	NRBM2008	成熟期看護学原論	2			30			●								





開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	95010			
科目	9501 基礎ゼミナールI			授業種別	週間授業			
担当教員	藤井 徹也			単位数	1			
その他担当者	井上 直子、林 美佐							
授業概要	<p>基礎ゼミナールIは、大学生生活に早期適応ができるように大学生に必要なとされる基本的学修技能(話す、書く、聞く)、主体的学修態度などを身に付けることを目的とする。授業形態は、講義、グループワークなどの演習で行う。</p> <p>*この科目は該当授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		△	△	○	◎	○	△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノート・テイキングやアカデミック・ライティング、テキスト精読とその要約など大学生に必要な基本的学修技能を修得することができる。</li> <li>2. 大学生生活における時間管理と目標設定ができる。</li> <li>3. 人と接する態度・礼節などの一般的常識や自己管理、自己責任、規範意識を理解し、他者を尊重した行動が取れる。</li> <li>4. 学修で必要な図書館、各センターを活用できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	藤井徹也;看護学生スタートブック(第2版)、医学書院、2021. ISBN9784260048040 前田樹海、江藤裕之:APAに学ぶ看護系論文執筆のルール 第2版、医学書院、2023. ISBN未定							
参考書および参考文献	安部紘久;文筆力の基本の基本、日本実業出版社、ISBN9784534053084 福澤一吉;看護学生が身につけたい理論的に書く・読むスキル、医学書院、ISBN978-4-260-03640-5 酒井浩美、山崎啓子;看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK、日本看護協会出版会、ISBN978-4-8180-2356-7							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には教科書の指定箇所を熟読する(第1回、第3~8回)。②授業後には授業での学びを整理しておく(第1~15回)。③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(第1~15回)。以上①②③については、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修(45分程度/毎回)を行うこと。							
成績評価								
受講態度、レポート、課題により総合的に評価する なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする								
評価項目	割合	評価基準						
講義への取り組み	20%	受講時の主体性、グループワークの参加度を確認する。						
レポート	60%	レポート内容を確認する。						
課題	20%	講義で提示される課題に対する提出物の内容などを確認する。						
授業の実施方法と授業計画	第1回 講義・演習:本科目の概要と到達目標、授業計画、本学のポリシー、態度・礼節(藤井・その他担当教員) 第2回 講義・演習:大学生生活に必要なサポート、自己目標の設定、授業の受講方法とノート・テイキング(藤井・その他担当教員) 第3回 講義・演習:グループワークの方法、プレゼンテーションへの取り組み(藤井・その他担当教員) 第4回 講義・演習:情報の集め方、読み方、整理の仕方、複写のルール、情報リテラシー(藤井・その他担当教員) 第5回 講義・演習:レポートの書き方(藤井・その他担当教員) 第6回 講義:建学の精神(学長) 第7回 講義・演習:定期試験への取り組み、成績評価(藤井・その他担当教員) 第8回 講義・演習:臨地実習に必要な取り組み(藤井・その他担当教員) 第9回 講義・グループワーク:テーマ、役割の検討、決定(藤井・その他担当教員) 第10回~11回 グループワーク:テーマ内容の討議(全教員) 第12回 グループワーク:討議した内容の発表準備(全教員) 第13回 グループ発表①(全教員) 第14回 グループ発表②(全教員) 第15回 講義・演習:学びの統合(藤井・その他担当教員) *グループワークのメンバーは、講義時に提示する *課題については、講義およびメールで全体にフィードバックする。							
ナンバリング	NRAL1001							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95020				
科目	9502 基礎ゼミナールII		授業種別	週間授業				
担当教員	藤井 徹也		単位数	1				
その他担当者	小山 順子、相羽 利昭、森 裕介、渡邊 富士子							
授業概要	基礎ゼミナールIの学修を基盤に、興味関心のあるテーマについての文献検索、文献講読、討議、発表資料作成、発表を通して、論理的思考、クリティカルシンキングおよびプレゼンテーション能力を育成する。また、自己のキャリアデザインをテーマに文献検索と講読、レポート作成を通して、論理的な文章力を身につける。 *この科目は該当授業に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		△	△	○	◎	○	△	
到達目標	1. 多様なものの見方や異なる価値観を理解しながら、テーマに沿った討議ができる。 2. プレゼンテーションする力を修得できる。 3. アカデミック・ライティングを活用したレポートを作成できる。							
テキスト(教科書)	藤井徹也：看護学生スタートブック(第2版)、医学書院、20221. ISBN978-4-260-04804-0 前田樹海、江藤裕之:APAに学ぶ 看護系論文執筆のルール 第2版、医学書院、2023. ISBN未定							
参考書および参考文献	安部紘久：文章力の基本の基本、日本実業出版社、ISBN978-4-534-05308-4 福澤一吉：看護学生が身につけたい理論的に書く・読むスキル、医学書院、ISBN978-4-260-03640-5 酒井浩美、山崎啓子：看護学生のための「読む力」「書く力」レッスンBOOK、日本看護協会出版会、ISBN978-4-8180-2356-7							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には教科書の指定箇所を熟読する(第1回、7回、11～15回)。②授業後には授業での学びを整理しておく(第1～15回)。③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(第1～15回)。④基礎ゼミナールIの内容を事後学修して臨む(第1～15回)。以上①～④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修(45分程度/毎回)を行うこと。							
成績評価								
受講態度、レポート、プレゼンテーション内容で総合的に評価する なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする								
評価項目	割合	評価基準						
授業への取り組み	25%	受講時の主体性、課題の提出状況、グループワークの参加態度を確認する。						
レポート	65%	提出されたレポート内容を確認する。						
プレゼンテーション	10%	発表力、質疑に対する応答で確認する。						
授業の実施方法と授業計画	第1回 講義・演習：情報の集め方、資料作り、プレゼンテーションの実際など(藤井・その他担当教員) 第2回 グループワーク(一部講義)：テーマ決定、討議(全教員) 第3回 グループワーク：グループ討議と発表資料作成①(全教員) 第4回 グループワーク：グループ討議と発表資料作成②(全教員) 第5回 グループ発表①(全教員) 第6回 グループ発表②(全教員) 第7回 講義・演習：キャリアデザイン(藤井・その他担当教員) 第8回 個人ワーク：レポート作成①(全教員) 第9回 個人ワーク：レポート作成②(全教員) 第10回 個人ワーク：レポート作成③(全教員) 第11回 レポート発表会①(全教員) 第12回 レポート発表会②(全教員) 第13回 レポート発表会③(全教員) 第14回 講義・グループワーク：看護におけるカンファレンス(藤井・その他担当教員) 第15回 講義・グループ発表：カンファレンス、学びの統合(藤井・その他担当教員) *グループワークのメンバーは、講義時に提示する。 *課題のフィードバックは、メールで全体に行う。							
ナンバリング	NREL1001							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	95130			
科目	9513 倫理学		授業種別	週間授業			
担当教員	霜山 博也		単位数	2			
その他担当者							
授業概要	倫理学は人間の生き方を探求する学問である。哲学、宗教学との関連、歴史的な倫理学の変遷の概括を学び、人間の行動の規範と、その背景としての影響を与える倫理学からの視点について基礎的な理解を深める。また、諸科学が発展するなかで人間の行動は、自身とその周辺の環境を調整しながら生きる方策を探求することが必要になってきている。その調整において倫理的視点は重要である。生命倫理、医療倫理、社会倫理、政治倫理など多様であるが、それらに共通する倫理の原則等についても学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎	◎	○	△		
到達目標	1.さまざまな分野の倫理的問題を知り、広い視点で考えられるようになる。 2.現代社会の倫理的問題に関心を持ち、自分で調べ、それに対する意見を持てるようになる。 3.倫理的問題の難しさを知り、具体的な場面で実践できるようになる。						
テキスト(教科書)	テキスト: 使用しない。						
参考書および参考文献	特になし。適宜、授業内で紹介する。						
受講条件	履修条件はありません						
事前・事後学修(内容・時間)	事前学習(2時間相当/15回) ・新聞・ニュースなどを普段から読み、活字にいつも触れておくこと。 ・授業で学んだことを参考にして、世の中のさまざまな物事に対して、哲学的な視点から分析する訓練をすること。  事後学習(2時間相当/15回) ・授業後に、プリントを読み直し内容を復習しておくこと。 ・授業で分からなかったことを質問し、図書館等で調べておくこと。						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、私語、講義への取り組み等を受講態度の悪さがあれば、減点の対象とする場合があります。						
評価項目		割合	評価基準				
毎回の課題		30%	毎回の授業内容を理解しているか確認する。優秀な回答は次回の授業において匿名で読み上げ、どう良いのかを解説する。				
レポート		70%	授業内容を生かしつつ、自分なりにその問題について考えているか評価する				
授業の実施方法と授業計画	※各回の最後に授業内容と関連する課題を出す。次回の初めに、回答の解説や補足説明を行う。  1.(講義) ガイダンス 2.(講義) カントの義務論 3.(講義) 道徳法則について 4.(講義) 最大多数の幸福 5.(講義) ミルの自由論 6.(講義) 徳倫理学 7.(講義) 動物倫理とパーソン論 8.(講義) ロボット倫理 9.(講義) ロングフル・ライフ訴訟と反出生主義 10.(講義) 脳死・臓器移植と身体における他者 11.(講義) 生命倫理の諸問題 12.(講義) スポーツ倫理と社会における道徳の例外 13.(講義) 宗教の役割と隣人愛 14.(講義) レヴィナスと顔 15.(講義) 道徳と倫理 (講義の習熟度に合わせて予定を変更する可能性があります)						
ナンバリング	NREL1002						

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期			授業コード	95160			
科目	9516 哲学			授業種別	週間授業			
担当教員	霜山 博也			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	<p>教員や他の学生との質疑応答や討論を通じ、哲学を体験する。我々の身の回りにあるさまざまな事柄について、既存の学問や常識にとらわれずに論理的に考える能力を身につけていくことを目的とする。第一に感想や自分の考えたことを他人に理解できるように自分の言葉で伝える能力の習得を、第二にテキストの著者や他人の言いたいことを代弁する能力の習得を目指す。あわせて読解・論述能力の養成も目的とする。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		◎	△	◎	△			
到達目標	<p>① 哲学の問題を自分で考えられるようになる。          ② 自分と他人の意見を批判的に検討し、それを肯定的に生かせるようになる。          ③ 他者に理解してもらうために、説得的な文章を書けるようになる。</p>							
テキスト(教科書)	テキスト：使用しない。							
参考書および参考文献	特になし。適宜、授業内で紹介する。							
受講条件	履修条件はありません							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前学習(2時間相当/15回)          ・新聞・ニュースなどを普段から読み、活字にいつも触れておくこと。          ・授業で学んだことを参考にして、世の中のさまざまな物事に対して、哲学的な視点から分析する訓練をすること。</p> <p>事後学習(2時間相当/15回)          ・授業後に、プリントを読み直し内容を復習しておくこと。          ・授業で分からなかったことを質問し、図書館等で調べておくこと。</p>							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、私語や講義への取り組み等、受講態度の悪さがあれば、減点の対象とする場合があります。								
評価項目	割合	評価基準						
毎回の課題	30%	毎回の講義内容を理解しているか確認する。優秀な回答は次回の授業において匿名で読み上げ、どう良いのかを解説する。						
レポート	70%	レポートにて理解度を確認する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>※各回の最後に授業内容と関連する課題を出す。次回の初めに、匿名でさまざまな回答を紹介し、その回答の内容について議論する。また、回答の解説や補足説明、質疑応答を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(講義) ガイダンス</li> <li>(講義) 思想をふだんに生かすこと</li> <li>(講義) デカルトのコギト</li> <li>(講義) 自由について</li> <li>(講義) カントの批判哲学</li> <li>(講義) 物事の「よさ」を見抜く方法</li> <li>(講義) メルロ＝ポンティと身体図式</li> <li>(講義) プラトンのイデア論</li> <li>(講義) ニーチェとカへの意志</li> <li>(講義) 真理と虚構</li> <li>(講義) 記号について</li> <li>(講義) パロールとエクリチュール</li> <li>(講義) 言語行為論</li> <li>(講義) 言葉遊び</li> <li>(講義) まとめ(予備日として使用する可能性あり) (講義の習熟度に合わせて予定を変更する可能性があります)</li> </ol>							
ナンバリング	NRFL1001							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	951A0			
科目	951A 心理学概論			授業種別	週間授業			
担当教員	加藤 知佳子			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	心理学概論では、科学的にところを探求する方法とその成果について、基礎的な内容を学ぶ。「知覚」「記憶」「パーソナリティ」「社会的認知」「学習」「動機づけ」「言語」「社会的行動」「人生初期の発達」「青年期の課題」等のテーマをとりあげ、解説する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○	○		◎				
到達目標	1.人間のこころを構成するさまざまな機能（知覚、記憶、学習、動機づけ、言語、思考など）の基礎的な構成要素を説明できる。 2.人間のこころの働きに関する個人差や発達のな差異（パーソナリティ、人生初期の発達、青年期の課題など）について、代表的な理論を説明できる。 3.一人であるときと他者とともにいるときでこころの働きが異なることについて、例示することができる。							
テキスト（教科書）	『系統看護学講座 基礎分野 心理学』（山村豊・高橋一公著、医学書院） ISBN 978-4-260-02768-7							
参考書および参考文献	必要に応じて指示する。							
受講条件	履修条件を付けない。							
事前・事後学修（内容・時間）	予習・復習の内容（4時間相当） 1.指示されたテーマについて、テキストやその他の資料を調べてノートにまとめておく。（各2時間） 2.授業で得た気づきと学びについてノートにまとめるほか、さらなる疑問については、毎回提出するミニレポートに記載して、自分でも調べ学習をしておく。（各2時間） 3.学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。							
成績評価	授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。							
評価項目		割合	評価基準					
ミニレポートあるいは小テスト		0.3	授業内容の理解度あるいは取り組みを評価する。					
定期試験		0.7	筆記試験によって、授業内容の最終的な理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）ガイダンス： 授業のねらい、試験について、心理学とは 第2回（講義）感覚と知覚： 感覚のしくみとはたらき 第3回（講義）感覚と知覚： 知覚のしくみとはたらき 第4回（講義）記憶： 記憶のメカニズム 第5回（講義）学習： 学習のメカニズム(Think-Pair-Share) 第6回（講義）感情と動機づけ： 感情とは 第7回（講義）感情と動機づけ： 動機づけの理論(Think-Pair-Share) 第8回（講義）性格とパーソナリティ： 性格とは 第9回（講義・演習）性格とパーソナリティ： 性格の測定 第10回（講義）思考・言語・知能： 思考と言語 第11回（講義）思考・言語・知能： 言語と知能の障害 第12回（講義）発達： 発達とは、乳幼児の発達 第13回（講義）発達： 児童、青年、成人、および高齢者の発達 第14回（講義・演習）社会と集団： 社会的認知、態度と説得的コミュニケーション(Think-Pair-Share) 第15回（講義）社会と集団： 対人関係と対人魅力、集団とリーダーシップ(Think-Pair-Share)  本科目は、主として講義形式によって行う。 ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付けて返却するほか、全体で共有すべき質問・疑問全体については授業内でフィードバックを行う。また、各自の気づきや考えを共有し、それに対するコメントをフィードバックするために、Google Classroomの機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRBL1001							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	95120					
科目	9512 人間関係論		授業種別	週間授業					
担当教員	式守 晴子		単位数	2					
その他担当者									
授業概要	<p>人間関係とは人と人とを結び感情をふくめたつながりである。人と人との二者が最小単位となって、多くの人々のつながりが集まり社会が作られている。看護実践においても対象となる人々と看護師との信頼関係を通して具体的なケアが可能になるため、看護学生が人間関係について学ぶことが必要である。</p> <p>この科目では、人を身体的、心理的、社会的側面からとらえ、二者の人間関係を通して人間関係の基本的な知識、理論や技法を講義や演習を通して学ぶ。二者の関係の中で最も理解しやすい関係は自分と他人、つまり自己と他者の二者関係で、自己から見た他者との継続的な人間関係を対人関係と呼ぶ。そこで発達段階に沿って他者の対人行動や自己理解の知識や方法を学ぶ。また、人間関係を築くツールとなるコミュニケーションに関する知識・技術を習得し、これらを活用したのちのスキルアップするための振り返りの方法を学ぶ。さらに今後学ぶ保健医療福祉分野で使われる人間関係の用語を紹介する。</p>								
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○	○	△			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の身体的、心理的、社会的発達段階の特徴を理解し、自己や他者について個々の状況を説明できるようになる。</li> <li>2. 人間関係を築くためのコミュニケーション手段の種類や特徴を知り、適切な手段でコミュニケーションできるようになる。</li> <li>3. 自己のコミュニケーションの振り返りの方法を学び、よりよい人間関係を築く工夫ができるようになる。</li> </ol>								
テキスト(教科書)	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院								
参考書および参考文献	*参考書、参考文献は授業時間内に紹介いたします。								
受講条件	受講予定者は、第1回講義に必ず出席すること。								
事前・事後学修(内容・時間)	<p>* 毎回、事前課題として、次回の授業内容の予習し、授業冒頭でリアクションペーパーの今日の目標欄に関心を持った課題や質問を記載する。(60分×15回)</p> <p>* 毎回、授業中の最後にリアクションペーパーに質問あるいは授業で理解したことや活用できそうなことを書き、知識の定着をはかる。(授業中15分+授業外45分)×15回)</p>								
成績評価	・課題の提出(30%)、定期試験(70%)								
評価項目		割合	評価基準						
課題の提出		30%	課題に対する適切な記述になっているのかを評価する。						
定期試験		70%	筆記試験にて理解度を確認する。						
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 (講義) ガイダンス、講義の概要 エリクソンの発達段階、自己と自我</li> <li>第2回 (講義) 発達段階: 乳児期の対人関係 (アタッチメント、人見知り、虐待の影響など)</li> <li>第3回 (講義) 発達段階: 幼児期初期、遊戯期の対人関係 (自我の形成、言葉の発達、自己中心性など)</li> <li>第4回 (講義) 発達段階: 学童期の対人関係 (知能の発達と学習の関係、集団での行動、競争など)</li> <li>第5回 (講義) 発達段階: 青年期・前成人期の対人関係 (アイデンティティの確立、自立への道のりと悩みなど)</li> <li>第6回 (講義) 発達段階: 成人期・中年期の対人関係 (結婚、養育などの家族の発達段階、社会的役割、中年危機など)</li> <li>第7回 (講義) 発達段階: 老年期の対人関係 (心身の変化の受容、知能の使い方の変化など)</li> <li>第8回 (講義と演習) コミュニケーションⅠ 対人コミュニケーション</li> <li>第9回 (講義と演習) コミュニケーションⅡ ICTとコミュニケーション</li> <li>第10回 (講義と演習) 支援のためのコミュニケーションスキル: コーチング</li> <li>第11回 (講義と演習) 日常生活で活用できるコミュニケーションスキル: アサーション</li> <li>第12回 (講義と演習) 対人関係の振り返り方法1: リフレクション</li> <li>第13回 (講義と演習) 対人関係の振り返り方法2: プロセスレコード</li> <li>第14回 (講義と演習) 事例を用いて看護師・患者関係を考える</li> <li>第15回 (講義) 支援に関する用語とまとめ</li> </ol> <p>授業内の質問に対してフィードバックを行う。 受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>								
ナンバリング	NRFL1002								

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期			授業コード	95260			
科目	9526 社会学概論			授業種別	週間授業			
担当教員	中野 聡			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	この講義では、グローバル社会(特にイギリスと英語圏諸国)とその多様性の中に日本の社会状況を位置づける比較社会学の視点から、近現代産業社会の仕組みと変化を学ぶ。授業は、相互に関連する5つの基礎的テーマ(現代社会論の古典、人口変化の論理、産業社会と家族、社会階層と社会格差、福祉国家とその危機)を中心に進めるが、特定のテーマに焦点をあて、また異なるトピックを包摂することがある。知識の定着を図るため、適宜資料学習やレポートの作成を求める。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	○	○			△	
到達目標	参加者は、グローバルな視点から社会学と社会学、経済学領域の成果を学び、近現代産業社会の仕組みと変化に関する基礎知識を習得する。							
テキスト(教科書)	授業中に指示。							
参考書および参考文献	A.ギデンズ『社会学』而立書房 2009年 第5版 ISBN 978-4880593500							
受講条件	社会科学領域に関心があること。							
事前・事後学習(内容・時間)	社会科学では、日々の社会経済的事象の背景をなす構造的側面を学ぶ。日頃から新聞や関連書籍に接して基礎的知識を習得するとともに、知的好奇心を涵養すること(毎日30分程度)。適宜、復習レポート(課題学習)の作成を求めるが、一部は事後学習の形態をとることがある。期末試験(選択論述式)の準備を十分に行うこと(2、3時間程度)。							
成績評価	授業参加(レポートや受講態度)30%程度、試験(選択論述式)70%程度。受講者数に応じ、試験を期末レポート・小論文に変更することがある。							
評価項目	割合	評価基準						
授業参加	30%	授業レポートの提出など						
期末試験	70%	テーマの基礎理解(選択論述式)						
授業の実施方法と授業計画	<p>講義では、以下の基本プログラムをベースに、いずれかの項目を重点的に論じる。また、履修者数や進度に応じて授業内容や形態を変更することがある。</p> <p>I 現代社会論の古典  【講義】第1回 近代という概念—K.マルクスとM.ウェーバー、現代の社会理論 近代という概念、近代と社会意識—K.マルクスとM.ウェーバー、ポスト近代—現代の社会思想、【課題学習】身分制度と階級社会—近代化の中で失われたもの  【講義】第2回 戦後社会の構造(1) 現代社会の理論—見田宗介、市場と社会の関係史—A.ギャンブル、【課題学習】消費社会の問題  【講義】第3回 戦後社会の構造(2) フォード主義からポストフォード主義へ—R.ポワイエとレギュラシオン学派、ポストフォード主義と民主主義、フレキシブル・スペシャライゼーション(柔軟な専門化)—M.ピオリとC.セーブル、多様な資本主義論—D.ソスキス【課題学習】戦後体制の構造</p> <p>II 人口と家族—社会的再生産  【講義】第4回 人口変化 人口転換モデル、人口変化の国際比較、人口変化のコンポーネント、【課題学習】少子化の要因  【講義】第5回 少子高齢社会の到来 人口変化の論理、少子高齢社会の到来、出生力挽回の秘訣、【課題学習】少子化社会から均衡社会へ  【講義】第6回 産業社会と家族 産業社会と家族、家族史・家族社会学から学ぶ(オプションから選択)：欧米伝統社会の家族構造、産業社会と家族、産業社会と日本の家族  【講義】第7回 現在の家族・未来の家族 核家族の社会学、核家族と男女の役割分担、ワークライフバランスと家族の未来、一人暮らしは幸せか【課題学習】現代日本の家族と社会</p> <p>III 社会階層と格差社会—社会分化  【講義】第8回 社会階層論と格差社会論… 階級論と格差論(オプションから選択講義)、階級論、階級消滅論、先進諸国の経済格差、【Option】産業社会とアリストクラシー  【講義】第9回 産業社会の所有関係… 大企業体制の変化、産業社会の所有関係、グローバル資本家層の登場  【講義】第10回 労働・中間層の変化… 労働・中間層の変化、豊かな労働者再訪、ポストインダストリアル・プロレタリアート(非正規雇用と移民の問題)  【講義】第11回 格差と貧困… 日本の経済格差、新しい貧困層、非正規雇用の国際比較、富裕層の変化、【Option】子供の貧困、ニートとフリーター  【講義】第12回 格差社会の要因と対策… 所得分配システム、国際比較、税制・福祉国家と再分配政策、分配・再分配システムと貧困、機会均等社会をめざして</p> <p>IV 福祉国家と教育、宗教—社会統合  【講義】第13回 福祉国家論… 福祉国家の形成と社会権思想、福祉国家の展開と収斂論、福祉国家の危機と類型論  【講義】第14回 福祉国家の現在… 日本の福祉国家、国際比較、なぜ貧困がなくならないのか、【課題学習】社会権は守られているか  【演習】第15回 福祉国家の未来… 機会均等社会へ向けて</p> <p>期末試験に関しては、第16週にフィードバック(解説)を行うことがある。</p>							
ナンバリング	NRBL1002							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95280				
科目	9528 社会福祉学		授業種別	週間授業				
担当教員	葛谷 潔昭		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	<p>本科目は、患者や利用者の生活に利する基礎的な社会福祉サービスと社会保障制度、対人援助の理念を学習する。</p> <p>「人間の幸せとはなにか」を考え、人間が人間らしく生きていくための、自己実現に向けての、社会、生活環境、制度のあり方を考え、必要な人々への適用、その他の援助を考えることができる基礎的能力を学習する。</p> <p>例えば、福祉施設、地域福祉、法律や社会制度等の福祉課題に対する物質的・精神的援助を行う総合的サービスとしての社会福祉とそのあり方、社会保障制度、社会福祉と医療の関連と、保健・医療・福祉の連携と統合について学習する。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	△	○	△		△	
到達目標	<p>①対人サービス専門職として、社会福祉の意義・目的、社会福祉とその関連制度について理解したうえで活用できる</p> <p>②専門職として、社会福祉対象者の利用者ニーズを把握できる</p> <p>③社会福祉の対象者に必要な社会福祉資源を選択し、アドバイスできる</p> <p>④保健・医療・福祉の連携と統合の知識と心構えを身に着ける</p>							
テキスト(教科書)	『これで突破! 社会保障&関係法規2023 (看護師国家試験対策ブック)』 西田幸典・和泉澤千恵 著 メディカ出版 ISBN-13:978-4840478564							
参考書および参考文献	適宜、配布・紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>1.各回の授業計画に沿って、テキスト等の該当部分を熟読しておくこと。(合計8時間程度)</p> <p>2.授業で紹介・配布された資料等について再度確認しておくこと。(合計8時間程度)</p> <p>3.定期試験に向けて試験範囲の復習をしておくこと。(合計6時間程度)</p> <p>4.社会福祉制度とサービスについての時事的な話題に関心を払い、ニュース、新聞報道内容に注意を向けメモを取るようしておくこと。(合計6時間程度)</p> <p>5.授業後の感想文・レポート作成(合計6時間程度)</p>							
成績評価	<p>授業内容に関する課題・レポート、筆記試験を行い、科目の到達目標に対する達成度を評価する。</p> <p>多くの欠席・遅刻・早退、課題未提出、演習の不参加など、劣悪な受講状況は減点の対象となる場合がある。</p>							
評価項目		割合	評価基準					
演習、課題、レポート		45%	演習内容、課題提出状況、授業内容の理解度、課題に対する適切な内容や記述となっているかを評価する。					
定期試験		55%	筆記試験にて授業の理解度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回(講義)オリエンテーション・社会福祉の考え方</p> <p>第2回(講義)現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向・歴史と展開</p> <p>第3回(演習)社会保障制度と社会福祉</p> <p>第4回(講義)社会福祉の仕組みと運営</p> <p>第5回(講義・演習)社会福祉の機関と施設・援助</p> <p>第6回(講義)医療保障制度</p> <p>第7回(講義)所得保障制度と公的扶助</p> <p>第8回(講義)社会福祉と医療・看護の連携</p> <p>第9回(講義・演習)子ども家庭福祉</p> <p>第10回(講義・演習)高齢者福祉の理念と制度</p> <p>第11回(講義)介護保険制度</p> <p>第12回(講義・演習)障害者福祉</p> <p>第13回(講義)地域福祉</p> <p>第14回(講義)これからの社会福祉の課題</p> <p>第15回(講義・演習)社会福祉を支える人たち</p> <p>課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。</p> <p>受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。</p>							
ナンバリング	NRCL1001							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95320					
科目	9532 憲法		授業種別	週間授業					
担当教員	伊藤 裕		単位数	2					
その他担当者									
授業概要	この授業は、日本国憲法の基本原理と規定内容を理解し、改めて市民社会法としての憲法の至高性を認識してもらうことを目的としている。現代社会は、憲法が規定する統治システムによって規制されるが、現実政治の担い手たちは、最高法規たる憲法を蔑ろにしている。受講者には、日本国憲法の崇高な理念を正しく理解し、主体的な価値判断ができるようになることを望む。講義では、日本国憲法の構造を分かり易く解説し、市民としては是非知っておいて欲しい基本的知識について講述する。								
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
ディプロマポリシーとの関連性		○	△	○					
到達目標	憲法学は多分にイデオロギー的な学問領域であり、論者の思想信条、主義主張が色濃く反映する。しかし、この授業は、教職課程の必修科目であることや公務員試験を目指す受講者の存在を考慮し、憲法規定と主要判例の客観的解説を心がけ、到達目標も次のように設定する。 ①法体系における憲法の位置づけについて説明できる。 ②日本国憲法の基本的価値を、制定の歴史に基づき正しく理解し説明できる。 ③憲法解釈上の疑義とされる問題を認識し、「憲法問題」の実相について説明できる。 ④現時の多様な改憲論を比較検討し評価できる。								
テキスト(教科書)	霜鳥秋則著「テキスト 教職・教養のための日本国憲法入門」 ジアース教育新社 ISBN 978-4-86371-281-2 2200円+税								
参考書および参考文献									
受講条件	必修科目								
事前・事後学修(内容・時間)	毎回、教科書の指定箇所や配布資料を読んでおくこと(30分程度×14回) 新聞やテレビ、ウェブ等で「憲法問題」を見聞したら、メモ程度でよいからミニレポートにし提出する(40分×3回程度)								
成績評価	期末に行う記述式試験の評点が中心となるが、ミニレポートやチャトルカード提出など、講義への参加姿勢も考慮して総合評価する。								
評価項目		割合	評価基準						
定期試験		90%	講義理解(語句、判例など)と到達目標の達成度で評価する。						
ミニレポート・チャトルカード		10%	自主学習への取り組み姿勢を確認する。						
授業の実施方法と授業計画	第1回 憲法総論 近代憲法の基本原理(講義) 第2回 日本憲法史 最高法規としての日本国憲法(講義) 第3回 日本国憲法の基本原理1 国民主権/平和主義(講義) 第4回 日本国憲法の基本原理2 人権保障 人権の主体 人権の限界(講義) 第5回 基本的人権1 包括的人権/法の下での平等(講義) 第6回 基本的人権2 思想・良心の自由/信教の自由/学問の自由(講義) 第7回 基本的人権3 表現の自由/集会・結社の自由(講義) 第8回 基本的人権4 経済的自由権(講義) 第9回 基本的人権5 人身の自由(講義) 第10回 基本的人権6 生存権/労働権/教育権(講義) 第11回 基本的人権7 参政権/国民の義務(講義) 第12回 三権分立1 国会・内閣(講義) 第13回 三権分立2 裁判所 違憲立法審査制(講義) 第14回 地方自治(講義) 第15回 憲法改正論議 改めて「立憲主義」を問う(講義)								
	※ 講義の進行状況や受講者の関心に応じ、授業計画を変更することもあります。 ※ 授業形態は前回「講義」形式ですが、受講者の積極的な参加も望むので、授業中の質問、意見など活発に出してください。さらに質問・意見などあれば、出席カード裏面に気軽に書いてください。全員で共有できるものについては、次の講義の際に紹介、回答します。ミニレポートにはコメントを付けて返却しフィードバックします。								
ナンバリング	NRDL1001								

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95300				
科目	9530 地球の生態学		授業種別	週間授業				
担当教員	稲田 充男		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	<p>地球環境の成り立ちや地球科学の基礎的な知識について説明し、地球環境問題について、水、大気、生物等に関して具体的な例を挙げて解説する。科学技術の発展と人間の生活を自然環境に調和させることの大切さを理解させ、人類を含む生物の生存について考えさせる。単なる個々の知識の習得にとどまらず、自然環境の保全や自然保護の問題に対する「科学的なものの見方・考え方」を培う。</p> <p>授業ではUNIVERSAL PASSPORTの課題提出・授業資料・アンケートなどの機能を活用し、双方向の授業を行う。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○		○				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>生態系の役割について述べるができる。</li> <li>地球環境問題群の全体像と相互作用について列挙できる。</li> <li>主な地球環境問題について、その原因と影響について述べるができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	「地球環境学入門 第3版」(山崎友紀、講談社、978-4065214695) 参考URL: { <a href="https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000328517">https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000328517</a> }							
参考書および参考文献	「地球環境キーワード事典(五訂)」(地球環境研究会、中央法規出版、978-4805847961) 「地球環境の教科書10講」(左巻健男・平山明彦・丸里徳泰、東京書籍、978-4487800629) 「地球環境論入門」(松信八十男、サイエンス社、978-4781908922) その他、講義の中で適宜紹介する。							
受講条件	特になし。							
事前・事後学修(内容・時間)	次のような事前・事後学習を毎回4時間程度行うこと。( )内に目安の時間を示す。 ・新聞などに目を通して、環境問題など社会の変化について調べる。(60分程度) ・次回授業範囲の内容について教科書・配付資料の該当箇所を熟読する。(30分程度) ・次回講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べ、まとめる。(30分程度) ・毎回の授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。(30分程度) ・教科書や配付資料などを活用して、予習と復習に励む。(90分程度) ※わからないところはテキストにマークし、次回の講義時に質問をするようにする。							
成績評価								
課題(40%: 講義内容の確認)								
期末試験(60%)								
期末試験内訳: 講義内容の基礎的事項に関する問題(60%)、発展・応用問題(40%)								
なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な受講態度は減点の対象とする。また、正当な理由なく3回以上欠席した者は受験資格を失う。								
評価項目		割合	評価基準					
課題		0.4	前回までの講義内容についての理解度を確認する。					
期末試験		0.6	筆記試験にて講義内容についての理解度を確認する。 概ね基礎的事項に関する問題が60%、発展・応用問題が40%の割合で出題する。					
授業の実施方法と授業計画	第01回 (講義・演習) ガイダンス・地球環境問題・関連問題演習 第02回 (講義・演習) 自然科学の基礎: 化学・数学・物理の基礎・関連問題演習 第03回 (講義・演習) 地球の概観・地球を支える5つのサブシステム・関連問題演習 第04回 (講義・演習) 地球の大気と気候・関連問題演習 第05回 (講義・演習) 地球の物質循環・関連問題演習 第06回 (講義・演習) 生態系: 生物の基礎・生態系とは・関連問題演習 第07回 (講義・演習) 生物多様性とは・生物多様性を守る意義・森林破壊・関連問題演習 第08回 (講義・演習) 酸性雨・オゾン層破壊・地球温暖化・異常気象・関連問題演習  ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあり得る。  授業内で課題に対するフィードバックを行う。 必要に応じて、オフィスパワーなどを利用し個別に対応する。							
ナンバリング	NRDL1001							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	953A0				
科目	953A 生命科学の基礎		授業種別	週間授業				
担当教員	城座 映明		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	<p>本科目は、高等学校での化学、および生物学を統合した内容で進める。具体的には、原子・分子の構造を出発点とし、物質と濃度、酸・塩基の中和滴定、細胞の構造と機能、生殖と細胞分裂等について概説する。この科目は、専門基礎科目である「からだの構造と機能」「臨床薬理学」「病態と治療の基礎」等、また、専門科目である各看護学における『対象のアセスメント』や『援助方法』の理解をするための知識基盤となる位置づけである。</p> <p>この科目は当該授業内容に関する 生化学 の実務経験を有する教員等がその経験を活かして講義等を行う科目である。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○				
到達目標	<p>機能系領域への導入としてのいくつかの到達目標を示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 溶液のさまざまな濃度表現を説明できる。</li> <li>2. 化学結合の種類と官能基の性質を説明できる。</li> <li>3. 臨床で使用される薬物の機能を説明できる。</li> <li>4. 酵素の構造と機能を説明できる。</li> <li>5. 細胞膜の構造を説明できる。</li> <li>6. 薬物の細胞内への浸透性を説明できる。</li> <li>7. セントラルドグマを説明できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	令和 5 年度 春学期 生命科学の基礎							
参考書および参考文献	生命科学の基礎 城座 映明 著 学建書院 978-4-7624-0675-1							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	本科目は 2単位の講義であり、毎回のテキストの学修範囲に対し 予習 60 分・復習 60 分 ほどの時間を充てることが望ましい。							
成績評価	<p>授業内容は、導入・前半・後半の3部から構成されています。各部に対応させて 導入 50 点、中間 100 点、定期 100 点の3回の試験を実施致します。また、中間試験は、導入の範囲も含めます。基準点に達しない学修者に対しては その時の試験の点数をゼロ点とした上で 再試験を実施いたします。再試験を受験した場合には、再試験での 6 割以下の点数が評価点となります。これらの試験の合計点を 2.5 で割った数値に、提出物に対する評価を加味することにより 生命科学の基礎 の評価点と致します。</p>							
評価項目		割合	評価基準					
導入試験		0.2	筆記試験にて理解度を確認します。					
中間試験		0.4	筆記試験にて理解度を確認します。					
定期試験		0.4	筆記試験にて理解度を確認します。					
授業の実施方法と授業計画	<p>導入試験・中間試験・定期試験 の終了後に自己採点を行い、結果を Classroom を経由した リスポンスシートで送信してください。試験直後に行う自己採点は、試験内容の復習として 大変重要です。</p> <p>第 01 回 (講義) 生命科学の基礎の内容を把握するために、ガイダンスを行う。</p> <p>第 02 回 (講義) 溶液のさまざまな濃度表現を理解するために、物質と濃度を理解する。</p> <p>第 03 回 (講義) 化学結合の種類と官能基の性質を理解するために、混成軌道を学ぶ。</p> <p>第 04 回 (講義) 臨床で使用される薬物の機能を理解するために、化学物質の略記法を学ぶ。</p> <p>第 05 回 (講義) 導入試験・解説</p> <p>第 06 回 (講義) 臨床で使用される薬物の機能を理解するために、化学結合と種類と官能基の構造を学ぶ。</p> <p>第 07 回 (講義) 薬物の細胞内への浸透性を理解するために、官能基のイオン化を学ぶ。</p> <p>第 08 回 (講義) pH の概念と緩衝作用を理解するために、化学平衡の法則と中和滴定を学ぶ。</p> <p>第 09 回 (講義) 前半試験・解説</p> <p>第 10 回 (講義) 酵素の構造と機能を理解するために、アミノ酸とタンパク質を学ぶ。</p> <p>第 11 回 (講義) 生化学反応と酵素との関わりを理解するために、化学反応と酵素の機能を学ぶ。</p> <p>第 12 回 (講義) 細胞膜の構造を理解するために、脂質の構造と機能を学ぶ。</p> <p>第 13 回 (講義) 薬物の細胞内への浸透性を理解するために、物質の極性を学ぶ。</p> <p>第 14 回 (講義) セントラルドグマを理解するために、核酸の構造と機能を学ぶ。</p> <p>第 15 回 (講義) タンパク質の生合成を理解するために、セントラルドグマを学ぶ。</p> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。</p>							
ナンバリング	NRAL1002							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95210				
科目	9521 文化人類学		授業種別	週間授業				
担当教員	印南 敏秀		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	文化人類学は、生きていくための生活文化の基本を学ぶ新しい学問です。多様な生活文化のなかから最も身近で関心の高い食文化をとおして、身体文化や健康食などにもふれたい。異文化の比較をとおして、なぜ違うのか、なぜ同じなのかを考え、文化の多様性と工夫をあきらかにする。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○	△	○			△	
到達目標	①文化人類学の目的や方法について、食文化をとおしてみんなに説明できるようになった。 ②生活文化が自然や社会と深く関わり、多様で大切であることが理解できるようになった。 ③生きていくための生活文化のフィールドワークの方法について理解できるようになった。 ④理論やフィールドワークをもとに、誰とでもコミュニケーションをはかれるようになった。 ⑤講義がすむなかで、だんだん文化人類学やフィールドワークが楽しくなった。							
テキスト(教科書)	石毛直道『食事の文明論』中公文庫、2016。ISBN 978-4-12-206306-8							
参考書および参考文献	石毛直道監修『講座食の文化』1~7巻 農山漁村文化協会 1999							
受講条件	履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	各講義の前にテキストの該当部分を2時間は熟読して予習して、講義の後で再度読み直して1時間ほどで復習して自分なりに小レポートにまとめて翌週提出する。							
成績評価	基本は毎回出席すること。小レポートで、どこまで理解できているかを確認・評価し、疑問に答える(50%)。定期試験で全体的な評価をおこなう(50%)。							
評価項目		割合	評価基準					
課題小レポート		50%	学んだことを身近なフィールドワークでみなおす。					
定期試験		50%	文化人類学の基本をどこまで理解できているか全体的な試験で評価する。					
授業の実施方法と授業計画	＊前回の講義内容について、要点だけ書いて小レポートを提出する。何人かに発表してもらい、印南から要点をコメントする。 1 (講義) 文化人類学とはなにか 2 (講義) 「食」の文化とは 3 (講義) 東西の食文化・ごはんとパン 4 (講義) 東西の食文化の背景としての水 5 (講義) 日本人は何を食べてきたのか 6 (講義) だれが食事をつくるのか 7 (演習) 1週間の食事についてのグループワーク 8 (講義) 東海海里山の食文化 9 (講義) 名古屋めし 10 (講義) 東海の祭りとし 11 (講義) 食具論 12 (講義) ご飯の食べ方 13 (講義) なぜマイ箸・マイ茶碗 14 (演習) 東海地方の食文化についてのグループワーク 15 (演習) 東海地方の食文化についてのグループ発表 16 (試験) 定期試験							
ナンバリング	NRAL1004							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	95230			
科目	9523 国語表現法			授業種別	週間授業			
担当教員	中森 陽子			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	現代社会において報告・連絡などは、文書によって行われることが一般的である。このような文書を作成するには、さまざまな決まりを理解していかなくてはならない。 国語表現法では、レポートなどの論理的な文書を作成するために必要とされる知識を身につけることを目的とする。併せて、実社会で記される文書を正しく理解するために必要とされる知識を獲得する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○		○				
到達目標	<p>大学で学び社会で働くには、文章表現力を身につける必要がある。国語表現法で学ぶ内容は、学科の卒業認定・学位授与の方針「看護にかかわる事象を科学的に探求するための基礎的な研究能力を身につけている」「看護の対象となる人々を、生物・心理・社会的な面から統合的に理解するための、広い教養と専門的な知識・技術を身につけている」「看護における顕在的・潜在的課題に対し、科学的根拠に基づく適切な判断と、解決していくための実践能力を身につけている」に沿ったものであり、その到達目標は、以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語の基礎を理解し述べることができる</li> <li>2. 文書作成に必要な知識を理解し述べるができる</li> <li>3. 目的に応じた文書が記述できる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	教科書：『キャリアアップ国語表現法二十一訂版』（丸山顯徳編著 嵯峨野書院）1,700円+税 ISBN 978-4-7823-0604-8							
参考書および参考文献								
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>毎授業前に教科書を読んでおくこと(第1回～15回/1時間程度)          毎授業後に授業で学んだことを復習すること(第1回～7回、第11回～13回/1時間程度)          授業内に指示されたレポートを作成すること(第8回～10回/1.5時間程度)          授業で学んだことの復習に加え、定期試験範囲の復習を行うこと(第14回～15回/1.5時間程度)</p>							
成績評価	課題(30%)、定期試験(70%)に基づいて評価する。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する。						
課題	30%	課題に対して適切な内容になっているかを確認する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>※前回の講義が知識を習得する内容の場合は、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。</p> <p>第1回 ガイダンス 漢字習得の近道          第2回(講義・演習) 同音異義語 同訓異義語          第3回(講義・演習) 音訓と熟語          第4回(講義・演習) 熟語の構造          第5回(講義・演習) 四字熟語          第6回(講義・演習) 仮名遣いと送り仮名          第7回(講義・演習) 文のしくみ 文章構成          第8回(講義・演習) 文の要約          第9回(講義・演習) レポートの作成          第10回(講義・演習) レトリック、慣用表現の誤用、原稿用紙の使い方          第11回(講義・演習) 待遇表現1          第12回(講義・演習) 待遇表現2          第13回(講義・演習) ビジネス文書1          第14回(講義・演習) ビジネス文書2          第15回(講義・演習) まとめ</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。</p>							
ナンバリング	NRBL1003							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95170					
科目	9517 現代芸術論		授業種別	週間授業					
担当教員	加藤 克俊		単位数	2					
その他担当者									
授業概要	現代芸術と呼ばれる美術ジャンルは、様々な場所や機会において観ることができる。それは形あるものだけではなく、空間や概念などの鑑賞者の思考に所在するものまでも。この授業では現代芸術とどのように対峙し、どこに作品の魅力があるのか、鑑賞の仕方を学ぶ。								
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
ディプロマポリシーとの関連性	△		△						
到達目標	1. 美術鑑賞に興味を持つことができる。 2. 鑑賞と作家理解を通じ、様々な現象に対して多角的な解釈を試みることができる。 3. 人々は多様な価値観を持っている事を理解し、認めることができる。								
テキスト(教科書)	なし								
参考書および参考文献	適宜資料を用いる。								
受講条件	美術に興味を持っていること。まじめに授業に取り組むことができること。								
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回120分程度) 毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかったプリントや制作は、完成するまでごだわりを持って取り組むこと。								
成績評価	毎回の提出物50%と最終回の確認テスト50%で総合的に評価する。 なお、授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。								
評価項目		割合	評価基準						
提出物		50%	授業で学んだことをプリントに記入したり、制作したりしたものを提出してもらいます。内容の理解度や、自身の考えをどれだけ深められ、示すことができているか見ます。						
確認テスト		50%	これまでに学んだことから問題を作成します。得点が評価となります。持ち込み不可。						
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 現代芸術について 社会の中での表現行為 第2回 (講義) 絵画と非絵画 第3回 (講義) 美術館×国際展×パブリックアート 第4回 (演習) デートコースを考えよう 第5回 (講義) 抽象表現主義1 第6回 (演習) 抽象表現主義2(制作体験) 第7回 (講義) コンセプチュアルアート 概念芸術1 第8回 (演習) コンセプチュアルアート 概念芸術2(制作体験) 第9回 (講義) ミニマルリズム 第10回 (講義) ランドアート 第11回 (講義) ポップアート1 第12回 (演習) ポップアート2(制作体験) 第13回 (講義) ニューペインティング グラフィティアート 第14回 (講義) J 帰郷 スーパーフラット 第15回 (講義) アールブリュット  ※提出物返却時にコメントし、大事なポイントとなる箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※但し、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。								
ナンバリング	NRAL4005								

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95220				
科目	9522 ボランティア論		授業種別	週間授業				
担当教員	葛谷 潔昭		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	<p>ボランティアは新しい時代を生きていくための行動様式の一つである。本講義では、福祉・医療・環境保護・まちづくり・子育て・国際協力等さまざまなボランティア活動とそれと関連したNPO（非営利組織）の活動を扱う。ボランティアの意義と実情を学ぶことを目標に、講義だけではなく、実際にボランティア活動をしている現場のリーダーたちの話を聞き、諸施設を訪問し、実際にボランティア活動を行う。これらを通して、総合的に受講者のボランティア論・ボランティア観の基礎を作り出すことを目的とする。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	○	△	○	△	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.わが国のボランティア活動の現状を説明できる</li> <li>2.自ら意欲的にボランティア活動に参加することができる</li> <li>3.人と人とのコミュニケーション技能・プレゼンテーションの表現力を高め、実践できる</li> <li>4.対人援助専門職としての「社会人基礎力」を身に着け、実践することができる</li> <li>5.組織の管理者として重要な要素、マネジメント能力、アントレプレナーシップ、ベンチャースピリットを理解し、説明することができる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	『これだけは理解しておきたいボランティアの基礎』久米隼 日本橋出版 ISBN：978-4434285745 上記の他に適宜資料を配布する							
参考書および参考文献	適宜、配布・紹介する。							
履修条件	履修条件はつけない							
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストおよび配布資料を事前・事後に予復習する(合計15時間程度)</li> <li>2. 講義によっては、事前課題・事後課題(個人ワーク、外部講師感想文、活動計画など)を行う(合計10時間程度)</li> <li>3. ボランティア先について、調べ、連絡する(合計4時間程度)</li> <li>4. ボランティア活動を行って、レポートをまとめる(合計6時間程度)</li> </ol>							
成績評価	授業内課題の取り組み度、および授業後課題提出状況、学外での課題(学外における実習(ボランティア活動))の書類提出、レポート課題含む)で評価。 多くの欠席・遅刻・早退、課題未提出、演習の不参加など、劣悪な受講状況は減点の対象となる場合がある。							
評価項目		割合	評価基準					
演習・課題・レポート		50%	<ol style="list-style-type: none"> <li>①演習、ワークなどの内容</li> <li>②授業内容の理解度(感想文等)</li> <li>③課題が適切な内容・記述になっているか(設題に対する内容等)</li> </ol>					
学外実践活動(課題)		50%	<ol style="list-style-type: none"> <li>①課題のボランティア活動の実習期間を終了したか。</li> <li>②課題に対する適切な内容と記述になっているか。</li> <li>③提出すべき書類が正しく期限内に出されているか。</li> </ol>					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回(講義)人間としての社会生活とボランティア活動(ボランティアをする側とされる側、当事者性とは)</p> <p>第2回(講義)ボランティア活動の範囲、機能、理念、組織、社会的意義</p> <p>第3回(講義)ボランティア実践活動の意義と計画・実際について</p> <p>第4回(演習・実技)分野別ボランティア活動(手話、防災、学習支援：学内講師)、明るい社会づくり作文の案内(外部講師)</p> <p>第5回(講義・演習)分野別ボランティア活動(地域福祉・ボランティアコーディネーター)(外部講師)</p> <p>第6回(講義・演習)分野別ボランティア活動(医療的ケア・介護分野)(外部講師)</p> <p>第7回(講義・演習)分野別ボランティア活動(災害・自然保護・環境・まちづくり)(外部講師)</p> <p>第8回(講義・演習)分野別ボランティア活動(子育て分野)(外部講師)</p> <p>第9回(講義・演習)分野別ボランティア活動(フードバンク、子ども食堂)(外部講師)</p> <p>第10回(講義・演習・実技)分野別ボランティア活動(レクリエーション、ホスピタルクラウン)(外部講師)</p> <p>第11回(実習)ボランティア実践活動</p> <p>第12回(実習)ボランティア実践活動</p> <p>第13回(講義・演習)国際協力とボランティア活動(外部講師：国際中継)</p> <p>第14回(講義)近年の日本におけるボランティア活動・NPO活動、地域活動の変遷と課題</p> <p>第15回(演習)今後のボランティア活動とNPOの活動、地域の活動のあり方、ボランティア実践活動報告会</p> <p>課題・レポートのフィードバックについては、今後の学習に役立つよう、個人が特定できない形にして、内容について解説、コメント等を行うとともに、今後の授業内容の改善に役立てる。</p> <p>外部講師の予定、受講学生の習熟度を勘案し、授業計画を変更することがある。</p>							
ナンバリング	NRDL1003							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95190				
科目	9519 東三河の歴史風土と文化		授業種別	週間授業				
担当教員	高橋 大輔		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	東三河地域の自然・風土、暮らし、産業経済、インフラなどの現況と今後の展望について、都市部・中山間地といった地理的特性に応じて具体的な事象や実例を学び、将来の実務や生活に役立てる。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	△	△	△	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東三河地域の自然・風土、人口問題等について都市部・中山間地の視点からその違いと課題を、統計等を用いて学習する。</li> <li>2. グローバルとローカルの視点から自然災害や環境リスクを捉え、我々の実生活への対応を考える。</li> <li>3. 東三河の代表的な産業である「農業」「製造業」の現況や今後成長が期待される「観光産業」、それらを支えている道路・港湾、都市計画等のインフラ基盤について、実態や政策を学習する。</li> <li>4. 以上を通じて、東三河の地域理解を目指す。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	特定のテキストはなし。講義毎にレジュメ、資料を配布します。							
参考書および参考文献	特定の参考書等はなし。講義の中でテーマに応じて適宜紹介します。							
受講条件	特になし。							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>【事前学習】 書籍、新聞等を目を通し、関連する社会動向に関心を持って講義に臨んでください。(30分)</p> <p>【事後学習】 配布した講義資料の読み直しや内容整理により復習してください。提示する文献、書籍等により講義内容を深化させてください。(30分～60分)</p>							
成績評価								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の理解度を把握するため、毎回出席者に対してリアクションペーパーの提出を求めます。記述内容は、適宜指示します。</li> <li>・第8回講義では筆記試験(小テスト)を実施します。</li> <li>・リアクションペーパーの提出状況と小テストの内容で総合的に評価します。</li> </ul> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東三河地域の実態、今後の課題などについて知識を有しているか。</li> <li>・地域づくりの内容、背景、政策動向に関する知識を有しているか。</li> <li>・地域のデータ(現況・将来予測)や地理情報を読み取り解釈できているか。</li> </ul>								
評価項目		割合	評価基準					
毎回のリアクションペーパーの提出		50%	リアクションペーパーで授業内容の理解度を確認する。					
小テスト(第8回講義)		50%	筆記試験にて授業内容の理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画								
<p>授業毎に講義資料(プリント等)を配付し、投影するスライドに基づいて進めます。毎回、授業終了時にリアクションペーパーに記述し提出してください。その内容は、毎回指示します。本科目は全て講義形式で行います。</p> <p>第1回 イントロダクション ・講義内容の紹介 ・東三河の歴史、地理的特徴、地域政策の解説</p> <p>第2回 東三河の人口問題を考える ・我が国と東三河の人口動向(過去から未来の将来推計) ・人口問題(高齢化、少子化等)と対応策</p> <p>第3回 東三河の自然環境と災害・環境問題 ・グローバルな地理的特性と災害・環境リスク ・住民生活を守る防災対策やソフト整備</p> <p>第4回 東三河の産業経済活動の特性 ・東三河の産業的位置づけと地域ポテンシャル ・自動車産業の大転換とCASE、MaaSの動向</p> <p>第5回 私たちの生活や産業活動を支えるインフラ整備の動向 ・道路等のインフラ整備と次世代物流の潮流 ・国際貿易を支えるインフラの役割</p> <p>第6回 東三河の地域計画と地域づくりの系譜 ・国土計画の歴史と成果 ・都市計画の仕組み、中心市街地のまちづくり</p> <p>第7回 東三河の地域資源を活かした魅力発信 ・東三河の観光振興策 ・食文化を活かした魅力発信</p> <p>第8回 講義のまとめ ・本講義の総括と小テスト</p> <p>※第2回から第7回については、講義順序が変わる場合や内容が変更になる場合があります。</p>								
ナンバリング	NRBL4008							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	95340			
科目	9534 情報リテラシーI			授業種別	週間授業			
担当教員	稲田 充男			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	<p>医療に関する多くの情報から、必要な情報を選択し、効率的に収集して編集し、発信できる能力を養う。大学内のIT環境の活用を通して、看護学の学修や研究等に必要な知識を修得し、医療情報の利活用に関する基本的な考え方を学ぶ。さらに、情報モラル(著作権、セキュリティ、SNS利用におけるトラブルとリスク回避など)、情報の探索方法(文献検索、データベース検索等)、情報の整理と分析および報告書作成に関する基礎知識についても学ぶ。</p> <p>授業ではUNIVERSAL PASSPORTの課題提出・授業資料・アンケートなどの機能およびWingnetを活用し、双方向の授業を行う。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○	○	○		△		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. タッチタイピングができる</li> <li>2. テータの管理ができる</li> <li>3. 表や図などを含む、ビジュアルな文書作成ができる</li> <li>4. インデントや段組みを用いたレイアウトができる</li> <li>5. レポート、論文の作成ができる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応 (杉本くみ子、大澤栄子、実教出版株式会社、ISBN978-4-407-35943-5) 参考URL: { <a href="https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22510043">https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22510043</a> }							
参考書および参考文献	30時間でマスター Office2021 (Windows11対応) (実教出版企画開発部、実教出版株式会社、978-4-407-35937-4) 参考URL: { <a href="https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22326049">https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22326049</a> } その他、講義の中で適宜紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>次のような事前・事後学習を毎回1時間程度行うこと。( )内に目安の時間を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイピングの練習をする。できれば毎日。(10分程度)</li> <li>・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する。(20分程度)</li> <li>・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し、予め練習する。(30分程度)</li> </ul> <p>※わからないところはテキストにマークし、次回の講義時に質問をするようにする。</p> <p>その他、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする。</li> </ul>							
成績評価	<p>授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。</p> <p>演習が中心の科目であるので、欠席の場合でもその時間の演習課題などは次回の講義までに行うこと。</p>							
評価項目	割合	評価基準						
演習課題	30%	講義内容の理解度、課題の完成度を確認する。UNIVERSAL PASSPORT(課題提出)を用いて課題を提出する。						
タイピング速度/正解率	10%	基準(英語で100CPMまたは日本語で50CPM)を超えているか、もしくは一定の上達があるかを確認する。						
定期試験	60%	実技形式で授業内容についての習熟度を確認する。概ね基礎的事項に関する問題が60%、発展・応用問題が40%の割合で出題する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>第01回 (講義・演習) はじめに: Windowsの基本操作・電子メールの設定          第02回 (講義・演習) タッチタイピング、ID、パスワードについて、情報セキュリティ          第03回 (講義・演習) SNS、Web、メールの利用、情報の探索方法、情報の整理と分析、情報モラル          第04回 (講義・演習) Wordの基本: 文字入力、文章の作成、メールの書き方          第05回 (講義・演習) Wordの基本: ページ設定、印刷前準備          第06回 (講義・演習) Wordによる文書作成: 表の作成(基本)          第07回 (講義・演習) Wordによる文書作成: 表の作成(応用)          第08回 (講義・演習) 文書の編集: いろいろな書式設定、ページレイアウト          第09回 (講義・演習) 文書の編集: 書式のコピー&amp;貼り付け、スタイル、ヘッダー・フッター          第10回 (講義・演習) 総合演習I: 文書の作成、編集          第11回 (講義・演習) 表現力をつけるI: 画像・図の挿入、ワードアートの挿入          第12回 (講義・演習) 表現力をつけるII: 図形の挿入、数式の挿入、ページ罫線          第13回 (講義・演習) 総合演習II: 図の挿入、ワードアートの挿入、図形の挿入          第14回 (講義・演習) 長文作成: アウトライン、目次の作成          第15回 (講義・演習) 総合演習III: レポート・論文の作成</p> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p> <p>授業内で課題に対するフィードバックを行う。 必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。</p>							
ナンバリング	NRBL1004							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期				授業コード	95350		
科目	9535 情報リテラシーⅡ				授業種別	週間授業		
担当教員	稲田 充男				単位数	1		
その他担当者								
授業概要	<p>大学での学修や研究に関連したアプリケーションソフトの実践的な操作を通して、情報倫理や個人情報管理、知的財産権、著作権等実際のデータの取り扱いに関する基礎的知識を学び、安全かつ効率的な資料作成ができる能力を養う。将来実践で役立つ情報リテラシーを総合的に身につける。また、セキュリティ、SNS利用におけるトラブルとリスク回避など情報モラルに関する知識を深める。授業ではUNIVERSAL PASSPORTの課題提出・授業資料・アンケートなどの機能およびWingnetを活用し、双方向の授業を行う。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○	○	○		△		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 効率良く、かつ、正確なデータ入力ができる</li> <li>2. 適切な式・関数などを組み、目的にあった表計算ができる</li> <li>3. 第3者を納得させることができる表やグラフが作成できる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>30時間アカデミック Office2021 Windows 11対応  (杉本くみ子、大澤栄子、実教出版株式会社、ISBN978-4-407-35943-5)  参考URL: {<a href="https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22510043">https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22510043</a>}  (注記) 春学期必修科目「情報リテラシーⅠ」と同じテキストを継続して使用</p>							
参考書および参考文献	<p>30時間でマスター Office2021 (Windows11対応)  (実教出版企画開発部、実教出版株式会社、978-4-407-35937-4)  参考URL: {<a href="https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22326049">https://www.jikkyo.co.jp/book/detail/22326049</a>}  その他、講義の中で適宜紹介する。</p>							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>次のような事前・事後学習を毎回1時間程度行うこと。( )内に目安の時間を示す。  ・タイピングの練習をする。できれば毎日。(10分程度)  ・授業で学んだ操作が確実に実施できるよう繰り返し練習する。(20分程度)  ・次回授業範囲の内容について教科書を熟読し、予め練習する。(30分程度)  ※わからないところはテキストにマークし、次回の講義時に質問をするようにする。</p> <p>その他、  ・パソコンを使って他の科目のレポートなどを日常的に作る努力をする。</p>							
成績評価	<p>授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。  演習が中心の科目であるので、欠席の場合でもその時間の演習課題などは次回の講義までに行うこと。</p>							
評価項目		割合	評価基準					
演習課題		30%	講義内容の理解度、課題の完成度を確認する。 UNIVERSAL PASSPORT(課題提出)を用いて課題を提出する。					
定期試験		70%	実技形式で授業内容についての習熟度を確認する。 概ね基礎的事項に関する問題が60%、発展・応用問題が40%の割合で出題する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>第01回 (講義・演習) Excel入門: データ入力と計算  第02回 (講義・演習) 表の作成Ⅰ: フォント、罫線、セルの塗りつぶし、セルの結合  第03回 (講義・演習) 表の作成Ⅱ: 条件付き書式、列・行の非表示  第04回 (講義・演習) 表の印刷、セルの参照方法  第05回 (講義・演習) いろいろな数式Ⅰ: 関数の入力方法、基本の関数、順位、条件  第06回 (講義・演習) いろいろな数式Ⅱ: 条件で集計、検索、端数処理  第07回 (講義・演習) いろいろな数式Ⅲ: エラー回避、日付  第08回 (講義・演習) いろいろな数式Ⅳ: 関数の活用  第09回 (講義・演習) グラフの作成Ⅰ: 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ  第10回 (講義・演習) グラフの作成Ⅱ: 散布図、複合グラフ  第11回 (講義・演習) グラフの作成Ⅲ: 図形の作成、グラフのスタイル  第12回 (講義・演習) データベース機能の利用: 並び替え、抽出  第13回 (講義・演習) Excelデータの活用、グラフの選択  第14回 (講義・演習) ピボットテーブル  第15回 (講義・演習) 操作の自動化</p> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p> <p>授業内で課題に対するフィードバックを行う。  必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。</p>							
ナンバリング	NREL1003							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	95380																																	
科目	9538 プレゼンテーション技法		授業種別	週間授業																																	
担当教員	大野 晴己		単位数	2																																	
その他担当者																																					
授業概要	相手に行動をしてもらうための「プレゼンテーション技術」の基本を習得する。患者、家族などへの対応の際、的確な把握と伝達能力を養い、場面に合わせたコミュニケーション技法も学ぶ。また、手順や構成、図表、知的財産権など、パワーポイントを使った資料の作成や効果的な発表方法も習得する																																				
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7																														
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○	◎	○																															
到達目標	自分の考えを、場面や相手の状況や理解にあわせて的確に伝えることができることを目標とする。また、自分の考えを企画書として作成し、論理的思考力を養うことができるようになる。 1、患者や家族などへ効果的な伝え方ができるようになる 2、研究発表会などの資料作成や効果的な話し方ができるようになる 3、円滑な自己表現方法が習得できるようになる																																				
テキスト(教科書)	授業内容にあわせて資料を配布する																																				
参考書および参考文献																																					
受講条件	履修条件はつけない																																				
事前・事後学修(内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業前に指定箇所まで配布テキストを読んで理解を深めておくこと(毎回/15分程度)</li> <li>・授業内で行った個人ワーク、グループワークの学びや気づきをノートに書いておくこと(2回～14回/30分程度)</li> <li>・プレゼンシート提出における自分の課題テーマは、事前調査と研究を念入りしておくこと(8回～14回/60分程度)</li> <li>・入院及び通院患者が抱える問題や課題を調べリストアップしておく(1回～15回/60分程度)</li> <li>・事後学習は、テーマについての情報収集をして記述してまとめる(2回～14回/15分程度)</li> </ul>																																				
成績評価	1、プレゼンテーション力確認の小テスト3回 2、企画書の提出と発表 3、貢献度																																				
評価項目		割合	評価基準																																		
プレゼンテーション習得確認テスト		40%	言語表現、非言語表現に関する対人力の理解と習得を確認																																		
企画書の提出・発表、発表への質問		60%	パワーポイントの記述項目と発表表と質問の仕方																																		
授業の実施方法と授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の実施方法             <ol style="list-style-type: none"> <li>1、配布テキスト(配布データ) 講義(説明)</li> <li>2、自己理解を深める「自己診断チェック表」を用いる</li> <li>3、自己ワークで定着を促す</li> <li>4、グループワークで他者理解を深める</li> <li>5、発表、発表などの質問</li> <li>6、フィードバック ふりかえり、意見共有 など</li> </ol> </li> <li>・授業計画             <table border="0"> <tr> <td>第1回(講義・演習)</td> <td>プレゼンテーション概要</td> </tr> <tr> <td>第2回(講義・演習)</td> <td>伝える技術と効果的な表現</td> </tr> <tr> <td>第3回(講義・演習)</td> <td>自己認識と他者認識</td> </tr> <tr> <td>第4回(講義・演習)</td> <td>文章の構成力</td> </tr> <tr> <td>第5回(講義・演習)</td> <td>伝わる共感を与える話し方</td> </tr> <tr> <td>第6回(講義・演習)</td> <td>上手く発表できる話し方</td> </tr> <tr> <td>第7回(講義・演習)</td> <td>相手を行動変容させる接遇力</td> </tr> <tr> <td>第8回(講義・演習)</td> <td>企画書・提案書を書くコツ</td> </tr> <tr> <td>第9回(講義・演習)</td> <td>市場動向・事業計画・収支計画の作成方法</td> </tr> <tr> <td>第10回(演習)</td> <td>プレゼン企画書作成①プレゼン課題テーマについて説明、入院患者、通院患者、患者家族、看護師、地域医療などの対象と対象者の課題解決や有効性のあるプランを企画書にまとめる</td> </tr> <tr> <td>第11回(演習)</td> <td>プレゼン企画書作成②テーマ決め、パワーポイントを使う効果と基本の使い方</td> </tr> <tr> <td>第12回(演習)</td> <td>プレゼン企画書作成③各自作成、ストーリーテリング</td> </tr> <tr> <td>第13回(演習)</td> <td>プレゼン企画書作成④各自作成、個別確認</td> </tr> <tr> <td>第14回(演習)</td> <td>プレゼン企画書作成⑤各自作成、発表原稿の作成方法</td> </tr> <tr> <td>第15回(発表会)</td> <td>プレゼンテーション発表会(発表会の方法)               <ol style="list-style-type: none"> <li>①人数によって異なるが、4名1グループとして個々に5分間発表をする</li> <li>②10の審査項目から、全員審査をする ※審査用紙は事前に配布</li> <li>③審査用紙を集計後、グループで1名を選定</li> <li>④発表後は、互いにフィードバックや意見交換を行う</li> <li>⑤プレゼンシートは指定のフォルダに全員保存し提出する</li> </ol> </td> </tr> </table> </li> <li>・フィードバック方法             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プランに対して個別に情報提供とフィードバックをする</li> </ul> </li> </ul>							第1回(講義・演習)	プレゼンテーション概要	第2回(講義・演習)	伝える技術と効果的な表現	第3回(講義・演習)	自己認識と他者認識	第4回(講義・演習)	文章の構成力	第5回(講義・演習)	伝わる共感を与える話し方	第6回(講義・演習)	上手く発表できる話し方	第7回(講義・演習)	相手を行動変容させる接遇力	第8回(講義・演習)	企画書・提案書を書くコツ	第9回(講義・演習)	市場動向・事業計画・収支計画の作成方法	第10回(演習)	プレゼン企画書作成①プレゼン課題テーマについて説明、入院患者、通院患者、患者家族、看護師、地域医療などの対象と対象者の課題解決や有効性のあるプランを企画書にまとめる	第11回(演習)	プレゼン企画書作成②テーマ決め、パワーポイントを使う効果と基本の使い方	第12回(演習)	プレゼン企画書作成③各自作成、ストーリーテリング	第13回(演習)	プレゼン企画書作成④各自作成、個別確認	第14回(演習)	プレゼン企画書作成⑤各自作成、発表原稿の作成方法	第15回(発表会)	プレゼンテーション発表会(発表会の方法) <ol style="list-style-type: none"> <li>①人数によって異なるが、4名1グループとして個々に5分間発表をする</li> <li>②10の審査項目から、全員審査をする ※審査用紙は事前に配布</li> <li>③審査用紙を集計後、グループで1名を選定</li> <li>④発表後は、互いにフィードバックや意見交換を行う</li> <li>⑤プレゼンシートは指定のフォルダに全員保存し提出する</li> </ol>
第1回(講義・演習)	プレゼンテーション概要																																				
第2回(講義・演習)	伝える技術と効果的な表現																																				
第3回(講義・演習)	自己認識と他者認識																																				
第4回(講義・演習)	文章の構成力																																				
第5回(講義・演習)	伝わる共感を与える話し方																																				
第6回(講義・演習)	上手く発表できる話し方																																				
第7回(講義・演習)	相手を行動変容させる接遇力																																				
第8回(講義・演習)	企画書・提案書を書くコツ																																				
第9回(講義・演習)	市場動向・事業計画・収支計画の作成方法																																				
第10回(演習)	プレゼン企画書作成①プレゼン課題テーマについて説明、入院患者、通院患者、患者家族、看護師、地域医療などの対象と対象者の課題解決や有効性のあるプランを企画書にまとめる																																				
第11回(演習)	プレゼン企画書作成②テーマ決め、パワーポイントを使う効果と基本の使い方																																				
第12回(演習)	プレゼン企画書作成③各自作成、ストーリーテリング																																				
第13回(演習)	プレゼン企画書作成④各自作成、個別確認																																				
第14回(演習)	プレゼン企画書作成⑤各自作成、発表原稿の作成方法																																				
第15回(発表会)	プレゼンテーション発表会(発表会の方法) <ol style="list-style-type: none"> <li>①人数によって異なるが、4名1グループとして個々に5分間発表をする</li> <li>②10の審査項目から、全員審査をする ※審査用紙は事前に配布</li> <li>③審査用紙を集計後、グループで1名を選定</li> <li>④発表後は、互いにフィードバックや意見交換を行う</li> <li>⑤プレゼンシートは指定のフォルダに全員保存し提出する</li> </ol>																																				
ナンバリング	NREL1004																																				

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95390			
科目	9539 英語 I		授業種別	週間授業			
担当教員	船井 純平		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	大学生に必要な基礎英語（基礎文法、語法、語彙、表現）を、ハンドアウトとオーディオ補助教材等を通して段階的に学習する。単にテキストの解説をしたり、演習問題に取り組みさせて言葉を習得させるだけではなく、様々な風俗習慣や民族性をもつ人々の言動を通して、言語と思想との関わりを理解し、母国語を含めた言語一般に対する興味や国際感覚を養う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△	○		△		○	○
到達目標	①基礎的な文法事項を理解し、辞書を用いて英文を正しく読むことができる。 ②音の変化を理解し、英語で話されているものを正しく聞くことができる。 ③英語圏の文化を理解し、説明できる。						
テキスト(教科書)	ハンドアウトを使用する。						
参考書および参考文献	適宜、指示する。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に指定された事前学習（長文の単語を調べて、意味が分かるようにする）を行うこと（毎回1時間程度） 毎授業後に学習した内容について復習すること（毎回1時間程度）						
成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験(40%)、期末試験(40%)、授業中の課題(20%)をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。						
評価項目	割合	評価基準					
中間試験	40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。					
期末試験	40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。					
授業中の課題	20%	授業中の活動への取り組みについて評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>*中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、授業内で解説を行う。</p> <p>1回目（講義） 授業ガイダンス  2回目（講義・演習） 新聞・ニュース記事①(文化) / 漫画①  3回目（講義・演習） 英語のリズムについて / リスニング (situation comedy①)  4回目（講義・演習） 新聞・ニュース記事②(海外事情、日本文化)  5回目（講義・演習） 口語表現①～④ (日課) / リスニング (situation comedy②)  6回目（講義・演習） 新聞・ニュース記事③(社会問題、雑学)  7回目（講義・演習） 口語表現⑤ (健康) / リスニング (situation comedy③)  8回目（演習） 中間まとめ  9回目（講義・演習） リスニング (映画①)  10回目（講義・演習） リスニング (映画②)  11回目（講義・演習） 新聞・ニュース記事④(時事問題) / 漫画②  12回目（講義・演習） コロケーション / リスニング (situation comedy④)  13回目（講義・演習） 新聞・ニュース記事⑤(芸能、音楽) / 英語の看板  14回目（講義・演習） 口語表現⑥(ビジネス) / リスニング (situation comedy⑤)  15回目（演習） 期末まとめ  16回目（講義） 復習</p> <p>*ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。</p>						
ナンバリング	NRCL1003						

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	95400				
科目	9540 英語Ⅱ		授業種別	週間授業				
担当教員	船井 純平		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	大学生に必要な基礎的な英語を、ハンドアウトとオーディオ教材を通して段階的に学習する。言葉の学習のみならず、テキストやビデオに登場する様々な人々の言動や背景を通して外国事情を理解し、国際感覚を養う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○		△		○	○	
到達目標	①発展的な文法事項を理解し、様々なジャンルの英文を正しく読むことができる。 ②実際に英語圏で話されている英語を聞いて、内容を正しく聞き取ることができる。 ③英語圏の文化と英語の関わりを理解し、説明できる。							
テキスト(教科書)	ハンドアウトを配布する。							
参考書および参考文献	適宜、指示する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に指定された事前学習(長文の単語を調べて、意味が分かるようにする)を行うこと(毎回1.5時間程度) 毎授業後に学習した内容について復習すること(毎回1.5時間程度)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。中間試験(40%)、期末試験(40%)、授業中の課題(20%)をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。								
評価項目	割合	評価基準						
中間試験	40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。						
期末試験	40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。						
授業中の課題	20%	授業中の活動への取り組みについて評価する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>*中間試験・期末試験は採点后速やかに返却し、授業内で解説を行う。</p> <p>1回目(講義) 授業ガイダンス  2回目(講義・演習) 新聞・ニュース記事(自然、芸術) / 記事タイトルの英語  3回目(講義・演習) 口語表現⑦～⑧(交通機関) / リスニング(situation comedy⑥)  4回目(講義・演習) 新聞・ニュース記事(食品、医療)  5回目(講義・演習) 会話表現 / リスニング(situation comedy⑦)  6回目(講義・演習) 新聞・ニュース記事(海外事情)  7回目(講義・演習) 接頭辞・接尾辞 / リスニング(situation comedy⑧)  8回目(演習) 中間まとめ  9回目(講義・演習) リスニング(映画③)  10回目(講義・演習) リスニング(映画④)  11回目(講義・演習) 新聞・ニュース記事(有名人インタビュー)  12回目(講義・演習) 口語表現⑨～⑩(情報・通信) / リスニング(situation comedy⑨)  13回目(講義・演習) 新聞・ニュース記事(環境問題) / 漫画③  14回目(講義・演習) 英語の同意語 / リスニング(situation comedy⑩)  15回目(演習) 期末まとめ  16回目(講義) 復習</p> <p>*ただし受講生の習熟度によって内容を変更することがある。</p>							
ナンバリング	NRFL1003							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95410				
科目	9541 英語コミュニケーションI		授業種別	週間授業				
担当教員	Stewart Gale		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	English conversation for elementary level students. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	△	△	△	○	○	
到達目標	Students will learn English useful for confidently communicating with people from other countries through a variety of topics.							
テキスト(教科書)	Let's Chat!, EFL Press, 2007, John Pak ISBN 458 0 24 442005 6							
参考書および参考文献								
受講条件	Students should bring an English dictionary.							
事前・事後学修(内容・時間)	Students should review the English grammar they learned at Junior High School and High School, such as how to form questions and the appropriate usage of tenses (present / past / future etc.). Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week's class.							
成績評価								
Classwork 30%								
Final exam 70%								
評価項目	割合		評価基準					
Classwork	30%		Participation / Pronunciation					
Final exam	70%		Paper test					
授業の実施方法と授業計画	<p>Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 - (Lecture, drill and pairwork) Introductions and pair interviews.</li> <li>2 - (Lecture, drill and pairwork) Useful classroom English questions and expressions and getting to know your partner.</li> <li>3 - (Lecture, drill and pairwork) Sport and leisure.</li> <li>4 - (Lecture, drill and pairwork) Shopping and big numbers.</li> <li>5 - (Lecture, drill and pairwork) Food.</li> <li>6 - Documentary video and discussion.</li> <li>7 - (Lecture, drill and pairwork) Travel.</li> <li>8 - (Lecture, drill and pairwork) Movies and television.</li> <li>9 - (Pairwork) Quiz.</li> <li>10 - (Lecture, drill and pairwork) Health.</li> <li>11 - Documentary video and discussion.</li> <li>12 - (Lecture, drill and pairwork) Relationships and marriage.</li> <li>13 - (Lecture, drill and pairwork) Music and books and the passive tense.</li> <li>14 - (Lecture, drill and pairwork) Japanese culture.</li> <li>15 - Review.</li> </ol>							
ナンバリング	NRCL1004							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	95420				
科目	9542 英語コミュニケーションII		授業種別	週間授業				
担当教員	Stewart Gale		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	English conversation for high elementary level students. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	△	△	△	○	○	
到達目標	Students will learn English useful for confidently communicating with people from other countries through a variety of topics with an added focus on multicultural understanding.							
テキスト(教科書)	No textbook – classroom material will be provided.							
参考書および参考文献								
受講条件	Pre-requisite - pass English Communication 1. Students should bring an English dictionary.							
事前・事後学修(内容・時間)	Students should review the material studied in English Communication 1. Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week's class.							
成績評価	Classwork 30% Final exam 70%							
評価項目		割合	評価基準					
Classwork		30%	Participation / Pronunciation					
Final exam		70%	Paper test					
授業の実施方法と授業計画	<p>Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 - (Lecture, drill and pairwork) Self introductions and pair interviews.</li> <li>2 - (Lecture, drill and pairwork) Differences between British English and American English.</li> <li>3 - (Lecture, drill and pairwork) Discuss high school memories and compare with high school life in the UK.</li> <li>4 - Documentary video and discussion.</li> <li>5 - (Lecture, drill and pairwork) Manners in different countries and taboo questions.</li> <li>6 - (Lecture, drill and pairwork) Examine the UK.</li> <li>7 - (Lecture, drill and pairwork) Examine the USA.</li> <li>8 - (Lecture, drill and pairwork) Discuss technology and invent a new product.</li> <li>9 - Documentary video and discussion.</li> <li>10 - (Pairwork) Quiz.</li> <li>11 - (Lecture, drill and pairwork) Money, big numbers, foreign currencies and discussion about shopping.</li> <li>12 - (Lecture, drill and pairwork) Food.</li> <li>13 - (Lecture, drill and pairwork) Music.</li> <li>14 - (Lecture, drill and pairwork) Travel and modes of transport.</li> <li>15 - Review.</li> </ol>							
ナンバリング	NRFL1004							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95430				
科目	9543 英語コミュニケーションⅢ		授業種別	週間授業				
担当教員	Stewart Gale		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	English conversation for high elementary level students. All classes are taught in English. The course is heavily focused on maximizing students' communication time.							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	△	△	△	○	○	
到達目標	Students will use the English learned and practiced in English Communication 1 and 2 to talk about a more complex range of topics. A large focus will be placed on multicultural understanding.							
テキスト(教科書)	No textbook – classroom material will be provided.							
参考書および参考文献								
受講条件	Pre-requisite - pass English Communication 1 and 2. Students should bring an English dictionary.							
事前・事後学修(内容・時間)	Students should review the material studied in English Communication 2. Students should spend 60 minutes at home reviewing each class and preparing for the next week's class.							
成績評価	Classwork 30% Final exam 70%							
評価項目	割合	評価基準						
Classwork	30%	Participation / Pronunciation						
Final exam	70%	Paper test						
授業の実施方法と授業計画	<p>Time will be allocated in every class for student feedback and questions. In addition to these core topics, there will also be time allocated to English language games and puzzles.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 - (Lecture, drill and pairwork) Self introductions and pair interviews.</li> <li>2 - (Lecture, drill and pairwork) Discuss and debate Japanese laws and societal rules.</li> <li>3 - (Lecture, drill and pairwork) Fashion and trends.</li> <li>4 - Documentary video and discussion.</li> <li>5 - (Lecture, drill and pairwork) Attitudes to money and spending.</li> <li>6 - (Lecture, drill and pairwork) Food and making recipes.</li> <li>7 - (Solowork) Using the Internet in English.</li> <li>8 - (Lecture, drill and pairwork) Examining Australia and Australian culture.</li> <li>9 - Documentary video and discussion.</li> <li>10 - (Pairwork) Quiz.</li> <li>11 - (Lecture, drill and pairwork) Discussing hopes, fears and future plans.</li> <li>12 - (Lecture, drill and pairwork) Dating and marriage.</li> <li>13 - (Lecture, drill and pairwork) Health and lifestyle.</li> <li>14 - (Lecture, drill and pairwork) Tourism and culture in Japan.</li> <li>15 - Review.</li> </ol>							
ナンバリング	NRAL2004							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	95440			
科目	9544 ドイツ語入門Ⅰ			授業種別	週間授業			
担当教員	加藤 皓士			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	<p>この授業では、自己紹介、買い物、道を尋ねるなどの具体的な場面でドイツ語での会話を学びながら、簡単な会話ができるようにし、基礎的なドイツ語の初歩的なレベルの文法について習得することを目的とする。</p> <p>あわせてドイツという国や、ドイツ人の暮らしや生き方についても見ていくことで多様な文化のあり方についても学ぶ。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○		△		○	○	
到達目標	<p>① ドイツ語らしい発音ができる。</p> <p>② ドイツ語の簡単なあいさつができる。</p> <p>③ ドイツ語で数字が言える。</p> <p>④ 自分のことや旅行で使える表現がドイツ語で言える。</p> <p>⑤ ドイツ人のライフスタイルを知り、日本人としての教養を深める。</p>							
テキスト(教科書)	溝井高志他著 『ドイツ語で話してみよう!』(三修社 定価2100円) ISBN978-4-384-12291-6 C1084							
参考書および参考文献	特になし。授業の中で指示する。							
受講条件	<p>この授業では、中学1年生で学ぶ英語レベルのドイツ語を学びます。ですから、高等学校の英語でつまずいた人でも、大丈夫です。</p> <p>ドイツ語はルールが少し多いですが、英語よりも規則的で読み方も簡単です。</p> <p>テキストは必ず購入しておくこと。テキストのない人は、出席および授業参加点がゼロになります。</p>							
事前・事後学修(内容・時間)	毎回、前回の授業で学んだことを確認するための小テストを実施するので、授業後にテキストやノート、プリント類を見直してください(3時間程度×14回)。							
成績評価								
定期試験	70%							
授業内での小テスト、中間テスト(1回)	30%							
※点数の換算の仕方についてはガイダンスでお話しします。								
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認します。						
小テスト、中間テスト	30%	授業の中で学んだことを理解できているのかどうかを筆記試験にて確認します。						
授業の実施方法と授業計画	<p>1回 [講義]ガイダンス</p> <p>2回 [講義]アルファベットとドイツ語の読み方</p> <p>3回 [講義]ドイツ語のあいさつと数字、曜日、月の読み方</p> <p>4回 [講義]ドイツ語で自己紹介1</p> <p>5回 [講義]ドイツ語で自己紹介2</p> <p>6回 [講義]決まった変化をする動詞1</p> <p>7回 [講義]決まった変化をする動詞2 お互いの趣味についてドイツ語で話そう</p> <p>8回 [講義]変わった変化をする動詞1</p> <p>9回 [講義]変わった変化をする動詞2 電車の中でドイツ語で会話してみよう</p> <p>10回 [講義]定冠詞とその仲間1</p> <p>11回 中間テスト</p> <p>12回 [講義]定冠詞とその仲間2 レストランでドイツ語で注文してみよう</p> <p>13回 [講義]不定冠詞とその仲間1</p> <p>14回 [講義]不定冠詞とその仲間2 ドイツのスーパーで食品を買おう</p> <p>15回 [講義]半期の振り返りと補足事項</p> <p>※皆さんの様子を見ながらゆっくと授業は進みます。</p> <p>※小テストを毎回行い、皆さんが理解できなかったところを確認し、授業中に復習します。</p> <p>※受講生の習熟度により授業計画を若干変更する可能性があります。</p>							
ナンバリング	NRDL1002							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95460			
科目	9546 中国語入門 I		授業種別	週間授業			
担当教員	石田 卓生		単位数	2			
その他担当者							
授業概要	この授業では、中国語の基礎的な能力を習得します。正確な中国語の発音ができるように学習をすすめつつ、基本的な文法事項を習得することによって中国語の基礎的なコミュニケーション能力を身に付けます。また、中国の文化や習慣を知ることによって、幅広い教養やグローバル社会で活動するための基礎的な知識を修得します。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△	○		△		○	○
到達目標	中国語によるコミュニケーションをとるには、授業内容を暗記していくような受動的学習ではなく、日本の文化や習慣、ことばと中国のそれを比較対照していく能動的な学習が必要です。本授業では、正確な発音と文法的知識を身に付けるだけではなく、中国の文化や習慣についての幅広い教養や基礎的な知識を修得することに向けて、到達目標を以下のようにします。 1) 正確な中国語の発音ができる。 2) 中国語のローマ字発音表記を読むことができる。 3) 中国語で自己紹介スピーチをすることができる。 4) 中国語で自己紹介文を書くことができる。 5) 教科書の文章を読解することができる。						
テキスト(教科書)	相原茂・郭雲輝『新訂 学ビテ時二之ヲ習フ 新訂 中国語入門』好文出版、2006年、ISBN4-87220-104-3、2,400円(税別)						
参考書および参考文献	講義中に適宜紹介します。						
受講条件	選択科目						
事前・事後学修(内容・時間)	事前学習：各回のテキストの単語・語句に目を通し、さらに発音をして予習しておくこと(第2～15回：90分) 事後学習：各回のオンラインテストを受験し、分からなかった問題については復習をすること。さらに学習した文章を音読し、自然な発音ができるように練習すること(第1～15回：90分)						
成績評価	定期試験、小テスト、課題によって授業の到達目標をどの程度クリアしたのかを評価します。遅刻2回で欠席1回とみなします。また、不誠実な学習態度は減点の対象となります。						
評価項目	割合	評価基準					
定期試験	0.6	筆記試験によって学習成果を評価します。					
小テスト	0.2	筆記試験によって学習成果を評価します。					
課題	0.2	作成された課題によって学習成果を評価します。					
授業の実施方法及び授業計画	各回の授業後に課題としてオンラインテストを行う。オンラインテストについて次回授業内で講評を行うことによって当該回の内容についてフィードバックをすると共に随時受講生からの質問に回答する。 第1回 ガイダンス 第1課声調、単母音(講義・演習) 第2回 第1課単母音、第2課複母音(講義・演習) 第3回 第2課子音(講義・演習) 第4回 第3課鼻音(講義・演習) 第5回 発音のまとめ 第4課声調の変化、組み合わせ(講義・演習) 第6回 第5課人称代詞、名前の言い方(講義・演習) 第7回 第5課復習・練習(講義・演習) 第8回 第6課動詞“是”、諾否疑問文、省略疑問文(講義・演習) 第9回 第6課復習・練習(講義・演習) 第10回 第7課動詞述語文、動詞+目的語、形容詞述語文(講義・演習) 第11回 第7課復習・練習(講義・演習) 第12回 第8課指示代詞、疑問詞疑問文、連体修飾語、存在を表す“有”、名詞の場所化(講義・演習) 第13回 第8課復習・練習(講義・演習) 第14回 第5～6課のまとめ(講義・演習) 第15回 第7～8課のまとめ(講義・演習) ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがあります。						
ナンバリング	NRAL1003						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	95480			
科目	9548 看護・医療英語			授業種別	週間授業			
担当教員	船井 純平			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	グローバル化の波は医療の世界にも押し寄せ、臨地場面で看護職に求められる英語力は年々高くなっている。また看護の質の向上という点からも世界と交流し情報交換していくことは重要である。そのため、本科目では特に臨床で活用できる英語力を養うことを目標とする。英文講読をするための能力、医療従事者として外国人と英語でコミュニケーションするための能力を養う。具体的には、看護関係の英文の要約を行うとともに、医療現場を扱ったビデオやCDを教材として使い、医療英語の表現法を修得する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	△	△		○	○	
到達目標	①医療、看護に関する英語語彙を理解し、説明できる。 ②医療現場で行われる会話を正しく聞き取ることができる。 ③医療、看護に関する英文を正しく読むことができる。							
テキスト(教科書)	English for Medicine Revised Edition 金星堂 西原俊明/西原真弓/Carey Benom著 ISBN978-4-7647-4153-9							
参考書および参考文献	適宜、指示する。							
受講条件	必修科目 特になし							
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に教科書の指定箇所を予習(Ⅲ長文の意味を調べて、意味が分かるようにする)しておくこと(毎回1時間程度) 毎授業後に学習した内容について復習すること(毎回1時間程度)							
成績評価	原則として毎回出席すること。中間試験(40%)、期末試験(40%)、授業中の課題(20%)をあわせて評価する。なお、遅刻、早退、欠席および受講態度不良の場合は減点の対象となる。							
評価項目	割合	評価基準						
中間試験	40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。						
期末試験	40%	筆記試験により、授業内容をどの程度理解したかを評価する。						
授業中の課題	20%	授業中の活動への取り組みについて評価する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>*中間試験・期末試験は採点後速やかに返却し、解説を行う。</p> <p>1回(講義) ガイダンス 2回(講義・演習) Chapter1(ポリオ等) 3回(講義・演習) Chapter2(処方箋等) 4回(講義・演習) Chapter3(花粉症等) 5回(講義・演習) Chapter4(薬剤等)、DVD(リスニング) 6回(講義・演習) Chapter5(不眠症等) 7回(講義・演習) Chapter7(SARS等) 8回(演習) 中間まとめ 9回(講義・演習) Chapter8(糖尿病等)、DVD(リスニング) 10回(講義・演習) Chapter9(動脈系疾患等) 11回(講義・演習) Chapter10(アメリカの医療保険等) 12回(講義・演習) Chapter11(食物アレルギー等) 13回(講義・演習) Chapter12(CTS等) 14回(講義・演習) Chapter13(更年期等) 15回(演習) 期末まとめ 16回(講義) 復習</p> <p>*ただし、受講生の習熟度によって授業計画を変更する場合がある</p>							
ナンバリング	NRBL1006							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	95510			
科目	9551 スポーツI		授業種別	週間授業			
担当教員	鈴木 康博		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	<p>生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。</p> <p>本授業では数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を高め、スポーツする習慣を身につけるように指導したい。</p> <p>以上の内容を実習形式で行う。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		○		○	○		
到達目標	<p>各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組むことができる。</p> <p>また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図ることができる。</p>						
テキスト(教科書)	なし						
参考書および参考文献	大修館書店 最新スポーツルール百科2013 大修館書店編集部編 ISBN9784469267464						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと(第2～15回/20分程度)						
成績評価	<p>原則として毎回出席すること。</p> <p>ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組むこと。</p> <p>なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とすることがあります。</p>						
評価項目	割合	評価基準					
ルール等の理解度	0.3	ルールを把握して自主的に取り組んでいるか評価する。					
課題テスト	0.3	技能の上達度を確認する。					
競技成績	0.4	試合での対戦記録によって評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) ガイダンス</p> <p>第2回 (実技) ソフトバレー① 基礎技術</p> <p>第3回 (実技) ソフトバレー② 集団的プレー</p> <p>第4回 (実技) ソフトバレー③ ゲーム</p> <p>第5回 (実技) ソフトバレー④ ゲーム</p> <p>第6回 (実技) バドミントン① 基礎技術</p> <p>第7回 (実技) バドミントン② 集団的プレー</p> <p>第8回 (実技) バドミントン③ ゲーム</p> <p>第9回 (実技) バドミントン④ ゲーム</p> <p>第10回 (実技) バドミントン⑤ ゲーム</p> <p>第11回 (実技) 卓球① 基礎技術</p> <p>第12回 (実技) 卓球② 応用技術</p> <p>第13回 (実技) 卓球③ ゲーム</p> <p>第14回 (実技) 卓球④ ゲーム</p> <p>第15回 (実技) 卓球⑤ ゲーム</p> <p>※適宜課題テストや質疑等にフィードバックをおこなう</p> <p>※ただし、履修学生数によって種目を変更することもある。</p>						
ナンバリング	NRGL1003						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	95520			
科目	9552 スポーツⅡ			授業種別	週間授業			
担当教員	鈴木 康博			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	<p>生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。またスポーツは、ストレスを解消させるために効果的である。本授業では数種類のスポーツに取り組みながら、スポーツに対する興味や関心を持ち、スポーツをする習慣を身につけることを目指す。</p> <p>さらに年齢や特性に適したスポーツの在り方、心身の健康に対してより効果的な生活への取り入れ方を学ぶ。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○		○	○			
到達目標	各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組めるようになる。また、より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性及び安全性等の社会的ルールを図れるようになる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	大修館書店 最新スポーツルール百科2016 ISBN:978-4-469-26729-7							
受講条件	特になし							
事前・事後学修(内容・時間)	毎授業前に、事前配布した資料等でルール等を確認しておくこと(第2～15回/20分程度)							
成績評価	原則として毎回出席すること。 ルールをしっかりと把握して、自主的に競技に取り組めること。 なお、遅刻や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。							
評価項目		割合	評価基準					
ルール等の理解度		30%	ルールを把握して自主的に取り組んでいるか評価する。					
課題テスト		30%	技能の上達度を確認する。					
競技成績		40%	試合での対戦記録によって評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回	(講義) ガイダンス						
	第2回	(実技) ソフトバレー① 基礎技術						
	第3回	(実技) ソフトバレー② 集団的プレー						
	第4回	(実技) ソフトバレー③ ゲーム						
	第5回	(実技) バスケットボール①基礎技術						
	第6回	(実技) バスケットボール②集団的プレー						
	第7回	(実技) バスケットボール③ゲーム						
	第8回	(実技) バスケットボール④ゲーム						
	第9回	(実技) フットサル①基礎技術						
	第10回	(実技) フットサル②集団的プレー						
	第11回	(実技) フットサル③ゲーム						
	第12回	(実技) フットサル④ゲーム						
	第13回	(実技) 卓球①基礎技術						
	第14回	(実技) 卓球②ゲーム						
	第15回	(実技) 卓球③ゲーム						
	※適宜課題テストや質疑等へフィードバックをおこなう。 ※ただし、履修学生数によって種目を変更することもある。							
ナンバリング	NRBL2007							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	95550				
科目	9555 健康科学		授業種別	週間授業				
担当教員	鈴木 知代		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	人々の健康は、認識や行動だけでなく、取り巻く環境からも影響を受けていることについて理解し、個人及び集団が取り巻く環境とのより良い関係を築きながら、健康状態を維持・増進させ、望ましい生活を送るための健康管理の考え方や実践方法について学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	△	○	△			
到達目標	1. 生涯を通して健康で望ましい生活をおくることができるための健康管理に関する基礎的知識を身につけ、その実践方法を考察できる。 2. 健康づくりの取り組みを進めるためには、健康を守り支えるための環境を整備することが必要であることを述べることができる。 3. 他者に修得した知識を的確に伝えることができる。							
テキスト(教科書)	授業内容に合わせて資料を配布する。							
参考書および参考文献	適宜、必要に応じて紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業内で提示する内容について事前に調べて授業に参加すること(第1～8回/60分程度)。 ②授業後には、深める内容について提示するため、それについてまとめること(第1～8回/30分程度)。							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。筆記試験、課題レポートで総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目	割合	評価基準						
小テスト	30%	授業内容をどの程度理解したか評価する。						
課題レポート	60%	課題に対して適切な内容となっているか評価する。						
授業への取り組み状況	10%	グループディスカッションへの参加状況、発言内容等						
授業の実施方法と授業計画	事前課題に関しては、授業の中でフィードバックする。課題レポートはコメントを返す。小テストについては、授業の中でフィードバックを行う。 第1回 健康に生きる力(講義) 日常生活と健康について学ぶ。 第2回 ヘルスリテラシー①(講義) 健康を決めるための信頼できる情報とは何かについて学ぶ。 第3回 ヘルスリテラシー②(講義) 健康情報を活用して適切な意思決定をするための考え方や方法について学ぶ。 第4回 健康の社会的決定要因と健康格差について(講義) 第5回 健康を守るために何をするのか① 睡眠① : 講義とグループディスカッション 第6回 健康を守るために何をするのか② 睡眠② : 講義とグループディスカッション: 第7回 健康を守るために何をするのか③ たばこ・薬物等: 講義とグループディスカッション 第8回 健康を守るために何をするのか④ 感染症 : 講義とグループディスカッション							
ナンバリング	NRBL1007							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	960A0				
科目	960A からだの構造と機能 I		授業種別	週間授業				
担当教員	西 啓太		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	<p>本科目では、人間のからだのしくみである「構造と機能について」の理解を目的とする。具体的には、人体の器官系について、個々の細胞・組織・器官に関する内容を取り上げ、個々の知識を人体の全体像と関連付けて理解する。私たちが生命を維持するために、また人間が人間らしく生きるために、人体の構造および組織学・細胞学の基礎や発生学の基本とともに学び、からだの生理・生化学的な機能に関連付けられるよう方向づける。</p> <p>*この科目は当該授業内容に関する理学療法の実務を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○				
到達目標	<p>① 学習者は、人体の基本構造である構造と機能について説明できる。</p> <p>② 学習者は、病態と関連付けた人体の構造と機能について説明できる。</p>							
テキスト(教科書)	<p>① 系統看護学講座 第10版 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 坂井建雄、岡田隆夫 著 医学書院 ISBN9784260031714</p> <p>② ぜんぶわかる骨の名前としくみ辞典 山田敬喜、肥田岳彦 著 成美堂出版 ISBN9784415310015</p> <p>③ ぜんぶわかる筋の名前としくみ辞典 肥田岳彦、山田敬喜 著 成美堂出版 ISBN9784415310008</p>							
参考書および参考文献	① ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 MCメディカ出版 ISBN9784840453745							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>① 毎回の授業前に授業内容のポイントを読んでおくこと(第2回～14回/20分程度)</p> <p>② 毎回の授業後に授業内容のポイントの整理をすること(第1回～15回/30分程度)</p> <p>③ 授業内で実施された小テストの復習を行うこと(第2回～第14回/30分程度)</p> <p>④ 定期試験対策のために、各授業内容のポイントを整理しておくこと(第14回～第15回/60分程度)</p>							
成績評価	★定期試験、小テスト、受講態度により総合的に評価する。評価点に達しない学生に対して、面談を実施して成績の向上を目指す。							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		70%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する(基礎的問題100%)。					
小テスト		30%	分野ごとの講義内容を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>1.(講義) 看護の土台となる解剖生理学(解剖学とは、生理学とは、解剖学用語)。</p> <p>2.(講義) 人体の区分と細胞小器官名とその機能、器官、組織の種類と機能</p> <p>3.(講義) 栄養の消化と機能 消化器系(上部消化器)の構造と機能①</p> <p>4.(講義) 栄養の消化と機能 消化器系(下部消化器)の構造と機能②</p> <p>5.(講義) 栄養の消化と機能 消化器系(実質性臓器)の構想と機能③</p> <p>6.(講義) 呼吸と血液のはたらき 呼吸器(上気道)の構造</p> <p>7.(講義) 呼吸と血液のはたらき 呼吸器(下気道)の構造</p> <p>8.(講義) 内呼吸と外呼吸 呼吸器と呼吸運動と呼吸気量</p> <p>9.(講義) 内呼吸と外呼吸 ガス交換とガスの運搬と肺の循環と血流、呼吸中枢と呼吸器系と病態生理</p> <p>10.(講義) 血液の組成と機能①</p> <p>11.(講義) 血液の組成と機能②</p> <p>12.(講義) 血液の循環とその調節① 循環器系の構成 末梢血管系の構造</p> <p>13.(講義) 血液の循環とその機能② 心臓の構造と心臓の拍出機能 心電図</p> <p>14.(講義) 血圧・血流量の調節</p> <p>15.(講義) 微小循環と循環器系の病態生理 リンパとリンパ管</p> <p>講義の中で、学生に対して疑問や質問を投げかけて、学生からの回答に答える形式で進めて行く予定である。小テストを実施して、その内容に対して、講義外で質問を受け付ける。</p> <p>ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもあり得る。</p>							
ナンバリング	NRBM1001							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	960B0				
科目	960B からだの構造と機能Ⅱ		授業種別	週間授業				
担当教員	西 啓太		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	<p>本科目では、人間のからだのしくみである「構造」を理解したうえで、からだの機能を理解することを目的とする。からだの機能は、生命を維持するために必要な機能、また人間が人間らしく生きるために必要な機能等があり、それらが多角的、多様に有機的につながって成り立っている。その全体のからだの機能である生理的なメカニズムを理解する。</p> <p>*この科目は当該授業内容に関する理学療法の実務を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○				
到達目標	<p>① 学習者は、人体の基本構造である構造と機能について説明できる。</p> <p>② 学習者は、病態と関連付けた人体の構造と機能について説明できる。</p>							
テキスト(教科書)	<p>① 系統看護学講座 第10版 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 坂井建雄、岡田隆夫著 医学書院 ISBN9784260031714</p> <p>② ぜんぶわかる骨の名前としくみ辞典 山田敬喜、肥田岳彦 著 成美堂出版 ISBN9784415310015</p> <p>③ ぜんぶわかる筋肉の名前としくみ辞典 肥田岳彦、山田敬喜 著 成美堂出版 ISBN9784415310008</p>							
参考書および参考文献	① ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 MCメディアカ出版 ISBN9784840453745							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>① 毎回の授業前に授業内容のポイントを読んでおくこと(第2回～第30回/20分程度)</p> <p>② 毎回の授業後に授業内容のポイントの整理をすること(第1回～第30回/30分程度)</p> <p>③ 授業内で実施された小テストの復習を行うこと(第2回～第30回/30分程度)</p> <p>④ 定期試験対策のために、各授業内容のポイントを整理しておくこと(第14回～第15回/60分程度)</p>							
成績評価	<p>定期試験と小テストの点数および出席率の総合判定を行う。特に、単元ごとに小テストを重要視する。小テストの評価基準は60点として、達成できなかった学生に対して、面談を実施して、講義内容の理解度並びに学習方法を教授する。</p>							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	70%	筆記試験にて講義内容の理解度を確認する(基礎問題100%)						
小テスト	30%	分野ごとに講義内容の理解度を確認する。						
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>(講義) 体液の調節と尿の生成① 腎臓の構造</li> <li>(講義) 体液の調節と尿の生成② 腎臓の機能</li> <li>(講義) 体液の調節と尿の生成③ 腎臓の機能と体液の調節</li> <li>(講義) 内臓機能の調節 自律神経による調節① 自律神経の構造</li> <li>(講義) 内臓機能の調節 自律神経による調節② 自律神経の機能</li> <li>(講義) 内分泌系による調節① 内分泌とホルモン</li> <li>(講義) 内分泌系による調節② 全身の内分泌腺と内分泌細胞</li> <li>(講義) 内分泌系による調節③ ホルモン分泌の調節</li> <li>(講義) 身体の支持と運動 人体の骨格と骨の連結①</li> <li>(講義) 身体の支持と運動 人体の骨格と骨の連結②</li> <li>(講義) 骨格筋の構造 背部の筋、胸部の筋 腹部の筋</li> <li>(講義) 上肢の骨格と筋と運動</li> <li>(講義) 下肢の骨格と筋と運動 頭頸部の骨格と筋</li> <li>(講義) 筋の収縮機構</li> <li>(講義) 神経系の構造と機能 神経細胞と支持細胞</li> <li>(講義) 中枢神経系の外観 脊髄の構造と機能</li> <li>(講義) 脳の構造と機能</li> <li>(講義) 末梢神経系 脳神経</li> <li>(講義) 末梢神経系 脊髄神経と運動機能と上・下行伝導路</li> <li>(講義) 感覚機能と上行伝導路</li> <li>(講義) 眼の構造と機能 眼球の付属器</li> <li>(講義) 耳の構造と聴覚・平衡覚 耳の構造</li> <li>(講義) 味覚と嗅覚 味覚器と味覚</li> <li>(講義) 痛み(疼痛) 痛みの分類と発生機序</li> <li>(講義) 皮膚の構造と機能 皮膚の組織構造</li> <li>(講義) 生体防御機構①</li> <li>(講義) 生体防御機構②</li> <li>(講義) 体温調節</li> <li>(講義) 生殖・発声と老化のしくみ</li> <li>(講義) 男性・女性生殖器官の構造と機能 成長と老化</li> </ol> <p>講義の中で、学生に対して疑問や質問を投げかけて、学生からの回答に対して答える方式で進めて行く予定である。質問に対するフィードバックも同時に行っていく。 ただし、受講生の習熟度により計画を変更することもあり得る。</p>							
ナンバリング	NREM1001							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	960C0			
科目	960C 臨床心理学		授業種別	週間授業			
担当教員	加藤 知佳子		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	人が生きていく過程で直面するさまざまな危機的状況において、どのように反応し、行動するのか、心理的な状況・問題と関連させて学びを深める。その心理的な状況・問題の理解を基盤として、心を病む人たちに対してどのような働きかけができるのか、心理面からの援助の在り方とその具体的方法についての基礎を学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	△	○	○		
到達目標	1. 人間が発達の過程で遭遇する典型的な危機的状況について、年齢と関連付けて列挙できる。 2. 人間が危機的状況において行う典型的な反応と心理的な援助を例示できる。						
テキスト(教科書)	『系統看護学講座 基礎分野 心理学』(山村豊・高橋一公著、医学書院) ISBN 978-4-260-02768-7 (2019年度「心理学概論」テキスト:すでに所有している場合は購入の必要なし)						
参考書および参考文献	『自分を見つめるカウンセリング・マインド:ヘルスケアワークの基本と展開』(五十嵐透子著、医歯薬出版株式会社) ISBN-10: 4263234235						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(4時間相当) ・指示された話題について、事前に考えたり、調べたりしておく。(各2時間) ・授業で得た気づきと学びについて、ノートにまとめておく。(各2時間) ・学期末には、授業全体の内容を確認し、定期試験範囲の復習を行う。						
成績評価							
授業の到達目標の達成度に応じて評価する。なお、度重なる欠席、遅刻、早退および劣悪な受講態度は減点の対象となる場合がある。							
評価項目		割合	評価基準				
ミニレポート		30%	課題に対する取り組みを評価する。				
定期試験		70%	筆記試験によって理解度を評価する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) イントロダクション:「心理学概論」との接続、基礎から応用へ 第2回 (講義) 発達するひと:発達の視点の重要性 第3回 (講義・演習) エリクソンの発達段階と心理学的危機(Think-Pair-Share) 第4回 (講義) 個人から集団へ:対人関係と集団における個 第5回 (講義・演習) ヘルスケアワークにおけるコミュニケーションの問題(Think-Pair-Share) 第6回 (講義) カウンセリング・マインドと心理療法 第7回 (講義・演習) 傾聴とカウンセリング・マインドにもとづくコミュニケーション(Think-Pair-Share) 第8回 (講義・演習) まとめ:学びの共有と質疑応答(Think-Pair-Share)  ミニレポート等の課題を課した場合は、特別な事情がない限りコメントを付けて返却するほか、全体で共有すべき質問事項・疑問点については授業内でフィードバックを行う。また、各自の気づきや考えを共有し、それに対するコメントをフィードバックするために、Google Classroomの機能を活用する。なお、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	NREM2005						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	960D0			
科目	960D 社会システムと人間		授業種別	週間授業			
担当教員	辰巳 智行		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	この講義では、今日われわれが生きている社会の仕組み（社会システム）を理解するために必要な知識と方法論の基礎を学ぶ。 まず、現代社会の基盤となる「近代」という時代を概観しながら、そこで想定される人間像や社会システムの特徴を学ぶ。 次に、具体的な社会問題の事例検討を通じて、受講者が人間と社会システムの関係について深い洞察力を身につけることを目的とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性		◎	△	○	△		
到達目標	1. 受講者が、現代社会の特徴のひとつである近代性の基礎を説明できる 2. 受講者が、現代社会が想定している人間や集団を社会的な面から説明できる 3. 受講者が、現代の諸課題を人間と社会システムの面から科学的に考察する能力を習得する						
テキスト（教科書）	テキスト（教科書）は指定しない。 講義ごとにプリントを配布する。 講義内容を補足するため、追加資料を Google Classroom などを通じて提示することがある。						
参考書および参考文献	・長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志編著、2007、『社会学』、有斐閣（ISBN:978-4641053700）。 ・勝又正直、1999、『ナースのための社会学入門』、医学書院（ISBN:978-4260330152）。 そのほか講義の中で関連文献を紹介する						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	・日常的に新聞やテレビ、Webのニュースを通じて、社会の「問題」について見聞を広めておくこと（1時間×8回） その際、社会の「問題」について言及する記者やキャスター、ネット上の意見・コメントを分析して、どういう立場・視点から、どのような根拠で発言がなされているか、誰にとって、どのような「問題」であるのかを整理する（0.5時間×8回） ・講義の復習（1.5時間×8回） ・定期試験のための学習（5時間）						
成績評価	成績は、(1) 毎回の講義での貢献やコメントペーパー（講義内レポート）の提出、(2) 定期試験の両方で、講義の到達目標がどの程度達成できているのかを評価する。 ただし、定期試験は、受講生の習熟度や新型コロナウイルスの発生状況によって、レポートに切り替える場合がある。						
評価項目	割合	評価基準					
講義への貢献 コメントペーパーの提出	45	コメントペーパー（講義内レポート）で理解度や達成度を評価する。講義中の質問やコメントで取組姿勢も評価する。					
定期試験	55	定期試験で、講義の到達目標がどの程度達成できているのかを評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回【講義】：ガイダンス：社会学的想像力 第2回【講義】：近代の諸要素 第3回【講義】：国民国家 第4回【講義】：市民社会 第5回【講義】：資本主義 第6回【講義】：近代の家族 第7回【講義】：働くこと 第8回【講義】：病気と病院 ・本科目は、主に講義形式で実施する ・講義に関する質問やコメントは、講義中や講義前後の時間を利用すること ・提出されたコメントペーパー（講義内レポート）の内容で、全体で共有すべき話題提供や質問は講義内で紹介やフィードバックする場合がある ・受講生の習熟度等の理由で、講義の内容や順序を変更することもある						
ナンバリング	NRCM1005						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	961A0		
科目	961A 臨床薬理学			授業種別	週間授業		
担当教員	森本 達也			単位数	1		
その他担当者	刀坂 泰史、砂川 陽一						
授業概要	「生体内に入った薬物が生体にどのような影響を及ぼすか」という薬力学と「生体が生体に入った薬物をどのように処理するか」という薬物動態学の両面から追求し、治療効果と副作用を明らかにする学問である臨床薬理の基礎知識を学ぶ。また、主な病態に対する薬物療法とその効用の作用機序、副反応、留意点および新たに開発されてきている薬剤等についても学ぶ。※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○			
到達目標	総論において、薬理学の基礎知識について医学用語を説明でき、薬理学の大筋をつかむ。そして中枢神経、心臓血管系、消化器、抗感染剤、抗悪性腫瘍などの臨床で使用されている薬物について説明できる。講義を受ければ重要な薬物のポイントを認識でき、他の薬物も類推できるようになる。						
テキスト(教科書)	薬理学 疾病のなりたちと回復の促進3 吉岡允弘ら著、医学書院 978-4-260-03184-4 2,300円						
参考書および参考文献	病気がみえる(シリーズ vol1~15) MEDIC MEDIA 薬がみえる(シリーズ vol1~4) MEDIC MEDIA						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	<p>○毎授業前に指定箇所まで配布した授業プリントや教科書を読み、医学・薬学用語および、重要な医薬品の知識などについて予習する(第1~15回/30分)。</p> <p>○毎授業後に授業で得た医薬品の知識などを授業プリントや教科書・参考書を見直し、理解する。単元ごとに配布した国家試験過去問題を行い理解したかを確認しておくこと(第1~15回/60分)。小テストが行われることがあるので必ず復習をしておくこと。</p> <p>○医薬品に関する重要な問題についてニュースなどで注目されるテーマについて、また、授業内で指摘された興味ある事項についてレポートとしてまとめる。必要な予備知識、授業時間外の学習は、資料の下調べなど時間外学習は学生同士のディスカッションなども行いまとめる(第5~10回/30分)。提出するレポートは簡潔に説明した要旨も添付する(第11~14回/30分)。</p> <p>○第15回には、最終試験についての重要な個所の注意事項の説明、小テスト、自習を行い試験の対策を行う。小テストの復習と16回目の定期試験範囲について全体の復習を行う(第15回/120分)。</p>						
成績評価	試験・小テスト・提出レポートから総合的に評価する。原則として毎回出席すること。定期試験受験資格は出席が2/3以上とする。早退・遅刻が2回で1回欠席扱いとする。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。						
評価項目	割合	評価基準					
筆記試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する(基礎問題80%、応用問題20%)					
小テスト	5%	講義内容・重要点の理解度を確認するために過去の国試問題を中心に行う。					
課題レポート	5%	課題について簡潔なまとめ方なども考慮する。					
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>森本 達也 薬理学を学ぶにあたって</li> <li>森本 達也 薬理学の基礎知識①</li> <li>森本 達也 薬理学の基礎知識②</li> <li>森本 達也 循環器系に作用する薬物①</li> <li>森本 達也 循環器系に作用する薬物②</li> <li>森本 達也 循環器系に作用する薬物③</li> <li>刀坂 泰史 中枢神経系に作用する薬物①</li> <li>刀坂 泰史 中枢神経系に作用する薬物②</li> <li>刀坂 泰史 末梢神経系に作用する薬物</li> <li>刀坂 泰史 物質代謝に作用する薬物</li> <li>刀坂 泰史 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物</li> <li>砂川 陽一 抗アレルギー薬・抗炎症薬、皮膚科用薬、眼下用薬</li> <li>砂川 陽一 抗感染剤</li> <li>砂川 陽一 抗がん剤・免疫治療薬</li> <li>砂川 陽一 救急の際に使用される薬物・漢方薬・消毒薬</li> </ol> <p>ただし、受講学生の習熟度等により、授業計画を変更することもある。授業内で課題に対するフィードバックを行う。もしくは問題解説を配布する。</p>						
ナンバリング	NRCM2002						

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期			授業コード	961B0		
科目	961B 臨床栄養学			授業種別	週間授業		
担当教員	上田 洋子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	<p>人間の食物あるいは体内への注入により摂取した食品・栄養物が、栄養となって生命・生活活動に使われる生化学的なメカニズムについて理解する。どのような食品・栄養物を摂取することが、人間の健康にとってよいか、病態を引き起こす栄養の摂取の在り方を学ぶ。これらを通じ、学生自身の栄養摂取についても考える機会とする。</p> <p>またこの科目は医療施設や福祉施設での実務経験を有する教員（管理栄養士）が、その経験を活かし、疾病と栄養や食事内容をイメージしやすいように講義をおこなう科目である。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品から摂取した栄養物が体内で利用されるメカニズムを説明できる。</li> <li>・医療における食事療法の重要性を説明できる。</li> <li>・疾患別の食事療法の特徴を説明できる。</li> </ul>						
テキスト(教科書)	系統看護学講座 専門基礎分野「栄養学」人体の構造と機能③ 第13版第3刷 中村次 医学書院 ISBN 978-4-260-03861-4						
参考書および参考文献	教員作成の教材資料をClassroomに掲示するので各自で印刷し持参すること。						
受講条件	必須科目						
事前・事後学修(内容・時間)	事前学習(2時間相当/8回) <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎授業前に指定箇所まで教科書を熟読しておくこと。</li> <li>・授業の1週間前に次回講義で使用する教材資料を公開するので必ず読んでおくこと。</li> </ul> 事後学習(2時間相当/8回) <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や授業時に配布した教材資料などを利用して復習すること。</li> </ul>						
成績評価	授業到達目標がどの程度達成できているか小テストと筆記試験の総合評価とする。						
評価項目	割合	評価基準					
小テスト	0.3	講義内容の理解度を確認する。					
定期試験	0.7	筆記試験にて理解度を評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>疾患において、栄養素の摂取と生理作用との関連を振り返る。          授業の最後に提出された質問内容は、次回授業時に復習をふまえて解説を行う。          授業内で実施した小テストについては、フィードバックを行う。          ※記載された数字・アルファベットは、教科書の内容に対応しています。</p> <p>1回(講義)          第1章 人間栄養学と看護 看護と栄養 看護師の役割          第9章 臨床栄養          A:チームで取り組む栄養管理          B:病院食 一般食 特別治療食          C:栄養補給法 経腸栄養法 経静脈栄養法</p> <p>2回(講義)          F:疾患・症状別食事療法の実際          ①:やせ・低栄養患者の食事療法          ②:肥満・メタボリックシンドローム          ③:循環器疾患患者の食事療法          ①高血圧症 ②動脈硬化 ③虚血性心疾患 ④心不全</p> <p>3回(講義)          ④消化器疾患患者の食事療法          a胃・腸疾患          ①胃炎 ②胃・十二指腸潰瘍 ③腸炎</p> <p>4回(講義)          b肝臓・胆膵疾患          ①急性肝炎          ②慢性肝炎          ③肝硬変          ④脂肪肝          ⑤胆石症          ⑥膵炎</p> <p>5回(講義)          1~4回小テストの実施(フィードバックを行う)          下痢・便秘          ①下痢          ②便秘</p> <p>6回(講義)          ⑤栄養・代謝疾患患者の食事療法          ①糖尿病          ②脂質異常症          ③高尿酸血症・痛風          ④ビタミンの欠乏症・過剰症          ⑤ミネラルの欠乏症・過剰症</p> <p>7回(講義)          ⑥腎臓疾患患者の食事療法          ①急性糸球体腎炎          ②慢性腎臓病          CKD 透析療法</p> <p>8回(講義)          ⑦血液疾患患者の食事療法          ①鉄欠乏性貧血          ②巨赤芽球性貧血          ③白血病          ④食物アレルギー疾患患者の食事療法          ⑤骨粗鬆症患者の食事療法          ⑥摂食・嚥下障害患者の食事療法          定期試験実施</p> <p>ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>						
ナンバリング	NREM1002						

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	96090				
科目	9609 生化学		授業種別	週間授業				
担当教員	城座 映明		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	<p>春学期 生命科学の基礎 での学修内容を受け、生化学 の講義では、まず エネルギーの獲得 に注目し、糖質・脂質 の代謝 を学ぶ。タンパク質・核酸 の代謝では、廃棄物処理 という観点で 話を進める。次に グリコゲンやコレステロールなど その他の代謝 を学ぶ。</p> <p>大変厳しいウイルス感染症が世界的に蔓延している現状をふまえ、中間試験後 は COVID-19 と 基礎疾患 との関連に焦点をあてた学修内容とする。具体的には、生活習慣病、炎症の概要、免疫の概要について学ぶ。</p> <p>この科目は当該授業内容に関する 生化学 の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		○				
到達目標	<p>いくつかの到達目標を示します。</p> <p>化学反応と酵素について説明できる。</p> <p>糖質代謝を説明できる。</p> <p>脂質代謝を説明できる。</p> <p>タンパク質代謝を説明できる。</p> <p>グリコゲン代謝を説明できる。</p> <p>ペントースリン酸経路を説明できる。</p> <p>肝臓での脂質代謝を説明できる。</p> <p>筋肉での代謝を説明できる。</p> <p>生活習慣病を説明できる。</p> <p>炎症の概要を説明できる。</p> <p>免疫の概要を説明できる。</p>							
テキスト(教科書)	令和 5 年度 秋学期 生化学							
参考書および参考文献	<p>からだのしくみ 生理学 分子生物学 I 城座 映明 他 日本看護協会出版会 978-4-8180-0655-3</p> <p>からだのしくみ 生理学 分子生物学 II 城座 映明 他 日本看護協会出版会 978-4-8180-0656-0</p>							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	毎回の授業前に、30 分ほどの時間で テキストの学修範囲を予習し、授業後に 60 分ほどの時間で 復習することが望ましい。							
成績評価	<p>授業内容は、前半・後半の2部から構成されています。それぞれに対応させて 中間 100 点, 定期 100 点の 2 回の試験を実施致します。基準点に達しない学修者に対しては その時の試験の点数を ゼロ点とした上で 再試験を実施いたします。再試験を受験した場合には、再試験での 6 割以下の点数が評価点となります。これらの試験の合計点を 2 で割った数値に、提出物に対する評価を加味することにより 生化学 の評価点と致します。</p>							
評価項目		割合	評価基準					
中間試験		0.5	筆記試験にて理解度を確認します。提出物に対する評価も加味します。					
定期試験		0.5	筆記試験にて理解度を確認します。提出物に対する評価も加味します。					
授業の実施方法及び授業計画	<p>中間試験・定期試験 の終了後に自己採点を行い、結果を Classroom を経由した リスポンスシートで送信してください。試験直後に行う自己採点は、試験内容の復習として 大変重要です。</p> <p>第 01 回 (演習) 糖質・脂質などの栄養素の代謝を理解するために、代謝の概要を学ぶ。</p> <p>第 02 回 (演習) 肝臓・筋肉での血糖の利用を理解するために、血中グルコースのゆくえを学ぶ。</p> <p>第 03 回 (演習) 糖質代謝を理解するために、糖質の構造と 解糖系・TCA サイクル、呼吸鎖 を学ぶ。</p> <p>第 04 回 (演習) 脂質が末梢に運搬される過程を理解するために、LDL 代謝を学ぶ。</p> <p>第 05 回 (演習) 末梢での脂質代謝を理解するために、脂質の β- 酸化を学ぶ。</p> <p>第 06 回 (演習) 廃棄物の代謝を理解するために、窒素バランスを学ぶ。</p> <p>第 07 回 (演習) タンパク質代謝を理解するために、アミノ酸代謝と尿素サイクルを学ぶ。</p> <p>第 08 回 (演習) 中間試験・解説</p> <p>第 09 回 (演習) 生命機能の維持を理解するために、グリコゲン代謝、ペントースリン酸経路を学ぶ。</p> <p>第 10 回 (演習) 生命機能の維持を理解するために、肝臓での脂質代謝、筋肉でのエネルギー獲得を学ぶ。</p> <p>第 11 回 (演習) 生活習慣病を理解するために、HDL 代謝、脂肪細胞由来のサイトカインについて学ぶ。</p> <p>第 12 回 (演習) 家族性高コレステロール血症を理解するために、遺伝子疾患、病態への対処法を学ぶ。</p> <p>第 13 回 (演習) 炎症の概要を理解するために、結合組織と血液細胞の分化を学ぶ。</p> <p>第 14 回 (演習) 体液性免疫と細胞性免疫を理解するために、リンパ系細胞について学ぶ。</p> <p>第 15 回 (演習) 補体系の活性化やアレルギーを理解するために、免疫の概要について学ぶ。</p> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。</p>							
ナンバリング	NRFM1001							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	961D0				
科目	961D 病原体と感染		授業種別	週間授業				
担当教員	齋藤 富士雄		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	人間生活を取り巻く微生物やウイルスと人間（宿主）との相互作用について学修する。病原微生物やウイルスの基礎、生体防御機構、検査と診断、治療及び薬剤耐性等について学修する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○				
到達目標	1 主な病原微生物やウイルスの種類や特徴、病原性について説明できる。 2 これらの知識が、医療の現場で活用できる方法について説明できる。							
テキスト（教科書）	南嶋洋一 疾病のなりたちと回復の促進『4』微生物学 医学書院 ISBN978-4-260-01827-2							
参考書および参考文献	特になし							
受講条件	必須科目							
事前・事後学修（内容・時間）	1 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと（2～7回／30分程度）。 2 微生物や感染症に関する新聞記事等に関心を持ち、知識を深めること。 *以上1、2について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学習を行うこと。							
成績評価								
小テストと学期末に行う筆記試験で評価する。								
評価項目	割合	評価基準						
小テスト	10%	講義内容の理解度を確認する。						
筆記試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する。						
授業の実施方法と授業計画	5回終了後に、それまでの講義内容に関する小テストを行う。小テストは採点后返却し、講義で解説する。 本科目は全て講義形式で行う。 1回 微生物と微生物学、細菌の性質 2回 ウイルスの性質・真菌の性質 3回 感染と感染症、感染に対する生体防御機構 4回 滅菌と消毒、感染症の検査と診断 5回 感染症の治療、感染症の現状と対策 小テスト 6回 病原細菌と細菌感染症 7回 病原ウイルスとウイルス感染症 8回 病原真菌と真菌症、寄生虫と衛生動物 ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRCM1006							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	96510				
科目	9651 病態と治療の基礎		授業種別	週間授業				
担当教員	大林 雅春		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	病変の生じるシステム、病気の定義・病因等の基本的な知識を学び、生体のシステムと病態、生命現象を理解する。具体的には、細胞の変性と壊死、損傷、循環障害、炎症、腫瘍等を学修する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎		○				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞・組織の障害とその修復、再生、適応の過程を、形態学的な変化として説明できる。</li> <li>2. 人体に備わる病態からの修復機構とともに生体防御機構について基本的なメカニズムを修得する。</li> <li>3. 炎症や腫瘍などの基本的な概念を説明できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 (第6版) 大橋健一(著) 医学書院 ISBN978-4-260-04203-1							
参考書および参考文献	なるほどなっとく!病理学 plus: 病態形成の機序と各器官の疾病の特徴 小林 正伸(著) 南山堂 ISBN-10: 4525151811							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>本授業は、アクティブラーニングの「反転授業」のスタイルを取り入れて実施する。すなわち、回目の授業項目の簡単な事前課題(基本問題)を果たし、本番の授業を迎えるのが前提の授業である。約30分から1時間ほど、テキスト中心に取り組むこと。</p> <p>毎回の授業で配る講義資料(紙媒体)は、GoogleDrive上に全てのスライドや動画を閲覧共有設定するので、自己学修(事後学修)に役立てること。授業中のみならず、いつでもどこでも閲覧可能である。講義内容に便利なサイトや付随するサイトをURLやQRコードで紹介する。授業には、PCやタブレット、スマートフォンなど端末を準備すること。</p> <p>Googleのクラスルームに掲載する演習問題(正誤訂正問題および選択式問題)は、授業内容を問題形式で学習出来るように工夫したものである。必要に応じて自己学修(事後学修)に役立てること。特に「選択式問題」は、国家試験の傾向も踏まえて適宜改訂している。演習問題は、定期試験に約6割出題します。将来的な国家試験勉強にもなるので学習を心掛ける。</p>							
成績評価								
筆記試験およびレポート/課題								
評価項目	割合	評価基準						
筆記試験	0.9	筆記試験とレポート課題の総合点で評価します。						
レポート・課題提出	0.1	同上						
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 病気の原因、細胞・組織の障害と修復  第2回 代謝障害  第3回 先天異常と遺伝子異常、老化、死  第4回 循環障害  第5回 免疫  第6回 炎症  第7回 感染症  第8回 腫瘍</p> <p>第1~8回は講義を行う。</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p> <p>授業中の内容に関する質問や感想、リクエストに関しては、リアクションペーパーに記入すること。次回の授業までに個々にメールで返信する。また多い質問項目などには、次回の授業で説明する。指摘された改善点などには素早く対応するので遠慮せずに、口答でもリアクションペーパーでもメールでも対応します。</p> <p>授業中には、講義内容を把握しやすいようにビデオ学習、その他動画等の視覚効果を活かした学習も行うので、上映中は集中して病態の理解に努めること。</p>							
ナンバリング	NRFM1002							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	96520				
科目	9652 病態と治療Ⅰ (内科系)		授業種別	週間授業				
担当教員	小竹 伴照		単位数	2				
その他担当者	山口 直己、磯貝 善哉、武藤 真広、澤崎 浩平、渡邊 智治							
授業概要	主に内科的な病変を引き起こす疾患と治療ならびにその発生要因について学修する。本科目では、主に循環器疾患、呼吸器疾患、腎疾患の主要病態、症状、検査、治療を学修する。 この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○				
到達目標	1. 循環器系の主な病態と治療の概括を述べることができる 2. 呼吸器系の主な病態と治療の概括を述べることができる 3. 腎臓系の主な病態と治療の概括を述べることができる							
テキスト(教科書)	北村聖編、臨床病態学1巻、第2版、ニューエルヒコワフ、ISBN9784861740497 北村聖編、臨床病態学2巻、第2版、ニューエルヒコワフ、ISBN9784861740503 北村聖編、臨床病態学3巻、第2版、ニューエルヒコワフ、ISBN9784861740510							
参考書および参考文献	適宜、授業内で紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」、「生命科学の基礎」、「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく(第1回～15回/30分) 2. 授業計画を参照して、テキストの該当ページを読み、分からない箇所を明確にしておく(第1回～15回/30分) <事後学修> 1. 授業後は配布資料も含めて自身のまとめノートを作成しておく(第1回～15回/30分) 2. 授業を受けて不明だった事項に関しては必ず調べ明確にしておく(第1回～15回/30分)							
成績評価	到達目標における達成度で評価する。 遅刻・早退・無断欠席、および劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	100%	筆記試験(マークシート)において到達度を評価する						
授業の実施方法と授業計画	本科目は全て講義形式で行う <受講イントロダクション> 第1回 呼吸器系の主な病態とそのメカニズム、基礎的知識・共通する患者ケア【講義】 (豊橋創造大学・小竹伴照) 第2回 感染症・アレルギー性疾患・閉塞性疾患【講義】 (豊橋創造大学・小竹伴照) 第3回 拘束性肺疾患・肺循環障害【講義】 (豊橋創造大学・小竹伴照) 第4回 換気異常・腫瘍【講義】 (豊橋創造大学・小竹伴照) 第5回 胸腔疾患等・総括【講義】 (豊橋創造大学・小竹伴照) 第6回 循環器系の主な病態とそのメカニズム、基礎的知識【講義】 (浜松医療センター・澤崎浩平) 第7回 先天性心疾患、心不全等の病態と治療【講義】 (浜松医療センター・武藤真広) 第8回 虚血性心疾患・心筋症等の病態と治療【講義】 (浜松医療センター・澤崎浩平) 第9回 不整脈等疾患の病態と治療【講義】 (浜松医療センター・武藤真広) 第10回 動脈系疾患の病態と治療、血圧異常【講義】 (浜松医療センター・澤崎浩平) 第11回 腎臓系の主な病態とそのメカニズム、基礎的知識【講義】 (豊橋市民病院・山川大志) 第12回 慢性腎臓病・腎不全、尿毒症等の病態と治療【講義】 (豊橋市民病院・山川大志) 第13回 糸球体腎炎・ネフローゼ症候群等の病態と治療【講義】 (豊橋市民病院・山川大志) 第14回 全身性疾患に伴う腎疾患の病態と治療【講義】 (豊橋市民病院・山川大志) 第15回 炎症・湿疹・感染、各種皮膚疾患【講義】 (国立長寿医療研究センター・磯貝善哉)							
	ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあるため、初回授業時に配布する授業計画表を必ず確認すること(講師の都合により、時間および講師の変更の可能性あり)。 授業時間内にミニテストを行った場合にはその場で解答し解説する。							
ナンバリング	NRGM1001							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	96530			
科目	9653 病態と治療Ⅱ (内科系)		授業種別	週間授業			
担当教員	山口 直己		単位数	2			
その他担当者	豊住 久人、西村 康明、榊原 由美子、長山 浩士						
授業概要	主に内科的な病変を引き起こす疾患と治療、ならびにその発生要因について学修する。本科目では、主に血液疾患、神経疾患、内分泌・代謝疾患の主要病態、症状、検査、治療を学修する。 この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 血液・免疫疾患の主な病態と治療の概括を述べることができる</li> <li>2. 神経疾患の主な病態と治療の概括を述べるができる</li> <li>3. 内分泌・代謝疾患の主な病態と治療の概括を述べるができる</li> <li>4. 感覚器系 (眼) の病態と治療の概括を述べるができる</li> </ol>						
テキスト (教科書)	北村聖編、臨床病態学1巻、第2版、ニューヴェルヒロカフ、ISBN9784861740497 北村聖編、臨床病態学2巻、第2版、ニューヴェルヒロカフ、ISBN9784861740503 北村聖編、臨床病態学3巻、第2版、ニューヴェルヒロカフ、ISBN9784861740510						
参考書および参考文献	適宜、授業内で紹介する						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修 (内容・時間)	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」、「生命科学の基礎」、「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく。(第1回～15回/30分) 2. 授業計画を参照して、テキストの該当ページを読み、分からない箇所を明確にしておく。(第1回～15回/30分) <事後学修> 1. 授業後は配布資料も含めて自身のまとめノートを作成しておく。(第1回～15回/30分) 2. 授業を受けて不明だった事項に関しては必ず調べ明確にしておく。(第1回～15回/30分)						
成績評価	到達目標における達成度で評価する。 遅刻・早退、無断欠席、および劣悪な受講態度 (私語・居眠り等) は減点の対象とする。						
評価項目	割合	評価基準					
定期試験	100%	筆記試験 (マークシート) において到達度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	<受講イントロダクション> 第1回 血液・造血器系異常の病態と対処法【講義】 (豊橋医療センター：豊住久人) 第2回 赤血球、白血球、血液凝固系異常の病態と治療【講義】 (豊橋医療センター：豊住久人) 第3回 免疫・防御系異常が起こる病態のメカニズムと治療 (基礎的知識)【講義】 (浜松医療センター：高取宏昌) 第4回 アレルギー疾患、膠原病・自己免疫疾患・免疫不全症の病態と治療【講義】 (浜松医療センター：高取宏昌) 第5回 内分泌代謝異常が起こる病態のメカニズムと対処法 (基礎的知識)【講義】 (浜松医療センター：長山浩士) 第6回 視床下部―下垂体系異常の病態と治療【講義】 (浜松医療センター：長山浩士) 第7回 ホルモンの分泌過剰と不足の病態と治療【講義】 (浜松医療センター：長山浩士) 第8回 糖代謝異常、脂質代謝異常・水電解質代謝異常・痛風等の病態と治療【講義】 (浜松医療センター：長山浩士) 第9回 脳・神経系異常の病態と対処法 (基礎的知識)【講義】 (第二成田記念病院：西村康明) 第10回 脳血管障害の病態と治療①脳梗塞【講義】 (第二成田記念病院：西村康明) 第11回 脳血管障害の病態と治療②頭蓋内出血他【講義】 (第二成田記念病院：西村康明) 第12回 脳腫瘍・神経系の感染・神経性変疾患の病態と治療【講義】 (第二成田記念病院：西村康明) 第13回 神経変性疾患の病態と治療、脱髄性疾患【講義】 (第二成田記念病院：西村康明) 第14回 末梢神経疾患・筋疾患の病態と治療【講義】 (第二成田記念病院：西村康明) 第15回 感覚器系 (眼) の病態と治療【講義】 (豊橋市民病院：榊原由美子) ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあるので、初回授業時に配布する授業計画表を必ず確認すること (講師の都合により、時間および講師の変更の可能性あり)。 授業時間内にミニテストを行った場合にはその場で解答し解説する。						
ナンバリング	NRDM2001						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	96540				
科目	9654 病態と治療Ⅲ (外科系)		授業種別	週間授業				
担当教員	山口 直己		単位数	2				
その他担当者	杉浦 昌、山下 克也、安藤 雅規、佐野 逸郎、山口 浩志、渡邊 智治							
授業概要	主に外科的な疾患を診断するための検査、主要病態と症状、治療を学修する。手術や麻酔に関する内容も含む。 この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術・麻酔および必要な検査を述べるができる</li> <li>2. 摂取・消化・吸収に関わる主な病態と外科的治療を述べるができる</li> <li>3. 運動器系疾患の主な病態と外科的治療を述べるができる</li> <li>4. 泌尿器系疾患の主な病態と外科的治療を述べるができる</li> <li>5. 感覚器系疾患 (耳鼻咽喉科) の主な病態と外科的治療を述べるができる</li> </ol>							
テキスト (教科書)	北村聖編、臨床病態学1巻、第2版、ヌーヴェルヒロカフ、ISBN9784861740497 北村聖編、臨床病態学2巻、第2版、ヌーヴェルヒロカフ、ISBN9784861740503 北村聖編、臨床病態学3巻、第2版、ヌーヴェルヒロカフ、ISBN9784861740510 矢永勝彦編、系統看護学講座別巻、臨床外科看護総論第11版、医学書院、ISBN9784260027694							
参考書および参考文献	適宜、授業内で紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修 (内容・時間)	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」、「生命科学の基礎」、「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく (第1回～15回/30分) 2. 授業計画を参照して、テキストの該当ページを読み、分からない箇所を明確にしておく (第1回～15回/30分) <事後学修> 1. 授業後は配布資料も含めて自身のためノートを作成しておく (第1回～15回/30分) 2. 授業を受けて不明だった事項に関しては必ず調べ明確にしておく (第1回～15回/30分)							
成績評価	到達目標における達成度で評価する。 遅刻・早退・無断欠席、および劣悪な受講態度 (私語・居眠り等) は減点の対象とする。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	100%	筆記試験 (マークシート) において到達度を確認する						
授業の実施方法と授業計画	<受講イントロダクション> 第1回 手術・麻酔及び必要な検査①麻酔法・呼吸管理【講義】 (豊橋市民病院; 佐野逸郎) 第2回 手術・麻酔及び必要な検査②外科的治療と術後管理【講義】 (豊橋市民病院; 佐野逸郎) 第3回 手術・麻酔及び必要な検査③外科的治療と術後管理【講義】 (豊橋市民病院; 佐野逸郎) 第4回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 消化管の基礎的知識【講義】 (豊橋医療センター; 山下克也/安藤雅規) 第5回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 食道・胃・十二指腸疾患【講義】 (豊橋医療センター; 山下克也/安藤雅規) 第6回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 小腸・大腸の疾患【講義】 (豊橋医療センター; 山下克也/安藤雅規) 第7回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 肝・胆・脾の基礎知識【講義】 (豊橋医療センター; 山下克也/安藤雅規) 第8回 摂取・消化・吸収障害の病態と治療 肝・胆道・脾疾患【講義】 (豊橋医療センター; 山下克也/安藤雅規) 第9回 運動器系にかかわる病態のメカニズムと対処法【講義】 (本学; 杉浦昌) 第10回 骨・関節異常の病態と治療【講義】 (本学; 杉浦昌) 第11回 脊椎・脊髄異常の病態と治療①【講義】 (本学; 杉浦昌) 第12回 脊椎・脊髄異常の病態と治療②【講義】 (本学; 杉浦昌) 第13回 泌尿器系疾患の病態と治療①尿路結石・腎細胞がん・水腎症【講義】 (豊橋市民病院; 山川大志) 第14回 泌尿器系疾患の病態と治療②尿路感染症・前立腺肥大・前立腺がん【講義】 (豊橋市民病院; 山川大志) 第15回 感覚器系疾患 (耳鼻咽喉科) の病態と治療【講義】 (豊橋医療センター; 畔柳久志)							
	ただし、学生の習熟度により授業計画を変更することもあるので、初回授業時に配布する授業計画表を必ず確認すること (講師の都合により、時間および講師の変更の可能性あり)。 授業時間内にミニテストを行った場合にはその場で解答し解説する。							
ナンバリング	NRAM2001							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	96550				
科目	9655 病態と治療Ⅳ (小児)		授業種別	週間授業				
担当教員	宮本 健		単位数	1				
その他担当者	河合 洋子、佐野 伸一郎、田口 智英、坂井 聡							
授業概要	小児期における代表的な疾患の病態および症状、検査、治療について学修する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○				
到達目標	1. 小児の特性（成長・発達の特徴）について述べるができる。 2. 小児期における代表的な疾患の主要病態とその症状について述べるができる。 3. 小児期における代表的な疾患の治療、検査について述べるができる。 ※この科目はが該当授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその経験をいかし講義を行う科目である。							
テキスト(教科書)	奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論 第14版, 医学書院 ISBN:978-4-260-038607 奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護学各論 第14版, 医学書院 ISBN:978-4-260-038669							
参考書および参考文献	適宜紹介する							
受講条件	必修科目 履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には教科書の該当箇所を熟読する(第1回～第8回/120分程度) ②授業後には授業での学びを整理しておく(第1回～第8回/120分程度) ③全8回終了後にはすべての事項について復習を行い学修内容を整理する(6時間程度) 以上を参考に自己学修を行うこと。なお、小児看護学原論と関連させて学修することが望ましい。							
成績評価	定期試験の成績から評価を行う。							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		100%	到達目標に沿って、授業での重要な点について適切に理解しているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	※学修内容に関する質問事項については、各授業内で解説を行う。 第1回(講義). 小児の特性(成長と発達)、新生児疾患の病態と治療(新生児仮死、新生児一過性多呼吸、メレナ)、循環器疾患の病態と治療(心室中隔欠損症、ファロー四徴症など)(田口) 第2回(講義). 消化器疾患の病態と治療(口唇口蓋裂、腸重積症、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、食道閉鎖症、胆道閉鎖症など)(坂井) 第3回(講義). 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常の病態と治療、代謝・内分泌疾患の病態と治療(先天性代謝異常症、糖尿病、低身長、中枢性尿崩症、クレチン症など)(佐野) 第4回(講義). 感染症の病態と治療(麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘などのウイルス感染症、細菌感染症)(佐野) 第5回(講義). 呼吸器疾患の病態と治療(上気道疾患、下気道疾患)、腎・泌尿器・生殖器疾患の病態と治療(ネフローゼ症候群、糸球体腎炎など)(坂井) 第6回(講義). 免疫・アレルギー疾患の病態と治療(食物アレルギー、気管支喘息、自己免疫疾患など)、血液・造血器疾患の病態と治療(貧血、血小板減少性紫斑病、血友病など)(田口) 第7回(講義). 悪性新生物の病態と治療(白血病、神経芽腫など)、神経・運動器疾患の病態と治療(てんかん、脳炎、筋ジストロフィーなど)(宮本) 第8回(講義). 感覚器系疾患(皮膚・眼・耳鼻)の病態と治療、精神疾患の病態と治療(発達障害、神経症など)(宮本) ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある							
ナンバリング	NRBM2002							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	96560				
科目	9656 病態と治療Ⅴ(産科・婦人科)		授業種別	週間授業				
担当教員	大林 陽子		単位数	1				
その他担当者	渡辺 慎一郎、保條 説彦							
授業概要	産科・婦人科疾患の病態生理を理解し、疾患の診断、検査、治療、症状等について学ぶ。主に、女性生殖器(子宮・卵巣等)疾患の病態生理、妊娠・分娩が原因となって起こる母体・胎児に起こる疾患の病態生理について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○				
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥期の異常の診断、治療、検査、症状について説明できる。 2. 女性生殖器(子宮・卵巣等)疾患の診断、治療、検査、症状について説明できる。							
テキスト(教科書)	系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 末岡浩他 医学書院 第15版 978-4-260-03567-5 現代の母性看護 概論 入山茂美他 名古屋大学出版会 978-4-815-80899-0 現代の母性看護 各論 入山茂美他 名古屋大学出版会 978-4-815-80974-4							
参考書および参考文献	病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137 病気がみえるvol.9婦人科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327120							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<事前学修> 1. 該当する病態について「からだの構造と機能」「生命科学の基礎」「生化学」等、関連分野科目を授業前に復習しておく(第1~8回/30分) 2. 授業計画を参照して、テキストの該当頁を読み、わからない箇所を明確にしておく(第1~8回/30分) <事後学修> 1. 授業後はテキストの内容をもとに自身のまとめノートを作成しておく(第1~8回/30分) 2. 授業を受けて不明な事項について、テキストや参考書で調べて明確にしておく(第1~8回/30分)							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻・早退・無断欠席や劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする場合があります。							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		100%(産科50%・婦人科50%)	筆記試験(マークシート)にて理解度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	第1~4回 (講義) 渡辺 慎一郎 産科(周産期における異常) 妊娠期の異常と管理(子宮外妊娠・多胎妊娠を含む) 基礎疾患に妊娠が合併した妊産婦の管理 分娩期の異常(胎児機能不全と新生児仮死) 産褥期の異常 第5~8回 (講義) 保條 説彦 婦人科疾患 婦人科腫瘍(良性・悪性) ホルモン関係の疾患(月経・更年期) 婦人科炎症疾患  ただし、学生の習熟度により授業計画を変更する場合がある。 質問等については授業の中で解説する。							
ナンバリング	NRBM2003							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	96570			
科目	9657 病態と治療VI (精神)		授業種別	週間授業			
担当教員	桑原 高史		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	<p>世界精神保健調査によると、日本における成人の気分障害、不安障害、衝動制御障害、物質関連障害のいずれかの生涯有病率は24.2%、12か月有病率は10.0%となっている。調査に含まれていない統合失調症や認知症などを含めると、日本における精神疾患の有病率はさらに高くなると推測される。また身体疾患の患者でも、ストレスが継続的に加わることで、結果として精神医学的な問題が生じることが多い。日々患者に接している看護師が主治医より先に精神的な不調に気づくことも多いことから、看護師として必要な知識を身につけることは必須である。精神疾患の一部は慢性的な経過をたどるが、治せない患者はいても看護できない患者はいない。したがって精神科は看護師としてやりがいを感じられる分野であろう。</p> <p>本講義は、8回の授業により、看護師として必要な精神医学的知識の習得を目標とする。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する医師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義棟を行う科目である。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○			
到達目標	<p>第1回 精神医学の歴史や、症候学、検査方法などを理解できる</p> <p>第2回 統合失調症の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる</p> <p>第3回 気分(感情)障害の疫学、病態、診断、経過、治療についてできる</p> <p>第4回 不安障害、ストレス関連障害、摂食障害の疫学、病態、経過、治療について理解できる</p> <p>第5回 児童・思春期における精神障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる</p> <p>第6回 精神作用物質による精神および行動の障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる</p> <p>第7回 器質性精神障害(認知症など)、てんかん、睡眠障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる</p> <p>第8回 成人のパーソナリティと行動の障害の疫学、病態、診断、経過、治療について理解できる</p>						
テキスト(教科書)	精神看護学2 精神障害をもつ人の看護 メチカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3364-8 プリント配布						
参考書および参考文献	テーマ、興味に応じて各種新書に目を通すことが望ましい						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	<p>教科書の下記の章を事前に予習しておくこと(第1回～8回/60分)</p> <p>第2章 精神障害をもつ人の抱える症状と診断のための検査</p> <p>第3章 主な精神疾患/障害</p> <p>第4章 精神疾患の主な治療法</p> <p>授業後は当日配布されたプリントを元に復習すること(第1回～8回/60分)</p> <p>※1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと</p>						
成績評価	期末試験を主として小テストを勘案する。						
評価項目	割合	評価基準					
期末試験	60%	一連の講義を通した総合的な理解度を確認する。					
小テスト	40%	各講義の最後に当日の授業内容の理解度を確認するために行う。					
授業の実施方法と授業計画	<p>授業はPowerPointを使用して行う。 この科目は全て講義形式で行う。</p> <p>第1回 精神医学総論(歴史や症候学を中心に)</p> <p>第2回 統合失調症</p> <p>第3回 気分(感情)障害</p> <p>第4回 不安障害、ストレス関連障害、摂食障害</p> <p>第5回 児童・思春期における精神障害</p> <p>第6回 精神作用物質による精神および行動の障害</p> <p>第7回 器質性精神障害(認知症など)、てんかん、睡眠障害</p> <p>第8回 成人のパーソナリティと行動の障害</p> <p>第9回 期末試験</p> <p>※必要に応じて小テストのフィードバックをおこなう</p>						
ナンバリング	NRCM2004						

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	96210			
科目	9621 公衆衛生学		授業種別	週間授業			
担当教員	齋藤 富士雄		単位数	2			
その他担当者							
授業概要	人間の健康は様々な社会生活環境と関連していることを知り、公衆衛生的考え方の基本を学修する。そして、少子高齢化社会の日本における各ライフステージの健康課題と、それに対する各種諸制度を含む公衆衛生的対策の現状と課題について学修する。 この科目は当該授業に関する食品衛生の実務経験の有する教員がその経験を活かし講義を行う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○			△
到達目標	1 疾病の予防と健康保持増進について、その意義と重要性、技術について説明できる 2 公衆衛生向上の意義と重要性について学び、地域社会に役立てることができる						
テキスト(教科書)	神馬征峰 健康支援と社会保障制度【2】公衆衛生 医学書院 ISBN 978-4-260-01989-7						
参考書および参考文献	特になし						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	1 毎授業前に指定箇所まで教科書を読んでおくこと(2~14回/30分程度)。 2 公衆衛生に関する新聞記事等に関心を持ち、知識を広く深めること。 ※以上1、2について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学習を行うこと。						
成績評価	小テストと学期末に行う筆記試験で評価する。						
評価項目	割合	評価基準					
小テスト	10%	講義内容の理解度を確認する。					
筆記試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	6回終了後に、それまでの講義内容に関する小テストを行う。小テストは採点後返却し、講義で解説する。 本科目は全て講義形式で行う。 1回 公衆衛生の概念 2回 活動対象 3回 公衆衛生のしくみ 4回 疫学・保健統計 5回 環境と健康 6回 感染症・国際保健 小テスト 7回 地域保健(母子保健) 8回 地域保健(成人保健) 9回 地域保健(高齢者保健) 10回 地域保健(精神保健) 11回 地域保健(歯科保健、障害者・難病保健) 12回 学校と保健 13回 職場と保健 14回 健康危機管理 15回 災害保健 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	NRGM1002						

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	96270				
科目	9627 保健医療福祉行政論		授業種別	週間授業				
担当教員	磯部 文雄		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	<p>少子・高齢社会を背景とした、人々の生活を支える保健医療福祉行政の仕組みについて学ぶ。具体的には、現行の保健、医療、福祉の法制度の体系やそのシステムとしての機能について学び、地域の多様な場での看護師保健師の役割について展望する。</p> <p>※この科目は、授業内容に関する厚生労働省での実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現在のわが国の保健医療福祉における主な行政制度が説明できる。</li> <li>2 保健医療福祉に係る身近なできごとを社会全体の中で位置づけ、問題点を考え述べることができる。</li> <li>3 保健医療福祉の制度の今後のあるべき方向について自分の意見を述べるができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	府川・磯部 「保健医療福祉行政論」 ミネルヴァ書房 2022改訂版 ISBN:9784623093434							
参考書および参考文献	<p>教員作成の補足資料を配布する。</p> <p>磯部・府川 「福祉行政と福祉計画」 改訂版2017ミネルヴァ書房 ISBN:9784623078769</p> <p>勝俣範之「医療否定本の嘘」 2015 扶桑社 ISBN:9784594072438</p> <p>その他授業の中で適宜紹介する。</p>							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>毎回の授業計画に沿って、教科書の関係箇所を必ず熟読してくる。 (第1～15回/60分程度)</p> <p>特に第1回目の授業のため、教科書第2章第1節を必ず読んでくる。</p> <p>授業後は、配布資料と講義内容を必ず復習し、再確認すること。(第1～14回/30分程度)</p> <p>授業中に配布したペーパーに関しては、自分でその事項の背景等をネット等で調べること。(第3～14回/30分程度)</p>							
成績評価								
<p>授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。3分の1以上の欠席は、期末試験の受験資格を失います。正当な理由のない遅刻は欠席扱いとします。</p>								
評価項目		割合	評価基準					
小テスト		20%	講義内容の理解度を確認する					
期末試験		70%	筆記試験にて理解度を確認する					
コメントカードの提出		10%	学習態度を評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>授業は、教科書の要点の説明、その内容を理解し、深め、広げるためのスライドの説明の順で進めていく。授業中に関連するテーマに関するペーパーを配布し、コメントを求める。提出されたコメントカードのいくつかの内容について、次回全員にフィードバックする。</p> <p>本科目は全て講義形式で行う。</p> <p>第1回 この授業のための基礎知識、教科書第2章医療サービスと財政</p> <p>第2回 同上</p> <p>第3回 医療提供体制</p> <p>第4回 高齢者医療</p> <p>第5回 日本の医療制度の特徴と課題、小テスト(次回以降採点の上返却する)</p> <p>第6回 教科書第3章介護サービスと財政</p> <p>第7回 介護提供体制</p> <p>第8回 これからの高齢者介護</p> <p>第9回 教科書第1章衛生行政の実施体制、感染症対策</p> <p>第10回 地域保健行政と保健師活動</p> <p>第11回 教科書第4章社会福祉サービス(実施体制、生活保護等)</p> <p>第12回 社会福祉サービス(障害者、児童等)</p> <p>第13回 教科書第5章保健医療福祉財政</p> <p>第14回 教科書第6章保健医療福祉の計画と評価</p> <p>第15回 教科書終章保健医療福祉行政の今後の展望</p> <p>ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することがある。</p>							
ナンバリング	NREM2006							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	96280				
科目	9628 保健医療統計学 I		授業種別	週間授業				
担当教員	中川 博文		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	看護学領域では質量の様々なデータと直面する。データを適切に処理し活用するには統計理論に関する知識が必要不可欠となる。本科目では統計データ処理に必要な確率の基礎や理論分布等について学修する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○				
到達目標	<p>看護の領域では様々な統計データや統計資料と遭遇し、それらを有効活用するには統計学の知識が不可欠である。また、近年の医療の高度化とともに科学的根拠のもとづく意思決定が看護の実践面で強く求められるようになり、実データの統計解析の重要性が増してきている。以上のような視点から、本授業の到達目標を以下の通り設定する。</p> <p>①統計地図や統計グラフがどのような目的や着眼点にもとづいて作成されているか説明できる  ②乳児死亡等がどのような要因と関連しているかをグラフを見ながら要因別に説明できる  ③人口動態統計と人口静態統計との違いを説明できる  ④保健指標の種類を説明でき、その値を求めることができる  ⑤年齢調整死亡率の説明ができ、直接法や間接法による死亡率の計算ができる  ⑥罹患率や有病率等の計算ができ、その意味について説明ができる  ⑦生命表の見方がわかり、完全生命表と簡易生命表の違いを説明できる</p>							
テキスト(教科書)	「保健統計・疫学」改訂5版 福富和夫・橋本修二共著 (南山堂:ISBN978-4-525-05335-2)							
参考書および参考文献	「医療看護のためのやさしい統計学(基礎編)」第10刷 山田 寛 著 (東京図書:ISBN978-4-489-00632-6) 「看護学生のための疫学・保健統計」第1版 浅野嘉延著 (南山堂:ISBN978-4-525-05341-3)							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	毎回の授業について、事前および事後学修(学修時間;4時間相当)を必ず行うこと。それぞれの内容と時間は以下の通りとする。 ・授業に該当する内容は事前に必ず教科書等で確認しておくこと。(第2~第14回/2時間相当) ・授業で扱った数式や数値データ等は事後、必ず確認しておくこと。また、演習で実施した内容は繰り返し練習を行い、確実にできるようにしておくこと。(第1~第15回/2時間相当)							
成績評価	授業には毎回出席すること。 授業の到達目標に対して学習成果の達成度を評価する。その達成度評価には、以下の評価方法を用いる。 ・筆記試験(中間試験および期末試験) ・課題レポート 以上の評価方法の得点を総合し、合計60%以上の得点者を単位取得者と認める。 なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な授業態度は減点の対象になる場合がある。							
評価項目		割合	評価基準					
中間試験		30%	中間期までの学修目標における到達度を筆記試験により評価する。					
期末試験		50%	当授業の学修目標における到達度を筆記試験により評価する。					
課題レポート		20%	授業中に実施した演習問題等を課題レポートとして課すもので、レポートの完成度や提出状況等から評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)ガイダンス(看護における統計学の役割) 第2回(講義・演習)表やグラフで表された統計資料の見方 第3回(講義・演習)人口動態統計と人口静態統計 第4回(講義・演習)レセプトと医療統計 第5回(講義・演習)保健指標(各種の死亡率等) 第6回(講義・演習)傷病量の表現(罹患率と有病率) 第7回(講義・演習)指標の標準化(直接法・間接法による年齢調整死亡率) 第8回(講義・演習)生命表と平均余命および平均寿命 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。なお、授業中に実施した演習問題等のレポート課題は次回授業の際に可能な範囲で解説を行う。							
ナンバリング	NRCM2005							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	96290			
科目	9629 保健医療統計学Ⅱ		授業種別	週間授業			
担当教員	中川 博文		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	看護・医療をとりまく様々なデータを用いた統計処理の手法を学ぶ。また、種々の統計データ処理の実践的応用に関する知識を修得し、健康に関する統計の在り方についても学ぶ。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○			
到達目標	<p>看護の領域では様々な統計データや統計資料と遭遇し、それらを有効活用するには統計学の知識が不可欠である。また、近年の医療の高度化とともに科学的根拠にもとづく意思決定が看護の実践面で強く求められるようになり、実データの統計解析の重要性が増してきている。本授業は以上のような実状を踏まえて、到達目標を以下の通りとした。</p> <p>①検査の妥当性と信頼性評価の違いが説明でき、その指標の感受度や特異度等の値を求めることができる</p> <p>②リスク比やオッズ比の違いについて説明でき、それぞれの値を求めることができる</p> <p>③離散的データと連続データの違いを説明できる。</p> <p>④度数分布表やヒストグラムの作成ができる</p> <p>⑤代表値について説明でき、それぞれの値を求めることができる</p> <p>⑥標準偏差や四分位偏差を求めることができる</p> <p>⑦エラーバー付き棒グラフや箱ひげ図を描くことができる</p> <p>⑧2変量の関係の強さを相関係数を用いて説明できる</p>						
テキスト(教科書)	「保健統計・疫学」改訂5版 福富和夫・橋本修二共著 (南山堂:ISBN978-4-525-05335-2)						
参考書および参考文献	「医療看護のためのやさしい統計学(基礎編)」第10刷 山田 寛 著 (東京図書:ISBN978-4-489-00632-6) 「看護学生のための疫学・保健統計」第1版 浅野嘉延著 (南山堂:ISBN978-4-525-05341-3)						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	毎回の授業について、事前および事後学修(学修時間;4時間相当)を必ず行うこと。それぞれの内容と時間は以下の通りとする。 ・授業内容に該当する部分は必ず教科書等で事前に確認しておくこと。(第2~第14回/2時間相当) ・授業で扱った数式や数値データ等は再度確認しておくこと。また、演習で実施した内容は繰り返し練習を行い、確実にできるようにしておくこと。(第1~第15回/2時間相当)						
成績評価	成績評価 授業には毎回出席すること。 授業の到達目標に対して学習成果の達成度を評価する。その達成度評価には、以下の評価方法を用いる。 ・筆記試験(中間試験および期末試験) ・課題レポート 以上の評価方法の得点を総合し、合計60%以上の得点者を単位取得者と認める。 なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な授業態度は減点の対象になる場合がある。						
評価項目	割合	評価基準					
中間試験	30%	中間期までの学修目標における到達度を筆記試験により評価する。					
期末試験	50%	当授業の学修目標における到達度を筆記試験により評価する。					
課題レポート	20%	授業中に実施した演習問題に関してレポートを課すもので、レポートの提出状況やその内容の完成度等で評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義・演習)コホート研究(前向きと後ろ向き)と症例対照研究 第2回(講義・演習)スクリーニング検査の妥当性と信頼性評価(感受度と特異度等) 第3回(講義・演習)単純集計と2次元集計(分割表) 第4回(講義・演習)リスク比とオッズ比 第5回(講義・演習)度数分布表とヒストグラム 第6回(講義・演習)代表値(平均値、中央値、最頻値) 第7回(講義・演習)散布度と標準偏差および四分位偏差 第8回(講義・演習)棒グラフや箱ひげ図の作成 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。なお、授業中に実施した演習問題等のレポート課題は次回授業の際に可能な範囲で解説を行う。						
ナンバリング	NRFM2005						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	962A0			
科目	962A 環境と人間			授業種別	週間授業			
担当教員	稲田 充男			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	<p>生活環境、社会環境、自然環境といった様々な環境について人間の健康との関連を中心に学ぶ。また環境アセスメントについてその具体的方法と実施上の困難について理解を深めつつ、環境が人間の心身の健康に与える影響、人間が環境に与える影響について考える。</p> <p>授業ではUNIVERSAL PASSPROTの課題提出・授業資料・アンケートなどの機能を活用し、双方向の授業を行う。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	◎		○			△	
到達目標	<p>1.環境とは何か、環境問題とは何か説明することができる。</p> <p>2.環境と人間の相互関係について説明することができる。</p>							
テキスト(教科書)	特に使用しない。必要に応じて資料を配付する。							
参考書および参考文献	<p>「地球環境学入門 第3版」(山崎友紀、講談社、978-4065214695)</p> <p>参考URL : {<a href="https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000328517">https://bookclub.kodansha.co.jp/product?item=0000328517</a>}</p> <p>「公衆衛生がみえる」(医療情報科学研究所編、メディックメディア)</p> <p>参考URL : {<a href="https://www.byomie.com/products/koumie/">https://www.byomie.com/products/koumie/</a>}</p> <p>その他、講義の中で適宜紹介する。その他、講義の中で適宜紹介する。</p>							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>次のような事前・事後学習を毎回4時間程度行うこと。( )内に目安の時間を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞などに目を通して、環境問題など社会の変化について調べる。(60分程度)</li> <li>・次回授業範囲の内容について配付資料の該当箇所を熟読する。(30分程度)</li> <li>・講義テーマに関する専門用語の意味やその内容を調べる。(30分程度)</li> <li>・授業で学んだ内容について整理し、理解を深める。(30分程度)</li> <li>・中間レポート、期末レポートの作成に取り組む。(90分程度)</li> </ul>							
成績評価								
<p>日常課題(30%)・中間レポート(35%)・期末レポート(35%)</p> <p>なお、出席点は設定しないが、遅刻や欠席、劣悪な受講態度は減点の対象とする。また、正当な理由なく3回以上欠席した者は失格とする。</p>								
評価項目	割合	評価基準						
日常課題	30%	講義内容についての理解度を確認する。						
中間レポート	35%	<p>課題に対して適切な内容・記述になっているかを確認する。</p> <p>評価は授業で配付するルーブリックに基づいて行う。</p> <p>UNIVERSAL PASSPROTの課題提出機能を用いてレポートを提出する。</p>						
期末レポート	35%	<p>課題に対して適切な内容・記述になっているかを確認する。</p> <p>評価は授業で配付するルーブリックに基づいて行う。</p> <p>UNIVERSAL PASSPROTの課題提出機能を用いてレポートを提出する。</p>						
授業の実施方法と授業計画	<p>第01回 (講義) ガイダンス・環境とは・環境問題とは</p> <p>第02回 (講義) 環境と生命の相互進化・中間レポートについての説明</p> <p>第03回 (講義・演習) 環境の成立と意義・関連問題演習</p> <p>第04回 (講義・演習) 公害問題と地域環境問題・関連問題演習</p> <p>第05回 (講義) 大気組成と汚染</p> <p>第06回 (講義) 水の循環と汚染・期末レポートについての説明</p> <p>第07回 (講義・演習) リスク評価とリスクマネジメント・関連問題演習</p> <p>第08回 (講義) 環境影響評価</p> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあり得る。</p> <p>授業内で課題に対するフィードバックを行う。</p> <p>必要に応じて、オフィスアワーなどを利用し個別に対応する。</p>							
ナンバリング	NREM1003							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	970A0																																		
科目	970A 看護学原論		授業種別	週間授業																																		
担当教員	藤井 徹也		単位数	2																																		
その他担当者																																						
授業概要	<p>看護学全体を概観し、その基盤となっている看護学のメタパラダイムである人間・環境・健康・看護について、本質的な見方、考え方を学ぶことをめざす。</p> <p>看護の歴史的な背景および看護理論の見地から、目的・本質を中心に看護の原理を理解する。また、看護の対象である人間そして病人について理解し、臨床判断の必要性や看護の方法の概括とケアの方向性、看護が提供されるシステム全体を知る。さらに、地域包括ケアなどの現状の看護トピックスや今後の看護の課題についても考察する。</p> <p>*この科目は該当授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。</p>																																					
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7																															
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	○	○		△	△																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の概念、定義に含まれる構成要素（人間、環境、健康、看護）の理解を通し、看護の本質、原理について考察できる。</li> <li>2. 看護の対象である個人/家族/集団について、その対象を全体的な存在として理論的基盤の見地から述べるができる。</li> <li>3. 看護の専門性、責任・義務を多様な視点から、看護を学ぶ者としての方向性を考察できる。</li> <li>4. 看護の機能、役割、保健福祉医療チームについて看護活動との関連を通し、その概括を述べるができる。</li> <li>5. 看護の本質、専門性を大切に看護、現状と課題について考えることができる。</li> </ol>																																					
テキスト（教科書）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 松木光子編集：看護学概論，第5版，ヌーヴェルヒロカワ，2011.ISBN:978-4-86174-039-8</li> <li>2) 日本看護協会編：看護職の基本的責務-定義・概念/基本法/倫理2023年度版，日本看護協会出版会，2023. ISBN:未定</li> </ol>																																					
参考書および参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) C.Roy（松木光子監訳）：ザ・ロイ適応看護モデル第2版，医学書院，2016. ISBN:978-4-260-00973-7</li> <li>2) J.B.George編（南裕子，他訳）：看護理論集第3版，日本看護協会出版会，2013. ISBN:978-4-8180-1718-4</li> <li>3) T.ハードマン（上鶴重美訳）：NANDA-I看護診断，定義と分類，2021-2023，第12版，医学書院，2021. ISBN:978-4-260-04628-2</li> </ol> <p>*その他、授業時に提示する。</p>																																					
受講条件	必修科目																																					
事前・事後学修（内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 指定されたテキストの範囲を事前学修する（第1～15回）。</li> <li>② 専門科目である看護学に初めて踏み込む導入、看護学の全体をoverviewする位置づけの科目である。耳慣れない用語等に接することも多い。教員の体験や見解も多く語られるため、学修内容を適宜まとめ整理する（第1～15回）。</li> <li>③ 内容を理解、考察するのに社会状況や他の分野との関連性が欠かせないため、多角的に整理する（第1～15回）。</li> </ol> <p>*2単位の修得には90時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修（90分程度）行う。</p>																																					
成績評価																																						
試験、講義中の提出物、講義中の討論・発言・参加度合について総合的に評価する なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする																																						
評価項目	割合	評価基準																																				
試験	80%	各授業の重要な点について適切に理解していることを評価する。																																				
講義中の提出物	10%	課題に対し文献を活用して分析し考察がされていることを評価する。																																				
講義中の討論・発言・参加度合	10%	講義中の意見交換、発表への討論が自主的に発言できるか、他者の意見に関心を持った発言が出来るか等を評価する。																																				
授業の実施方法と授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>Introduction；看護学の学修に向けて（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>看護の概念、看護の本質①（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>看護の概念、看護の本質②（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>看護の歴史的な変遷と本質（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>米国における看護（講義：ゲストスピーカー）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>看護の対象の理解①、生理的心理社会的な統合体（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>看護の対象の理解②、病人の理解（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>看護の構成要素としての主要概念①（環境、健康、人間、看護）（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>看護の構成要素としての主要概念②（環境、健康、人間、看護）（講義・演習：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>自分が今考える看護の構成要素の概念と関連性（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>自分が今考える看護の構成要素の概念とその関連性の検討（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>看護の構成要素の概念とその関連性の検討、理論をふまえて（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>看護の専門性・責任・義務、看護と看護理論、看護理論の概観（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>看護の役割、機能、保健医療チーム、看護活動（講義：藤井）</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>看護活動の現状の課題と今後の展望（講義：藤井）</td> </tr> </table> <p>*課題のフィードバックは、講義、メールで全体に行う。</p>								第1回	Introduction；看護学の学修に向けて（講義：藤井）	第2回	看護の概念、看護の本質①（講義：藤井）	第3回	看護の概念、看護の本質②（講義：藤井）	第4回	看護の歴史的な変遷と本質（講義：藤井）	第5回	米国における看護（講義：ゲストスピーカー）	第6回	看護の対象の理解①、生理的心理社会的な統合体（講義：藤井）	第7回	看護の対象の理解②、病人の理解（講義：藤井）	第8回	看護の構成要素としての主要概念①（環境、健康、人間、看護）（講義：藤井）	第9回	看護の構成要素としての主要概念②（環境、健康、人間、看護）（講義・演習：藤井）	第10回	自分が今考える看護の構成要素の概念と関連性（講義：藤井）	第11回	自分が今考える看護の構成要素の概念とその関連性の検討（講義：藤井）	第12回	看護の構成要素の概念とその関連性の検討、理論をふまえて（講義：藤井）	第13回	看護の専門性・責任・義務、看護と看護理論、看護理論の概観（講義：藤井）	第14回	看護の役割、機能、保健医療チーム、看護活動（講義：藤井）	第15回	看護活動の現状の課題と今後の展望（講義：藤井）
第1回	Introduction；看護学の学修に向けて（講義：藤井）																																					
第2回	看護の概念、看護の本質①（講義：藤井）																																					
第3回	看護の概念、看護の本質②（講義：藤井）																																					
第4回	看護の歴史的な変遷と本質（講義：藤井）																																					
第5回	米国における看護（講義：ゲストスピーカー）																																					
第6回	看護の対象の理解①、生理的心理社会的な統合体（講義：藤井）																																					
第7回	看護の対象の理解②、病人の理解（講義：藤井）																																					
第8回	看護の構成要素としての主要概念①（環境、健康、人間、看護）（講義：藤井）																																					
第9回	看護の構成要素としての主要概念②（環境、健康、人間、看護）（講義・演習：藤井）																																					
第10回	自分が今考える看護の構成要素の概念と関連性（講義：藤井）																																					
第11回	自分が今考える看護の構成要素の概念とその関連性の検討（講義：藤井）																																					
第12回	看護の構成要素の概念とその関連性の検討、理論をふまえて（講義：藤井）																																					
第13回	看護の専門性・責任・義務、看護と看護理論、看護理論の概観（講義：藤井）																																					
第14回	看護の役割、機能、保健医療チーム、看護活動（講義：藤井）																																					
第15回	看護活動の現状の課題と今後の展望（講義：藤井）																																					
ナンバリング	NRCM1001																																					

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	970B0				
科目	970B 看護理論概説		授業種別	週間授業				
担当教員	大島 弓子		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	看護理論を学ぶ意義を理解し、学ぶことに興味をもつ。また、理論そのものの構造、守備範囲、主張点のつかみ方など、理論をクリティックできる視点を理解する。そのうえで、看護理論、周辺理論の時代的な流れ、関連性を概観し、先人の理論を実際に講読する。この購読、討論、発表、討論を繰り返す中で、それらの理論の内容、関連性が分り、多様な理論を身近なもので、活用することに興味深くなる姿勢を養う。また、実際に、文献の購読方法を学び、自らの考え方に理論を活用する。この科目は、当該授業内容に関する看護職の実務経験を有する教員等が、その実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	◎	△	○	
到達目標	1, 看護理論を学ぶ目的と意義を理解でき、自らの考える看護に対する考え方の基礎にすることが出来る。 2, 理論の構造、守備範囲の存在を知り、理論を構造的に理解出来る 3, 看護理論を支える周辺理論について、その特徴と看護への活用へのされ方等、概念的に理解出来る 4, 主要な看護理論の特徴と活用のされ方などの概括について歴史的変遷、影響された理論を含めて理解出来る 5, 看護理論および周辺の理論に関する文献購読、グループワークを通じ、理論への接近の仕方と理論への興味関心を深め、プレゼンテーションが出来る							
テキスト(教科書)	1) ジュリア・B. ジョージ(編), 南裕子、野嶋佐由美、近藤房恵(訳); 看護理論集, 日本看護協会出版会, 2013. ISBN:978-4-8180-1718-4 2) シスター・カリスタ・ロイ(松木光子 監訳); ロイ応応看護モデル, 医学書院, 2010 ISBN:978-4-260-00973-7							
参考書および参考文献	自らが講読を必要とする、また、考え方を広げるためにさらに必要とする文献							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には(事前に)提示した文献や参考書の必要箇所を熟読する。②授業後には授業での学びを整理しておく。③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。以上①②③について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。(第1回～8回講義の予習・復習で各々30分程度)							
成績評価	試験(レポートを含む) 80%、グループワークを含めた学修への取り組み状況(グループワークの参加度) 15%、プレゼンテーション時の全体への貢献、討論過程5%							
評価項目	割合	評価基準						
テスト	80%	看護理論と周辺理論の重要性と内容の概括を適切に理解していることで評価する						
グループワークを含めた学修への取り組み状況(グループワークの参加度)	15%	文献購読をするための基礎知識を習得しながら、購読のグループワークでの役割を具体的に決定し、メンバーが主体的に意見を述べ、調べ物や資料作りの役割などの遂行をしているかの視点で評価する						
プレゼンテーション内容、討論過程	5%	プレゼンテーション内容と討論時に自主的に発言する等で評価する						
授業の実施方法と授業計画	第1回 Introduction, 看護理論/看護モデルを学ぶ目的と意義、看護理論とは何か。看護理論の必要性 守備範囲からみる理論の構造。看護理論を理解するポイント (講義) 第2回 看護理論、周辺学問領域の理論、先人たちの看護理論(1) 看護理論を支える周辺の理論、その特徴と看護への活用へのされ方などの概括。先人たちの看護理論の流れ、主張する考え方の概括(1) (講義) 第3回 先人たちの看護理論(2) 先人たちの看護理論の流れ、主張する考え方の概括(2), 文献購読の方法。(講義) 第4回 文献購読と討論(1) 文献購読・グループディスカッション(1) (演習) 第5回 文献購読と討論(2) 文献購読・グループディスカッション(2) プレゼンテーション準備(演習) 第6回 文献の発表会、討論(1) 文献のプレゼンテーション、全体討論(演習・講義) 第7回 文献の発表会、討論(2) 文献のプレゼンテーション、全体討論(演習・講義) 第8回 文献の発表会、討論(3), 看護理論のまとめ 文献のプレゼンテーション、全体討論、まとめ、自己の看護の考え方の整理(演習・講義) *試験のフィードバックは受講生にメールでコメントする。発表内容は発表時にフィードバックとしてコメントとする。							
ナンバリング	NREM1004							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	970C0			
科目	970C 看護倫理			授業種別	週間授業			
担当教員	大島 弓子			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	現在の社会の多様な事象の中で、保健医療及び看護に求められる高い倫理への要請を理解した上で、医療に求められる倫理、看護倫理の意義、必要性を理解する。また、多様な角度から倫理的課題を感じ取る感受性と、看護倫理の原則を基盤に、医療における事象を対象者の人権を擁護する視点から考察できる基礎的な能力を育成する。さらに、臨地における事例の倫理的ジレンマに焦点をあて、看護倫理の哲学的、理論的な見地からも具体的に検討し考察する。 この科目は、当該授業内容に関する看護職の実務経験を有する教員等が、その実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	◎	○	△	
到達目標	1, 現在の社会の中で保健医療福祉に求められる倫理の必要性および、生命倫理の歴史的な背景、変遷の概括と現在の社会的な要請を説明できる。 2, 倫理を考えるために必要な哲学的、宗教的、理論的な背景の概括を説明できる。 3, 看護倫理の概念、本質、意義とその必要性、原則について説明できる。 4, 看護倫理における専門職としての規範を説明できる。 5, 倫理的な感受性を育むことの必要性がわかり、多様な観点から他者、事象を倫理的に検討し、まとめることができる。 6, 保健医療全般、また看護に関連した場面における倫理的ジレンマを検討したうえで、その対応について考察して、まとめることができる。							
テキスト(教科書)	1) 日本看護協会編；看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理，日本看護協会出版会（看護学原論講義で使用したもの） ISBN:978-4-8180-2086-3 2) サラ・T. フライ（著），メガン・ジェーン ジョンストン（著），Sara T. Fry（原著），Megan-Jane Johnstone（原著），片田 範子（翻訳），山本 あい子（翻訳）；看護実践の倫理—倫理的意思決定のためのガイド，日本看護協会出版会。 ISBN:978-4-8180-1512-8							
参考書および参考文献	講義時に紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には参考書の指定箇所を熟読する。 ②現在の世界（日本、海外）での状況の複数の新聞やメディアから情報を得て、倫理的な課題と自らが思うことを吟味して考える。情報源は複数を照らし合わせて信頼性を確実にすること。 ③ソクラテス、アリストテレス、カント、ベンサムなど世界の思想史の概略を復習すること。まだ習ったことがなければ、書籍等活用して予習すること。 ④授業後には授業での学びを整理しておく。 ⑤授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。 以上①②③④⑤について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。（第1回～15回講義の予習復習で各々30分程度）							
成績評価								
テスト(課題レポートを含む) 80%、グループ検討参加度10%、討論参加度10%	について総合的に評価する							
評価項目	割合	評価基準						
テスト(課題レポートも含む)	80%	看護倫理の主要な事項について内容を含めて適切に理解できていること。 また、課題に対して、倫理原則に基づいて分析され自分の見解を加える。その分析や、見解の深まりにより評価する。						
グループ検討参加度	10%	倫理の基準には多様であるため、メンバー間の意見交換が重要であり、グループ内での討議時の他者からの意見の受け入れや自らの発言状況を評価する						
発表内容	10%	グループの発表の内容とその討論への応答内容を評価する						
授業の実施方法と授業計画	第1回 Introduction、看護倫理と生命倫理の歴史的、社会的な背景（講義） 第2回 看護倫理と生命倫理の理論的な背景（講義） 第3回 看護倫理の意義、倫理的感受性の必要性（講義） 第4回 看護倫理の概念、倫理原則（1）（講義） 第5回 倫理原則（2）、法律との関連（講義） 第6回 倫理的ジレンマ、倫理的な感受性（講義） 第7回 インフォームドコンセント、インフォームドアセント、セカンドオピニオン（講義） 第8回 看護の倫理綱領（講義） 第9回 患者の権利の擁護の考え方と方法、アドボカシー（講義） 第10回 看護の倫理-事例をグループ討議で検討（1）（演習） 第11回 看護の倫理-事例をグループ討議で検討（2）（演習） 第12回 看護の倫理-事例の検討結果の発表・討議・コメント（1）（演習・講義） 第13回 看護の倫理-事例の検討結果の発表・討議・コメント（2）（演習・講義） 第14回 看護の倫理-事例の検討結果の発表・討議・コメント（3）（演習・講義） 第15回 看護研究の倫理、臨床における必要性、現状の課題、まとめ（講義） *試験についてのフィードバックは受講生にメールでコメントする。発表内容、課題については講義時にフィードバックとしてコメントする。							
ナンバリング	NRAM3004							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	970E0																																													
科目	970E ヘルスアセスメント論		授業種別	週間授業																																													
担当教員	山口 直己		単位数	2																																													
その他担当者	笹木 りゆこ、大島 弓子、西澤 和義、藤井 徹也、井上 直子、林 美佐																																																
授業概要	看護の対象（個人・集団）に対して、どのような看護ケアが必要適切に臨床判断（看護診断）をするためのアセスメントについて、理論・エビデンスに基づき理解する。看護の対象である個人・集団を主観的・心理社会的・物理的・心理社会的・身体的・心理社会的な全体を統合して捉え、アセスメントから看護診断への臨床判断のプロセスを理論的基礎のちと理解する。そのプロセスの振り返りから、有効な看護ケアの方向性についてを学ぶ。																																																
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7																																										
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	◎		△	△																																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護の対象となる個人/家族・集団について、ロイ適応看護モデルを基礎として生理的・心理社会的な全体として統合的な視点で捉え、ヘルスアセスメントの意義を述べることができる。</li> <li>看護の視点である4つの適応様式（生理的機能・自己概念・役割機能・相互依存）から、個人の適応状態を臨床判断するために必要なメカニズムと、アセスメント（行動・刺激）の内容を述べることができる。</li> <li>2つのプロセスの連続から、主な看護診断と看護介入の方向性について述べるができる。</li> <li>家族・集団を物理的・心理社会的な視点で捉える必要性が理解し、それらの看護の間の関係性を述べるができる。</li> <li>アセスメントをするために必要なフィジカルイグザミネーションの一環が実施できる。</li> </ol>																																																
テキスト（教科書）	<ol style="list-style-type: none"> <li>①C. Roy (松木光子監訳)：ザ・ロイ適応看護モデル第2版, 2010, 医学書房, ISBN: 978-4-260-00973-7</li> <li>②NANDA-I (日本看護診断学会監訳)：NANDA-I 看護診断2021-2023, 医学書房, ISBN: 978-4-260-04626-2</li> <li>③横山英樹：はじめてのフィジカルアセスメント第2版, 2019, メチカルフレンド社, ISBN: 978-4-8392-1648-1</li> </ol>																																																
参考書および参考文献																																																	
受講条件	必修科目																																																
事前・事後学修（内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎授業前に指定箇所までテキストを読むこと。（第2回～30回/30分程度）</li> <li>②授業後には授業での学びを整理し、疑問点を明確にする。（第1回～30回/60分）</li> <li>③授業内で学修すべき内容の課題がある場合、調べて授業に臨むこと（第1回～30回/30分）</li> </ol>																																																
成績評価																																																	
	筆記試験90% 小テスト10%																																																
	なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。																																																
評価項目	割合	評価基準																																															
筆記試験	90%	講義内容の理解度を確認する。講義内容の理解の分量が多く、理解を確実にするために中間試験、期末試験を予定している。																																															
小テスト	10%	講義内容の理解度を確認する																																															
授業の実施方法と授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>看護の対象の状態を臨床判断するために必要なヘルスアセスメントの意義と思考方法 ＜講義＞（大島、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>ロイ看護適応モデルの概観：適応様式によるアセスメントの枠組み、ロイ看護適応モデルの枠組みを活用したヘルスアセスメントの捉え方 ＜講義＞（大島、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第3-4回</td> <td>生理的機能様式：要素の供給：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（藤井、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第5-6回</td> <td>生理的機能様式：排洩（排泄・排泄）：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（山口、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>生理的機能様式：排泄に關するフィジカルイグザミネーション ＜講義＞（山口、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>生理的機能様式：酸素化に關するフィジカルイグザミネーション ＜講義＞（藤井、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>生理的機能様式：栄養：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（井上、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>生理的機能様式：防御：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（笹木、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第11-12回</td> <td>生理的機能様式：活動と休息：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（笹木、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第13-14回</td> <td>バイタルサインズの理解 ＜講義＞（山口、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>排泄に關するフィジカルイグザミネーション ＜演習＞（山口、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>酸素化に關するフィジカルイグザミネーション ＜演習＞（藤井、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第17-18回</td> <td>バイタルサインズの測定と解釈 ＜演習＞（西澤、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第19回</td> <td>生理的機能様式：体温・電解質・酸・塩基平衡：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（林、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第20回</td> <td>生理的機能様式：感覚の調節：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（西澤、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第21回</td> <td>生理的機能様式：神経：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（西澤、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第22回</td> <td>生理的機能様式：内分泌機能：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（山口、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第23-24回</td> <td>＜個人＞心理社会的 自己概念様式：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（大島、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第25-26回</td> <td>＜個人＞心理社会的 役割機能様式：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（大島、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第27-28回</td> <td>＜個人＞心理社会的 相互依存：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（大島、その他担当教員）</td> </tr> <tr> <td>第29-30回</td> <td>＜集団＞物理的様式、集団アイデンティティ様式、役割機能様式、相互依存様式：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性/ヘルスアセスメントのまとめ ＜講義＞（大島、その他担当教員）</td> </tr> </table> <p>*小テストの解答は授業時間内に行う *受講生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>							第1回	看護の対象の状態を臨床判断するために必要なヘルスアセスメントの意義と思考方法 ＜講義＞（大島、その他担当教員）	第2回	ロイ看護適応モデルの概観：適応様式によるアセスメントの枠組み、ロイ看護適応モデルの枠組みを活用したヘルスアセスメントの捉え方 ＜講義＞（大島、その他担当教員）	第3-4回	生理的機能様式：要素の供給：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（藤井、その他担当教員）	第5-6回	生理的機能様式：排洩（排泄・排泄）：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（山口、その他担当教員）	第7回	生理的機能様式：排泄に關するフィジカルイグザミネーション ＜講義＞（山口、その他担当教員）	第8回	生理的機能様式：酸素化に關するフィジカルイグザミネーション ＜講義＞（藤井、その他担当教員）	第9回	生理的機能様式：栄養：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（井上、その他担当教員）	第10回	生理的機能様式：防御：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（笹木、その他担当教員）	第11-12回	生理的機能様式：活動と休息：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（笹木、その他担当教員）	第13-14回	バイタルサインズの理解 ＜講義＞（山口、その他担当教員）	第15回	排泄に關するフィジカルイグザミネーション ＜演習＞（山口、その他担当教員）	第16回	酸素化に關するフィジカルイグザミネーション ＜演習＞（藤井、その他担当教員）	第17-18回	バイタルサインズの測定と解釈 ＜演習＞（西澤、その他担当教員）	第19回	生理的機能様式：体温・電解質・酸・塩基平衡：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（林、その他担当教員）	第20回	生理的機能様式：感覚の調節：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（西澤、その他担当教員）	第21回	生理的機能様式：神経：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（西澤、その他担当教員）	第22回	生理的機能様式：内分泌機能：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（山口、その他担当教員）	第23-24回	＜個人＞心理社会的 自己概念様式：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（大島、その他担当教員）	第25-26回	＜個人＞心理社会的 役割機能様式：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（大島、その他担当教員）	第27-28回	＜個人＞心理社会的 相互依存：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（大島、その他担当教員）	第29-30回	＜集団＞物理的様式、集団アイデンティティ様式、役割機能様式、相互依存様式：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性/ヘルスアセスメントのまとめ ＜講義＞（大島、その他担当教員）
第1回	看護の対象の状態を臨床判断するために必要なヘルスアセスメントの意義と思考方法 ＜講義＞（大島、その他担当教員）																																																
第2回	ロイ看護適応モデルの概観：適応様式によるアセスメントの枠組み、ロイ看護適応モデルの枠組みを活用したヘルスアセスメントの捉え方 ＜講義＞（大島、その他担当教員）																																																
第3-4回	生理的機能様式：要素の供給：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（藤井、その他担当教員）																																																
第5-6回	生理的機能様式：排洩（排泄・排泄）：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（山口、その他担当教員）																																																
第7回	生理的機能様式：排泄に關するフィジカルイグザミネーション ＜講義＞（山口、その他担当教員）																																																
第8回	生理的機能様式：酸素化に關するフィジカルイグザミネーション ＜講義＞（藤井、その他担当教員）																																																
第9回	生理的機能様式：栄養：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（井上、その他担当教員）																																																
第10回	生理的機能様式：防御：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（笹木、その他担当教員）																																																
第11-12回	生理的機能様式：活動と休息：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（笹木、その他担当教員）																																																
第13-14回	バイタルサインズの理解 ＜講義＞（山口、その他担当教員）																																																
第15回	排泄に關するフィジカルイグザミネーション ＜演習＞（山口、その他担当教員）																																																
第16回	酸素化に關するフィジカルイグザミネーション ＜演習＞（藤井、その他担当教員）																																																
第17-18回	バイタルサインズの測定と解釈 ＜演習＞（西澤、その他担当教員）																																																
第19回	生理的機能様式：体温・電解質・酸・塩基平衡：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（林、その他担当教員）																																																
第20回	生理的機能様式：感覚の調節：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（西澤、その他担当教員）																																																
第21回	生理的機能様式：神経：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（西澤、その他担当教員）																																																
第22回	生理的機能様式：内分泌機能：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（山口、その他担当教員）																																																
第23-24回	＜個人＞心理社会的 自己概念様式：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（大島、その他担当教員）																																																
第25-26回	＜個人＞心理社会的 役割機能様式：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（大島、その他担当教員）																																																
第27-28回	＜個人＞心理社会的 相互依存：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性 ＜講義＞（大島、その他担当教員）																																																
第29-30回	＜集団＞物理的様式、集団アイデンティティ様式、役割機能様式、相互依存様式：アセスメント（行動・刺激）、看護診断、看護介入の方向性/ヘルスアセスメントのまとめ ＜講義＞（大島、その他担当教員）																																																
ナンバリング	NRFM1005																																																

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	980D0			
科目	980D 基礎看護学方法論I		授業種別	週間授業			
担当教員	井上 直子		単位数	2			
その他担当者	三輪木 君子、笹木 りゆこ、山口 直己、西澤 和義、藤井 徹也、林 美佐						
授業概要	看護の目的を達成するために提供される方法論として看護技術は存在する。基本的な生活上の看護援助および人間関係を形成するためのコミュニケーションについて学ぶと共に、看護技術の根拠となる知識を基に、技術に共通して必要となる要素（安全・安楽・正確）に基づいた看護技術を講義・演習をとおして学修する。 *この科目は該当授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	◎	△	
到達目標	1. 看護場面に共通して必要となる看護技術を実施するために必要な基本的な知識とその根拠を述べることができる。 2. 安全・安楽・正確・効率（経済性）・美しさ（審美性）を考慮した看護技術を実施できる。 3. 看護技術を受ける対象者の状態を把握し、対象者を尊重した態度で実施できる。						
テキスト（教科書）	1. 滋野香おる（他）、系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 19版，医学書院，2023. ISBN:978-4-260-04992-4 2. 任和子（他）、系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 18版，医学書院，2021. ISBN:978-4-260-04212-3 3. 篠崎恵美子・藤井徹也，看護コミュニケーション-基礎から学ぶスキルとトレーニング-第2版，医学書院，2022. ISBN978-4-260-04793-7						
参考書および参考文献	必要時に適宜紹介する。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修（内容・時間）	①授業前には教科書の指定箇所を熟読する。 ②授業後には授業での学びを整理しておく。 ③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。 以上①②③について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、毎回30分程度の自己学修（既習の技術の自己練習含む）を行うこと。						
成績評価							
筆記試験、技術試験、参加状況、課題を総合的に評価する なお、欠席、遅刻、早退や受講態度は減点対象とする *単位取得には、筆記試験、技術試験共に合格する必要がある							
評価項目	割合	評価基準					
筆記試験	55%	講義内容の理解度を確認する					
技術試験	35%	技術の修得状況を確認する					
参加状況・課題	10%	講義・演習を受講するための準備状況を確認試験、課題提出で確認する					
授業の実施方法と授業計画	第1回（講義）看護技術論概論、実習室オリエンテーション、環境調整①（井上、林、その他担当教員） 第2回・第3回（講義）感染予防の技術（西澤、その他担当教員） 第4回（演習）感染予防の技術（西澤、その他担当教員） 第5回・第6回（講義）ボディメカニクスとポジショニング・移乗・移送（西澤、その他担当教員） 第7回・第8回（演習）体位の保持、体位変換、移乗・移送（西澤、その他担当教員） 第9回・第10回（講義）環境調整②、ベッドメイキング、シーツ交換、寝衣交換（井上、その他担当教員） 第11回（演習）ベッドメイキング（井上、その他担当教員） 第12回・第13回（演習）臥床患者のシーツ交換・寝衣交換（井上、その他担当教員） 第14回（講義）身体の清潔①（清拭）（笹木、その他担当教員） 第15回（講義）身体の清潔②（洗髪）（笹木、その他担当教員） 第16回（講義）身体の清潔③陰部洗浄、排泄介助・おむつ交換（藤井、その他担当教員） 第17回・第18回（演習）清拭（笹木、その他担当教員） 第19回・第20回（演習）洗髪（笹木、その他担当教員） 第21回（演習）おむつ交換・陰部洗浄（藤井、その他担当教員） 第22回・第23回（講義）食事介助・口腔ケア（林、その他担当教員） 第24回（演習）口腔ケア（林、その他担当教員） 第25回（講義）身体の清潔④（足浴）（山口、その他担当教員） 第26回（演習）足浴（山口、その他担当教員） 第27回・第28回（講義）コミュニケーション①② 第29回・第30回（講義）コミュニケーション③④						
ナンバリング	NRFM1006						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	980E0			
科目	980E 基礎看護学方法論Ⅱ		授業種別	週間授業			
担当教員	山口 直己		単位数	2			
その他担当者	三輪木 君子、笹木 りゆこ、西澤 和義、藤井 徹也、井上 直子、林 美佐						
授業概要	医学治療・検査に伴う看護技術を根拠に基づいて対象者に提供するための必要性を理解し、正確かつ安全、安楽に看護技術を実施するための知識・技術・態度を講義および学内演習を通して修得する。 この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	◎	△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学治療・検査に伴って必要となる看護技術を実施するために必要な基礎的な知識を述べることができる。</li> <li>2. 医学治療・検査に伴う基本的な看護技術を演習をとおして、正確かつ安全、安楽に配慮し実施できる。</li> <li>3. 対象者の心身の状態を把握し、人として尊重した態度で実施できる。</li> </ol>						
テキスト(教科書)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 任 和子(他)：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③、医学書院、第18版、ISBN978-4-260-02760-1 *1年次に購入済み</li> <li>2. 茂野善おる(他)：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②、医学書院、ISBN：978-4-260-04211-6 *1年次に購入済み</li> </ol>						
参考書および参考文献	授業の内容の理解を深め演習を効果的に行うために、動画を紹介します。あらかじめ視聴し演習に臨むこと。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業前には教科書の指定箇所を読んでおくこと(第2回～30回の講義/60分程度)</li> <li>2. 講義で学修した知識を復習する(第2回～30回の講義/60分程度)</li> <li>3. 演習では、事前に配布される手順書の読み込み、クラスルームにアップされた演習動画を視聴する(第2回～30回の演習/60分程度)</li> <li>4. 看護技術は繰り返し練習を積み重ねることによって習得されるため、演習で学修した内容を繰り返し練習する(全体で16時間)</li> </ol>						
成績評価	原則として毎回出席すること。 授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。 なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とします。						
評価項目	割合	評価基準					
筆記試験	55%	講義内容の理解度を確認する					
技術試験	30%	実技の修得状況を確認する					
演習時の課題・身だしなみ等	5%	演習に臨むための準備状況・身だしなみ等を確認する					
小テスト	10%	講義に臨むための準備状況を確認する					
授業の実施方法及び授業計画	第1・2回 感染予防の技術(カウンテック、滅菌手袋の着脱、無菌操作)《講義》(西澤、その他教員) 第3・4回 カウンテック、滅菌手袋の着脱、無菌操作《学内演習》(西澤、その他教員) 第5回 排泄の技術①(導尿)《講義》(笹木、その他教員) 第6回 排泄の技術②(洗腸)《講義》(西澤、その他教員) 第7回 グリセリン洗腸《学内演習》(西澤、その他教員) 第8回 一時的導尿《学内演習》(笹木、その他教員) 第9回 酸素投与・酸素ボンベの取り扱い方《講義》(井上、その他教員) 第10回 吸引(口腔内・鼻腔内・気管内)《講義》(井上、その他教員) 第11・12回 口腔・鼻腔内吸引、酸素投与の方法《学内演習》(井上、その他教員) 第13・14回 検査の技術(検体検査、生体検査)《講義》(山口、その他教員) 第15・16回 静脈血採血《学内演習》(山口、その他教員) 第17・18・19回 与薬の技術(経口的与薬、口腔内与薬、吸入、点鼻、点耳、点眼、貼付、直腸内与薬、皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射)《講義》(山口、その他教員) 第20・21回 皮下注射・筋肉内注射《学内演習》(西澤、その他教員) 第22・23回 点滴静脈内注射《学内演習》(西澤、その他教員) 第24・25回 経管栄養法《講義》(林、その他教員) 第26・27回 経管栄養法《学内演習》(林、その他教員) 第28回 死後の処置《講義》(山口、その他教員) 第29・30回 事例に基づく看護援助実施計画の作成《グループワーク》(山口、その他教員) * 演習内容によっては前半・後半グループに分けて実施する * 受講生の習熟度により授業計画を変更することもある * 小テストの解答は時間内に行う。						
ナンバリング	NRDM2004						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	980F0				
科目	980F 基礎看護学方法論Ⅲ		授業種別	週間授業				
担当教員	笹木 りゆこ		単位数	1				
その他担当者	大島 弓子、山口 直己、西澤 和義、藤井 徹也、井上 直子、林 美佐							
授業概要	看護の視点から対象者が生理的・心理社会的に全体として適応して生活しているか臨床判断し、必要な看護ケアを立案、実施し、成果を得る看護のプロセスについて看護理論を基盤として理解する。模擬事例を通し、対象者にとって有効な看護プロセスを学生自身が体験的主体的に展開する。 この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	◎	○		△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の意義、展開方法を概括的に理解できる。</li> <li>2. 看護過程の展開について、ロイ適応看護モデルを基盤に理論的に根拠立ててアセスメントすることを理解できる。</li> <li>3. 行動（診断指標）、刺激（影響因子＜関連因子/危険因子＞）を理解し、アセスメントすることが理解できる。</li> <li>4. アセスメントの結論として看護診断し、看護目標と解決に向けた看護介入の計画立案をすることが理解できる。</li> <li>5. 模擬事例を用いて2～4の一連の看護プロセスの展開に取り組むことができる。</li> </ol>							
テキスト（教科書）	① C.Roy（松木光子監訳）：ザ・ロイ適応看護モデル第2版, 2011, 医学書院 ISBN:978-4-260-00973-7 ② 上鶴重美（訳）：NANDA-I 看護診断 定義と分類 原書第12版 2021～2023, 医学書院, ISBN:978-4-260-04628-2 *①、②は1年次に購入済み							
参考書および参考文献	なし							
受講条件	必須科目							
事前・事後学修（内容・時間）	① 毎授業前には、テキストの指定箇所を熟読する。（第1回～5回/30分程度） ② 授業後には、授業での学びを整理しておく。（第1回～15回/30分程度） ③ 授業後には、看護過程記録の学修すべき内容について、フィードバック等の指導を受けて取り組む。（第6回～15回/60分程度）							
成績評価	看護過程記録内容、学修の取り組みで総合的に判断する。 看護過程記録内容85%：講義の中で学んだ学修内容の理解度を確認する。 学修の取り組み姿勢15%：演習課題の取り組みや演習の参加姿勢で確認する。 各時間で体験的に学修する進捗となつているため、原則として毎回出席する必要がある。学生の成果物により、授業の到達目標の達成状況の評価する。なお、欠席、遅刻、早退や提出物への取り組み等が劣悪な受講姿勢は減点の対象とする。							
評価項目		割合	評価基準					
看護過程記録内容		85%	講義の中で学んだ学修内容の理解度を確認し、評価する。					
学修の取り組み姿勢		15%	演習課題の取り組みや演習の参加姿勢で確認し、評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 基礎看護学方法論Ⅲの位置づけと看護過程の意義 〈講義〉（大島、その他担当教員） 第2回 看護過程を展開するための方法論（1）〈講義〉（大島、その他担当教員） ロイ適応看護モデルを理論的基盤とした看護過程の展開（1） 第3回 ロイ適応看護モデルを理論的基盤とした看護過程の展開（2） 〈講義〉（大島、その他担当教員） 第4回 看護診断、看護介入・成果の分類の体系 〈講義〉（大島、その他担当教員） （NANDA-I、ロイ、ゴードンなど） 第5回 看護過程を展開するための方法論（2） 〈講義〉（大島、その他担当教員） 臨床判断としてのアセスメントの重要性とその方法 アセスメントの枠組み、情報収集、分析・統合・判断 看護診断、看護診断表現方法、介入、成果・評価 第6回～10回 模擬事例の展開 〈演習〉（笹木、その他担当教員） 模擬事例内容の理解とアセスメントの枠組みに沿って展開 生理的機能模式 情報収集、分析解釈、看護診断、看護介入、計画について 第11回～14回 模擬事例の展開 心理社会的統合 〈演習〉（笹木、その他担当教員） 自己概念、役割機能、相互依存 情報収集、分析解釈、看護診断、看護介入、計画について 第15回 まとめ、看護計画実施、評価について〈演習・講義〉（笹木、その他担当教員） *提出された看護過程記録のフィードバックは、授業時間内に行う。 *第6回以降の内容については授業計画を変更する場合があります。							
ナンバリング	NRAM2004							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	98610				
科目	9861 基礎看護学実習 I		授業種別	実習				
担当教員	井上 直子		単位数	1				
その他担当者	笹木 りゆこ、山口 直己、西澤 和義、藤井 徹也、林 美佐							
授業概要	<p>基礎看護学で学んだ学修内容を活用しながら、看護の対象者との関わりや生活援助の体験をとおして、対象者の生活の実際を知り、対象者の視点から看護の役割について考える。また、実習を通して看護への関心を深め、主体的な学修への動機づけとする。</p> <p>この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	△	◎	△	△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.患者が24時間過ごす療養環境とその過ごし方を知ることができる</li> <li>2.患者が療養することで困っていること、辛いと感じていることに気づくことができる</li> <li>3.患者の療養生活の実際から看護ケアの必要性を考えることができる</li> <li>4.既修の知識・技術（生活の援助技術、コミュニケーション技術）を用いながら看護ケアの一部を看護師とともに実施することができる</li> <li>5.患者の療養生活を支える看護師と他職種との役割と連携について知ることができる</li> <li>6.看護学を学ぶものとして誠実な態度で行動することができる</li> <li>7.看護への関心を深め、自らの今後の学修を考えることができる</li> </ol>							
テキスト（教科書）	特になし							
参考書および参考文献	篠崎恵美子・藤井徹也：看護コミュニケーション-基礎から学ぶスキルとトレーニング-第2版，医学書院，2022. ISBN 978-4-260-04793-7							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	<p>*実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。</p> <p>実習前</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎看護学で学修した知識を復習する</li> <li>・基礎看護学方法論Iで学修した実技内容を十分に練習する</li> <li>・入院して療養生活において患者が感じること、考えることについて、レポートにまとめる</li> </ul> <p>実習中</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・翌日の実習の目標、計画を立案する</li> <li>・実習後にその日の実習を振り返り、学びと課題を記述する</li> </ul> <p>実習後</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習をおえての学びと課題について、レポートにまとめる</li> </ul>							
成績評価	<p>全出席を原則とする。</p> <p>授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。</p> <p>なお、欠席・遅刻・早退は減点の対象となる。</p>							
評価項目	割合	評価基準						
実習内容・記録	65%	目標の到達状況を確認する						
課題・実習に取り組む姿勢	35%	実習中の行動・言動・カンファレンスでの発言内容、実習に臨むにあたっての事前学修・事後学修状況を確認する						
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間：5日間</li> <li>2. 実習内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>実習1日目「学内」看護学実習へのレディネス形成（実習オリエンテーション、知識・技術の事前確認と演習）</li> <li>実習2日目「臨地」病院実習（a.医療の場の1つである病院の機能とそこでの看護の役割・実際を知る。b.病院内における多職種の機能・役割、看護師との連携を知る）</li> <li>実習3～4日目「臨地」病院実習（実習指導者の支援のもとに対象者への看護ケアに参画し、療養生活の実際と対象者の多様なニーズを知る）</li> <li>実習5日目「学内」実習のまとめ（a.病院における臨地実習で得た経験と課題の検討、グループワークと発表会）</li> </ul> </li> </ol> <p>*毎日フィードバックをするとともに、最終日においては実習全体を通じたフィードバックを行う。</p>							
ナンバリング	NRGM1003							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード		98620			
科目	9862 基礎看護学実習Ⅱ		授業種別		実習			
担当教員	笹木 りゆこ		単位数		2			
その他担当者	山口 直己、西澤 和義、藤井 徹也、井上 直子、林 美佐							
授業概要	一人の患者を受け持ち、対象者との関わりを通して対象理解を深め、看護過程を展開する。看護の視点から対象者の生理的・心理社会的全体として適応しているかどうか、アセスメントし看護診断をする。この臨床判断のプロセスを通し、必要な看護ケアを立案し、それに基づいた看護技術による生活援助を実践し、その評価とフィードバックを行う。また、対象者にあった生活援助の実施に必要な知識・技術・態度を学修する。さらにこの一連の体験を通して、看護における患者―看護師の人間関係の重要性を理解する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	◎	◎	○	△	
到達目標	1. 対象者の健康状態の維持、増進および問題解決に向けて、看護過程を展開できる。 2. 対象者の健康状態の臨床判断に基づき、生活援助に関する看護技術を指導を受けながら実施できる。 3. 対象者と人間関係を築くことができる。 4. 看護を学ぶものとしての倫理的な態度について考え、行動できる。							
テキスト(教科書)	①C.Roy (松本光子監訳) : ザ・ロイ適応看護モデル第2版, 2011, 医学書院 ISBN:978-4-260-00973-7 ②上鶴重美 (訳) : NANDA-I 看護診断 定義と分類 原書第12版 2021-2023, 医学書院, ISBN: 978-4-260-04628-2 *①、②は1年次に購入済み							
参考書および参考文献	なし							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	実習前学修(6時間程度) ①既修の講義、演習、実習での学修内容を整理する。 ②教員から指示された内容について学修する。 ③生活援助に関する看護技術について、繰り返しトレーニングする。 実習中の学修(2時間/日×10日間程度) ①日々の行動計画の立案と振り返りを行う。 ②受け持ち患者に実施する看護技術の目的、目標、計画の立案と評価を行う。 ③受け持ち患者の看護過程の展開を行う。 実習後学修(2時間程度) 基礎看護学実習Ⅱの経験や学びから、よりよい看護実践のあり方および今後の自己課題についてレポートにまとめる。							
成績評価	実習内容、実習記録、レポート、カンファレンスでの発言、実習への取り組み姿勢により、ルーブリック評価表に基づいて総合的に評価する。なお、欠席、遅刻、早退や劣悪な実習態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目	割合	評価基準						
実習記録、実習内容、カンファレンス発言内容、レポート	75%	ルーブリック評価表の評価基準で評価する						
実習への取り組み姿勢	25%	ルーブリック評価表の評価基準で評価する						
授業の実施方法と授業計画	1. 実習期間 2週間 2. 内容 1) 学内オリエンテーション(実習目的、目標、概要など) 2) 臨地実習 ・病棟オリエンテーション 病棟の構造・物品場所、診療録の見方、閲覧方法、閲覧ルールなどについて説明を受ける。 ・行動計画の立案と実施 日々、実習目標(行動目標)を立案し、目標が達成できるよう行動計画を立案し実施する。 また、1日の学びと実習目標に対する振り返りをする。 ・看護過程の展開 受け持ち患者(対象者)の理解を深め、看護過程を展開し、生活援助を実施する。 実施後は、その成果について評価・修正を行いながら看護過程を展開する。 3) カンファレンス 原則として毎日行う。テーマの決定、運営方法については、担当教員の指導を受けながら各グループメンバーで話し合い、学生が中心になって運営する。 *行動計画、看護過程、看護技術の記録や実施内容については日々、教員もしくは実習指導者がフィードバックを行う。							
ナンバリング	NRFM2006							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	984A0			
科目	984A 在宅看護学原論I		授業種別	週間授業			
担当教員	蒔田 寛子		単位数	2			
その他担当者							
授業概要	<p>社会の変化をふまえた在宅看護の歴史の変遷、在宅で医療や看護を必要とする療養者と家族の特徴、看護の役割、関連する保健医療・福祉・介護制度の概要とICTの活用も含めた多職種連携について学修する。また、諸外国の在宅ケア、在宅看護のあり方等について学び、わが国が目指すソーシャルキャピタルが効果的に発揮される地域包括ケアシステムと、それをふまえた在宅看護のあり方を発展的に考えることができる基礎的能力を養う。</p> <p>*この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△		◎	◎	△		○
到達目標	<p>在宅看護の考え方、その歴史と諸外国の状況、在宅看護実施に関連した法制度、地域包括ケアシステムと多職種連携、家族を含めた在宅看護の対象について学び、説明することができる。具体的には、以下の内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の変遷とその社会的背景について説明できる。</li> <li>2. 在宅看護の対象と在宅看護の特徴を理解し、看護を実践するための基礎的能力を身につける必要性について説明できる。</li> <li>3. 在宅看護における倫理的な問題について意識を高く持ち、倫理的問題への意見を述べるができる。</li> <li>4. 多職種連携を基盤に支援する必要性と連携における看護の役割について説明できる。</li> <li>5. 社会の変化と在宅看護に関連する法制度をふまえ、地域包括ケアシステムについて説明できる。</li> <li>6. 諸外国の在宅ケアの実態も参考に、在宅看護を発展的に考え、さらには研究につなげることができるような基礎的能力を身につけることができる。</li> </ol>						
テキスト(教科書)	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 第7版 齋有桂、石田千絵、山下瑠理子編 メディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-7543-3) ¥3,740						
参考書および参考文献	その都度紹介する。						
受講条件	必修科目(専門科目)						
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する(1～11回、14～15回/30分程度)。</li> <li>2. 講義で学んだ内容は、テキストを見直し整理しておく(30分程度)。</li> <li>3. 在宅看護に関する法制度について整理しておく(5～6回/60分程度)。</li> <li>4. プレゼンテーションは、指定された項目について、テキスト、参考文献等を活用し、グループで協力し準備すること(180分程度)。</li> <li>5. 定期試験には授業内容の復習を十分に行い臨む。</li> </ol> <p>以上について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。</p>						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。						
評価項目		割合	評価基準				
課題の発表		10%	わかりやすいスライド作成と発表、質問への対応ができるかで評価する。				
定期試験		90%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス(講義) 在宅看護の考え方 地域と生活 在宅看護の背景</p> <p>第2回 在宅看護の基盤(講義) 在宅看護を展開するための基本理念</p> <p>第3回 在宅看護の対象(療養者)(講義) 在宅療養者の多様性</p> <p>第4回 在宅看護の対象(家族)(講義) 在宅療養の場における家族の捉え方 家族とは 介護者としての家族 看護の対象としての家族</p> <p>第5回 現在の在宅ケアにかかわる制度(1)(講義) 政策と制度と法律 介護保険制度 医療保険制度 後期高齢者医療制度</p> <p>第6回 現在の在宅ケアにかかわる制度(2)(講義) 生活保護制度、障害者に関する法律、難病医療法等</p> <p>第7回 いのちと生活を看護する訪問看護(講義・演習)</p> <p>第8回 在宅療養を支える訪問看護(講義)</p> <p>第9回 在宅看護における倫理(講義・演習)</p> <p>第10回 地域包括ケアシステムと多職種連携・施設連携(講義)</p> <p>第11回 在宅ケアに関わる法制度について(講義・演習) プレゼンテーション準備</p> <p>第12回 在宅ケアに関わる法制度について(1)(演習:プレゼンテーション) 介護保険制度のサービス等</p> <p>第13回 地域ケアに関わる法制度について(2)(演習:プレゼンテーション) 介護保険制度のサービス、成年後見制度等</p> <p>第14回 在宅看護における安全と健康危機管理(講義)</p> <p>第15回 地域・在宅看護の動向と今後の発展(講義)</p> <p>*ただし受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *レポート等提出物は適宜コメントし返却する。</p>						
ナンバリング	NRBM1002						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	984B0			
科目	984B 在宅看護学原論Ⅱ		授業種別	週間授業			
担当教員	蒔田 寛子		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	地域の多様な場で人々の暮らしを支える看護の役割を学修する。さらに対象者の生活する場に応じた多職種連携および、関連する保健医療・福祉・介護制度の概要について学び、地域包括ケアの必要性について理解する。*この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	○	○	△	◎
到達目標	在宅看護に関連した法制度を踏まえ、地域の多様な場で人々の暮らしを支える看護について説明することができる。具体的には、以下の内容である。 1. 社会の変化に伴う地域の多様な場での看護の役割の広がりについて説明できる。 2. 地域の人々の生活を支える看護における倫理的な問題について意識を高くもつことができる。 3. 地域の多様な場での地域包括ケアシステムについて説明できる。 4. 人々の生活を支えるための有機的な多職種連携と、連携における看護の役割について説明できる。 5. 今後の社会の変化を踏まえ、在宅看護を発展的に考える基礎的能力を身につけることができる。						
テキスト(教科書)	ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア 第7版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 メディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-7543-3) ¥3,740						
参考書および参考文献	その都度紹介する。						
受講条件	必修科目(専門科目)						
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する(1~7回/30分程度)。 2. 講義で学んだ内容は、テキストを見直し整理しておく(30分程度)。 3. プレゼンテーションは、指定された項目について、テキスト、参考文献等を活用し、グループで協力し準備すること(7~8回/180分程度)。 4. 定期試験には授業内容の復習を十分に行い臨む。 以上について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。						
評価項目		割合	評価基準				
課題レポート		20%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する。				
定期試験		80%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	第1回 授業ガイダンス 地域の多様な場での看護の広がり (講義) 第2回 地域密着型サービスでの看護と多職種連携 (講義) 第3回 高齢者施設での看護と多職種連携 (講義) 第4回 児童、障害者の施設での看護と多職種連携 (講義) 第5回 地域包括支援センターにおける看護と多職種連携 (講義) 第6回 病院・産業保健における在宅看護と多職種連携 (講義) 第7回 多様な場における多職種連携と看護の役割 (講義・演習) 第8回 多様な場における多職種連携と看護の役割 (演習:プレゼンテーション)  ※ただし受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 ※レポート等提出物は適宜コメントし返却する。						
ナンバリング	NRBM2007						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	984E0			
科目	984E 在宅看護学方法論			授業種別	週間授業			
担当教員	蒔田 寛子			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	在宅看護の対象者は、小児から高齢者までと年齢の幅は広く、寝たきりの高齢者、がんの終末期患者、神経系難病患者、在宅療養している子ども、精神疾患をもつ療養者等、対象の疾病や状態もさまざまである。本科目では、地域包括ケアシステムを踏まえ、在宅療養者の特徴と看護の方法について学修する。*この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎	○	○		○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の対象者の特徴と、特徴をふまえた援助の実際について説明できる。</li> <li>2. 在宅看護における倫理的な問題、多職種連携の必要性について説明できる。</li> <li>3. 在宅看護の対象者により利用できる社会保障制度について説明できる。</li> <li>4. 地域包括支援システムにおける看護の役割について説明できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 第7版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 × ディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-7543-3) ¥3,740 ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術 第2版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 × ディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-7544-0) ¥3,080							
参考書および参考文献	その都度紹介する。							
受講条件	必修科目(専門科目)							
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する(毎回/30分程度)。</li> <li>2. 講義で学んだ内容は配布資料、テキストを見直し整理しておく(毎回/60分程度)。</li> <li>3. 定期試験には授業内容の復習を十分に行い臨む。</li> </ol> 以上について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。								
評価項目		割合	評価基準					
課題レポート		10%	課題に対し適切で、論理的にわかりやすい内容であるかで評価する。					
定期試験		90%	筆記試験にて理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 寝たきりの高齢者の在宅看護(講義)</li> <li>第2回 認知症高齢者の在宅看護(講義)</li> <li>第3回 がんの終末期患者の在宅看護(講義)</li> <li>第4回 神経系難病患者の在宅看護(講義)</li> <li>第5回 高齢独居療養者の在宅看護(講義)</li> <li>第6回 在宅療養している子どもの看護(講義)</li> <li>第7回 精神疾患をもつ療養者の在宅看護(講義)</li> <li>第8回 介護の課題が大きい療養者の在宅看護(講義・演習)</li> </ol> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 *講義内容の順序は変更することもあります。</p>							
ナンバリング	NRGM2007							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期			授業コード	984C0		
科目	984C 在宅看護学演習 I			授業種別	週間授業		
担当教員	蒔田 寛子			単位数	1		
その他担当者	渡邊 富士子						
授業概要	在宅看護ではさまざまな対象者に、生活の場の特徴を踏まえて臨床判断できる能力が必要である。本科目では、講義と演習を通して、療養者および家族の健康状態と生活状況から支援ニーズを把握し、適切な看護を提供するための看護過程について学修する。*この科目は当該授業内容に関する在宅看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎		◎	◎	○		△
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者の看護過程の展開を実施するための基礎的能力を身につけることができる。</li> <li>2. 訪問看護における援助の特徴について説明できる。</li> <li>3. 対象の意向に沿ったケアプラン作成の必要性について説明できる。</li> <li>4. 訪問看護に必要な社会保障制度について説明できる。</li> <li>5. 地域包括ケアシステムにおける看護の役割について説明できる。</li> </ol>						
テキスト(教科書)	<p>ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 第7版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 メディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-7543-3) ¥3,740</p> <p>ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術 第2版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 メディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-7544-0) ¥3,080</p>						
参考書および参考文献	その都度紹介する。						
受講条件	必修科目(専門科目)						
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①講義内容に該当するテキストの内容を熟読しておく(毎回/30分程度)</li> <li>②グループワークの課題(ロールプレイ、地域包括ケアシステム)については、発表までにグループで十分な検討を行い、わかりやすい資料の作成をした上で発表に臨む(第4、5回、第11~15回/120分程度)</li> <li>③看護過程の個人課題を完成させて、グループワークに臨むこと(第6~10回/120分程度)</li> <li>④演習で学んだ内容は確実な知識となるよう復習しておく(毎回/30分程度)</li> </ol> <p>以上①~④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。</p>						
成績評価	看護過程演習課題、ロールプレイ発表、筆記試験で評価する。原則として毎回出席すること。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。						
評価項目	割合	評価基準					
看護過程演習課題	40%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する。					
グループ発表	20%	発表内容および発表後のレポートについて評価する。					
定期試験	30%	講義で学んだ内容の理解度を筆記試験で確認する。					
ケアプラン作成課題	10%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>講義は全員で受講し、演習はグループに分かれて実施する。</p> <p>第01回 授業ガイダンス 在宅看護過程の基本的な考え方(講義)  第02回 在宅看護過程におけるアセスメントの枠組み(講義)  第03回 在宅看護過程展開に必要な基本的知識(講義・個人ワーク)  在宅看護過程の展開① 事例紹介  第04回 在宅療養者のケアプラン作成①(講義・個人ワーク)  第05回 在宅療養者のケアプラン作成②(講義・グループワーク)  第06回 在宅看護過程の展開②(講義・グループワーク)  アセスメントの展開  第07回 在宅看護過程の展開③(講義・グループワーク)  アセスメントの展開  第08回 在宅看護過程の展開④(講義・グループワーク)  関連図  第09回 在宅看護過程の展開⑤(講義・グループワーク)  看護課題の明確化・優先順位の決定  第10回 在宅看護過程の展開⑥(講義・グループワーク)  看護計画 まとめ  第11回 訪問看護ロールプレイ演習①シナリオ作成(グループワーク)  第12回 訪問看護ロールプレイ演習②技術練習(演習)  第13回 訪問看護ロールプレイ演習③発表(演習:グループ発表)  第14回 地域包括支援システムと訪問看護師の役割(講義・グループワーク)  第15回 地域包括支援システムと訪問看護師の役割(グループ発表・まとめ)</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。  *提出された看護過程演習課題については、コメントをした上で返却します。</p>						
ナンバリング	NRAM3008						

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	986C0				
科目	986C 在宅看護学実習		授業種別	実習				
担当教員	蒔田 寛子		単位数	2				
その他担当者	小俣 由佳、鈴木 知代、渡邊 富士子							
授業概要	在宅看護では、様々な対象に応じて、根拠をふまえた援助の実践能力が必要である。本科目では、在宅で療養生活している対象者の理解を深め、個々の対象の健康障害、生活状況を把握し、保健、医療、福祉の制度や介護保険制度をふまえて看護計画を立案実施評価ができる基礎的能力を養う。さらに療養生活を継続するために必要な包括的支援と支援の中での看護専門職の役割について学び、在宅看護を発展的に考えることができる能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.訪問看護を利用しながら在宅で生活している対象者とその家族の健康状態、生活状況、および在宅における看護の特徴を説明できる。</li> <li>2.通所介護や多機能サービスを利用しながら生活している対象者の特徴を理解し、対象者におけるサービス利用の意義を説明できる。</li> <li>3.在宅ケアにおける多職種連携の必要性と、看護専門職の役割を説明できる。</li> <li>4.実習で体験した事象を科学的に探求し、看護を創造・革新していくための基礎的能力を身につける。</li> <li>5.看護学生としての自覚を持ち、責任ある行動がとれる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 第6版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 × ディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-6520-5) ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術 第1版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 × ディカ出版 (ISBN: 978-4-8404-6134-4)							
参考書および参考文献	その都度紹介する							
受講条件	必修科目 在宅看護学実習で看護過程を展開し教員のコメントを得て追加修正していること							
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 指示された事前学習課題を行い、実習に臨むこと。							
成績評価								
ルーブリック評価表に基づき、総合的に評価する。								
評価項目	割合	評価基準						
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	ルーブリック評価表に基づき評価する。						
授業の実施方法及び授業計画	<b>【実習内容】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.事前オリエンテーション 学内での事前オリエンテーションに参加する。</li> <li>2.訪問看護ステーションでの実習(1週間) 実習指導者およびスタッフの訪問に同行し実習する。</li> <li>3.通所介護施設・多機能サービスでの実習(1週間) 実習指導者の指導の下、利用者とのコミュニケーション、ケアを行う。</li> </ol> <b>【実習スケジュール】</b> 実習は2グループに分かれて実施する。 <b>Aグループ</b> 1週目(月～木)：訪問看護ステーション 2週目(月～木)：通所介護施設または多機能サービス 金：学内実習(カンファレンスおよび記録の整理) <b>Bグループ</b> 1週目(月～木)：通所介護施設または多機能サービス 2週目(月～木)：訪問看護ステーション 金：学内実習(カンファレンスおよび記録の整理) ※実習記録については、実習指導者および教員が内容を確認し、コメントを入れて返却する。							
ナンバリング	NREM3011							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	988A0			
科目	988A 成熟期看護学原論		授業種別	週間授業			
担当教員	豊島 由樹子		単位数	2			
その他担当者	原沢 優子、東野 督子						
授業概要	成人期への移行期である思春期から人生の完成期である老年期までを成熟期と捉え、この段階にある人々の加齢による変化および発達課題や健康上のニーズ、健康問題について理解する。また、健康状態に応じた看護実践の基本となる理論や考え方、地域包括ケアシステムを含めた保健医療福祉政策の動向や医療システムについて学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	△	△	◎	○	△	△	△
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成熟期にある人々の成長・発達過程を理解し、成人各期の特徴と発達課題を説明できる。</li> <li>2. 成熟期に生じやすい生活の変化に伴う健康問題を、成人保健の動向と関連づけて説明できる。</li> <li>3. 成熟期の健康上のニーズや健康問題に対する人々の心身の反応を理解し、看護の特徴を説明できる。</li> <li>4. 健康問題をもつ人々のその人らしい生活・セルフケアを支援するための看護の役割を説明できる。</li> <li>5. 認知症を含めた高齢者を支える保健医療福祉制度を理解し、看護の特徴を説明できる。</li> <li>6. 成熟期にある人々の権利擁護と倫理的課題および看護の役割が説明できる。</li> </ol>						
テキスト(教科書)	「成人看護学 成人看護学概論 改訂第4版」, 林直子 他編, 南江堂, 2022年, ISBN: 978-4524230730 「新看護学13 老年看護学 第7版」, 六角僚子 他, 医学書院, 2022年, ISBN:978-4260047128						
参考書および参考文献	授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を各回の講義で配布する。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修として、教科書の指定された部分を読み、理解が難しい箇所や疑問点に付箋を貼るなど予習した上で毎授業に臨むこと(第1~15回/30分程度)。 事後学修として、授業で得た気づきと学びをまとめる(第1~15回/60分程度)。また、Google Classroomの復習問題に取り組むなど、授業内容の復習を行うこと(第1~10回/60分程度)。 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成状況を、定期試験と授業内提出物から評価する。なお、遅刻、早退、劣悪な授業態度、提出物の不備については減点となる場合がある。						
評価項目	割合	評価基準					
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する。					
授業内提出物	10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回: 授業ガイダンス、成熟期看護の対象の理解 <講義> (豊島) 第2回: 成熟期の健康問題の動向 <講義> (豊島) 第3回: 生活習慣に関連する健康障害 <講義> (豊島) 第4回: 成熟期の対象における保健・医療・福祉政策 <講義> (豊島) 第5回: ささまざまな健康状態に応じた看護の特徴 ①急性期看護 <講義> (東野) 第6回: ささまざまな健康状態に応じた看護の特徴 ②リハビリテーション看護 <講義> (豊島) 第7回: ささまざまな健康レベルにある人と看護の特徴 ③慢性看護 <講義> (豊島) 第8回: 成熟期にある人を看護するための基本的な考え方 ①セルフケア・自己効力 <講義> (豊島) 第9回: 成熟期にある人を看護するための基本的な考え方 ②ストレス・コーピング <講義> (東野) 第10回: 成熟期にある人を看護するための基本的な考え方 ③危機 <講義> (東野) 第11回: 成熟期にある人を看護するための基本的な考え方 ④サクセスフルエイジング・ストレングス・コンフォート <講義> (原沢) 第12回: ささまざまな健康レベルにある人と看護の特徴 ④高齢者看護 <講義> (原沢) 第13回: 高齢者の権利擁護・倫理的課題と高齢者看護の理念・役割 <講義> (原沢) 第14回: 高齢者の生活を支える保健医療福祉制度と療養の場における看護 <講義> (原沢) 第15回: 認知症施策と認知症高齢者への看護の目標 <講義> (原沢) 提出物に関しては、その後の学修に役立てられるようコメントを行う。また、全体で共有すべき質問・意見等は授業内でフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	NRBM2008						

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	988B0				
科目	988B 成熟期看護学方法論I		授業種別	週間授業				
担当教員	小山 順子		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	急性期やクリティカルケアを必要とする重篤な状態、周術期にある人とその家族の特徴を理解し、看護援助に必要な臨床判断と、生命維持、心身の回復過程を理解し、対象者の特性に応じて生きることを支え、QOLを高める看護援助について多職種連携の視点を踏まえて学修する。 *この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	◎	○	△		△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>急性期および回復期にある対象への看護に必要な基盤となる概念を説明できる</li> <li>急性期にある対象の身体的・心理社会的特徴について説明できる</li> <li>救命医療や手術療法を受ける患者の人権や生命の尊厳を守る看護について考えることができる</li> <li>クリティカルな状態にある対象の身体的・心理社会的側面を踏まえた援助が理解できる</li> <li>手術療法に伴う生体侵襲に対する患者の心身の状態に応じた看護の必要性を理解し、適切な援助について説明できる</li> <li>回復過程にある対象の状態を理解し、セルフケアの再獲得への支援が説明できる</li> <li>急性期および回復期にある対象の治療や社会復帰への意思決定に関して、主体的取り組みへのサポートが理解できる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	中島恵美子 編集(2022): ナーシンググラフィカ成人看護学(4):周術期看護 第4版 メディカ出版, ISBN:978-4-8404-7539-6 矢永勝彦, 高橋則子 編集(2017): 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論[第11版], 医学書院 ISBN:978-4-260-02769-4 (病態と治療で購入済) 本庄恵子, 吉田みづ子 監修(2020): 新訂版 写真でわかる臨床看護技術2アドバンス, インターメディアク, ISBN:978-4-89996-414-8							
参考書および参考文献	北島政樹, 江川幸二 編集(2017): 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論[第9版], 医学書院, ISBN:978-4-260-02765-6							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修: 授業前には教科書の指定箇所を熟読し、授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。(90分×8回) 事後学修: 授業後には授業での学びを整理しておく(90分×8回)							
成績評価	筆記試験と課題レポートにより評価する。 原則として毎回出席すること、遅刻、欠席、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する						
課題レポート	10%	課題に対する内容の適切性について評価する						
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 急性期および回復期にある患者への看護に必要な基盤となる概念(講義)</li> <li>第2回 麻酔による生体の反応、生体の損傷に伴う反応(講義)</li> <li>第3回 手術侵襲と術後の合併症、術前・術後の看護(講義)</li> <li>第4回 消化代謝系に障害のある患者の看護(講義・演習)</li> <li>第5回 運動器系に障害のある患者の看護(講義)</li> <li>第6回 呼吸器系に障害のある患者の看護(講義)</li> <li>第7回 循環器系に障害のある患者の看護(講義)</li> <li>第8回 クリティカルな状態にある患者の看護(講義)</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある</li> <li>・レポートは教員が内容を確認し、フィードバックを行う</li> </ul>							
ナンバリング	NRGM2008							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期			授業コード	988C0			
科目	988C 成熟期看護学方法論Ⅱ			授業種別	週間授業			
担当教員	豊島 由樹子			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	慢性病とともに生きる人々やその家族の特徴と特有な健康問題・関連する諸要因について理解し、今後も住み慣れた地域で暮らしていくための地域包括ケアの視点から、患者と家族におけるQOLの向上・充実に向けた看護援助に必要な臨床判断能力を養うための基礎的知識について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	◎	△	△	△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性病とともに生きる患者の代表的な健康障害（病態・症状・合併症など）について説明できる。</li> <li>慢性病とともに生活している患者の身体・心理・社会面の療養上の特徴を説明できる。</li> <li>侵襲の大きい治療（薬物療法・透析療法など）を受ける患者に対する看護援助について説明できる。</li> <li>生涯にわたり慢性病と上手に付き合っていく住み慣れた地域で暮らしていくために、患者・家族に必要なセルフケアを支える看護援助について説明できる。</li> </ol>							
テキスト（教科書）	「成人看護学 慢性期看護 改訂第4版」、鈴木久美 他編，南江堂，2023年，ISBN： 978-4524234363 「成人看護学 成人看護学概論 改訂第4版」、林直子 他編，南江堂，2022年，ISBN： 978-4524230730（既に購入済）							
参考書および参考文献	授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を各回の講義で配布する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修（内容・時間）	事前学修として、配布する次回講義分の事前学修課題に、各自取り組んだ上で講義に臨むこと。講義は事前学修課題の内容を踏まえて進める(第1～8回/30分程度)。 事後学修として、授業で得た気づきと学びをまとめる。また教科書の該当ページを見直し、自ら学修達成をはかり、事後のClassroomの復習問題に取り組むこと。(第1～8回/60分程度)。 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成状況を、定期試験と課題レポートから評価する。なお、遅刻、早退、劣悪な授業態度、提出物の不備については減点対象とする。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する。						
課題レポート	30%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する。						
授業の実施方法と授業計画	第1回：授業ガイダンス、慢性病とともに生きる患者・家族の生活の特徴 <講義> 第2回：血液疾患患者と看護 <講義> 第3回：自己免疫疾患患者と看護 <講義> 第4回：慢性呼吸機能不全患者と看護 <講義> 第5回：慢性心不全患者と看護 <講義> 第6回：脳血管障害患者と看護 <講義> 第7回：神経難病患者と看護 <講義> 第8回：慢性腎不全患者と看護 <講義>  提出物に関しては、その後の学修に役立てられるようコメントを行う。また全体で共有すべき質問、意見等は授業内でフィードバックを行う。課題レポートは採点后に返却する。 ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRGM2009							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	988D0				
科目	988D 成熟期看護学方法論Ⅲ		授業種別	週間授業				
担当教員	原沢 優子		単位数	2				
その他担当者	相羽 利昭、森 裕介							
授業概要	健康な高齢者、疾病を持つ高齢者、要介護高齢者高齢者など、高齢者看護が対象とする人および高齢者看護の役割を説明する。また、高齢者特有の症状や疾患およびそれらをアセスメントする技術を教授し、必要な看護が実践できるように進める。認知症について理解を深めるとともに、認知症高齢者とのコミュニケーションスキルを磨くことができるよう演習を含める。 ※この科目は、臨床における高齢者看護と認知症看護の実務経験を有する教員が講義を行う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	◎	○		△	
到達目標	1.高齢者の暮らしの特徴を理解し、高齢者の暮らしを支える看護が説明できる。 2.老年症候群を理解し、それをアセスメントする技術と必要な看護が説明できる。 3.高齢者に多い症状と疾患を理解し、それをアセスメントする技術と必要な看護が説明できる。 4.認知症高齢者の特徴を理解し、認知症高齢者への看護が説明できる。 5.認知症高齢者とのコミュニケーション技術を理解し、実践時に気を付けることを説明できる。							
テキスト(教科書)	『新看護学13 老年看護学』, 六角僚子 他, 医学書院, 2022年, ISBN:978-4-260-04712-8							
参考書および参考文献	授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を、各回の講義ごとに配布する。							
受講条件	必修科目 成熟期看護学原論を受講済みであること							
事前・事後学修(内容・時間)	・事前学修として、教科書の当該授業日に該当する部分を読み、内容を理解する。理解が難しい箇所や疑問点に付箋を貼り、毎授業に臨むこと。授業にて解決しない疑問点は、授業中の当該箇所などで質問をする(第1～15回/30分程度)。 ・授業後にリアクションペーパーへの記載を求める場合があります。出席者は必ず提出してください。授業内の質問があれば、リアクションペーパーに記載するか、直接、教員に聞いてください。 ・事後学修として、授業で配布された資料を振り返り、知識として身につける内容を整理する。得た気づきと学びをまとめる(第1～15回/60分程度)。 ・レポート課題は、2回あります。1回目は、第4回の後に第2から4回までの課題を出します。2回目は、第14回の後に第13回と14回の内容から課題をだします。							
成績評価	定期試験と課題レポートから評価する。劣悪な授業態度、早退・遅刻、提出物の不備は減点となる場合がある。							
評価項目	割合	評価基準						
課題レポート1	10%	第2回から4回の内容から課題をだし、講義の理解度を確認する。						
課題レポート2	10%	認知症高齢者とその看護の理解度を確認する。						
定期試験	80%	筆記試験にて講義の理解度を確認する。						
授業の実施方法と授業計画	※各回の最後にリアクションペーパーの記載を求めます。授業内で出す課題の他に、授業の分りにくかった点、質問があれば記載してください。 第1回:(講義)“授業ガイダンス,高齢者看護の対象と看護の特徴”【原沢】 第2回:(講義)“高齢者の暮らしを支える看護; 自立して口から食べるための看護”【原沢】 第3回:(講義)“高齢者の暮らしを支える看護; 自立してトイレ排泄ができるための看護”【相羽】 第4回:(講義)“高齢者の暮らしを支える看護; 活動・社会参加の維持と休息・睡眠のバランスを整える看護”【相羽】 第5回:(講義)“老年症候群とその看護; 脱水、低栄養、めまい、骨粗鬆症”【相羽】 第6回:(講義)“高齢者に多い疾患・症状とその看護の特徴 ①脳・神経系の疾患 脳梗塞・パーキンソン病”【相羽】 第7回:(講義)“高齢者に多い疾患・症状とその看護の特徴 ②循環器系の症状と疾患 血圧調整障害、心疾患、貧血”【森】 第8回:(講義)“高齢者に多い疾患・症状とその看護の特徴 ③呼吸器系の症状と疾患 慢性閉塞性肺疾患・肺炎・肺結核”【森】 第9回:(講義)“高齢者に多い疾患・症状とその看護の特徴 ④消化器系の症状と疾患 食道炎・胆石症・大腸憩室炎”【原沢】 第10回:(講義)“高齢者に多い疾患・症状とその看護の特徴 ⑤皮膚の症状と疾患 スキンテア・皮膚掻痒症・皮膚炎・褥瘡”【原沢】 第11回:(講義)“高齢者に多い疾患・症状とその看護の特徴 ⑥視覚系の症状と疾患 難聴・白内障・黄斑変性症他”【原沢】 第12回:(講義)“高齢者に多い疾患・症状とその看護の特徴 ⑦歯周病、感染症、運動器系疾患”【原沢】 第13回:(講義)認知症と共に生きる高齢者の理解と看護1【曾根(ゲスト)】 第14回:(講義)認知症と共に生きる高齢者の理解と看護2【曾根(ゲスト)】 第15回:(講義)認知症高齢者とのコミュニケーションスキルを高める【原沢】							
ナンバリング	NRGM2010							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	98810				
科目	988I 成熟期看護学実習 I		授業種別	実習				
担当教員	相羽 利昭		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	日常生活が自立した高齢者について理解を深め、高齢者の健康の維持・向上のために必要な支援について学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	△	◎		△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の特性および健康レベルに応じたコミュニケーションをとることができる。</li> <li>2. コミュニケーションや活動をとおして、老化現象による身体的・心理的・社会的状況のありのままを観察して、他者に説明することができる（カンファレンスと実習記録に言葉で表現できる）。</li> <li>3. 知り得た情報を高齢者総合機能評価（CGA）を用いて高齢者を全人的に捉え、生活の自立度をアセスメントすることができる。</li> <li>4. その人らしく、その人が望む晩年期の生活を送るために、どのような目標をもって支援していけば良いかを考えて、その考えを記述することができる。</li> <li>5. 保健医療福祉チームの一員であることを自覚し、他職種との連携・協働、および看護師の役割と機能が説明できる。</li> </ol>							
テキスト（教科書）	系統看護学講座専門分野Ⅱ「老年看護学」、北川公子、医学書院、2018年、ISBN：978426003186							
参考書および参考文献								
受講条件	必修科目。履修条件は付けない。							
事前・事後学修（内容・時間）	特になし							
成績評価								
評価表に基づいて評価する。								
評価項目		割合	評価基準					
実習記録		90%	評価表に基づいて評価する。					
実習への取り組み・実習姿勢		10%	評価表に基づいて評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊橋市内にある老人福祉センターで実習を行う。 このセンターでは、高齢者が様々な活動を行っている。これらの活動に参加したり、高齢者との会話などをしたりして、身体的な特徴、心理・精神的な特徴、そして社会的特徴など理解を深める。</li> <li>2. 高齢者がどのように健康を維持・向上しているのかと、どのように社会に貢献しているかを知る。これらから、高齢者に対する健康の維持・向上への支援について考えて記述する。</li> <li>3. 老人福祉センターでの実習後、学内で高齢者の健康の維持・増進のための援助についてグループワークと発表会を行い通して理解を深める。</li> <li>4. 高齢者に対する看護師の役割と機能について考えてグループワークを行って発表する。</li> <li>5. 「高齢者の健康」とは何かを考えて、自分の考えを記述する。</li> </ol>							
ナンバリング	NREM2009							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	988J0			
科目	988J 成熟期看護学実習Ⅱ		授業種別	実習			
担当教員	小山 順子		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	クリティカルケアを必要とする重篤な状態にある成熟期の患者とその家族の特徴を踏まえ、対象者の生命維持に向けた治療の特徴や回復過程に応じた適切な看護を実践する能力を養う。 *この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	◎	○	◎		△
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルな状態にある患者とその家族に対して、関心を持ち、適切な関係を築くことができる</li> <li>2. 生命の危機的状況に直面した患者とその家族への看護の特徴を述べることができる</li> <li>3. クリティカルな状態にある患者とその家族への看護の役割と機能を述べるができる</li> <li>4. 看護学生として倫理的な態度について考え行動することができる</li> <li>5. 看護学生として責任ある行動をとることができ、積極的に実習に取り組むことができる</li> </ol>						
テキスト(教科書)	成熟期看護学方法論Ⅰの授業科目と同様 林直子 他編(2022):成人看護学 成人看護概論 改定第4版, 南江堂. ISBN:978-4524230730 中島恵美子 編集(2022):ナースングラフィカ成人看護学(4):周術期看護 第4版, メディカ出版. ISBN:978-4840475396 矢永勝彦, 高橋則子 編集(2017):系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 第11版, 医学書院. ISBN:978-4260027694						
参考書および参考文献	必要に応じて適宜紹介する						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	★実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 実習前:事前課題として提示した内容について調べ、実習中に活用できるように整理して実習に参加すること 実習中:実習中の課題に取り組むこと 実習後:実習での学びを実習記録にまとめること						
成績評価	実習評価表により評価を行う						
評価項目	割合	評価基準					
実習内容、実習記録、カンファレンス参加度、提出物	100%	評価表に基づき評価する					
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間:1週間</li> <li>2. 実習内容:クリティカルケアが提供される場(ICU、CCU、救命センター等)で実習する。詳細は事前オリエンテーションで説明する。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題は担当教員がフィードバックを行い、返却する。</li> <li>・課題レポート、実習記録は担当教員が実習後面接時にフィードバックを行う。</li> </ul>						
ナンバリング	NREM2010						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	983A0				
科目	983A 小児看護学原論		授業種別	週間授業				
担当教員	河合 洋子		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	子どもと家族を取り巻く環境の変化や関連する法律・施策の変遷、地域包括ケアシステムにおける子ども・子育て支援の現状等の基本的知識をふまえ、小児看護の対象となる人々と役割について学修する。また、子どもの成長・発達の特徴を理解し、アセスメントできる能力を養う。 *この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○		◎	○	△		○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児医療・看護の変遷と小児看護の特徴について述べるができる。</li> <li>2. 小児にとっての家族の機能・役割について述べるができる。</li> <li>3. 子どもの権利を理解し、小児看護における倫理について述べるができる。</li> <li>4. 小児の健康を維持・促進するための保健医療福祉について述べるができる。</li> <li>5. 成長・発達の一般的原則、成長・発達に影響する因子を説明できる。</li> <li>6. 小児期における各成長・発達段階に応じた身体的変化、心理社会的変化の特徴を理解した上で、子どもの成長・発達をアセスメントできる。</li> <li>7. 各成長・発達段階の特徴を踏まえ、成長・発達の評価法について述べるができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 第14版, 医学書院 ISBN:9784260038607 奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護学各論 第14版, 医学書院 ISBN:9784260038669							
参考書および参考文献	適宜紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業前には教科書の指定箇所を熟読する(第1回～第8回/各1時間程度)</li> <li>② 授業後には授業での学びを整理しておく(第1回～第8回/各2時間程度)</li> <li>③ 授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(3時間程度)</li> <li>④ 小テストの実施前後には指定範囲を復習する(小テスト4～6回/3時間程度)</li> </ol> 以上①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。なお、1年次に学んだ「からだの構造と機能Ⅰ・Ⅱ」、「母性看護学原論」などと関連させて学習すること。							
成績評価	筆記試験及び課題レポートで評価を行う。なお、劣悪な授業態度(私語、居眠り等)は減点の対象とする。							
評価項目	割合	評価基準						
筆記試験	90%	到達目標に沿って、授業での重要な点について適切に理解しているかを評価する						
小テスト	10%	授業開始前または終了時に、授業内容について知識確認のための小テストを実施し評価する。小テスト実施日、範囲については事前に提示する。なお、授業形態、進度によって課題レポートに変更する場合がある。						
授業の実施方法と授業計画	*小テストについては、授業内で解答を示し、フィードバックする。 第1回(講義) ガイダンス、小児の特徴、小児看護の対象と役割 第2回(講義) 成長・発達の一般的原則と影響する因子、小児の成長・発達①(新生児期、乳児期) 第3回・第4回(講義) 小児の成長・発達②③(幼児期) 第5回(講義) 小児の成長・発達④(学童期、思春期)、発達の評価(発達評価の目的と方法) 第6回(講義) 小児の健康維持・促進のための法律①(主な保健統計、予防接種法) 第7回(講義) 小児の健康維持・促進のための法律②(児童福祉法、母子保健法) 第8回(講義) 子どもの権利と小児看護における倫理、家族のアセスメント ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります							
ナンバリング	NRDM2003							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	983B0				
科目	983B 小児看護学方法論		授業種別	週間授業				
担当教員	河合 洋子		単位数	2				
その他担当者	中島 怜子							
授業概要	成長・発達段階をふまえ、様々な健康レベル、施設や地域など多様な場における子どもと家族の特徴を理解し、子どもの成長・発達そのものを促進する援助や子どもと家族の健康を支えるための看護の方法を学修する。 *この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		○	◎	△		○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階に応じた養育と看護について説明できる。</li> <li>2. 病気や障害が子どもと家族に与える影響を説明できる。</li> <li>3. 発達段階によって生じやすい小児期特有の症状と必要な看護について説明できる。</li> <li>4. 子どもと家族がおかれる場（入院中、外来）の特性に応じた看護について説明できる。</li> <li>5. 病気や障害を抱え、様々な病期（急性期・慢性期・終末期・周手術期）におかれた子どもと家族の特徴を理解し、必要な看護について説明できる。</li> <li>6. 先天的な健康問題や障害のある子ども、虐待等の特別な状況にある子どもや家族の特徴を理解し、必要な看護について説明できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護学総論 第14版, 医学書院 ISBN: 978-4-260-038607 奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護学各論 第14版, 医学書院 ISBN: 978-4-260-038669							
参考書および参考文献	適宜、授業で紹介する。また、授業内において、教員作成の補足資料を随時配布する。							
受講条件	必修科目 履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業前には、教科書の指定箇所を熟読する(第1回～第15回/各1時間程度)</li> <li>② 授業後には、配布資料をもとに授業での学びを整理しておく(第1回～第15回/各2時間程度)</li> <li>③ 授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む(3時間程度)</li> <li>④ 小テスト実施前後には指定範囲を復習する(小テスト6回分/各2時間程度)</li> </ol> 以上を参考に自己学習を行うこと。なお、小児看護学原論、病態と治療Ⅳ(小児)で学修した内容と関連させて学修すること。							
成績評価	定期試験、小テストの結果から評価を行う。劣悪な受講態度(居眠り、私語等)は減点の対象とする。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	80%	到達目標に沿って、授業での重要な点について適切に理解しているかを評価する						
小テスト	20%	当該範囲までの授業内容に関する要点を適切に理解しているかを評価する。小テスト実施日、範囲については事前に提示し、授業内で実施する。なお、授業形態、進度によって課題レポートに変更する場合がある。						
授業の実施方法と授業計画	* 全15回中、授業内で6回の小テストを実施する。小テストは実施後、速やかに解答を示し、解説を行う。 第1回(講義) 養育と看護(基本的生活習慣の獲得)①(柴田) 第2回(講義) 養育と看護(基本的生活習慣の獲得)②(柴田) 第3回(講義) 病気・障害および入院などの環境が子どもと家族に及ぼす影響、健康問題のある子どもと家族の看護(河合) 第4回(講義) 子どもに起こりやすい症状と看護①(発熱、嘔吐、下痢、脱水)(河合) 第5回(講義) 子どもに起こりやすい症状と看護②(呼吸困難、チアノーゼ)(河合) 第6回(講義) 子どもに起こりやすい症状と看護③(けいれん、発疹)(河合) 第7回(講義) 急性期にある子どもと家族の看護(河合) 第8回(講義) 周手術期にある子どもと家族の看護(河合) 第9回(講義・個人ワーク) 慢性期にある子どもと家族の看護①(ネフローゼ症候群など)(河合) 第10回(講義・個人ワーク) 慢性期にある子どもと家族の看護②(1型糖尿病など)(河合) 第11回(講義) 終末期にある子どもと家族の看護(河合) 第12回(講義) 外来における子どもと家族の看護(柴田) 第13回(講義) 障害のある子どもと家族の看護①(障害の捉え方、発達障害のある子どもと家族の看護)(河合) 第14回(講義) 障害のある子どもと家族の看護②(身体障害・知的障害のある子どもと家族の看護)(池田) 第15回(講義) 子どもの虐待と看護(河合) ※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRFM2008							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	98330				
科目	9833 小児看護学演習		授業種別	週間授業				
担当教員	河合 洋子		単位数	1				
その他担当者	中島 怜子							
授業概要	<p>小児看護に必要な技術について、その基本となる理論と根拠に基づく実践的知識を修得するとともに、安全・安楽、発達を考慮した援助方法について学ぶ。また、小児看護の対象となる子どもとその家族の状況を適切に判断し、看護援助を立案、実施、評価するために必要な看護のプロセスについて、紙上事例を通して学ぶ。</p> <p>*この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし講義等を行う科目である。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	△	○	△	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護に必要な技術について、安全・安楽、発達を考慮した援助方法を述べることができる。</li> <li>2. 小児看護に必要な技術について、安全・安楽、発達を考慮した方法で実践できる。</li> <li>3. 小児看護の対象となる子どもと家族に対して、尊重した態度、姿勢を示すことができる。</li> <li>4. 子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に判断するために、理論的に根拠立ててアセスメントすることができる。</li> <li>5. 子ども・家族の健康状態、ニーズを適切に捉え、具体的な看護計画が立案できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良間美保著, 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 小児臨床看護学総論 第14版, 医学書院 ISBN: 9784260038607</li> <li>・中野綾美編, ナーシング・グラフィカ小児看護学②小児看護技術 第5版第1刷, メディカ出版, ISBN: 9784840478434</li> </ul>							
参考書および参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浅野みどり編, 根拠と事故防止から見た小児看護技術 第3版, 医学書院, ISBN: 9784260043250</li> <li>・適宜、授業で紹介する。また、授業計画に沿って、教員作成の補足資料を適宜配布する。</li> </ul>							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業前には教科書の該当箇所を熟読する(第1回～第15回/各60分程度)</li> <li>② 授業後には配布資料をもとに授業での学びを整理しておく(第1回～第15回/各30分程度)</li> <li>③ 授業内で指示する内容は事前に調べて授業に臨む(第9回～15回/各100分程度)</li> </ol> <p>以上を参考に自己学修を行うこと。なお、病態と治療Ⅳ(小児)、小児看護学概論、小児臨床看護学、基礎看護技術で修得した内容と関連させて学修することが望ましい。</p>							
成績評価	成績評価							
	減点の対象とする。							
評価項目	割合	評価基準						
筆記試験	60%	到達目標に沿って、講義・演習での重要な点について適切に理解しているかを評価する						
看護過程演習の課題	30%	指示した内容に対する適切かつ十分な内容・記述になっているかを評価する						
技術演習の課題	10%	指示した内容に対する適切かつ十分な内容・記述になっているかを評価する						
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回. 日常生活援助技術        -子どもへの食事の援助、安心・安全な環境調整-【講義】</p> <p>第2、3回. 小児看護における基本技術        -コミュニケーション、フィジカルアセスメント、身体計測、バイタルサインの測定-【講義】</p> <p>第4回. 小児看護における基本技術        -身体計測-【演習】</p> <p>第5回. 小児看護における基本技術        -バイタルサインの測定-【演習】</p> <p>第6回. 検査・処置における介助技術        -検体の採取-【講義】</p> <p>第7回. 検査・処置における介助技術        -与薬の技術【演習】</p> <p>第8回. 検査・処置における介助技術        -末梢静脈内持続点滴シーネ固定・抑制【演習】</p> <p>第9回. 看護過程ガイダンス(事例紹介、アセスメントの進め方等)【講義】</p> <p>第10回. 看護過程の展開①(成長・発達および病態と治療の理解)【講義】</p> <p>第11、12回. 看護過程の展開②(アセスメント)【講義、演習】</p> <p>第13、14回. 看護過程の展開③(問題の明確化*関連図を含む)【講義、演習】</p> <p>第15回. 看護過程の展開④(看護計画立案)【講義、演習】</p> <p>※本科目は、講義、演習のいずれかのスタイルにより実施する。また、技術演習はグループに分かれ実施する。        ※技術に関する課題(補足資料含む)は実習でも活用するため、不足があった場合は、追加・修正し、整理しておくこと。        ※事前課題および提出物については、教員が適宜内容を確認し、フィードバックする。</p>							
ナンバリング	NRCM3009							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	983C0				
科目	983C 小児看護学実習Ⅰ		授業種別	実習				
担当教員	河合 洋子		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	乳幼児期にある子どもとの関わりを通して、子どもの成長・発達の特徴および遊びや生活についての理解を深め、成長・発達を支援するための実践力を養う。また、子どもとのコミュニケーション、遊びの援助、日常生活援助などの小児看護に必要な基礎的実践能力を育成する。 *この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かして実習指導を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		◎	○	◎	○	△	
到達目標	1. 乳幼児期における子どもの成長・発達について理解できる。 2. 乳幼児期における子どもの日常生活と養育環境について理解できる。 3. 子どもの発達に応じた遊びや生活の支援を通して、成長・発達を促進するための関わりができる。 4. 誠実な態度で実習に臨むことができる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	適宜紹介する							
受講条件	必修科目 履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については、各自で学習を行うこと。 <具体的な内容> ①関連する病態と治療Ⅳ(小児)、小児看護学原論など、これまで学修した内容の復習 ②事前課題として指示した内容について、実習中に活用できるように整理しておく							
成績評価	実習内容(目標の達成状況)、実習への取り組み姿勢、記録等で総合的に評価する。							
評価項目		割合	評価基準					
実習状況・実習記録・グループディスカッション		90%	本科目の到達目標(上記1~3)に対する細項目について、評価基準にそって評価する(詳細は評価表参照のこと)					
実習への取り組み姿勢		10%	本科目の到達目標(上記4)に対する細項目について、評価基準にそって評価する(詳細は評価表参照のこと)					
授業の実施方法と授業計画	1. 事前オリエンテーション 全体オリエンテーション(学内)  2. 保育園実習(3日間) 保育園実習は、病棟実習前豊橋市内の指定された保育園で実施する。各施設の日課や行事に従い、配属されたクラスの保育士の指導のもと、一緒に保育活動に参加する。  3. 学内実習(2日間) 保育園実習前:子どもの成長・発達および乳幼児期の子どもに関し学習を深める。 保育園実習後:学習の整理およびグループ討議、全体発表および他施設で実習した学生と学びの共有を行う。  詳細は小児看護学実習1の実習要項を参照のこと *事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、フィードバックする。							
ナンバリング	NRGM3007							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	982A0			
科目	982A 母性看護学原論			授業種別	週間授業			
担当教員	大林 陽子			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	母性看護の基盤となる概念を理解し、母性看護の役割、看護の対象について学ぶ。また、母子保健の動向や母子保健施策の現状と課題を学ぶ。さらに、女性の身体の形態・機能的変化を理解し、ライフサイクル各期における健康とニーズとそれに応じた看護について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△		○	○	△	○	○	
到達目標	1. 母性看護の基盤となる概念および理論、母性看護の役割、看護の対象について説明できる 2. わが国の母子保健の動向と母子保健施策の現状と課題について説明できる 3. 女性のライフサイクル各期における健康とニーズ、健康問題とその看護について説明できる 4. 母子の健康と社会問題、母子を支援する社会体制について説明できる 5. 不妊症の夫婦への支援について説明できる							
テキスト(教科書)	現代の母性看護 概論、入山茂他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815808990 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器、末岡浩、医学書院、ISBN9784260035675							
参考書および参考文献	母子保健の主なる統計、母子衛生研究会、ISBN9784938481131 わが国の母子保健、母子衛生研究会、ISBN9784938481223 令和4年版少子化社会対策白書、内閣府編集、日経印刷、ISBN9784865793291 病気がみえる vol.1.0産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137 病気がみえる vol.9婦人科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327120							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う <事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1～8回/30分程度) <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1～8回/30分程度)							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻・早退・無断欠席や劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする場合があります。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する						
課題レポート	10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する						
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 母性看護の概念、母子保健の動向 第2回 (講義) 母性看護学の理論、ジェンダーとヘルスプロモーション 第3回 (講義) 女性のライフサイクルと健康 ライフサイクルにおける女性の身体・心理的变化、思春期女性の健康 第4回 (講義) 女性のライフサイクルと健康 各ライフステージにおけるヘルスニーズと健康課題① 第5回 (講義) 女性のライフサイクルと健康 各ライフステージにおけるヘルスニーズと健康課題② 第6回 (講義) 母子の健康と社会問題 女性に対する暴力 第7回 (講義) 母子を支援する社会体制 母子支援の関係法規、女性の就労と子育て 社会的弱者である母子への支援、在日外国人への支援 第8回 (講義) 生殖医療と生命倫理、不妊症の夫婦への支援  *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 * 課題やリアクションペーパーの質疑内容については、授業の中でフィードバックする。							
ナンバリング	NRCM2008							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	982B0				
科目	982B 母性看護学方法論		授業種別	週間授業				
担当教員	大林 陽子		単位数	2				
その他担当者	石田 都乃							
授業概要	妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体・心理社会的特性を理解し、対象の状態とニーズに応じた看護の基礎的知識と具体的な看護方法を理解し、看護実践に必要な基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその経験を活かして講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	○	△		△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦の身体・心理社会的特性とその看護について説明できる</li> <li>2. 妊婦健康診査、妊婦の保健相談について説明できる</li> <li>3. ハイリスク妊娠、妊娠期の異常とその看護について説明できる</li> <li>4. 分娩3要素、分娩機序と分娩経過、分娩が母児に及ぼす影響とその看護について説明できる</li> <li>5. 産婦の身体的特性とニーズに応じた看護について説明できる</li> <li>6. 分娩期の異常とその看護について説明できる</li> <li>7. 褥婦の身体・心理社会的特性とその看護について説明できる。</li> <li>8. 産褥期の異常とその看護について説明できる。</li> <li>9. 新生児の生理とアセスメントと看護について説明できる。</li> <li>10. ペリネイタルロスを経験した母親・家族への支援について説明できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	現代の母性看護 各論、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815809744 現代の母性看護 概論、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815808990 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、石村由利子編、医学書院、ISBN9784260043243							
参考書および参考文献	病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う <事前学修> 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1～15回/30分程度) <事後学修> 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1～15回/30分程度)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻、早退、無断欠席や劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする場合があります。								
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	90%	筆記試験にて理解度を確認する						
課題レポート	10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する						
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 妊婦の身体的特性(母体・胎児) 第2回 (講義) 妊婦の身体的特性とニーズの看護(妊婦健康診査、保健相談) 第3回 (講義) 妊婦の身体的特性とニーズの看護(保健相談、マイナートラブル)、妊娠期の心理社会的特性(親になるための準備教育) 第4回 (講義) ハイリスク妊娠と妊娠期の異常と看護 第5回 (講義) 分娩3要素、分娩機序と分娩経過 第6回 (講義) 分娩経過に伴う産婦と胎児の変化と看護 第7回 (講義) 産婦・胎児のニーズとアセスメントと看護 第8回 (講義) 分娩の異常と看護 第9回 (講義) 褥婦の身体的特性とニーズのアセスメントと看護 第10回 (講義) 褥婦の身体・心理社会的特性と看護 第11回 (講義) 産褥期の異常と看護 第12回 (講義) 新生児の生理 第13回 (講義) 新生児のアセスメントと看護 第14回 (講義) 新生児の異常と看護 第15回 (講義) ペリネイタルロスを経験した母親・家族への支援  *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *課題やリアクションペーパーの質疑内容については、授業の中でフィードバックする。							
ナンバリング	NRCM2009							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期			授業コード	98280			
科目	9828 母性看護学演習			授業種別	週間授業			
担当教員	大林 陽子			単位数	1			
その他担当者	石田 都乃							
授業概要	妊娠・分娩・産褥・新生児期の事例による母性看護過程を展開し、母性看護実践に必要な看護過程展開の基礎的能力を修得する。また、母性看護の対象となる妊婦・産婦・褥婦・新生児の観察・ケアに必要な根拠に基づく看護技術を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員が、その実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	◎	○		△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>母性看護における看護過程のあり方を説明できる</li> <li>対象事例の状態をアセスメントし、妊娠・産褥・分娩期・分娩後の状態を要約できる</li> <li>対象事例の妊娠・分娩・産褥・新生児経過をアセスメントし、看護診断、看護目標設定、看護計画を立案できる</li> <li>妊婦・産婦・褥婦・新生児の観察・ケアに必要な根拠に基づく看護技術について説明でき、技術を修得できる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	現代の母性看護 概論、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815808990 現代の母性看護 各論、入山茂美他編、名古屋大学出版会、ISBN9784815809744 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、石村由利子編、医学書院、ISBN9784260043243							
参考書および参考文献	病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う <事前学修> 1. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成する(第1・2・7~15回/60分) 2. 1. の過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む <事後学修> 1. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する(第1・2・7~15回/60分) 2. 技術演習後は技術をくり返し行い、根拠に基づく技術修得に努める(第3~6回/60分)							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。なお、遅刻・早退・無断欠席や劣悪な受講態度(私語・居眠り等)は減点の対象とする場合があります。 筆記試験と課題レポート内容を総合的に評価する							
評価項目		割合	評価基準					
課題レポート(看護過程展開)		50%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
定期試験(母性看護技術)		50%	筆記試験にて理解度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 母性看護における看護過程展開(大林) 第2回 (講義) 母性看護技術、演習ガイダンス(大林) 第3~6回 (演習) 母性看護技術演習(大林・石田・他) 妊婦：レオポルト腹部触診法、子宮底長・腹囲測定、CTG装着 褥婦：子宮収縮状態観察 新生児：観察、バイタルサイン測定、抱き方、沐浴、おむつ交換、更衣 第7回 (講義・演習) 妊娠期サマリー(要約)(大林) 第8回 (講義・演習) 分娩期サマリー(要約)(大林) 第9回 (講義・演習) 退行性変化のアセスメント、看護診断・目標・計画立案①(大林) 第10回 (講義・演習) 退行性変化のアセスメント、看護診断・目標・計画立案②(大林) 第11回 (講義・演習) 進行性変化のアセスメント、看護診断・目標・計画立案(大林) 第12回 (講義・演習) 心理社会面のアセスメント、看護診断・目標・計画立案(大林) 第13回 (講義・演習) 新生児のアセスメント、看護診断・目標・計画立案①(大林) 第14回 (講義・演習) 新生児のアセスメント、看護診断・目標・計画立案②(大林) 第15回 (講義・演習) 母性看護過程展開まとめ(大林)  ＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。 ＊課題やリアクションペーパーの質疑内容については、授業の中でフィードバックする。							
ナンバリング	NRFM2007							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	98660			
科目	9866 母性看護学実習		授業種別	実習			
担当教員	大林 陽子		単位数	2			
その他担当者	石田 都乃						
授業概要	<p>周産期にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体・心理社会的特性を理解し、母子とその家族の看護実践に必要な基礎的知識・技術を看護過程展開により養う。  ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎		△		◎
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠により生じた妊婦と胎児の心身の変化をアセスメントし、状態に応じた看護過程を展開できる</li> <li>2. 分娩により生じた心身の変化における産婦と胎児の状態をアセスメントできる</li> <li>3. 褥婦の退行性・進行性変化を観察し、状態をアセスメントし、順調な経過を促進する看護過程を展開できる</li> <li>4. 新生児の胎外適応過程と生理的变化を観察し、状態をアセスメントし、生後日数に応じて順調に経過する看護過程を展開できる</li> <li>5. 褥婦と夫・パートナーを含む家族の役割適応を把握し、順調な家族形成に向けて適応を促す援助を実施できる</li> <li>6. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚して行動できる</li> </ol>						
テキスト(教科書)	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論 第14版、森恵美、医学書院、ISBN9784260042253  系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 第14版、森恵美、医学書院、ISBN9784260042239  病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137  マタニティ診断ガイドブック 第6版、日本助産診断・実践研究会、医学書院、ISBN9784260043298  根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、石村由利子編、医学書院、ISBN9784260043243</p>						
参考書および参考文献	必要に応じて適宜紹介する						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	<p>実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。  &lt;事前学修&gt;  実習ガイダンスで提示した実習要項の事前学修の指示に従い学修し、実習初日に提出する  &lt;事後学修&gt;  実習での学びと自己の課題をレポートにまとめる</p>						
成績評価	実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する						
評価項目	割合	評価基準					
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	実習評価表に則り評価する					
授業の実施方法及び授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間 2週間</li> <li>2. 実習施設 豊川市民病院、豊橋市民病院、蒲郡市民病院のいずれか1施設</li> <li>3. 実習内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学内オリエンテーション(初日)</li> <li>2) 臨地実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟オリエンテーション(初日)</li> <li>・褥婦・新生児(あるいは妊婦・産婦)を受け持ち、看護過程を展開する</li> <li>・日々、受け持ち対象者の看護計画に基づき看護を実践し、評価する。行動計画、看護過程展開、看護実践については、担当教員もしくは実習指導者から日々フィードバックする</li> <li>・カンファレンスは原則毎日行い、1週目最終日に中間ケースカンファレンス、2週目最終日にケースカンファレンス、まとめを行う</li> </ul> </li> <li>3) 学内まとめ(実習最終日)として、記録提出、担当教員との面談による学修内容のフィードバック</li> </ol> </li> </ol>						
ナンバリング	NRFM3010						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	986D0			
科目	986D 精神看護学原論			授業種別	週間授業			
担当教員	桂川 純子			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	<p>精神看護の対象となる人々の精神の健康に関する理論や歴史的背景、現代の社会病理に関する知識を修得し、幅広い視座から捉える重要性を理解する。誰もが精神の不調を経験する可能性があるので、精神の不調や精神疾患・障害を持つ人々が尊敬をもって共生社会を生きるため、多様な価値観を理解し、倫理的・道徳的な視点をもった看護職の役割や、役割の拡大について学修する。</p> <p>主に講義で実施するが、一部グループワークを取り入れ、展開する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○	△	◎	○	○	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こころの健康を説明できる。</li> <li>2. こころの健康に関する要因と理論を説明できる。</li> <li>3. ストレスマネジメントとその具体的な方法を説明できる。</li> <li>4. 精神医療保健における関係法規について、歴史的背景を踏まえて説明できる。</li> <li>5. こころの健康の保持増進や疾病の予防、リハビリにおける看護者の役割について説明できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>・岩崎弥生編(2019):新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 第5版,メヂカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3363-1</p> <p>・岩崎弥生編(2019):新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第5版,メヂカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3364-8</p>							
参考書および参考文献	適宜紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>第1～6回 事前学修では、教科書の該当部分を精読する。事後学修では、授業資料を振り返りまとめ、授業内容の核について考察する。また、定義、概念、用語等については、内容を理解して知識として定着させる。(各回3時間)</p> <p>第7回 事前学修では、事前に課されたレポート課題に取り組み、事後学修では、予習、グループワークで得た学びと、それに関連する文献等を活用し、学んだ内容を自分の言葉で論述しレポートを作成する。(8時間)</p> <p>第8回 全過程での学修状況について振り返り、まとめる。(4時間)</p>							
成績評価	筆記試験、グループワークに関連したレポートで総合判断する							
評価項目	割合	評価基準						
筆記試験	85	論述を含む筆記試験により目標の達成度を確認する。						
グループワークとレポート	15	<p>グループワークのための事前レポート、グループワーク、事後レポートについて、指示された課題が適切に表現されているか、学んだ内容を踏まえて、適切な日本語表現を用いて自分の考えを述べられているか確認する。</p> <p>なお、グループワークに欠席した場合には、周囲の人々との意見交換を含めたレポート課題を別に課す。</p>						
授業の実施方法と授業計画	<p>※毎時のリアクションペーパー (Google Classroom経由Formsを使用するので通信機器を持参すること) に述べられた内容のうち特に学修に関連するものは、次回にコメントする。試験やレポートは、成績確定後、個別にコメントする。</p> <p>第1回 こころの健康とは (講義) 第2回 こころの健康を理解する理論 (講義) 第3回 家族・集団のこころの健康 (講義) 第4回 こころの健康を支える制度と歴史 (講義) 第5回 ストレスマネジメント (講義) 第6回 こころの健康を支える看護の方法 (講義) 第7回 現代社会とこころの健康 (グループワーク) 第8回 こころの健康を支える看護師の役割 (講義)</p> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある</p>							
ナンバリング	NRAM2003							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期			授業コード	986E0			
科目	986E 精神看護学方法論			授業種別	週間授業			
担当教員	桂川 純子			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	<p>精神の不調や精神疾患・障害により日常生活や人生をおくる上で支援が必要な人々に対して、発達段階、健康レベル、地域包括ケアを含む多様な場での予防、早期発見、診療の補助・治療、リカバリーの過程を支援する臨床判断と支援方法の専門的知識を学修する。その際、人々の主体性の尊重や、治療と人権の擁護、多職種連携・協働の視点の重要性について理解を深める。</p> <p>授業方法は、主に講義とする。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○	△	◎	○	△	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神疾患/精神障がいをもつ人に共通する治療と看護について説明できる。</li> <li>2. 主な精神疾患/精神障がいをもつ人への看護について、尊厳を守り、セルフケアの視点を踏まえた具体的な方法を説明できる。</li> <li>3. 精神医療保健における社会資源について、他職種協働の観点から説明できる。</li> <li>4. わが国における精神看護の発展について説明できる。</li> <li>5. 精神疾患/精神に障がいをもつ人へのセルフケアとリカバリーを踏まえた看護者の役割について説明できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>・岩崎弥生編(2019):新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 第5版,メヂカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3363-1</p> <p>・岩崎弥生編(2019):新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第5版,メヂカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3364-8</p>							
参考書および参考文献	適宜紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>第1～11、13、14回 事前学修では、教科書の該当部分を精読する。事後学修では、授業資料を振り返りまとめ、授業内容の核について考察する。また、定義、概念、用語等については、内容を理解して知識として定着させる。(各回3時間)</p> <p>第12回(ゲストスピーカー講義) 予習では、事前に課されたレポート課題に取り組む。復習では、予習、ゲストスピーカー講義で得た学びと、それに関連する文献等を活用し、学んだ内容を自分の言葉で論述しレポートを作成する。(8時間)</p> <p>第15回 全過程での学修状況について振り返り、まとめる。(4時間)</p>							
成績評価	筆記試験、課題レポートを総合的に勘案して判断する。							
評価項目	割合	評価基準						
筆記試験	90%	論述を含む筆記試験により目標の達成度を確認する。						
レポート	10%	指示された課題が適切に表現されているか、学んだ内容を踏まえて適切な日本語表現を用いて自分の考えを述べられているか確認する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>※毎時のリアクションペーパー (Google Classroom経由Formsを使用するので通信機器を持参すること) に述べられた内容のうち特に学修に関連するものは、次回にコメントする。試験やレポートは、成績確定後、個別にコメントする。</p> <p>第1回 精神疾患・精神障がいをもつ人と医療の関り (講義)</p> <p>第2回 精神症状と看護 (講義)</p> <p>第3回 精神疾患・精神障がいをもつ人への主な治療と看護 (講義)</p> <p>第4回 精神疾患・精神障がいをもつ人の身体症状と看護 (講義)</p> <p>第5回 精神看護におけるケアの原則、関係性の構築 (講義)</p> <p>第6回 統合失調症で支援が必要な人への看護 (講義)</p> <p>第7回 感情障害で支援が必要な人への看護 (講義)</p> <p>第8回 不安障害で支援が必要な人への看護 (講義)</p> <p>第9回 アディクションで支援が必要な人への看護 (講義)</p> <p>第10回 様々な精神疾患で支援が必要な人への看護 (講義)</p> <p>第11回 精神疾患・精神障がいと共に地域で生きる(ゲストスピーカー講義)</p> <p>第12回 精神疾患・精神障がいをもつ人を支える社会資源 (講義)</p> <p>第13回 災害と精神看護 (講義)</p> <p>第14回 リエゾン精神看護 (講義)</p> <p>第15回 精神疾患・精神障がいをもつ人のセルフケアとリカバリーを踏まえた看護者の役割 (講義)</p> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>							
ナンバリング	NRGM2006							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	98380			
科目	9838 精神看護学演習		授業種別	週間授業			
担当教員	桂川 純子		単位数	1			
その他担当者							
授業概要	<p>精神看護における観察の視点と具体的援助の方法について、紙面事例およびロールプレイング、グループワークを通して学ぶ。具体的には精神障害者および精神的問題を抱える対象者の特徴を理解し、状況に応じた臨床判断と看護介入方法について一連の看護過程について理解を深める。また自己洞察の意義や方法を知り、看護における自己存在の活かし方や治療的コミュニケーション技法について学修する。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	△	△	△	○
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>事例検討において精神障害者および精神的問題を抱える対象者の看護過程を展開できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>対象者のケアに関する必要な情報を明確に捉え、分析、解釈ができる。</li> <li>対象者を多角的に理解し、看護診断ができる。</li> <li>対象者の看護診断に基づき、具体的な看護計画を立案できる。</li> </ol> </li> <li>プロセスレコードを用いて看護場面における自己を洞察できる。 <ol style="list-style-type: none"> <li>看護場面を振り返り、プロセスレコードを記述することができる。</li> <li>看護場面における自己の感情とその基礎となる自身の価値観、看護観、コミュニケーションの傾向を明確にする意義を説明できる。</li> <li>精神看護における治療的コミュニケーションの在り方と具体的スキルを修得する。</li> </ol> </li> </ol>						
テキスト(教科書)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩崎弥生、渡邊伸幸編(2016)：新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第4版、メテカルフレンド社.ISBN：978-4-8392-3306-8(精神臨床看護学で購入済み)</li> <li>・適宜資料を配布する。</li> </ul>						
参考書および参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮本真己(2013)：援助技法としてのプロセスレコード.精神看護出版.ISBN 978-4-9900907-7-7</li> <li>・川野雅直 編(2015)：精神看護学Ⅱ精神臨床看護学.ヌーヴェルヒロカワ.ISBN 978-4-86174-065-7</li> </ul>						
受講条件	必修科目(専門科目)						
事前・事後学修(内容・時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んだ精神科領域の科目(病態と治療Ⅳ【精神】、精神看護学概論、精神臨床看護学)を復習した上で臨んでください(第1回～7回/30分～60分程度)。</li> <li>・看護過程の展開については、グループワークを中心に行いますので、出された事前課題は確実に 実施した上で出席してください(第1回～7回/30分～60分程度)。</li> <li>・毎授業後のリアクションペーパーにコメントを行います。そのコメントをしっかりと読み込んで、分からないことは調べて授業に参加してください(第8回～15回/30分～60分程度)。</li> </ul>						
成績評価	<p>演習態度、授業終了時に不出される課題レポート、定期試験、看護過程の課題を総合的に評価する。</p> <p>なお、遅刻、早退、欠席、および演習に取り組む態度が誠実でない場合は減点の対象とする。 (欠席により課題が提出できないことは理由となりません)</p>						
評価項目	割合	評価基準					
課題レポート(プロセスレコード)	20%	課題に対して、適切かつ十分に論述できているかを評価する。					
定期試験	50%	知識の定着、理解度を確認する。					
看護過程の課題	30%	課題に対して、適切かつ十分に論述できているかを評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>※各回の最後にその日の授業の確認小テストを実施する。次回講義の最初にリアクションペーパーへのコメントと共に解説を実施する。</p> <p>第1回 Introduction；演習の進め方、精神看護における看護過程の特徴、映像教材視聴  第2回 精神看護における看護過程の展開(概念マップを用いたアセスメント)  第3回 精神看護における看護過程の展開(概念マップを用いたグループワーク)  第4回 看護過程の展開①：事例検討(統合失調症A)アセスメント グループワーク・講義  第5回 精神看護における看護過程の展開(統合アセスメント、看護診断、看護計画の実際)  第6回 看護過程の展開②：事例検討(統合失調症A)看護診断と看護計画 グループワーク・講義  第7回 看護過程の展開③：事例検討(統合失調症A)発表会  第8回 プロセスレコードの概要  第9回 プロセスレコードの事例検討会 グループワーク・講義  第10回  各期(関係をもち始める、関係をもちつづけていく時期、関係の終結に向かう時期)におけるコミュニケーションの特徴と実際  ・目標共有のための自己紹介  ・検温時の関わり  ・対象者との治療的別れに向けた関わり  第11回  精神看護学実習で経験する治療的コミュニケーションの実際①  ・映像教材視聴  ・シナリオ作成とロールプレイ学修の方法  第12・13回  精神看護学実習で経験する治療的コミュニケーションの実際②  ・幻覚妄想状態にある対象者への関わり  ・反応が乏しい対象者への関わり  第14・15回  精神看護学実習で経験する治療的コミュニケーションの実際③  ・抑うつ状態にある対象者への関わり  ・行動変容に向けた関わり(肯定的フィードバック・動機を高める)  第12～15回では、各回、グループごとにシナリオ作成、役割設定、ロールプレイ、フィードバック、まとめを実施する。</p> <p>※ただし、授業方法(遠隔)の変更や受講生の習熟度により授業計画変更の可能性もある。  ※ Introduction、グループワーク、発表会の回は担当教員全員で担当</p>						
ナンバリング	NRDM3004						

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期			授業コード	98680			
科目	9868 精神看護学実習			授業種別	実習			
担当教員	桂川 純子			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	<p>精神健康上の問題のために、日常生活や対人関係に困難を抱えている対象者と援助の人間関係を構築し、その人らしい生活が送れるための援助や社会参加に向けての働きかけを学ぶ。</p> <p>対象者が日常生活を送る上で抱えている問題の理解、生きにくさの体験の理解、精神看護におけるヘルスアセスメント、臨床判断、およびセルフケア促進のための援助、看護場面の再構成、治療的環境と看護職の役割行動、地域生活支援活動の実践について学修する。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	△	○	△	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象者との関わりを通して、治療的看護師-対象者関係の意味と意義を述べられる。</li> <li>2. 対象者を多角的に理解し、看護の方向性を示し、看護実践できる。</li> <li>3. 精神医療における安全と人権擁護に対する看護師の役割を述べられる。</li> <li>4. 精神障がいを持つ人々のリカバリーを支える社会資源やサポートネットワークについて述べられる。</li> <li>5. 看護専門職者としてふさわしい態度・行動がとれる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩崎弥生編(2019):新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論/精神保健 第5版,メチカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3363-1</li> <li>・岩崎弥生編(2019):新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 第5版,メチカルフレンド社 ISBN:978-4-8392-3364-8 (精神看護学概論で購入済)</li> </ul>							
参考書および参考文献	実習前に実習参考資料を配布予定。その他適宜提示します。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前課題では、実習オリエンテーション時に連絡する、精神看護学に関連する定義、用語、方法論についてまとめ身につけつつ、実習期間中に活用できるように資料として作成する。</p> <p>実習中は、実習目標を達成するための自宅学習を実施する。</p> <p>事後学修では、実習期間中に学んだ内容について、振り返り知識の定着を図る。</p>							
成績評価	ループリック評価表に基づいて、評価する。							
評価項目	割合	評価基準						
ループリック評価表	100%	ループリック評価表に基づき総合的に評価します。						
授業の実施方法及び授業計画	<p>※日々の学修状況に対しては、臨地実習時間、あるいは学内実習時間にコメントする。また、ループリック中間評価で、到達度について確認する。</p> <p>実習期間 2週間(うち2日は学内実習、祝日がある週に関してはこの限りではない。)</p> <p>実習場所 単科の精神科病院</p> <p>実習方法 実習指導者のもと原則1名の患者を受け持ち看護過程の展開を行う。 1病棟 3~4名 でグループを再編成する。</p> <p>1週目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地オリエンテーションを通して精神科病院組織全体の理解を深める。</li> <li>・受け持ち患者のアセスメントに基づき、看護診断を導き出す。</li> <li>・プロセスレコードを用い、看護師-患者関係の構築における対人相互作用について学びを深める。</li> </ul> <p>2週目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護診断に基づき看護計画を立案し、看護計画の一部を実践し評価する。</li> <li>・自己洞察及び自己の傾向についての理解を深めるとともに、対人関係構築のプロセスに活かす。</li> <li>・ループリックの中間評価で学修到達度を確認し、最終カンファレンスを通して学びを統合する。</li> </ul> <p>カンファレンスは基本的に毎日実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デイリーカンファレンス 【内容】一日の振り返りやテーマカンファレンス。実習に関する質問、相談。 【日時】毎日実習終了前(30分)</li> <li>・中間カンファレンス 【内容】受け持ち患者についての統合アセスメント、看護診断の発表。1週間の振り返り。 【日時】実習1週目の金曜日(60~90分)(予定)</li> <li>・最終カンファレンス 【内容】看護実践の実際や介入後の評価について発表。2週間の実習を振り返っての学びを発表。 【日時】実習2週目の金曜日(60~90分)(予定)</li> </ul>							
ナンバリング	NRGM3008							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	974A0		
科目	974A 看護管理学			授業種別	週間授業		
担当教員	森田 恵美子			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	看護管理学は、質の高いケアを提供するために、ケアの担い手である自分たちがどのようにあればより能力を発揮できるのか、人が仲間を作り組織で働くときにその効果を高めるにはどうしたら良いのか、リーダーシップとは何なのか、資源を有効に活用して成果を上げるにはどうすればよいか、看護がどうあれば社会をよりよくすることに結びつくのかなどを考える領域です。 この科目では、看護師として臨床での看護管理の実務経験のある教員が、人、グループ、組織、社会と看護の関係を模索し、ケアを支える看護管理の基本的な考え方を教授していきます。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	◎	○		◎	○
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護管理とは、医療・看護の質とはどのようなものか理解し、その評価方法について説明できる。</li> <li>2) 人と組織の関係を理解し、組織で働く上での個人の役割や自己の課題を考えることができる。</li> <li>3) リーダーシップとマネジメント、モチベーションについて、身近な例を用いて説明ができる。</li> <li>4) 専門職としてのキャリア開発のあり方について、自己の考察ができる。</li> <li>5) 保健医療福祉制度の最近の動向と課題を知り、看護への影響を考察する。</li> </ol>						
テキスト(教科書)	上泉和子：系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 (1) 看護管理,医学書院,2020. ISBN:978-4-260-03182-0						
参考書および参考文献	講義ごとに提示する						
受講条件	必修科目						
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業計画にある内容をテキスト(教科書)を参考にして各回の授業内容に応じた30分程度の予習をして講義に出席する。特に用語の定義などは事前学習しておく。</li> <li>② 授業後には、各回の授業内容に応じた学びを整理し30分程度の復習をしておく。</li> <li>③ 授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。</li> <li>④ 筆記試験には、授業内容の復習を十分に行い臨む。</li> </ol> ※以上①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。						
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているか筆記試験、毎回の講義の振り返りシートで評価します。						
評価項目	割合	評価基準					
筆記試験	80%	筆記試験にて理解度を確認します					
授業参加度	10%	各回の授業参加状況、無断遅刻・早退等					
講義振り返りシート	10%	振り返りシートの内容、授業理解度等					
授業の実施方法と授業計画	各回の最初に、前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。 第1回(講義) オリエンテーション 看護管理と医療・看護の質評価 看護管理学とは、医療や看護の質とは何かを理解し、質評価の仕組み、看護の質を測定するための試みについて学ぶとともに、質向上に向けた現状と課題について考える。 第2回(講義) 看護管理と組織 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護ケアのマネジメントおよび組織とは何か、看護専門職の働く場(病院や保健所等)について、チーム医療や多職種連携とは何かについて学ぶ。 第3回(講義) 看護ケアのマネジメント 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護業務の実践、安全管理、情報の活用する方法について学ぶ。 第4回(講義) 看護職のキャリアマネジメント 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護職のキャリア形成、キャリアディベロップメント、タイムマネジメント、ストレスマネジメントについて学ぶ。 第5回(講義) 看護サービスのマネジメント 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。組織目標達成のマネジメント、看護サービス提供の仕組みづくり、労働環境について学ぶ。 第6回(講義) ケアの効果的・効率的提供を支える仕組み 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。人・物・情報などの効果的・効率的な活用について学ぶ。 第7回(講義) マネジメントに必要な知識・技術 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。組織マネジメント、人々と集団に働きかけるために必要なリーダーシップとマネジメント、組織の調整、動機付け・コンフリクトマネジメントについて学ぶ。 第8回(講義) 看護を取り巻く諸制度 前回の講義内容に関する理解度、質問などについてフィードバックする。看護職と法制度、医療制度、看護政策の過程などについて学ぶ。						
ナンバリング	NRCM4016						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	974B0			
科目	974B 看護教育学			授業種別	週間授業			
担当教員	藤井 徹也			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	看護学教育全体を概観したうえで、教育の基本的な理論のもと、看護教育制度、教育課程の変遷と現在の課題を理解する。そのうえで、卒後教育、継続教育の現状、生涯学習の方法等の概括を理解し、看護の質を高めるために実践の場に教育がケアにも看護職の能力向上にも実際に活用されていることを知り、自らの進む方向に役立てる。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○	○	◎		
到達目標	1, 看護学教育、看護教育の本質と目的、教育についての理論的根拠の概括について理解できる。 2, 看護教育制度、看護教育課程について変遷をふまえて理解し、変化する看護行政を視野に現状における課題について考察しまとめることが出来る。 3, 看護学教育に必要な教育内容、方法、評価の概括について理解できる。 4, 継続教育、生涯教育の必要性とその在り方の概括について理解できる。 5, 専門職における教育的な機能の意義と重要性について理解できる。							
テキスト(教科書)	グレッグ美鈴、池西悦子編集:看護教育学 改訂第2版, 南江堂 (ISBN 978-4-524-25493-4)							
参考書および参考文献	講義時に適宜示す							
受講条件	特になし							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前には参考書の指定箇所を熟読する。②看護学原論等で学んだ看護教育制度の復習、各看護学で学んだ看護に必要な教育的な機能等の復習をしておく。また、自らが学んできて、現在に至っている教育課程を振り返ってみておく、学修に効果的である。③授業後には授業での学びを整理しておく。④授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。以上①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。(第1回～8回講義の予習・復習で、各々30分程度)							
成績評価								
レポート、討論参加度、授業課題について総括的に評価する								
評価項目		割合	評価基準					
レポート		80%	到達目標に合わせた内容が適切に理解できていること					
討論内容		20%	自らの意見を明確に述べている、文献等からの意見を述べるなど、自ら意見を適切に表現できることを視点に評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回 看護教育学とは、看護学教育、本質と目的、教育の理論的根拠 (講義:藤井) 第2回 看護教育制度の変遷と現状① (講義:藤井) 第3回 看護教育課程の変遷と現状②、欧米による看護学教育 (講義:藤井) 第4回 看護教育の内容、方法 (講義:藤井) 第5回 看護教育の評価 (講義:藤井) 第6回 継続教育、生涯教育 (講義:藤井) 第7回 専門職における教育的機能の重要性 (講義:藤井) 第8回 看護学教育の現状における課題と今後の方向性 (講義:藤井) *レポートのフィードバックは、受講生に対してメールでコメントをする。							
ナンバリング	NRDM4007							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	98460			
科目	9846 看護学研究 I			授業種別	週間授業			
担当教員	鈴木 知代			単位数	1			
その他担当者	笹木 りゆこ、山口 直己、小俣 由佳、西澤 和義、藤井 徹也、桂川 純子、小山 順子、井上 直子、石田 都乃、豊島 由樹子、林 美佐、大林 陽子、相羽 利昭、森 裕介、河合 洋子							
授業概要	看護における研究の意義、研究プロセス、具体的な研究デザイン、研究方法、研究倫理などの看護研究の基礎的知識を学ぶ。また、関心のあるテーマについて文献検索、文献クリティック、文献のまとめを実際に行い、研究を実施するための基盤となる能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎		○	◎	○		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護における研究の意義と課題について説明することができる。</li> <li>2. 看護研究における倫理的配慮について説明することができる。</li> <li>3. 研究プロセスの概観、研究デザインと研究方法について述べるができる。</li> <li>4. 看護学分野における自らの研究課題を明確化し、その研究課題に関連する適切な文献を系統的に探索できる。</li> <li>5. 自己の研究課題に関連する文献をクリティックし、文献内容をまとめることができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	坂下 玲子、宮之 智子、小野 博史著(2023) 系統看護学講座 別巻 看護研究 第2版.医学書院 ISBN978-4-260-04995-5							
参考書および参考文献	必要に応じて紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業前にワークが提示される場合には、実施して授業に臨む(1~15回/30分程度)。</li> <li>②授業後には授業での学びを整理しておく(1~15回/30分程度)。</li> <li>③授業内で指示する内容については、授業後に調べて次の授業に臨む(1~15回/60分程度)。</li> </ol>							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や他の人に迷惑をかけるような受講態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目	割合	評価基準						
レポート課題(第1~7回分)	40%	講義の理解度を評価する。						
文献検討まとめ	40%	課題に対して適切に論述されているか、評価表を用いて評価する。						
演習・レポート作成への取り組み	20%	評価表を用いて、課題やレポート作成の取り組み内容を評価する。						
授業の実施方法と授業計画	第1回(講義) 看護における研究とは何か(河合) 第2回(講義) 研究倫理について(河合) 第3回(講義) 研究プロセスの概観(1)(河合) 第4回(講義) 研究プロセスの概観(2)(河合) 第5回(講義) 研究デザインと研究方法(河合) 第6回(講義・演習) 文献検索の実際(図書館司書) 第7回(講義) 看護研究のためのクリティック(河合)  ※第8回以降は所属ゼミに分かれて履修する。 第8回~第15回 自己の研究課題の選定、文献探索、文献クリティック、文献のまとめ(担当教員)  ※受講学生の学修状況により授業計画を変更することもある。 レポート課題は授業中にフィードバックする。							
ナンバリング	NRBM3009							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期～秋学期		授業コード	98470				
科目	9847 看護学研究Ⅱ		授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）				
担当教員	鈴木 知代		単位数	1				
その他担当者	笹木 りゆこ、山口 直己、小俣 由佳、西澤 和義、藤井 徹也、桂川 純子、小山 順子、井上 直子、石田 都乃、豊島 由樹子、林 美佐、大林 陽子、相羽 利昭、森 裕介、河合 洋子							
授業概要	看護学研究Ⅰで学んだ基礎的知識および文献検討のまとめをもとに、研究課題を明確にして研究計画書を作成する。研究計画書の作成を通して、看護研究に必要な基礎的能力を養うとともに、看護における研究の意義を理解し、専門職者として生涯にわたり継続して研鑽し、専門性を発展させる基本的態度を培う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎		○	◎	◎		
到達目標	1. 看護学研究Ⅰで行った文献内容のまとめをもとに、研究課題を明確にし、研究計画書を作成することができる。 2. 研究計画を発表会で報告することができる。							
テキスト(教科書)	坂下 玲子、宮芝 智子、小野 博士 著：系統看護学講座 別巻看護研究，医学書院，ISBN978-4-260-02182-1（3年次購入済み）							
参考書および参考文献	随時、個別に指示する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前にはテキスト等の該当箇所を熟読し、提示された内容については事前に調べて授業に臨む（第1～13回/30分程度）。 ②授業後には学びを整理し、レポートの作成を進める（1～13回/60分程度）。 ③計画発表会に向けて準備を行う（14・15回/60分程度）。							
成績評価								
課題レポート(研究計画書)、発表、研究への取り組み態度で総合的に評価する								
評価項目	割合	評価基準						
課題レポート(研究計画書)	60%	評価表に基づき、研究計画書が適切な内容・記述になっているかを評価する。						
発表	15%	評価表に基づき、発表時の状況、発表用の資料等について評価する。						
授業への取り組み	25%	評価表に基づき、研究への取り組み姿勢などについて評価する。						
授業の実施方法と授業計画	課題のフィードバックは、授業時間の中で行う。  第1～13回：(講義・演習) 各自の研究テーマに沿った研究計画書の作成(担当教員) 第14・15回(10月21日 土曜日)：研究計画の発表(合同)  ※受講学生の学修状況により授業計画を変更することがある。							
ナンバリング	NRDM4008							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	97450				
科目	9745 家族看護学		授業種別	週間授業				
担当教員	蒔田 寛子		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	<p>社会の変化とともに、世帯構造は変化し、家族のありようもさまざまで個性性は大きい。看護の対象は病んでいるその人だけではなく、影響を及ぼしあっている家族も看護の対象と捉える必要性から、家族看護学は発展し、注目されてきた。本科目では、家族看護学発展の歴史的背景をふまえ、家族の機能、援助の方法、および家族を一つの単位として、アセスメントし援助する必要性を学修する。</p> <p style="text-align: right;">※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	○	○		○		
到達目標	<p>家族看護学発展の歴史とその必要性をふまえ、家族を包括的に理解し援助する基本的姿勢を身につけることができる。具体的には以下の内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族を包括的に捉え、支援する必要性を説明できる。</li> <li>2. 家族の複雑さと個性性をふまえ、高い倫理性を備え関わろうとする姿勢を獲得できる。</li> <li>3. 家族支援における多職種との連携の必要性について、職種の特徴もふまえ説明できる。</li> <li>4. 社会の変化をふまえ、家族看護学についても発展的に考えていくことができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	家族看護学—理論と実践— 第5版、鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子、日本看護協会出版会、¥3,520 ISBN 978-4-8180-2208-9							
参考書および参考文献	その都度紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>①授業前には教科書の指定箇所を熟読する(1~6回/30分程度)。</p> <p>②授業後には授業での学びを整理しておく(毎回/30分程度)。</p> <p>③授業内で指示する内容については、追加学修を行い授業に臨む(3回、4回/60分程度)。</p> <p>④グループで協力プレゼンテーションの準備をする(6~8回/120分程度)</p> <p>以上の①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。</p>							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	40%	本科目で学修した内容が理解できているか筆記試験で確認する。						
課題レポート	40%	課題に対し適切な内容であり、自分の意見を深めわかりやすく論理的に整理されているかで評価する。						
プレゼンテーション	20%	家族看護学に関する研究のグループ発表について、スライドと発表のわかりやすさ、質問への対応等で評価する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス 家族看護学発展の歴史 文化的背景と家族のありよう(講義)</p> <p>第2回 家族の定義 家族の成長と発達 家族を理解するための諸理論(講義)</p> <p>第3回 家族アセスメントモデルの紹介 家族看護の事例検討 渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例を整理(講義・演習)</p> <p>第4回 家族看護の事例検討(講義・演習) 渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例を整理 まとめ</p> <p>第5回 家族看護における看護者の役割と援助姿勢(講義)</p> <p>第6回 家族看護学に関する研究 発表準備(演習 グループワーク)</p> <p>第7回 家族看護に関する研究 グループ発表 前半(学生によるプレゼンテーション)</p> <p>第8回 家族看護に関する研究 グループ発表 後半(学生によるプレゼンテーション)</p> <p>レポート課題については講義の中で説明します。 提出されたレポート課題とプレゼンテーションは評価項目です。 学生によるプレゼンテーション内容については、適宜コメントします。 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>							
ナンバリング	NRBM3010							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	97470				
科目	9747 災害看護学		授業種別	週間授業				
担当教員	笹木 りゆこ		単位数	1				
その他担当者	倉島 正成							
授業概要	災害が人々の健康と生活に及ぼす影響と国内外の災害に関する社会のしくみ、対応システムなどを概観し、災害各期における人々の健康や生活ニーズ、被災者の特徴に合わせた看護について学ぶ。また、演習を通して災害時に必要とされる基礎的な看護技術を修得する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○		○	△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の定義、災害の種類、災害サイクル、国内外の災害に関する社会のしくみと対応システム、倫理原則について理解する。</li> <li>2. 災害が人々の健康に及ぼす影響と必要な看護ケアについて理解する。</li> <li>3. 災害各期の被災者のニーズと看護師の役割や実践活動について理解する。</li> <li>4. 災害時に必要な看護技術について理解し、対象者を尊重した態度で実施できる。</li> <li>5. 国や地域、病院における防災・減災活動について理解する。</li> <li>6. 災害時の国際支援システム、看護活動について理解する。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	酒井明子、菊池志津子:災害看護(第4版).南江堂 .ISBN:978-4-524-23165-2							
参考書および参考文献	必要に応じて紹介する。							
受講条件	履修条件を付けない							
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業前には教科書の指定箇所を熟読する。(毎回45分程度)</li> <li>②授業後には、授業での学びを整理しておく。(毎回60分程度)</li> <li>③授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。(毎回45分程度)</li> </ol> ※以上①②③について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。							
成績評価	原則として毎回出席すること。 欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とします。 授業終了時の筆記試験にて理解度を確認します。							
評価項目		割合	評価基準					
筆記試験		95%	筆記試験にて理解度を確認する。					
学修の取り組み姿勢		5%	講義・演習の取り組みや演習の参加姿勢で確認し、評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 災害看護学概要〈講義〉(笹木) 第2回 災害時特有の疾病・医療・看護実践 災害各期の特徴的な健康問題と看護の役割①〈講義〉(笹木) 第3回 災害各期の特徴的な健康問題と看護の役割② 災害時のメンタルヘルス〈講義〉(笹木) 第4、5回災害時に必要な技術① トリアージ〈演習〉(倉島、笹木) 第6回 災害時に必要な技術② 搬送〈演習〉(倉島、笹木) 第7回 災害時に配慮を必要とする人への看護〈講義〉(笹木) 第8回 防災・減災マネジメント、災害時の国際支援システムと看護活動〈講義〉(笹木) *授業計画は、授業進行状況により変更の可能性がある *必要に応じてリアクションペーパーの質疑内容をフィードバックする							
ナンバリング	NRAM4008							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	97460		
科目	9746 国際看護学			授業種別	週間授業		
担当教員	内木 美恵			単位数	1		
その他担当者							
授業概要	国際社会において、広い視野に基づき、看護を通して諸外国との連携・協力を考え、人々の幸福や健康に対して看護師の果たすべき役割を理解するための基礎的な能力を育む。特に、発展の途上にある国についての理解を深め、その上で、将来、看護職として自らの進む方向の視野も広げることを目的とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	○	○	○	◎		◎	◎
到達目標	国際社会における健康問題、保健・医療システムなどを日本との共通点や相違点を通して理解を深め、健康問題をグローバルな視点で捉えることができる。今日の複雑な政治経済状況の下、発展途上国の医療・保健に影響を与えているさまざまな要因を把握し、社会科学、人間科学的な視点も踏まえた看護の役割について述べるができる。						
テキスト(教科書)	浦田喜久子編集(2019). 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学. 医学書院 ISBN978-4-260-03570-5						
参考書および参考文献	「世界子供白書 2021 子どもたちのメンタルヘルス」、日本ユニセフ協会(ユニセフ日本委員会)；日本ユニセフ協会：(2021/2022) 「国連開発計画UNDP年次報告書2020」、国連開発計画：UNDP：(2021) 「世界人口基金白書2022 見過ごされてきた危機 意図しない妊娠」、UNFPA：UNFPA：(2022) 「世界人口基金白書2021 残された課題 私の体は私のもの」、UNFPA：UNFPA：(2021) 「世界人口基金白書2020 自分の意に反して：女性や少女を傷つけ平等を奪う有害な慣習に立ち向かう」、UNFPA：UNFPA：(2020)						
受講条件	履修条件を付けない						
事前・事後学修(内容・時間)	①事前：毎回のテーマについて、教科書を活用しながら調べ、内容をA4用紙1枚程度にまとめる。(90分/回程度) ②事後：授業資料と教科書を再見直し、学んだことを確認し、整理する。(30～60分/回程度) ※以上①②について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。						
成績評価	授業中の質疑応答、ディスカッションを重視します。積極的な発言を期待します。						
評価項目	割合	評価基準					
授業への取り組み	40%	質疑応答への対応、リフレクションペーパーへの記述					
定期試験	60%	筆記試験で理解度を確認する(基礎問題70%程度、応用問題30%程度)					
授業の実施方法と授業計画	<授業の進め方> ・講義、グループワーク、演習、講義中のディスカッションなどで学びを深める。 ・毎回リフレクションペーパーを記入、提出する。学んだことを記述する中での質問や疑問点も記入すること。質問、疑問点は次の講義で説明する。 ・3回程度、過去の国家試験問題を振り返り、学びを整理していく。 <授業内容> 第1回:講義 国際活動の実際を知る (発展の途上にある国で健康の問題に苦しむ人々、災害、紛争の被災者への看護活動の実際について映像を交え講義する。ウガンダの母子保健事業、フィリピン中部台風支援活動など) 第2回:講義 途上国での保健、衛生に関する理念、動向を知る (プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、リップロダクティブヘルス・ライツ、持続可能な開発目標SDGsなどについての理解を深める) 第3回:講義 国際機関、国際協力、国際緊急救援に関連組織を知る 第4回:講義 発展の途上にある国の健康の問題を考える 1) 健康であるための社会環境(経済、交通、習慣、教育など) 第5回:講義 発展の途上にある国の健康の問題を考える 2) 健康であるための生活環境の整備(水、栄養、休息など) 第6回:講義 発展の途上にある国の健康の問題を考える 3) 疾患等(3大感染症、母子保健、小児保健)の理解と看護 第7回:講義 途上国の災害時と健康の展開について考える (健康を危機的な状態になる自然災害、紛争など) 第8回:演習 興味のある国の健康問題を考える。(グループワークと発表の予定)						
ナンバリング	NRBM4015						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	97830																														
科目	9783 統合実習		授業種別	実習																														
担当教員	中村 裕美		単位数	2																														
その他担当者	笹木 りゆこ、山口 直己、小俣 由佳、西澤 和義、藤井 徹也、桂川 純子、小山 順子、井上 直子、石田 都乃、豊島 由樹子、林 美佐、大林 陽子、相羽 利昭、森 裕介、高野 純平、鈴木 知代、河合 洋子、渡邊 富士子																																	
授業概要	<p>本実習は、4年次春学期までに修得した看護学の講義・演習・実習の学修を統合し、看護実践能力の向上を目指すことを目的とする。ここでの看護実践能力とは看護の対象となる人を尊重し権利を擁護する倫理的姿勢を基盤として、対象者のニーズを的確に判断し、適切な看護援助をエビデンスに基づいて提供できる能力、チームの一員として社会性、協調性をもって活動できる能力等を指す。</p> <p>本実習ではそれぞれの実習場の特徴を生かして、学生が主体的に実習内容を計画し実施できることを目指す。</p>																																	
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7																											
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	◎	○	◎																											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の課題を明らかにし、その課題達成に向け、主体的に取り組むことができる。</li> <li>2. 対象者を尊重し、人権を擁護する倫理的姿勢を基盤として行動できる。</li> <li>3. 対象者のニーズを的確に判断し、エビデンスに基づいて適切に看護援助を提供できる。</li> <li>4. チームの一員として社会性、協調性を持って活動できる。</li> <li>5. 医療安全の考え方に基づき、医療安全の組織的取り組みにおける看護職の役割を述べることができる。</li> </ol>																																	
テキスト(教科書)	各領域より指示されたもの																																	
参考書および参考文献	各領域より指示されたもの																																	
受講条件	必修科目																																	
事前・事後学修(内容・時間)	<p>実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。</p> <p>事前学修課題については、各領域ごとのオリエンテーションで適宜指示する。</p>																																	
成績評価																																		
ルーブリック評価表に基づき、総合的に評価する。																																		
評価項目	割合	評価基準																																
実習内容、実習記録、発表	100%	ルーブリック評価表に基づいて評価する。																																
授業の実施方法と授業計画	<p>[実習方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間：2023年7月18日(火)～7月28日(金) ※実習施設により変更あり</li> <li>2. 実習施設  <table border="0"> <tr><td>豊橋医療センター</td><td>(基礎看護学)</td></tr> <tr><td>豊川市民病院</td><td>(成人看護学)</td></tr> <tr><td>成田記念病院</td><td>(成人看護学)</td></tr> <tr><td>浜松市リハビリテーション病院</td><td>(成人看護学)</td></tr> <tr><td>豊橋市民病院</td><td>(母性看護学、小児看護学)</td></tr> <tr><td>聖隷三方原病院</td><td>(母性看護学)</td></tr> <tr><td>ふたば助産院</td><td>(母性看護学)</td></tr> <tr><td>浅井助産院</td><td>(母性看護学)</td></tr> <tr><td>天竜病院</td><td>(小児看護学)</td></tr> <tr><td>可知記念病院</td><td>(精神看護学)</td></tr> <tr><td>訪問看護ステーション</td><td>(在宅看護学)</td></tr> <tr><td>福祉村病院、明陽苑、他</td><td>(老年看護学)</td></tr> <tr><td>地域包括支援センター</td><td>(公衆衛生看護学)</td></tr> </table> </li> <li>3. 実習までの予定 3月に統合実習ガイダンスを行い、学生の希望調査を実施し、実習配置を決定する。その後、各領域のオリエンテーションを行い、事前課題などに取り組み臨地実習に臨む。</li> </ol> <p>※事前学修課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、フィードバックする。</p>								豊橋医療センター	(基礎看護学)	豊川市民病院	(成人看護学)	成田記念病院	(成人看護学)	浜松市リハビリテーション病院	(成人看護学)	豊橋市民病院	(母性看護学、小児看護学)	聖隷三方原病院	(母性看護学)	ふたば助産院	(母性看護学)	浅井助産院	(母性看護学)	天竜病院	(小児看護学)	可知記念病院	(精神看護学)	訪問看護ステーション	(在宅看護学)	福祉村病院、明陽苑、他	(老年看護学)	地域包括支援センター	(公衆衛生看護学)
豊橋医療センター	(基礎看護学)																																	
豊川市民病院	(成人看護学)																																	
成田記念病院	(成人看護学)																																	
浜松市リハビリテーション病院	(成人看護学)																																	
豊橋市民病院	(母性看護学、小児看護学)																																	
聖隷三方原病院	(母性看護学)																																	
ふたば助産院	(母性看護学)																																	
浅井助産院	(母性看護学)																																	
天竜病院	(小児看護学)																																	
可知記念病院	(精神看護学)																																	
訪問看護ステーション	(在宅看護学)																																	
福祉村病院、明陽苑、他	(老年看護学)																																	
地域包括支援センター	(公衆衛生看護学)																																	
ナンバリング	NRBM4016																																	

開講年度・開講学期	2023年度 春学期				授業コード	96220		
科目	9622 疫学				授業種別	週間授業		
担当教員	石山 登				単位数	2		
その他担当者								
授業概要	疫学概念や疫学調査方法、曝露効果の指標などの基本的な統計手法を学ぶ。また、疫学は個人ではなく集団の健康問題を取り上げることから、国内外における保健水準や健康に及ぼす要因の分析手法を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎		◎			
到達目標	統計学や疫学で利用される基本的な統計手法を理解し、保健師活動の現場で実践できること。							
テキスト(教科書)	基礎から学ぶ楽しい疫学(第4版) 中村好一 医学書院 ISBN:978-4-260-01669-8							
参考書および参考文献	1. 統計学100のキーワード 松原望編 弘文堂 ISBN:978-4-335-45027-3 2. 統計的方法のしくみ 正しく理解するための30の急所 永田靖 日科技連 ISBN:978-4817102942 図書館にはこの他にも、多数の参考書が備えられている。							
受講条件	保健師選択コースの学生 医学統計学の初等的知識を理解しておくこと。							
事前・事後学修(内容・時間)	疫学は、個人を対象とする診断学、治療学とは異なり、集団を対象とする研究の論理や基礎を取り上げるので、教科書をあらかじめ読んで、概略をつかんでおくこと。 また、基礎的な統計学を使っているので、初等統計学を理解しておくこと。							
成績評価								
保健師活動の現場で実践できること。 国家試験に準拠した期末試験で評価する。								
評価項目	割合		評価基準					
期末テスト								
授業の実施方法と授業計画	第1回 疫学とは、疾病頻度の測定 第2回 既存のデータ 第3回 疫学研究方法 第4回 偏りと交絡 第5回 因果関係 第6回 スクリーニング、サーベイランスと疾病登録 第7回 臨床疫学 第8回 疫学に必要な統計 第9回 疫学と倫理、疫学の社会への応用、これからの疫学 第10～15回 演習、質疑応答							
ナンバリング	NRCM3011							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	96230				
科目	9623 学校保健学		授業種別	週間授業				
担当教員	安藤 節子		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	<p>児童生徒の心身の健康を守り、育てるための学校保健活動および養護教諭の役割について学ぶ。学校保健計画に基づいて教科「保健」、保健室における個別の保健指導のあり方、保健管理を学び、心身ともに、健康な児童生徒の育成について学ぶ。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎			○	△	
到達目標	<p>学校は地域社会の中に存在しており、義務教育時代の重要な教育の場であり、子どもの生きる力を育てる役割を担っていることを理解する。</p> <p>学校教育における学校保健の役割と重要性を学ぶとともに、子どもの心身の成長には、養護教諭をはじめ、教諭等多くの職種の人たちが関わっていることを理解する。</p> <p>学校保健は「学校における保健教育と保健管理をいう」と法に示されており、子ども時代の心身の健康づくりに重要な役割を果たす領域であることを学ぶとともに、学校現場では、深刻、複雑化していくばかりの子どもの現代的な心身の健康課題に対して、保健教育、保健管理はどのような役割を担っているのか。また教育現場では、保健教育・保健管理が具体的にどのようなようになされ、子どもの生きる力を養うことに関わっているのかについて、理解し、説明できる。</p> <p>同時に、より良い人間関係の在り方や自己肯定感を高める取り組みを通じて、学生自身が、自他のいのちの大切さを実感し、今までの自分を振り返り、これからの生き方を考えていくことができる。</p>							
テキスト(教科書)	<p>書名： 学校保健ハンドブック          著者名： 教員養成系大学保健協議会 編          出版社：きょうせい          ISBN:978-324-10577-1</p>							
参考書および参考文献	書名： 学校保健実務必携							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	講義計画にそって予習すること。また子どもに関する新聞記事を購読すること。							
成績評価	筆記試験及び授業内のワークシートで評価する							
評価項目	割合	評価基準						
筆記試験	90%	筆記試験で理解度を確認する						
授業内のワークシート	10%	授業内容が理解できたか						
授業の実施方法と授業計画	<p>全ての回で、講義・演習を行う。</p> <p>①学校保健に関する法について：教育基本法、学校教育法、学校保健安全法、文部科学省設置法          学校保健の目的について</p> <p>②学校保健の領域と構造：保健教育・保健管理・組織活動          学校保健に関わる人</p> <p>③学校保健計画について：学校保健計画の項目と内容          保健教育とは：健康に関する知識の習得と生活化を目指す          教科「保健」の指導例</p> <p>④保健教育Ⅰ：現代的な心身の健康課題に対する指導の取り組みについて          模擬授業及び演習</p> <p>⑤保健教育Ⅱ：生命尊重・自己肯定感に関する児童生徒の実態          いのちの学習の模擬授業</p> <p>⑥保健管理：心身の健康管理・学校環境の管理・生活の管理について          心身の健康課題に対する保健室の役割          養護教諭の役割と個別指導          組織活動：学校保健委員会について</p> <p>⑦保健教育と保健管理：子どもの心身の健康課題と成長のプロセスとの関係          子どもの支援の在り方</p> <p>⑧健康相談：相談活動の演習          授業の内容について、ディスカッションを実施する。          ワークシートに書かれた質問について回答する。</p>							
ナンバリング	NRDM3005							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	96240					
科目	9624 産業保健学		授業種別	週間授業					
担当教員	塚田 月美		単位数	1					
その他担当者	古井 景								
授業概要	産業保健の理念、目的と現状、労働安全衛生管理の制度とシステム、基本となる法律等について学ぶ。また、産業の場における健康危機管理、産業保健活動の展開方法及び看護職の役割について学ぶ。								
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
ディプロマポリシーとの関連性	◎		◎			○	△		
到達目標	1. 産業保健の動向、目的、役割、機能と現状を説明できる。 2. 労働安全衛生管理の制度とシステムについて説明できる。 3. 産業保健の場における健康課題について職場環境の特性と関連づけて理解し、必要な健康支援について考えることができる。 4. 産業保健における専門職として、関係機関等との望ましい連携のあり方について考えることができる。								
テキスト(教科書)	公衆衛生看護概論 標美奈子(著・文) 医学書院 ISBN978-4-260-04707-4 公衆衛生看護技術 中村裕美子(著・文) 医学書院 ISBN978-4-260-05002-9 対象別公衆衛生看護活動 中谷芳美(著・文) 医学書院 ISBN978-4-260-03187-5 新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版 日本看護協会出版会 ISBN978-4-8180-2381-9 国民衛生の動向 2022/2023 (第69巻第9号) 厚生労働統計協会 雑誌コード03854-08 (「厚生生の指標」8月増刊) 産業保健ハンドブックシリーズ 改訂20版 森晃爾(編) 労働調査会 ISBN978-4-86319-933-0								
参考書および参考文献	必要に応じて紹介する。								
受講条件	保健師選択コースの学生であること								
事前・事後学修(内容・時間)	1. 事前に、講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する。 2. 講義で学んだ内容は、テキスト等を見直し整理しておく。 3. 産業保健に関する法制度については「厚生生の指標 増刊 国民衛生の動向」も参考に熟読しておく。 4. 産業保健に関連する法令改正が続いています。厚生労働省ホームページを閲覧し、最新の情報を予習し、授業に臨み、復習をすること(2時間相当)。								
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。特に、産業保健の法改正に伴う事項に関して課題レポートとし評価します。なお、遅刻、早退、欠席や劣悪な学習態度は減点の対象とする場合もあります。								
評価項目	割合	評価基準							
定期試験	50%	筆記試験にて理解度を確認します。							
講義中の質疑応答等の状況	10%	質疑等、講義への取り組み、理解の状況を確認します。							
課題レポート	40%	課題に対する適切な内容・記述になっているのかを評価する。							
授業の実施方法と授業計画	1回:産業保健の動向 産業保健の目的や歴史、変遷やその対象について学ぶ 2回:産業保健の制度とシステム 関係する様々な法律を理解し、それらに基づく体制や活動について学ぶ 3回:産業保健における健康課題①(労働安全対策と関係法規) 現在展開されている労働安全対策と近年の健康に関する課題に関連する法律について学ぶ 4回:産業保健における健康課題②(職業性疾病について) 一定の職業に従事することでおこる疾病について理解し、その管理対応等について学ぶ 5回:産業保健における健康課題③(メンタルヘルス対策) 産業保健分野で特に喫緊の課題となっているメンタルヘルス対策について、その管理対応等について学ぶ 6回:産業保健の展開 産業保健職が関わる3管理(5管理)の実際について学ぶ 7回:産業保健における産業看護活動①(産業保健情報の把握と活用) 産業看護活動を効果的かつ効率的に進めるために、情報を的確に把握し、看護支援計画、実施、評価に活用、展開することの重要性について学ぶ 8回:産業保健における産業看護活動②(各種健診・活動とその事後支援) 産業保健の場で特に専門職としてその専門性を発揮する各種健診等の活動について学ぶ  習得度等を鑑みて、産業保健活動のテーマを設定し、授業中に課題を提示します。  ※第2回～4回は集中講義(古井担当)です。  *ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更する事もあります。								
ナンバリング	NRAM3006								

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	98730				
科目	9873 公衆衛生看護学演習 I		授業種別	週間授業				
担当教員	小俣 由佳		単位数	1				
その他担当者	鈴木 知代							
授業概要	公衆衛生保健指導論で学んだ理論や技術に基づき、地域で生活する個人・家族・集団に対して展開される公衆衛生看護活動の実際を発達段階別、健康障害別に演習を通して学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして演習等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎		○		○	
到達目標	1. 発達段階別、健康障害別のそれぞれの対象者に応じた公衆衛生看護の支援方法について説明できる。 2. 対象者の特性に応じた公衆衛生看護活動を実践するための基本的技術を修得できる。							
テキスト(教科書)	標美奈子 他著 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 ISBN978-4260047074 中村裕美子 他著 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 ISBN978-4260050029 中台芳美他 著 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 ISBN978-4260031875 厚生省の指標 増刊「国民衛生の動向」2022/2023 厚生労働統計協会							
参考書および参考文献	井伊久美子 他著 新版 保健師業務要覧 第4版 2023年版 日本看護協会出版会 ISBN978-4818025615 岸恵美子 他著 保健学講座2 公衆衛生看護支援技術 メチカルフレンド社 ISBN978-4839221898 岸恵美子 他著 保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論 メチカルフレンド社 ISBN978-4839221904 その他に、授業内容をより理解を深めることに役立つ参考書や動画等インターネットコンテンツを授業内で適宜紹介する。							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業前に、授業のテーマに該当するテキストの内容や指定した資料を熟読する。 (第1、2、3、4、7、8、12、14回/30分程度) ②授業後に、授業での学びを整理する。 (第1～15回/30分程度)。 ③授業内で学修すべき内容の課題がある場合には、事前に調べて授業に臨む。 (第5、6、9、10、11、13、15回/60分程度)							
成績評価								
原則として毎回出席すること。演習課題、プレゼンテーション内容、授業への取り組みから評価する。 なお、遅刻、早退・劣悪な受講態度については減点の対象とする場合がある。								
評価項目	割合	評価基準						
演習課題	50%	課題に対して、適切な内容・記述になっているかを評価する。						
プレゼンテーション内容	30%	演習におけるプレゼンテーションの内容から、理解度を確認する。						
授業への取り組み	20%	個人ワークおよびグループワークへの取り組み状況について評価する。						
授業の実施方法と授業計画	演習は小グループに分かれて実施する。演習課題の発表に対するフィードバックは授業内で行い、提出物については、コメントを入れ授業後に返却する。 第01回 公衆衛生看護における保健指導(講義)(小俣) ・公衆衛生看護における保健指導の目的および保健師が行う保健指導の特徴について学ぶ。 第02回 保健指導で活用できる理論(講義)(小俣) ・保健指導で活用できる理論について学ぶ。 第03回 保健指導の展開(講義)(小俣) ・保健指導の展開方法について学ぶ。 第04回 母子保健活動:新生児訪問事例演習①(演習:グループワーク)(小俣) ・事例対象者のアセスメントを行い、支援計画を立案する。 第05回 母子保健活動:新生児訪問事例演習②(演習:グループワーク)(小俣) ・立案した支援計画に基づきロールプレイングのシナリオを作成し技術練習をする。 第06回 母子保健活動:新生児訪問事例演習③(演習:グループワーク・発表)(担当者全員) ・立案した支援計画およびシナリオに基づきロールプレイングの発表をする。 第07回 高齢者保健活動:グループ支援事例演習(演習:グループワーク)(小俣) ・事例に基づきグループ支援について学ぶ。 第08回 成人保健活動:保健指導事例演習①(演習:グループワーク)(小俣) ・事例対象者のアセスメントを行い、支援計画を立案する。 第09回 成人保健活動:保健指導事例演習②(演習:グループワーク)(小俣) ・立案した支援計画に基づきロールプレイングのシナリオおよび媒体を作成する。 第10回 成人保健活動:保健指導事例演習③(演習:グループワーク)(小俣) ・立案した支援計画およびシナリオに基づきロールプレイングの技術練習をする。 第11回 成人保健活動:保健指導事例演習④(演習:グループワーク・発表)(担当者全員) ・立案した支援計画およびシナリオに基づきロールプレイングの発表をする。 第12回 難病保健活動:難病事例演習①(演習:グループワーク)(小俣) ・事例対象者のアセスメントを行い、支援方法を検討する。 第13回 難病保健活動(2):難病事例演習②(演習:グループワーク・発表)(担当者全員) ・事例対象者のアセスメントおよび支援方法を発表する。 第14回 感染症保健活動:結核事例演習①(演習:グループワーク)(小俣) ・事例対象者のアセスメントを行い、支援方法を検討する。 第15回 感染症保健活動:結核事例演習②(演習:グループワーク・発表)(担当者全員) ・事例対象者のアセスメントおよび支援方法を発表する。 *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRCM3013							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	98740				
科目	9874 公衆衛生看護学演習Ⅱ		授業種別	週間授業				
担当教員	小侯 由佳		単位数	1				
その他担当者	鈴木 知代							
授業概要	<p>地区診断・地区活動論で学んだ理論や技術・方法に基づき、地域を対象とした公衆衛生看護活動において基盤となる地域アセスメント(地域診断)の技術について演習を通して学ぶ。本科目では、実在する地域(実習市町村)の健康課題を見出すプロセスを体験的に学ぶことを通じて、地域アセスメント(地域診断)を適切に実施できる基礎的能力を養う。</p> <p>また、公衆衛生保健指導論および公衆衛生看護学演習Ⅰで学んだ理論や技術に基づき、個人・家族を対象とした公衆衛生看護活動において用いる保健指導の技術について演習を通して学ぶ。本科目では、乳幼児健康診査の問診を体験的に学ぶことを通じて、保健指導に必要とされる基礎的能力を養う。</p> <p>※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして演習等を行う科目である。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎		○		○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域を対象とした公衆衛生看護活動において基盤となる地域アセスメント(地域診断)を展開することができる。</li> <li>2) 対象となる地域(実習市町村)の人々の健康と生活に関する情報を多角的に収集できる。</li> <li>3) 対象となる地域(実習市町村)の特性を明らかにすることができる。</li> <li>4) 対象となる地域(実習市町村)の健康課題とその要因を明らかにすることができる。</li> <li>5) 個人・家族を対象とした公衆衛生看護活動において必要とされる情報を対象者にあわせて適切に収集できる。</li> <li>6) 乳幼児健康診査の目的および検査項目に応じた情報収集ができる。</li> <li>7) 乳幼児健康診査の問診を対象者にあわせて方法で適切に実施することができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>標美奈子 他著 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 医学書院 ISBN978-4260047074  中谷裕美子 他著 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 医学書院 ISBN978-4260038706  中谷芳美他 著 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 医学書院 ISBN978-4260031875</p>							
参考書および参考文献	<p>厚生省の指標 増刊「国民衛生の動向」2022/2023 厚生労働統計協会  井伊久美子 他著 新版 保健師業務要覧 第4版 2023年版 日本看護協会出版会 ISBN978-4818025615  佐伯和子他編 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版 医歯薬出版 ISBN978-4263237106  その他、授業内容をより深めることに役立つ参考書、動画やインターネットコンテンツ等、授業内で適宜紹介する。</p>							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 授業前には、授業のテーマに該当するテキストの内容や指定した資料を熟読する。 (第1、12回/30分程度)</li> <li>② 授業後には、授業での学びを整理する。 (第1～15回/30分程度)。</li> <li>③ 授業内で学修すべき内容の課題がある場合には、事前に調べて授業に臨む。 (第2～11、13～15回/60分程度)</li> </ol>							
成績評価	原則として毎回出席すること。演習課題、プレゼンテーション内容、授業への取り組みから評価する。なお、遅刻、早退、劣悪な受講態度については減点の対象とする場合がある。							
評価項目	割合	評価基準						
演習課題	50%	課題に対して、適切な内容・記述になっているかについて評価する。						
プレゼンテーション内容	30%	演習におけるプレゼンテーションの内容から、理解度を確認する。						
授業への取り組み	20%	個人ワークおよびグループワークへの取り組み状況について評価する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>演習は小グループに分かれて実施する。演習課題の発表に対するフィードバックは授業内でを行い、提出物については、コメントを入れ授業後に返却する。</p> <p>第01回 公衆衛生看護活動の展開における地域アセスメント(講義)(小侯)  第02回 地域アセスメント(1)〈演習:グループワーク〉(小侯):地域の概況の把握  第03回 地域アセスメント(2)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・地域に暮らす人々に関するアセスメント①:歴史、人口統計等  第04回 地域アセスメント(3)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・地域に暮らす人々に関するアセスメント②:人口統計、住民の様子、価値観と信条等  第05回 地域アセスメント(4)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・地域を構成する要素に関するアセスメント③:物理的環境、経済、政治と行政等  第06回 地域アセスメント(5)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・地域を構成する要素に関するアセスメント④:教育、安全と交通、コミュニケーション、レクリエーション等  第07回 地域アセスメント(6)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・地域を構成する要素に関するアセスメント⑤:保健医療と社会福祉等  第08回 地域アセスメント(7)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・地域特性の明確化  第09回 地域アセスメント(8)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・地域の健康課題の抽出  第10回 地域アセスメント(9)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・第11回に実施する発表の準備  第11回 地域アセスメント(10)〈演習:グループワーク・発表〉(担当者全員)  ・地域アセスメント演習の成果を発表:学生によるグループでのプレゼンテーション  第12回 乳幼児健康診査問診(1)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・問診事例対象者のアセスメント  第13回 乳幼児健康診査問診(2)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・問診のロールプレイのシナリオ作成  第14回 乳幼児健康診査問診(3)〈演習:グループワーク〉(小侯)  ・問診の技術練習  第15回 乳幼児健康診査問診(4)〈演習:グループワーク・発表〉(担当者全員)  ・問診のロールプレイ発表:学生によるグループでのプレゼンテーション</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>							
ナンバリング	NRCM4017							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期～秋学期				授業コード	98710		
科目	9871 公衆衛生看護学実習Ⅰ(行政)				授業種別	春学期(実習)、秋学期(実習)		
担当教員	小俣 由佳				単位数	4		
その他担当者	鈴木 知代							
授業概要	<p>県保健所及びその管轄市町村、または中核市で実習を行い、地域の人々の健康の保持増進、健康障害の予防と回復を促進する公衆衛生看護について、その役割および展開プロセスを理解し、実践に必要な基礎的能力を養う。※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして演習等を行う科目である。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の人々の健康を保持増進し、健康障害を予防する仕組みと行政における保健師の役割を説明できる。</li> <li>2. 地域の健康課題に対応するための公衆衛生看護活動の展開プロセスを理解し、地域アセスメント(地域診断)を基に地域の健康課題を見出し、解決・改善するための計画を立案できる。</li> <li>3. 家庭訪問において、支援の展開プロセスを理解し、対象者(個人/家族)の健康課題の解決・改善に向けた支援計画を立案できる。</li> <li>4. 健康教育において、その展開プロセスを理解し、対象者(集団/組織)の健康課題に応じた健康教育を計画立案し、指導案を作成し、実施・評価できる。</li> <li>5. 健康診断の問診を対象者(個人/家族)にあわせて適切に実施できる。</li> <li>6. 看護学生として責任ある行動がとれ、主体的に実習に取り組むことができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	公衆衛生看護学の講義・演習で使用したテキスト							
参考書および参考文献	公衆衛生看護学の講義・演習で使用したもの							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習事前課題を指定された期日までに行う。</li> <li>2. 実習事前オリエンテーション(学内・学外)に参加する。</li> <li>3. 実習事前、担当教員の指導のもと、実習で実施する健康教育の計画書(案)を作成する。</li> <li>4. 実習で参加・見学する保健事業等については、事前学修として、法的根拠、目的、内容等を調べ、これまでの公衆衛生看護学の講義・演習で学んだ内容を再確認し、学生の実習目標を設定する。また、事後学修として、学修した内容について、文献等を活用し実習記録用紙に整理して記録する。</li> </ol>							
成績評価	<p>実習内容・実習記録、実習への取り組みから評価する。 なお、遅刻・早退・劣悪な受講態度については減点の対象とする場合がある。</p>							
評価項目	割合	評価基準						
実習内容・実習記録	90%	実習評価表に基づき評価する。						
実習への取り組み	10%	実習評価表に基づき評価する。						
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内での事前オリエンテーションに参加する。</li> <li>・実習施設での事前オリエンテーションに参加する。</li> </ul> </li> <li>2. 実習施設・実習期間 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県保健所(1週間)及びその管轄市町村(3週間)で4週間、または中核市で4週間の実習をする。</li> </ul> </li> <li>3. 実習計画:実習は2～3名のグループで行う。臨地実習スケジュールは実習開始前までに提示する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 臨地実習の内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健事業等の実習</li> <li>・家庭訪問の見学・支援計画立案、乳幼児健康診査の見学・問診実施、健康相談の見学</li> <li>・健康教育の実施、組織活動の見学・参加、各種健康診査・健康教室等の見学・参加</li> <li>・連携調整会議への参加、健康危機管理等</li> </ul> </li> <li>(2) 地域アセスメント(地域診断)及び事業計画の立案</li> <li>(3) カンファレンスの実施:毎日のカンファレンス、中間・最終カンファレンス</li> </ol> </li> <li>2) 学内実習の内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 実習1週目の金曜日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンス(学びの共有や情報交換等)、記録の整理、面談</li> <li>・地域アセスメント(地域診断)や健康教育に関する学修等</li> </ul> </li> <li>(2) 実習2・3週目の金曜日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンス(学生間でテーマを設定)、記録の整理、面談</li> <li>・地域アセスメント(地域診断)や健康教育に関する学修等</li> </ul> </li> <li>(3) 実習4週目の金曜日 <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンス(学びの共有)、記録の整理、面談等</li> <li>・地域アセスメント(地域診断)及び事業計画の発表</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> <p>※実習記録については、実習指導者及び教員が内容を確認し、コメントを入れて返却する。 また、地域アセスメント(地域診断)及び事業計画の発表、健康教育の実施、問診の実施に対するフィードバックは実習期間内に行う。</p>							
ナンバリング	NRDM4010							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期～秋学期		授業コード	98720				
科目	9872 公衆衛生看護学実習Ⅱ (学校・産業)		授業種別	春学期 (実習)、秋学期 (実習)				
担当教員	鈴木 知代		単位数	1				
その他担当者	蒔田 寛子、小俣 由佳							
授業概要	<p>1. 学校保健実習 小学校・中学校・高等学校で実習を行い、児童・生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるために行われる保健教育や保健管理、保健組織活動等の実際を体験的に学び、学校保健活動とその中での養護教諭の役割や活動について学ぶ。</p> <p>2. 産業保健実習 事業所で実習を行い、労働の場において、人々が健康で安全に働くことができるための労働衛生管理の体制と活動の内容・方法の実際を体験的に学び、産業保健活動とその中での看護職の役割と活動について学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する公衆衛生看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし行う科目である。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○			○	
到達目標	<p>1. 学校保健実習 1) 学校保健の概要について説明できる。 2) 学校保健における保健教育、保健管理、保健組織活動等の実際とその中での養護教諭の活動について説明できる。 3) 児童・生徒の健康や生活上の課題に対する養護教諭の活動の実際を説明できる。 4) 目的意識を持ち、主体的に実習に取り組むことができる。</p> <p>2. 産業保健実習 1) 産業保健の概要について説明できる。 2) 事業所の安全衛生管理の体制・活動とその中での看護職の活動について説明できる。 3) 事業所の健康課題への対策と看護職の活動の実際を説明できる。 4) 目的意識を持ち、主体的に実習に取り組むことができる。</p>							
テキスト (教科書)	公衆衛生看護学の講義・演習で使用したテキスト							
参考書および参考文献	公衆衛生看護学の講義・演習で使用したもの							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修 (内容・時間)	<p>*実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。</p> <p>1. 実習で参加・見学する保健活動については、事前にその根拠法、目的、内容等を事前に調べ、実習目標を設定すること。 2. 実習で学修した内容については、文献等を活用しまとめること。</p>							
成績評価	原則としてすべての実習に出席すること。実習の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な実習態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目	割合	評価基準						
実習到達度、実習記録の内容	80%	実習評価表に基づき評価する。						
実習への取り組み	20%	事前課題の内容、目的の明確さ、カンファレンスの参加度、主体性等						
授業の実施方法と授業計画	<p>実習内容・実習記録については臨地での実習指導や学内の面談などにフィードバックを行う。</p> <p>1. 学校保健実習 1) 事前オリエンテーション (1) 学内での事前オリエンテーションに参加する。 (2) 事前課題を教員に提出し、指導を受ける。 (3) 実習施設に事前訪問を行い、実習の打合せを行う。 ①事前訪問は、実習開始1か月前頃までに学生が実習施設に連絡をして、日程調整を行った上で訪問する。 ②実習施設を事前訪問して、実習内容等の打合せを行い実習の準備をする。 2) 実習施設 (小学校・中学校・高等学校) で実習を行う。 3) 実習評価を行い、記録を整理し、教員に提出する。 4) 実習の学びについて、実習施設に報告する。</p> <p>2. 産業保健実習 1) 学内での事前オリエンテーションに参加する。 2) 事前課題を教員に提出し、指導を受ける。 3) 実習施設 (事業所) で実習を行う。 4) 実習評価を行い、記録を整理し、教員に提出する。</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>							
ナンバリング	NRDM4011							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期			授業コード	97770			
科目	9777 地域母子保健			授業種別	週間授業			
担当教員	鈴木 知代			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	地域母子保健を推進するために必要な基礎的知識として、母子保健の理念や母子保健施策・児童福祉施策について理解する。さらに、母子保健における健康課題を把握し、親子への支援、母子保健医療福祉チームの一員として、連携・協働に必要な能力を養う。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその経験を活かし講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	△	◎	◎	○	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母子保健を取り巻く状況と課題について説明できる。</li> <li>2. わが国の母子保健・児童福祉行政体系を把握し、展開されている母子保健や福祉の制度について説明できる。</li> <li>3. 周産期から乳幼時期にかけての親子関係の課題とその支援について説明できる。</li> <li>4. 地域で展開されている様々な母子保健活動の特徴や内容を把握し、助産師が果たすべき役割について考察できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	我部山キヨ子:助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健第5版 医学書院。 ISBN978-4-260-02191-3							
参考書および参考文献	厚生労働統計協会:厚生指 標 増刊 国民衛生の動向 第69巻9号, 2022/2023。 ※適宜、授業時に紹介する。							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	①授業内で提示する内容について事前に調べて授業に参加すること(第1~8回/60分程度)。 ②授業後は、深める内容について提示するため、それについてまとめること(第1~8回/60分程度)。							
成績評価								
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。課題レポート、授業への取り組み状況で総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。								
評価項目		割合	評価基準					
母子保健の課題・対策レポート		30%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。					
最終課題レポート		50%	課題に対する適切な内容・論旨の一貫性、助産師役割の考察などを評価する。					
授業への取り組み		20%	グループディスカッションへの参加度、発表内容、発言内容など。					
授業の実施方法と授業計画	<p>課題については、授業の中でフィードバックを行う。</p> <p>第1回(講義) 地域母子保健の理念  第2回(講義) 地域母子保健に関する指標と動向  第3回(講義) 母子保健・児童福祉に関する制度  第4回(講義・演習) 地域母子保健(親子保健)における健康課題1:  周産期ハイリスク母子の早期支援と地域支援体制整備について  第5回(講義・演習) 地域母子保健(親子保健)における健康課題2:  乳幼児健康診査における育児支援と子育て支援体制の充実について  第6回(講義・演習) 地域母子保健(親子保健)における健康課題3:  児童虐待の予防・早期発見・早期対応システムづくりについて  第7回(講義) 地域母子保健に活用できる理念・モデル・アプローチの方法  第8回(講義) 地域母子保健活動の展開</p> <p>※ただし、上記授業計画は受講学生の習熟度や状況により授業計画を変更することもある。</p>							
ナンバリング	NREM3012							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	977A0				
科目	977A 助産診断・技術学Ⅰ		授業種別	週間授業				
担当教員	大林 陽子		単位数	2				
その他担当者	石田 都乃							
授業概要	妊婦・産褥・新生児期の助産診断過程を展開するのに必要な妊婦・産褥・新生児の特性と看護に関する基礎的知識・技術を学び、事例による助産診断過程展開技術を修得する。また、親役割の準備・獲得、家族システムの変化に対応した女性と家族の支援に必要な知識・技術を学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	△	○		◎			
到達目標	1. 妊娠各期の事例の母体・胎児の身体・心理社会的特性をアセスメントし、状態に応じた助産診断、計画立案ができる 2. 産褥の事例の身体（退行性・進行性変化）・心理社会的特性をアセスメントし、状態に応じた助産診断、計画立案ができる 3. 新生児の事例の生理的変化の特性をアセスメントし、状態に応じた助産診断、計画立案ができる							
テキスト(教科書)	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042086 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042109 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 第6版、石井邦子他編、医学書院、ISBN9784260042192 病気がみえる vol.1.0 産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137 マタニティ診断ガイドブック 第6版、日本助産診断実践学会編集、医学書院、ISBN9784260043298							
参考書および参考文献	助産学講座3 母子の健康科学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260049917 助産学講座4 母子の心理・社会学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260021869 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、ISBN9784260043243 産婦人科診療ガイドライン産科編2020 ISBN9784907890186 母乳育児支援スタンダード 第2版、ISBN9784260020701 助産学講座3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学 第6版、ISBN9784260049917 助産学講座4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 第6版、ISBN9784260021869							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う <事前学修> 1. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成する(60分) 2. 1.の過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む <事後学修> 1. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する(60分)							
成績評価	課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する							
評価項目		割合	評価基準					
課題レポート		60%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
ディスカッション内容		40%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 助産診断と助産過程(妊娠・産褥・新生児期) 第2回 (演習) 妊娠期の助産診断① 第3回 (演習) 妊娠期の助産診断② 第4回 (講義・演習) 妊娠期の助産診断③ ディスカッション 第5回 (演習) 妊娠期の助産診断④ 第6回 (演習) 妊娠期の助産診断⑤ 第7回 (講義・演習) 妊娠期の助産診断⑥ ディスカッション 第8回 (演習) 産褥期の助産診断① 退行性変化 第9回 (講義・演習) 産褥期の助産診断② 退行性変化 ディスカッション 第10回 (演習) 産褥期の助産診断③ 進行性変化、心理社会的変化 第11回 (演習) 産褥期の助産診断④ 進行性変化、心理社会的変化 第12回 (講義・演習) 産褥期の助産診断⑤ 進行性変化、心理社会的変化 ディスカッション 第13回 (演習) 新生児期の助産診断① 第14回 (演習) 新生児期の助産診断② 第15回 (講義・演習) 新生児期の助産診断③ ディスカッション  *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *課題やリアクションペーパーの質疑内容については、授業の中でフィードバックする。							
ナンバリング	NRBM3013							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	977B0			
科目	977B 助産診断・技術学Ⅱ			授業種別	週間授業			
担当教員	大林 陽子			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	<p>生殖医療の基礎的知識について学ぶ。ハイリスク妊娠・分娩、妊娠・分娩・産褥期の母子の異常の病態、診断・検査・治療、胎児・新生児の疾患の病態、診断・治療に関する基礎的知識を学ぶ。また、合併症をもつ妊婦・産婦、褥婦の病態、診断・治療、検査について理解し、正常経過を逸脱した妊産婦・新生児の助産実践に必要な知識・助産ケア、母体、胎児・新生児の異常、緊急時の対応について学ぶ。女性のライフサイクル各期の内分泌動態、婦人科疾患について学ぶ。 ※この科目は当該授業内容に関する医師または助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義などを行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○		◎		○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生殖医療の基礎的知識について説明できる</li> <li>2. ハイリスク妊娠、妊娠期の異常の診断と治療について説明できる</li> <li>3. 分娩の異常の診断と治療について説明できる</li> <li>4. 胎児・新生児の疾患と治療について説明できる</li> <li>5. 婦人科疾患について説明できる</li> <li>6. ハイリスク妊娠、異常妊娠、ハイリスク分娩、異常分娩の助産診断と助産ケアについて説明できる</li> <li>7. 産褥期の異常の助産診断と助産ケアについて説明できる</li> <li>8. 不妊症の夫婦の看護について説明できる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>助産診断・技術学Ⅱ(1) 妊娠期 第6版、医学書院、ISBN9784260042086  助産診断・技術学Ⅱ(2) 分娩期・産褥期 第6版、医学書院、ISBN9784260042109  助産診断・技術学Ⅱ(3) 新生児期・乳幼児期 第6版、医学書院、ISBN9784260042192  病気がみえるvol.10産科 第4版、ISBN9784896327137  母子の基礎科学 第6版、医学書院、ISBN9784260042028  母子の健康科学 第6版、医学書院、ISBN9784260049917  母子の心理・社会学 第6版、医学書院、ISBN9784260021869  産婦人科診療ガイドライン産科編2020、ISBN9784907890186</p>							
参考書および参考文献	<p>最新産科学 正常編 改訂第22版、荒木勲、文光堂、ISBN9784830631191  最新産科学 異常編 改訂第22版、荒木勲、文光堂、ISBN9784830631214  病気がみえるvol.9婦人科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327120  系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器、末岡浩、医学書院、ISBN9784260035675</p>							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う  &lt;事前学修&gt;  毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1～15回/30分程度)  &lt;事後学修&gt;  毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1～15回/30分程度)</p>							
成績評価	筆記試験と課題レポート内容を総合的に評価する							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		90%	筆記試験により理解度を確認する					
課題レポート		10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の診断と治療(薬剤・検査含む)(河合医師)  妊娠期の感染症・性行為感染症、悪阻、異所性妊娠、HDP、流産症、多胎  第2回 (講義) 妊娠期の異常・ハイリスク妊娠の診断と治療(薬剤・検査含む)(鈴木医師)  婦人科疾患合併症妊娠、感染症、子宮奇形、胎腫、卵巣腫瘍、絨毛性疾患、胎盤位置異常、常位胎盤早期剥離  第3回 師) 合併症妊娠、悪性腫瘍、絨毛性疾患、胎盤位置異常、常位胎盤早期剥離 (講義) 偶発疾患・分娩期の異常の診断と治療(薬剤、産科手術と麻酔、産科医療と救急の処置) (諸井医師)  第4回 師) 分娩3要素、超音波診断、胎児心拍数モニタリング、産科手術 (講義) 産褥期の異常・偶発疾患の診断と治療(薬剤含む)(嶋谷医師)  産科危機的出血、産科ショック、救急処置  第5回 (講義) ライフサイクル期における婦人科疾患(山田医師)  第6回 (講義) 胎児・新生児の疾患と治療(薬剤、新生児の蘇生含む)(村松医師)  第7回 (講義) 胎児・新生児の疾患と治療(薬剤、新生児の蘇生含む)(村松医師)  第8回 (講義) 胎児・新生児の疾患と治療(薬剤、新生児の蘇生含む)(村松医師)  第9回 生殖医療(安藤医師)  第10回 (講義) ハイリスク妊婦の助産診断と助産ケア(妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、多胎妊娠)(大林)  第11回 (講義) ハイリスク産婦の助産診断と助産ケア(常位胎盤早期剥離、産科危機的出血、産科ショック、羊水塞栓症)(大林)  第12回 (講義) 異常分娩の助産診断と助産ケア(回旋異常、分娩遅延、胎児機能不全、急速速産)(大林)  第13回 (講義) 産褥期の異常の助産診断と助産ケア(大林)  第14回 (講義) ヘリネイタルロスのケア(大林)  第15回 (講義) 不妊症の夫婦と看護(大林)</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画、内容・日程を変更することもある。  *課題やリアクションペーパーの質疑内容については、授業の中でフィードバックする。</p>							
ナンバリング	NRBM3014							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	977C0			
科目	977C 助産診断・技術学Ⅲ			授業種別	週間授業			
担当教員	大林 陽子			単位数	2			
その他担当者	大石 和子							
授業概要	<p>分娩3要素、分娩機序、分娩経過に関する基礎的知識を学び、分娩期の母体・胎児の身体・心理社会的特性とニーズと状態に応じた助産ケアについて学ぶ。また、その知識をもとに分娩期の事例の状態に応じた助産診断過程展開技術を修得する。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習などを行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		◎		◎		○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩の3要素、分娩機序、分娩経過について説明できる</li> <li>2. 分娩の進行に伴う母体・胎児の身体・心理的变化について説明できる</li> <li>3. 分娩期の産婦が分娩を正常に経過でき、主体的に分娩に臨むために必要な知識・技術を修得できる</li> <li>4. 分娩期の産婦事例の状態をアセスメントし、分娩3要素の分娩促進・阻害因子をふまえて状態に応じた助産診断ができ、分娩進行を促進する助産ケア計画を立案できる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042086</p> <p>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042109</p> <p>助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 第6版、石井邦子他編、医学書院、ISBN9784260042192</p> <p>病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137</p> <p>マタニティ診断ガイドブック 第6版、日本助産診断実践学会編集、医学書院、ISBN9784260043298</p>							
参考書および参考文献	<p>正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合、進純郎他、医学書院、9784260010825</p> <p>分娩介助学 第2版、進純郎、医学書院、ISBN9784260018869</p> <p>助産学講座3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260049917</p> <p>助産学講座4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260021869</p> <p>産婦人科診療ガイドライン産科編2020、日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修、ISBN9784907890186</p>							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60～90分程度行う&lt;事前学修&gt;</p> <p>1. 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第2～8回/30分程度)</p> <p>2. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成し、その過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む(第1.9～15回/60分程度)</p> <p>&lt;事後学修&gt;</p> <p>1. 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第2～8回/30分程度)</p> <p>2. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する(第1.9～15回/30分程度)</p>							
成績評価	筆記試験と課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		50%	筆記試験にて理解度を確認する					
課題レポート・ディスカッション内容		50%	課題に対する適切な内容・記述、ディスカッション内容になっているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) 分娩期の助産診断と助産過程(大林)</p> <p>第2回 (講義) 分娩の定義と種類、分娩3要素(大石)</p> <p>第3回 (講義) 分娩が母体・胎児に及ぼす影響(大石)</p> <p>第4回 (講義) 正常な分娩経過(大石)</p> <p>第5回 (講義) 正常分娩からの逸脱の診断(大石)</p> <p>第6回 (講義) ハイリスク分娩に伴う助産師の対応(大石)</p> <p>第7回 (講義) 分娩期の身体・心理社会的変化と助産ケア①(大石)</p> <p>第8回 (講義) 分娩期の身体・心理社会的変化と助産ケア②(大石)</p> <p>第9回 (講義・演習) 分娩期の助産診断①(大林)</p> <p>第10回 (講義・演習) 分娩期の助産診断②(大林)</p> <p>第11回 (講義・演習) 分娩期の助産診断③(大林)</p> <p>第12回 (講義・演習) 分娩期の助産診断④(大林)</p> <p>第13回 (講義・演習) 分娩期の助産診断⑤(大林)</p> <p>第14回 (講義・演習) 分娩期の助産診断⑥(大林)</p> <p>第15回 (講義・演習) 分娩期の助産診断⑦(大林)</p> <p>＊ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p> <p>＊課題やリアクションペーパーの質疑内容については、授業の中でフィードバックする。</p>							
ナンバリング	NRCM3014							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	97790				
科目	9779 助産管理		授業種別	週間授業				
担当教員	大林 陽子		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	<p>助産管理の基本と助産業務管理の基礎的知識、助産業務遂行にあたり必要な関係法規と助産師の義務・責任について学ぶ。また、周産期医療体制と地域連携の実際を理解し、周産期医療の現状と課題について学ぶ。さらに、助産に関する医療安全と危機管理について学び、場に応じた助産業務管理を学び、院内助産・院内助産院、および、助産所の助産業務管理に必要な基礎的知識を修得する。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	△	◎	△	◎	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 助産管理の基本と助産業務管理の過程・方法・医療経済について説明できる</li> <li>2. 助産業務の関係法規と助産師の法的責任と義務について説明できる</li> <li>3. 周産期医療体制の概要とネットワーク、チーム医療と職種間・地域の連携について説明できる</li> <li>4. 助産師が行う安全対策と医療事故防止、災害対策について説明できる</li> <li>5. 周産期棟・混合病棟、院内助産・院内助産院、助産師外來の管理について説明できる</li> <li>6. 助産所の管理・運営、関係法規について説明できる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	助産学講座10 助産管理 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260047098							
参考書および参考文献	<p>助産所業務ガイドライン2019、日本助産師会助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会編集・監修、日本助産師会出版、ISBN9784905023289</p> <p>産婦人科診療ガイドライン産科編2020、日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修、ISBN9784907890186</p> <p>助産師業務要覧 基礎編、福井トシ子編、日本看護協会出版会</p> <p>助産師業務要覧 実践編、福井トシ子編、日本看護協会出版会</p> <p>助産師業務要覧 アドバンス編、福井トシ子編、日本看護協会出版会</p> <p>助産所開業マニュアル2021-解説・管理・運営-、日本助産師会出版、ISBN9784905023364</p>							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う。</p> <p>&lt;事前学修&gt; 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1~8回/30分程度)</p> <p>&lt;事後学修&gt; 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1~8回/30分程度)</p>							
成績評価	筆記試験と課題レポートにより総合的に評価する							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	80%	筆記試験により理解度を確認する						
課題レポート	20%	課題に対する適切な内容・記述になっているか評価する						
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) 助産管理の基本と助産業務管理</p> <p>第2回 (講義) 関係法規と助産師の義務・責任</p> <p>第3回 (講義) 助産師の業務の実際①</p> <p>第4回 (講義) 助産師の業務の実際②</p> <p>第5回 (講義) 助産師の業務の実際③</p> <p>第6回 (講義) 助産所における助産業務管理(外部講師)</p> <p>第7回 (講義) 周産期医療体制と地域連携、助産に関する医療安全と危機管理</p> <p>第8回 (講義) 場に応じた助産業務管理</p> <p>* 学修の進捗状況により変更する場合もある。また、第3~5回の内容は、地域における助産師活動に参加する場合がある。</p> <p>* 課題やリアクションペーパーの質疑内容については、授業の中でフィードバックする。</p>							
ナンバリング	NRFM3011							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	977E0				
科目	977E 助産学実習Ⅰ		授業種別	実習				
担当教員	石田 都乃		単位数	1				
その他担当者	大林 陽子							
授業概要	<p>地域における母子保健ニーズ（思春期など）を理解し、対象に応じた学級活動の企画・運営・評価をととして、地域とのつながりの中で助産師が行う小集団活動を学ぶ。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	
到達目標	<p>1.健康教育の理論に基づいて、性と生殖に関する健康およびその健康教育の内容について説明できる。</p> <p>2.健康教育の対象を理解し、対象のニーズに応じた健康教育を企画・運営できる。</p> <p>3.実施した健康教育を評価し、課題を考察できる。</p>							
テキスト(教科書)	助産学講座5 助産診断・技術学1(第6版) 堀内茂子,医学書院,2021.ISBN978-4-260-04226-0							
参考書および参考文献	<p>思春期指導実践マニュアル,日本助産師出版会,2012,ISBN 9784905023111</p> <p>助産師基礎教育テキスト第2巻,ウイメンズヘルスケア,吉沢豊予子,日本看護協会出版会,2022年版,ISBN 978-4-8180-2372-7</p> <p>助産師のための思春期の健康教育,日本助産師会保健指導部会委員会,日本助産師会出版,2020,ISBN:978-4-905023-31-9</p> <p>助産師のための性教育実践ガイド,川島広江,大石時子:医学書院,2005,ISBN784260000918</p> <p>看護のための人間発達学 第5版,舟島なをみ,医学書院,2017,ISBN 978-4-260-02875-2</p>							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。</p> <p>事前学習:実習オリエンテーション時に伝える。</p> <p>事後学修:学修した内容について文献等を活用し整理する。</p>							
成績評価								
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する								
評価項目	割合	評価基準						
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	評価表に基づき評価する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>事前オリエンテーション:1日間</p> <p>①全体オリエンテーション</p> <p>②健康教育について</p> <p>健康教育の企画・運営:3日間</p> <p>①健康教育の理論に基づき、健康教育の企画・運営を行う(健康教育に必要な教材・媒体等の考案・作成を行う)</p> <p>健康教育の実施・評価:1日間</p> <p>①リハーサル・修正</p> <p>②健康教育の実施・評価(短期大学部 幼児教育・保育科との連携)</p> <p>*実習終了時、記録提出、担当教員との面談による学修内容のフィードバック</p> <p>※ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>							
ナンバリング	NRCM3015							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	977F0				
科目	977F 助産学実習Ⅱ		授業種別	実習				
担当教員	大林 陽子		単位数	3				
その他担当者	石田 都乃							
授業概要	助産実践に必要な概念や理論、助産学の知識・技術をもとに、科学的根拠に基づいて助産実践できる専門職業人としての基礎的能力を養う。主に、妊娠・分娩・産褥・新生児期までの対象を妊娠期から継続して受け持ち、継続的かつ個別性のある助産診断過程を展開し、母子とその家族の支援に必要な基礎的能力を養う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	○	◎	
到達目標	<p>妊娠期から産後・生後1か月健康診査まで継続して一組の母子を受け持ち、個別性のある助産診断過程展開、および、保健指導を実施できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期にある対象の健康診査を適切に実施し、結果に基づいて妊婦および家族に適切な助産ケア計画を立案し、保健指導を実施できる</li> <li>2. 分娩期にある対象を観察し、状態のアセスメントから状態に応じた助産診断・ケア計画立案・実施・評価ができる</li> <li>3. 産婦のむつ力を引き出し、分娩促進ケアを実施し、産後のパスレビューをとおして産婦の出産体験や自己の分娩ケアをふり振り返り評価できる</li> <li>4. 出生直後の新生児の観察、健康診査とケアを実施できる</li> <li>5. 産褥・新生児を適切に観察し、結果に基づいて産褥・新生児とその家族の状態・状況に応じた助産ケア計画を立案し、ケアを実施できる</li> <li>6. 産褥のセルフケア能力を高めるのに必要な育児の知識提供や技術支援（保健指導）を実施できる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>助産診断・技術学Ⅱ(1) 妊娠期 第6版、医学書院、ISBN9784260042086  助産診断・技術学Ⅱ(2) 分娩期・産褥期 第6版、医学書院、ISBN9784260042109  助産診断・技術学Ⅱ(3) 新生児期・乳幼児期 第6版、医学書院、ISBN9784260042192  病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137  根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版、石村由利子編、医学書院、ISBN9784260043243  マタニティ診断ガイドブック 第6版、日本助産診断実践学会編集、医学書院、ISBN9784260043298</p>							
参考書および参考文献	<p>産婦人科診療ガイドライン産科編2020、ISBN9784907890186  母乳育児支援スタンダード 第2版、ISBN9784260020701  正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷結合、進純郎他、医学書院、9784260010825  分娩助産学 第2版、進純郎、医学書院、ISBN9784260018869  基礎助産学(2) 母子の基礎科学 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN978426004208  基礎助産学(3) 母子の健康科学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260049917  基礎助産学(4) 母子の心理・社会学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260021869</p>							
受講条件	助産師選択コースの学生(4年次)							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補充内容については各自学修を行うこと。</p> <p>&lt;事前学修&gt;  1. 助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲ、助産技術学で学修した助産診断過程展開内容、各種保健指導計画を復習する</p> <p>2. 助産技術学で修得した分娩助産技術、出生直後の新生児のケアをくり返し演習し、根拠に基づく技術を確認し修得して実習に臨む</p> <p>&lt;事後学修&gt;  実習での学びと自己の課題を明確にする</p>							
成績評価								
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する								
評価項目	割合	評価基準						
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	実習評価表に則り評価する						
授業の実施方法及び授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間 3週間</li> <li>2. 実習施設 豊川市民病院、豊橋市民病院、聖隷三方原病院</li> <li>3. 実習内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病棟オリエンテーション(初日)</li> <li>2) 妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象(継続事例)を1名受け持ち、助産診断過程を展開する <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦健康診査・保健指導を実施する</li> <li>・分娩期助産ケア、分娩助産、出生直後の新生児ケアを実施する</li> <li>・分娩助産後に実習指導者および担当教員のフィードバックを受け、ふり振り返りと自己の課題を明確にする</li> </ul> </li> <li>3) 産褥・新生児の入院中の助産ケア、パスレビュー、保健指導を実施する <ul style="list-style-type: none"> <li>・2週間および1か月産後・生後健康診査を実施・見学する</li> <li>・母乳外来を見学する</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>3) 実習終了時、記録提出、担当教員との面談による学修内容のフィードバック</li> </ol>							
ナンバリング	NRDM4009							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期～秋学期		授業コード	977G0				
科目	977G 助産学実習Ⅲ		授業種別	春学期(実習)、秋学期(実習)				
担当教員	大林 陽子		単位数	7				
その他担当者	石田 都乃							
授業概要	助産実践に必要な概念や理論、助産学の知識・技術をもとに、科学的根拠に基づいて助産実践できる専門職業人としての基礎的能力を養う。主に、分娩期の対象を受け持ち、個別性のある助産診断過程を展開し、母子とその家族の支援に必要な基礎的能力を養う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	○	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 分娩期にある対象を観察し、母児の健康状態から分娩経過に影響する因子をふまえて助産診断過程を展開できる</li> <li>2. 分娩進行状態をアセスメントし、分娩の経過診断・予測のもとに助産ケア計画を立案できる</li> <li>3. 産婦の健康状態をアセスメントし、状態に応じた助産診断・ケア計画立案・実施・評価ができる</li> <li>4. 産婦のつらさを最大限に引き出し、分娩を促進するための助産ケアを適切に実施できる</li> <li>5. 母児の状態に合わせて安全に根拠に基づいて分娩を介助できる</li> <li>6. 出生直後の新生児の健康診査とケアを実施できる</li> <li>7. 産後のパースレビューをととして産婦の出産体験や自己の分娩ケアをふり振り返り評価できる</li> <li>8. 褥瘡・新生児の状態をアセスメントし、助産診断過程を展開できる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊産期 第6版、医学書院、ISBN9784260042086  助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 第6版、医学書院、ISBN9784260042109  助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 第6版、医学書院、ISBN9784260042192</p> <p>病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137  マタニティ診断ガイドブック 第6版、日本助産診断実践学会編集、医学書院、ISBN9784260043298</p>							
参考書および参考文献	<p>正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合、進純郎他、医学書院、9784260010825  分娩介助学 第2版、進純郎、医学書院、ISBN9784260018869  産婦人科診療ガイドライン産科編2020、日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集、監修、ISBN9784907890186  母乳育児支援スタンダード 第2版、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編集、ISBN9784260020701</p>							
受講条件	助産師選択コースの学生(4年次)							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。</p> <p>&lt;事前学修&gt;  1. 助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲ、助産技術学で学修した助産診断過程展開内容、各種保健指導計画を復習する  2. 助産技術学で修得した分娩介助技術、出生直後の新生児のケアをくり返し演習し、根拠に基づく技術を確実に修得して実習に臨む</p> <p>&lt;事後学修&gt;  実習での学びと自己の課題を明確にする</p>							
成績評価								
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度を総合的に評価する								
評価項目	割合	評価基準						
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	実習評価表に則り評価する						
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間 7週間</li> <li>2. 実習施設 豊川市民病院、豊橋市民病院、聖隷三方原病院</li> <li>3. 実習内容・方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 分娩期の対象を1名受け持ち、産婦の助産診断過程展開、および、分娩介助、出生直後の新生児の助産ケアを実施する(助産学実習中、計9例程度の分娩介助)</li> <li>2) 分娩介助後に実習指導者および担当教員のフィードバックを受け、ふり振り返りと自己の課題を明確にする</li> <li>3) 産褥・新生児のパースレビューを行い、できる限り入院中の助産ケア、保健指導を実施する</li> <li>4) 2週間および1か月産後、生後健康診査を実施・見学する</li> <li>5) 実習終了時、記録提出、担当教員との面談による学修内容のフィードバック</li> </ol> </li> </ol>							
ナンバリング	NREM4014							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	95171				
科目	9517 現代芸術論		授業種別	週間授業				
担当教員	加藤 克俊		単位数	2				
その他担当者								
授業概要	現代芸術と呼ばれる美術ジャンルは、様々な場所や機会において観ることができる。それは形あるものだけではなく、空間や概念などの鑑賞者の思考に所在するものまでも。この授業では現代芸術とどのように対峙し、どこに作品の魅力があるのか、鑑賞の仕方を学ぶ。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○		△				
到達目標	1. 美術鑑賞に興味を持つことができる。 2. 鑑賞と作家理解を通じ、様々な現象に対して多角的な解釈を試みることができる。 3. 人々は多様な価値観を持っている事を理解し、認めることができる。							
テキスト(教科書)	なし							
参考書および参考文献	適宜資料を用いる。							
受講条件	美術に興味を持っていること。まじめに授業に取り組むことができること。							
事前・事後学修(内容・時間)	予習・復習の内容(毎回120分程度) 毎回の授業計画にそって予習をすること。また、時間内に完成できなかったプリントや制作は、完成するまでごだわりを持って取り組むこと。							
成績評価	毎回の提出物50%と最終回の確認テスト50%で総合的に評価する。 なお、授業に集中できなかったり、周囲への迷惑となる行動をしたりし注意に従わない場合は、その授業を欠席扱いとすることがある。							
評価項目		割合	評価基準					
提出物		50%	授業で学んだことをプリントに記入したり、制作したりしたものを提出してもらいます。内容の理解度や、自身の考えをどれだけ深められ、示すことができているか見ます。					
確認テスト		50%	これまでに学んだことから問題を作成します。得点が評価となります。持ち込み不可。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 (講義) 現代芸術について 社会の中での表現行為 第2回 (講義) 絵画と非絵画 第3回 (講義) 美術館×国際展×パブリックアート 第4回 (演習) デートコースを考えよう 第5回 (講義) 抽象表現主義1 第6回 (演習) 抽象表現主義2(制作体験) 第7回 (講義) コンセプチュアルアート 概念芸術1 第8回 (演習) コンセプチュアルアート 概念芸術2(制作体験) 第9回 (講義) ミニマルリズム 第10回 (講義) ランドアート 第11回 (講義) ポップアート1 第12回 (演習) ポップアート2(制作体験) 第13回 (講義) ニューペインティング グラフィティアート 第14回 (講義) J 回帰 スーパーフラット 第15回 (講義) アールブリュット  ※提出物返却時にコメントし、大事なポイントとなる箇所については授業内で解説することでフィードバックする。 ※但し、受講学生の習熟度、受講環境により、授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRAL2005							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	95191				
科目	9519 東三河の歴史風土と文化		授業種別	週間授業				
担当教員	高橋 大輔		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	東三河地域の自然・風土、暮らし、産業経済、インフラなどの現況と今後の展望について、都市部・中山間地といった地理的特性に応じて具体的な事象や実例を学び、将来の実務や生活に役立てる。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性		○		△			△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東三河地域の自然・風土、人口問題等について都市部・中山間地の視点からその違いと課題を、統計等を用いて学習する。</li> <li>2. グローバルとローカルの視点から自然災害や環境リスクを捉え、我々の実生活への対応を考える。</li> <li>3. 東三河の代表的な産業である「農業」「製造業」の現況や今後成長が期待される「観光産業」、それらを支えている道路・港湾、都市計画等のインフラ基盤について、実態や政策を学習する。</li> <li>4. 以上を通じて、東三河の地域理解を目指す。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	特定のテキストはなし。講義毎にレジュメ、資料を配布します。							
参考書および参考文献	特定の参考書等はなし。講義の中でテーマに応じて適宜紹介します。							
受講条件	特になし。							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>【事前学習】 書籍、新聞等に目を通し、関連する社会動向に関心を持って講義に臨んでください。(30分)</p> <p>【事後学習】 配布した講義資料の読み直しや内容整理により復習してください。提示する文献、書籍等により講義内容を深化させてください。(30分～60分)</p>							
成績評価								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容の理解度を把握するため、毎回出席者に対してリアクションペーパーの提出を求めます。記述内容は、適宜指示します。</li> <li>・第8回講義では定期試験(小テスト)を実施します。</li> <li>・リアクションペーパーの提出状況と小テストの内容で総合的に評価します。</li> </ul> <p>【評価のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東三河地域の実態、今後の課題などについて知識を有しているか。</li> <li>・地域づくりの内容、背景、政策動向に関する知識を有しているか。</li> <li>・地域のデータ(現況・将来予測)や地理情報を読み取り解釈できているか。</li> </ul>								
評価項目		割合	評価基準					
毎回のリアクションペーパーの提出		50%	リアクションペーパーで授業内容の理解度を確認する。					
小テスト(第8回講義)		50%	筆記試験にて授業内容の理解度を確認する。					
授業の実施方法と授業計画								
<p>授業毎に講義資料(プリント等)を配付し、投影するスライドに基づいて進めます。毎回、授業終了時にリアクションペーパーに記述し提出してください。その内容は、毎回指示します。本科目は全て講義形式で行います。</p> <p>第1回 イントロダクション ・講義内容の紹介 ・東三河の歴史、地理的特徴、地域政策の解説</p> <p>第2回 東三河の人口問題を考える ・我が国と東三河の人口動向(過去から未来の将来推計) ・人口問題(高齢化、少子化等)と対応策</p> <p>第3回 東三河の自然環境と災害・環境問題 ・グローバルな地理的特性と災害・環境リスク ・住民生活等を守る防災対策やソフト整備</p> <p>第4回 東三河の産業経済活動の特性 ・東三河の産業的位置づけと地域ポテンシャル ・自動車産業の大転換とCASE、MaaSの動向</p> <p>第5回 私たちの生活や産業活動を支えるインフラ整備の動向 ・道路等のインフラ整備と次世代物流の潮流 ・国際貿易を支えるインフラの役割</p> <p>第6回 東三河の地域計画と地域づくりの系譜 ・国土計画の歴史と成果 ・都市計画の仕組み、中心市街地のまちづくり</p> <p>第7回 東三河の地域資源を活かした魅力発信 ・東三河の観光振興策 ・食文化を活かした魅力発信</p> <p>第8回 講義のまとめ ・本講義の総括と小テスト</p> <p>※第2回から第7回については、講義順序が変わる場合や内容が変更になる場合があります。</p>								
ナンバリング	NRBL4008							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	95231			
科目	9523 国語表現法			授業種別	週間授業			
担当教員	井原 淑雅			単位数	2			
その他担当者								
授業概要	現代社会において報告・連絡などは、文書によって行われることが一般的である。このような文書を作成するには、さまざまな決まりを理解していかなくてはならない。 国語表現法では、レポートなどの論理的な文書を作成するために必要とされる知識を身につけることを目的とする。併せて、実社会で記される文書を正しく理解するために必要とされる知識を獲得する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○		○				
到達目標	<p>大学で学び社会で働くには、文章表現力を身につける必要がある。国語表現法で学ぶ内容は、学科の卒業認定・学位授与の方針「看護にかかわる事象を科学的に探求するための基礎的な研究能力を身につけている」「看護の対象となる人々を、生物・心理・社会的な面から統合的に理解するための、広い教養と専門的な知識・技術を身につけている」「看護における顕在的・潜在的課題に対し、科学的根拠に基づく適切な判断と、解決していくための実践能力を身につけている」に沿ったものであり、その到達目標は、以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語の基礎を理解し述べることができる</li> <li>2. 文書作成に必要な知識を理解し述べるができる</li> <li>3. 目的に応じた文書が記述できる</li> </ol>							
テキスト(教科書)	教科書：『キャリアアップ国語表現法二十一訂版』（丸山顯徳編著 嵯峨野書院）1,700円+税 ISBN 978-4-7823-0604-8							
参考書および参考文献								
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>毎授業前に教科書を読んでおくこと(第1回～15回/1時間程度)  毎授業後に授業で学んだことを復習すること(第1回～7回、第11回～13回/1時間程度)  授業内に指示されたレポートを作成すること(第8回～10回/1.5時間程度)  授業で学んだことの復習に加え、定期試験範囲の復習を行うこと(第14回～15回/1.5時間程度)</p>							
成績評価	課題(30%)、定期試験(70%)に基づいて評価する。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	70%	筆記試験にて理解度を確認する。						
課題	30%	課題に対して適切な内容になっているかを確認する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>※前回の講義が知識を習得する内容は、講義の最初に小テストを行う。小テストは採点後速やかに返却するとともに、講義内で解説を行う。また、レポートは添削指導を行う。</p> <p>第1回 ガイダンス 漢字習得の近道  第2回(講義・演習) 同音異義語 同訓異義語  第3回(講義・演習) 音訓と熟語  第4回(講義・演習) 熟語の構造  第5回(講義・演習) 四字熟語  第6回(講義・演習) 仮名遣いと送り仮名  第7回(講義・演習) 文のしくみ 文章構成  第8回(講義・演習) 文の要約  第9回(講義・演習) レポートの作成  第10回(講義・演習) レトリック、慣用表現の誤用、原稿用紙の使い方  第11回(講義・演習) 待遇表現1  第12回(講義・演習) 待遇表現2  第13回(講義・演習) ビジネス文書1  第14回(講義・演習) ビジネス文書2  第15回(講義・演習) まとめ</p> <p>学生が提出した課題に関しては、コメントを添えて返却をする。</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。</p>							
ナンバリング	NRBL1003							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	97451				
科目	9745 家族看護学		授業種別	週間授業				
担当教員	蒔田 寛子		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	<p>本科目では、家族看護学発展の歴史的背景、看護学における家族の理解とその理論的背景を踏まえ、家族の機能、看護職の役割と姿勢、援助の方法について学修する。家族看護のモデルを使用した事例検討に取り組み、家族を一つの単位敏江アセスメントし援助する必要性を学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	△	○	◎	○			○	
到達目標	<p>家族看護学発展の歴史とその必要性をふまえ、家族を包括的に理解し援助する基本的姿勢を身につけることができる。具体的には以下の内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族を包括的に捉え、支援する必要性を説明できる。</li> <li>2. 家族の複雑さと個性性をふまえ、高い倫理性を備え関わろうとする姿勢を身につけることができる。</li> <li>3. 家族支援における多職種との連携の必要性について、職種の特徴もふまえ説明できる。</li> <li>4. 社会の変化をふまえ、家族看護学についても発展的に考えていくことができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	家族看護学—理論と実践— 第5版 鈴木和子・渡辺裕子・佐藤律子、日本看護協会出版会、ISBN 978-4-8180-2208-9							
参考書および参考文献	その都度紹介する							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>①授業前には教科書の指定箇所を熟読する(1~6回/30分程度)。②授業後には授業での学びを整理しておく(毎回/30分程度)。③授業内で指示する内容については、追加学修を行い授業に臨む(3回、4回/60分程度)。④グループで協力しプレゼンテーションの準備をする(6~8回/180分程度) 以上の①②③④について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。</p>							
成績評価	<p>原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合がある。</p>							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	40%	講義内容の理解度を筆記試験で確認する。						
課題レポート	30%	課題に対し適切な内容であり、自分の意見を深めわかりやすく論述されているかで評価する。						
プレゼンテーション	30%	スライドと発表のわかりやすさ、質問への対応等で評価する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 授業ガイダンス 家族看護学発展の歴史 文化的背景と家族のありよう(講義)  第2回 家族の定義 家族の成長と発達 家族を理解するための諸理論(講義)  第3回 家族アセスメントモデルの紹介  家族看護の事例検討 渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例を整理(講義・演習)  第4回 家族看護の事例検討(講義・演習)  渡辺式家族アセスメント/支援モデルを使い事例を整理 まとめ  第5回 家族看護における看護者の役割と援助姿勢(講義)  第6回 家族看護学に関する研究 発表準備(演習 グループワーク)  第7回 家族看護に関する研究 グループ発表 前半(学生によるプレゼンテーション)  第8回 家族看護に関する研究 グループ発表 後半(学生によるプレゼンテーション)</p> <p>レポート課題については講義の中で説明する。  提出されたレポート課題とプレゼンテーションは評価項目である。  学生によるプレゼンテーション内容については、適宜コメントする。  ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>							
ナンバリング	NEBM3010							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	97700			
科目	9770 助産学概論 (1単位)			授業種別	週間授業			
担当教員	大林 陽子			単位数	1			
その他担当者								
授業概要	<p>助産の概念、助産師の定義と業務、助産学を支える理論と研究、倫理について学ぶ。また、母子保健の動向と諸制度について学ぶ。さらに、助産の歴史と文化、助産師と教育について学び、助産学を学ぶのに必要な基本的知識を修得する。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	△	○	◎	○	◎	
到達目標	<p>1. 助産の概念、助産師の定義と業務について説明できる</p> <p>2. 助産学を支える理論と研究、倫理について理解し、根拠に基づく助産実践と対象理解に必要な理論を説明できる</p> <p>3. 母子保健の動向と諸制度を理解し、現状と課題を説明できる</p> <p>4. わが国、および、諸外国の助産師教育について説明できる。</p>							
テキスト(教科書)	<p>助産学講座1 基礎助産学〔1〕助産学概論 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260047081</p> <p>助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260050043</p>							
参考書および参考文献	<p>母子保健の主なる統計、母子衛生研究会、ISBN9784938481131</p> <p>わが国の母子保健、母子衛生研究会、ISBN9784938481223</p> <p>令和4年版少子化社会対策白書、内閣府編集、日経印刷、ISBN9784865793291</p> <p>助産所業務ガイドライン2019、日本助産師会助産業務ガイドライン改訂検討特別委員会編集・監修、日本助産師会出版、ISBN9784905023289</p> <p>助産師業務要覧 基礎編、福井トシ子編、日本看護協会出版会</p> <p>助産師業務要覧 実践編、福井トシ子編、日本看護協会出版会</p> <p>助産師業務要覧 アドバンス編、福井トシ子編、日本看護協会出版会</p>							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う</p> <p>&lt;事前学修&gt; 毎授業前にテキストの該当箇所を読み、内容を事前に調べて授業に参加すること(第1~8回/30分程度)</p> <p>&lt;事後学修&gt; 毎授業後に授業で得た学びについてレポートを作成しておき、定期試験前に再復習すること(第1~8回/30分程度)</p>							
成績評価	定期試験、課題レポートの内容を総合的に評価する							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		90%	筆記試験にて理解度を確認する					
課題レポート		10%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回 (講義) 助産の概念</p> <p>第2回 (講義) 助産師の定義と義務</p> <p>第3回 (講義) 助産学を支える理論と研究</p> <p>第4回 (講義) 助産師と倫理</p> <p>第5回 (講義) 母子保健の動向と諸制度</p> <p>第6回 (講義) 助産の歴史と文化</p> <p>第7回 (講義) 助産師と教育</p> <p>第8回 (講義) 国際母子保健</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *課題やリアクションペーパーの質疑内容については、授業の中でフィードバックする。</p>							
ナンバリング	NRAM3007							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	97780				
科目	9778 助産技術学		授業種別	週間授業				
担当教員	大林 陽子		単位数	1				
その他担当者	石田 都乃							
授業概要	3年次の助産診断・技術学Ⅰ～Ⅲで学修した知識・技術を統合し、助産実践能力に必要な基礎的能力を修得する。分娩期の対象事例の状態をアセスメントし、助産診断、助産計画立案までの一連の助産診断過程展開技術を修得する。また、妊娠・産褥期における健康診査技術や保健指導技術、分娩介助技術および出生直後の新生児の看護に必要な助産技術を修得する。 ※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	△	○	○	◎	
到達目標	1. 妊婦（胎児）・産婦（胎児）・褥婦・新生児の健康診査、観察に必要な技術を修得できる。 2. 妊婦・褥婦の保健指導に必要な指導案を作成できる。 3. 産婦の事例の状態に応じた助産診断過程展開技術を修得できる。 4. 分娩介助技術および出生直後の新生児の看護に必要な助産技術を修得できる。							
テキスト（教科書）	助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 第6版、医学書院、ISBN9784260042086 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 第6版、医学書院ISBN9784260042109 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 第6版、医学書院、ISBN9784260042192 病気がみえるvol.10産科 第4版、メディックメディア、ISBN9784896327137 根拠と事故防止からみた母性看護技術 第3版 石村由利子編 医学書院 ISBN9784260043243 産婦人科診療ガイドライン産科編2020 ISBN9784907890186							
参考書および参考文献	助産学講座3 基礎助産学〔3〕母子の健康科学 第6版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260049917 助産学講座4 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学 第5版、我部山キヨ子編、医学書院、ISBN9784260021869 母乳育児支援スタンダード 第2版、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編集、ISBN9784260020701 正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合、進純郎他、医学書院、9784260010825 分娩介助学 第2版、進純郎、医学書院、ISBN9784260018869							
受講条件	助産師選択コースの学生							
事前・事後学修（内容・時間）	1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、事前・事後学修を毎授業60分程度行う。 <事前学修> 1. 毎授業で指示する課題について事前に学修し資料を作成する（60分） 2. 1. の過程で生じた疑問点を明確にして授業に臨む <事後学修> 1. 毎授業後に授業で得た学びを事前学修の内容に加筆修正し、内容を整理する 2. 技術演習後は技術をくり返し行い、根拠に基づく技術修得に努める（30時間）							
成績評価	分娩介助技術の習得度、課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する							
評価項目	割合	評価基準						
分娩介助技術試験	50%	分娩介助技術評価表に則り評価する						
課題レポート、ディスカッション内容	50%	レポートが課題に対する適切な内容・記述、ディスカッションの内容であるか評価する						
授業の実施方法と授業計画	第1回 （演習）分娩介助技術、出産直後の児の取り扱い（教員デモンストレーション） 第2回 （演習）分娩介助技術（内診、導尿、会陰裂傷縫合を含む） 第3回 （講義・演習）分娩期の助産診断過程展開① 第4回 （講義・演習）分娩期の助産診断過程展開② 第5回 （講義・演習）分娩期の助産診断過程展開③ 第6回 （講義・演習）分娩期の助産診断過程展開④ 第7回 （講義・演習）妊娠期の健康診査・保健指導① 第8回 （講義・演習）妊娠期の健康診査・保健指導② 第9回 （講義・演習）妊娠期の診断・ケアに必要な技術（胎児モニタリング、超音波エコー） 第10回 （演習）分娩介助技術の確認 第11回 （講義・演習）沐浴指導 第12回 （講義・演習）妊娠期の助産診断過程展開 第13回 （講義・演習）産褥・新生児期の助産診断過程展開 第14回 （演習）分娩介助技術チェック（技術試験） 第15回 （演習）分娩介助技術チェック（技術試験）  *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。 *課題やリアクションペーパーの質疑内容については、授業の中でフィードバックする。							
ナンバリング	NRCM4018							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	977D0				
科目	977D 助産診断・技術学Ⅳ		授業種別	週間授業				
担当教員	大林 陽子		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	<p>妊娠・分娩・産褥。新生児期に正常経過を逸脱した妊婦（胎児）・産婦（胎児）・褥婦・新生児事例の助産診断過程を展開し、助産実践に必要な知識・技術を学ぶ。また、分娩施設退院後の褥婦の乳房・乳頭トラブルの実際と必要な支援についても事例検討をとおして学ぶ。さらに、地域における母子保健活動の実際をもとに、母子支援および助産業務における課題を発展的に考察する能力を養う。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する助産師の実務経験を有する教員がその実務を活かして演習等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠中に正常経過を逸脱した妊婦の助産実践をもとに、助産診断・ケア計画・実施・評価について再考察できる</li> <li>2. 分娩中に正常経過を逸脱した産婦・胎児の助産実践をもとに、助産診断・ケア計画・実施・評価について再考察できる</li> <li>3. 産褥期に正常経過を逸脱した褥婦の助産実践をもとに、助産診断・ケア計画・実施・評価について再考察できる</li> <li>4. 新生児期に正常経過を逸脱した新生児の助産実践をもとに、助産診断・ケア計画・実施・評価について再考察できる</li> <li>5. 妊娠・分娩・産褥・新生児経過に異常がみられた母子の支援について、地域における母子保健活動の実際をもとに考察し、記述できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ〔1〕妊娠期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042086</p> <p>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ〔2〕分娩期・産褥期 第6版、我部山キヨ子他編、医学書院、ISBN9784260042109</p> <p>助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ〔3〕新生児期・乳幼児期 第6版、石井邦子他編、医学書院、ISBN9784260042192</p> <p>病気がみえるvol.10産科 第4版、医療情報科学研究所編集、メディックメディア、ISBN9784896327137</p> <p>マタニティ診断ガイドブック 第6版、日本助産診断実践学会編集、医学書院、ISBN9784260043298</p>							
参考書および参考文献	<p>産婦人科診療ガイドライン産科編2020、日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会編集・監修、ISBN9784907890186</p> <p>正常分娩の助産術 トラブルへの対応と会陰裂傷縫合、進純即他、医学書院、9784260010825</p> <p>分娩介助学 第2版、進純即、医学書院、ISBN9784260018869</p> <p>母乳育児支援スタンダード 第2版、NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編集、ISBN9784260020701</p>							
受講条件	助産師選択コース学生							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>助産学の講義・演習から学んだ知識・技術を実習事例に応用し、事例検討や課題ディスカッションにより助産学に必要な知識・技術を再確認する。また助産学実習で受け持ち展開した事例をまとめ、学修を深める。自己学修を予習・復習各60分程度行う</p> <p>授業前に指定箇所を熟読し、授業後には授業の学びを整理し、課題に取り組む。1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行う。</p>							
成績評価	課題レポート・ディスカッション内容を総合的に評価する							
評価項目		割合	評価基準					
課題レポート		60%	課題に対する適切な内容・記述になっているかを評価する					
ディスカッション内容		40%	課題に対する適切な内容になっているかを評価する					
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 (講義・演習) ガイダンス、検討事例選択・調整、事例Hの助産診断</li> <li>第2回 (講義・演習) 事例Hの助産診断</li> <li>第3回 (講義・演習) 異常妊娠の妊婦・胎児の助産診断①</li> <li>第4回 (講義・演習) 異常妊娠の妊婦・胎児の助産診断②</li> <li>第5回 (講義・演習) 分娩経過を逸脱した産婦・胎児の助産診断①</li> <li>第6回 (講義・演習) 分娩経過を逸脱した産婦・胎児の助産診断②</li> <li>第7回 (講義・演習) 分娩経過を逸脱した産婦・胎児の助産診断③</li> <li>第8回 (講義・演習) 分娩経過を逸脱した産婦・胎児の助産診断④</li> <li>第9回 (講義・演習) 乳頭トラブル、母乳分泌不足の褥婦の助産診断①</li> <li>第10回 (講義・演習) 乳頭トラブル、母乳分泌不足の褥婦の助産診断②</li> <li>第11回 (講義・演習) 正常経過を逸脱した新生児の助産診断①</li> <li>第12回 (講義・演習) 正常経過を逸脱した新生児の助産診断②</li> <li>第13回 (講義・演習) 乳腺炎の母親への支援①</li> <li>第14回 (講義・演習) 乳腺炎の母親への支援②</li> <li>第15回 (講義・演習) 退院後の母乳育児支援</li> </ol> <p>*ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。 *課題やリアクションペーパーの質疑内容については、授業の中でフィードバックする。</p>							
ナンバリング	NREM4013							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	97840				
科目	9784 公衆衛生看護学概論		授業種別	週間授業				
担当教員	鈴木 知代		単位数	2				
その他担当者	蒔田 寛子、小俣 由佳、藤井 徹也							
授業概要	<p>公衆衛生看護は、地域で生活するあらゆる人々の健康を看護の立場から保持・増進し、疾病を予防することを旨とし、個人・家族、集団、組織、地域を対象に意図的・組織的な活動を行う。実際には、対象者の健康課題の構造を明らかにすること、地域の健康ニーズの的確な把握を行い、対象者の主体性にはたらきかけることが不可欠となる。そのための公衆衛生看護の理念や活動の方法、展開の基本を学ぶ。</p> <p>※この科目は、当該授業内容に関する看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	◎	△	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護の理念について述べることができる。</li> <li>2. 公衆衛生看護活動に必要な法律について述べるができる。</li> <li>3. 公衆衛生看護活動の対象と対象に応じた活動について述べるができる。</li> <li>4. 公衆衛生看護活動の様々な場と活動について述べるができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	厚生労働統計協会：厚生指 標 増刊 国民衛生の動向 第69巻9号, 2022/2023							
参考書および参考文献	講義時に適宜示す							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業内で提示する内容について事前に調べて授業に参加すること(第1~15回/60分程度)。</li> <li>②授業後には、深める内容について提示するため、それについてまとめること(第1~15回/60分程度)。</li> </ol>							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。筆記試験、課題レポートで総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。							
評価項目	割合	評価基準						
筆記試験	80%	筆記試験にて理解度を確認する。						
課題レポート	20%	課題テーマに関して、適切に論述できているか評価する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>事前課題で提示した課題の内容については、授業内でフィードバックする。課題レポートについてはコメントを返す。</p> <p>第1回(講義) 公衆衛生看護の歴史(鈴木)  第2回(講義) 公衆衛生看護の理念、ヘルスプロモーション(鈴木)  第3回(講義) 公衆衛生看護の理念、予防(鈴木)  第4回(講義) 健康課題の変化(鈴木)  第5回(講義) 看護をめぐる法と制度①(藤井)  第6回(講義) 看護をめぐる法と制度②(蒔田)  第7回(講義) 地域での居場所づくり 地域の高齢者支援  (ゲストスピーカー 豊橋市長寿介護課)</p> <p>第8回(講義) 公衆衛生看護の対象(鈴木)  第9回(講義) 地域アセスメントの方法(鈴木)  第10回(講義) 公衆衛生看護の展開(地域へのアプローチ)(鈴木)  第11回(講義) 地域における看護ケアと経済性の関連(ゲストスピーカー)  第12回(講義) 健康危機管理(鈴木)  第13回 特別講演 「薬害と看護活動」(患者、弁護士会)  第14回(講義) 公衆衛生看護活動の場(地域包括支援センター)における活動(小俣)  第15回(講義) 公衆衛生看護活動の場(行政)における活動(鈴木)</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>							
ナンバリング	NRBM3011							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	97850				
科目	9785 地区診断・地区活動論		授業種別	週間授業				
担当教員	鈴木 知代		単位数	2				
その他担当者	小俣 由佳							
授業概要	<p>公衆衛生看護活動には、地域へのアプローチとして地区活動がある。地区活動では、家庭訪問、健康相談、健康教育などにより対象の健康課題解決のための活動を行う。また、公衆衛生看護活動は、地域診断（地区診断）をもとに、計画、実施、評価、改善というPDCAサイクルによって進められる。本科目では、地域診断（地区診断）を中心に公衆衛生看護活動の一連の過程を学ぶとともに、地域の健康格差を縮小させながら、健康水準の向上をもたらすための地区活動について学修する。また、公衆衛生看護活動の1つである健康教育について学修する。 ※この科目は、当該授業内容に関する公衆衛生看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義を行う科目である。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎		◎		◎	◎	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護活動は、地域診断（地区診断）をもとに、計画、実施、評価、改善のPDCAサイクルによって進められていることを説明することができる。</li> <li>2. 地域診断（地区診断）の方法を獲得することができる。</li> <li>3. 地区活動の必要性を理解し、地区活動を展開するための基礎的な技術を獲得することができる。</li> <li>4. 公衆衛生看護学活動における健康教育を適切に実施できる基礎的能力を身につけることができる。</li> </ol>							
テキスト（教科書）	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 標美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 第6版、医学書院、ISBN 978-4-260-04707-4</li> <li>② 中村裕美子他：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第5版、医学書院、ISBN 978-4-260-05002-9</li> <li>③ 厚生労働統計協会：厚生指標 増刊 国民衛生の動向 第69巻9号、2022/2023</li> </ol>							
参考書および参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 中谷芳美他：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第4版 医学書院、ISBN 978-4-260-03187-5</li> <li>② 佐伯和子他：域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド第2版医歯薬出版、ISBN978-4-263-23710-6</li> <li>③ 島内修二他：標準保健師講座 別巻1保健医療福祉行政論 第5版 医学書院、ISBN978-4-260-04222-2</li> </ol>							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修（内容・時間）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を熟読すること（第1～4回/30分程度）。</li> <li>2. 地域診断については、提示する事例の地域についてアセスメント、健康問題抽出、計画作成についての事前準備を行い参加すること（第5～8回/60分程度）。</li> <li>3. 実習地域の母子保健計画等をレポートして参加すること（第9回/60分程度）</li> <li>4. 健康教育については、発表に向けて対象や教育内容に適した媒体をグループで作成し、それをを用いて練習すること（第10～15回/60分程度）。</li> </ol>							
成績評価	<p>原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。課題レポートや授業への取り組み等、総合的に評価する。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合がある。</p>							
評価項目	割合	評価基準						
課題レポート	80%	課題レポートの内容や記述が適切なものになっているかについて評価する。提出された課題レポートにはコメントを返す。						
授業への取り組み状況	20%	発表内容や使用する媒体の内容について、演習におけるグループメンバーと協力して取り組むことができたかについて評価する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>事前学修した内容については、毎回授業でフィードバックする。</p> <p>第1回（講義） 地域診断の目的・意義、地区活動について（鈴木） 公衆衛生看護の展開の一連の過程について学ぶ。 課題レポートの説明</p> <p>第2回（講義） 地域診断の方法（鈴木） 地域診断の展開プロセスについて学ぶ。</p> <p>第3回（講義） 地域診断に関連する理論と考え方（鈴木） 地域診断に活用できる理論モデルについて学ぶ。</p> <p>第4回（講義） 地域診断と地区診断の展開（鈴木） 地域診断と地区診断について学ぶ。</p> <p>第5回（講義・演習） 地域診断の実践 ①（鈴木） 事例を用いて、情報収集とアセスメントの方法について学ぶ。 事例をグループ討論で検討</p> <p>第6回（講義・演習） 地域診断の実践 ②（鈴木） 事例を用いて、健康課題の抽出の方法について学ぶ。 事例をグループ討論で検討</p> <p>第7回（講義・演習） 地域診断の実践 ③（鈴木） 事例を用いて、計画立案の方法について学ぶ。 事例をグループ討論で検討</p> <p>第8回（講義・演習） 地域診断の実践 ④（鈴木） 事例を用いて、評価の方法について学ぶ。 事例をグループ討論で検討（鈴木）</p> <p>第9回（講義） 保健福祉対策と事業計画（鈴木） 保健福祉の計画策定や事業計画の策定について学ぶ。</p> <p>第10回（講義） 健康教育の目的や方法およびその展開過程（小俣）</p> <p>第11回（講義・演習） 健康教育の企画書の作成（小俣）</p> <p>第12回（講義・演習） 健康教育の指導案の作成（小俣）</p> <p>第13回（講義・演習） 健康教育のシナリオおよび媒体の作成（小俣）</p> <p>第14回（講義・演習） 健康教育の実施（発表）の準備（小俣）</p> <p>第15回（講義・演習） 健康教育の実施（発表）と評価（小俣）</p> <p>*ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することがある。</p>							
ナンバリング	NRBM3012							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	97860				
科目	9786 公衆衛生保健指導論		授業種別	週間授業				
担当教員	鈴木 知代		単位数	2				
その他担当者	小俣 由佳							
授業概要	地域で生活するあらゆる発達段階、健康レベルの個人と家族およびそれらの人々が生活し活動する集団が、健康の保持増進、健康障害の予防と回復を促進できるように、生活に視点において保健師は保健指導を行う。本科目では、発達段階や健康障害の特性に応じた対象別の保健指導について学ぶ。 ※この科目は、当該授業内容に関する公衆衛生看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かして講義を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎		○			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階や健康障害の特性に応じた健康課題を述べることができる。</li> <li>2. 発達段階や健康障害の特性に応じた保健指導の理論・基本的知識・技術について説明できる。</li> <li>3. 個人・家族の健康課題に対する支援を集団・組織や地域を対象とした支援へとつなげる公衆衛生看護活動の展開方法について説明できる。</li> <li>4. 健康相談、健康診査、地区組織活動等、保健指導の展開における基本的知識・技術について説明できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 標美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 第6版 医学書院, ISBN978-4-260-04707-4</li> <li>② 中村裕美子他：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第5版 医学書院, ISBN978-4-260-05002-9</li> <li>③ 中谷芳美他：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第4版, 医学書院 ISBN978-4-260-0387-5</li> <li>④ 厚生労働統計協会：厚生指標 増刊 国民衛生の動向 第69巻9号, 2022/2023</li> </ol>							
参考書および参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 新版 保健師業務要覧 第4版 2022年版 日本看護協会出版会, ISBN978-4-8180-2381-9</li> <li>② 医療情報科学研究所編 公衆衛生がみえる2022-2023 メディックメディア, ISBN9784896282858</li> <li>③ 村島章代他：保健学講座1 公衆衛生看護学概論 メチカルフレンド社, ISBN978-4-8392-2188-1</li> </ol>							
受講条件	保健師選択コースの学生							
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前に授業テーマに該当するテキストの内容を熟読すること(第1~15回/30分程度)。</li> <li>2. 授業の最後に、事前学習の内容を提示するので、取り組むこと(第1~15回/30分程度)。</li> <li>3. 授業テーマに関連する保健医療行政の状況や動向については、「厚生指標 増刊 国民衛生の動向」を熟読しておくこと(第1~15回/30分程度)。</li> </ol>							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。筆記試験、課題レポートで総合的に評価します。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合があります。							
評価項目	割合	評価基準						
定期試験	60%	筆記試験にて授業の到達目標に対する達成度を確認する。						
課題レポート	30%	課題レポートの内容が目的にそったものが、考察が述べられているかについて評価する。						
授業への取り組み	10%	グループワークへの参加度や取り組みについて評価する。						
授業の実施方法と授業計画	<p>事前学習した内容は、授業の中でフィードバックを行う。課題レポートには、コメントを返す。 *1~15回、講義が中心となる。</p> <p>第1回 母子保健活動(1): 母子保健の理念、母子保健施策の動向と課題 (鈴木) 母子保健の理念と歴史的変遷、母子保健施策、母子保健における健康課題について学ぶ。</p> <p>第2回 母子保健活動(2): 母性各期の健康課題と支援 (鈴木) 健康な母性の発達にそった健康課題とそれらに対する予防活動を女性のライフサイクルをふまえて学ぶ。</p> <p>第3回 母子保健活動(3): 乳幼児の成長・発達と健康課題への支援 (鈴木) 乳幼児各期の健康課題に対する支援活動を乳幼児の成長・発達と生活をふまえて学ぶ。 実際の市町村の母子保健活動を事例として、グループで検討する。</p> <p>第4回 母子保健活動(4): 支援のニーズが高い親子の健康課題と支援 (鈴木) 心身障害児、勤労女性、子ども虐待、外国人母子など支援のニーズが高い親子に対する支援を学ぶ。</p> <p>第5回 成人保健活動(1): 成人保健の理念、成人保健施策の動向と課題 (鈴木) 成人保健の理念と歴史的変遷、成人保健施策、予防の考え方について学ぶ。</p> <p>第6回 成人保健活動(2): 成人期の生活の特徴と健康課題 (鈴木) 成人期の健康課題を成人期の生活の特徴をふまえて学ぶ。</p> <p>第7回 成人保健活動(3): 成人期の健康課題への支援 (ゲストスピーカー) 成人期の健康課題を解決・改善するための実際の支援活動について学ぶ。</p> <p>第8回 歯科保健活動 (鈴木) 歯科(口腔)保健活動の動向および活動内容について学ぶ。</p> <p>第9回 高齢者保健活動(1): 高齢者保健の理念および高齢者保健福祉施策の動向と課題 高齢者保健の理念と歴史的変遷、高齢者保健福祉施策について学ぶ。(小俣)</p> <p>第10回 高齢者保健活動(2): 高齢者の健康課題と支援 (小俣) 高齢期の健康課題とそれを解決・改善するための支援活動について学ぶ。</p> <p>第11回 障害者保健活動: 障害者保健医療福祉施策の動向と障害者保健活動 (小俣) 障害者保健医療福祉施策の動向をふまえ、障害者への支援内容について学ぶ。</p> <p>第12回 精神保健活動: 保健医療福祉施策の動向と精神保健活動 (小俣) 精神保健医療福祉施策の動向をふまえ、精神保健活動の内容について学ぶ。</p> <p>第13回 難病保健活動: 難病対策の動向と難病保健活動 (小俣) 難病対策の動向をふまえ、難病保健活動の内容について学ぶ</p> <p>第14回 感染症保健活動(1): 感染症保健の動向および感染症保健福祉施策 (小俣) 感染症保健の動向をふまえ、感染症保健福祉施策について学ぶ。</p> <p>第15回 感染症保健活動(2): 主な感染症に対する動向と保健活動 (小俣) 結核およびHIV感染症等に対する保健活動について学ぶ。</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>							
ナンバリング	NRCM3012							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	97880			
科目	9788 公衆衛生看護管理システム論		授業種別	週間授業			
担当教員	鈴木 知代		単位数	2			
その他担当者							
授業概要	<p>保健師は、地域住民が安全で、安心して、健やかな生活を営めるよう、地域の人々や関係者と連携・協働して効率的・効果的に公衆衛生看護活動を遂行する。そのために必要な公衆衛生看護の管理的な視点や機能について学ぶとともに、保健師の役割を発展的に考えることができるための基礎的能力を養う。</p> <p style="text-align: right;">※この</p> <p>科目は、当該授業内容に関する公衆衛生看護の実務経験を有する教員がその実務経験を活かし講義を行う科目である。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎		◎		○	◎	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護管理の目的と機能について説明できる。</li> <li>2. 健康危機管理における保健師の役割について説明できる。</li> <li>3. 地域ケアシステムを構築・展開する過程について説明できる。</li> <li>4. 公衆衛生看護活動において研究的視点が必要であることを述べるができる。</li> <li>5. 本科目での学修をもとに、地域の人々の健康を支援するための公衆衛生看護の役割を探索し、発展的に考えることができるための基礎的能力を身につけることができる。</li> </ol>						
テキスト(教科書)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 標美奈子他：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論 第6版 医学書院.ISBN978-4-260-04707-4</li> <li>② 中村裕美子他：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術 第5版 医学書院.ISBN978-4-260-05002-9</li> <li>③ 中谷秀美他：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動 第4版 医学書院.ISBN978-4-260-03187-5</li> <li>④ 厚生労働統計協会：厚生指標 増刊 国民衛生の動向 第69巻9号, 2022/2023</li> </ol>						
参考書および参考文献	適宜、授業時間に紹介する。						
受講条件	保健師選択コースの学生						
事前・事後学修(内容・時間)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前に講義テーマに該当するテキストの内容や指定した資料を熟読する(第1~15回/30分程度)。</li> <li>2. 講義で学んだ内容は、配布資料、テキストを見直し振り返りする(第1~15回/60分程度)。</li> <li>3. 提示した課題について、レポートを作成する(第7回、第9回、第13回/120分程度)。</li> </ol>						
成績評価							
原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価します。筆記試験、課題レポートで総合的に評価します。なお、遅刻、早退や他の学生に迷惑になる授業態度は減点の対象とする場合があります。							
評価項目	割合	評価基準					
課題レポート	60%	課題レポートの内容や記述が適切なものになっているかについて評価する。提出された課題レポートにはコメントを返す。					
小テスト	20%	筆記試験にて理解度を確認する。					
授業への取り組み状況	20%	授業内での話し合いの内容、取り組み、各授業の提出物にて評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<p>課題レポートについては、授業内でフィードバックする。</p> <p>第1回(講義) 公衆衛生看護管理の目的・機能 公衆衛生看護における管理機能の目的と機能について</p> <p>第2回(講義) 公衆衛生看護の管理機能① 組織運営管理、人事管理・人材育成について</p> <p>第3回(講義) 公衆衛生看護の管理機能② 予算管理、情報管理について</p> <p>第4回(講義) 公衆衛生看護の管理機能③ 業務管理について</p> <p>第5回(演習) 公衆衛生看護管理 業務管理の事例を用いて演習を行う</p> <p>第6回(講義) 健康危機管理① 健康危機管理の定義と要因、リスクマネジメント、健康危機管理の要素について</p> <p>第7回(講義) 健康危機管理② 感染症集団発生時の保健活動について</p> <p>第8回(演習) 健康危機管理③ 地域における集団感染の事例より保健師の役割について</p> <p>第9回(講義) 健康危機管理④ 災害と保健活動について</p> <p>第10回(演習) 健康危機管理⑤ 災害支援の事例より保健師の役割について</p> <p>第11回(講義) 公衆衛生看護技術：地域組織活動の展開① 地域組織活動に関わる概念、当事者組織と支援について</p> <p>第12回(講義) 地域組織活動の展開② 住民の自立支援と地域組織活動について</p> <p>第13回(講義) 地域組織活動の展開③ 地域組織活動の公衆衛生看護技術について</p> <p>第14回(講義) 地域組織活動の展開④ 実際の地域組織活動と保健師の役割について</p> <p>第15回(講義) 公衆衛生看護活動と倫理 公衆衛生看護管理における倫理的課題について</p> <p>*ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>						
ナンバリング	NRDM3006						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	98130				
科目	9813 成人看護学演習 I		授業種別	週間授業				
担当教員	小山 順子		単位数	1				
その他担当者								
授業概要	<p>急激な健康破綻および回復過程にある対象の紙上事例を用いて、その対象に有用な看護を提供するための看護過程を学ぶ。また、看護技術演習では、急性・回復期にある対象の療養支援に必要な主な看護技術を学ぶ。</p> <p>*この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	△	△	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性・回復期にあり、侵襲の大きい治療を受ける対象者を理解するために必要な情報のアセスメント・看護診断・目標設定ができる。</li> <li>2. 急性・回復期にあり、侵襲の大きい治療を受ける対象者を理解するために必要な看護計画を立案できる。</li> <li>3. 急性・回復期にある対象者に必要な検査・治療時の援助について理解し、適切な方法で実施、評価できる。</li> <li>4. 急性・回復期にある対象者とその家族の価値観や権利を理解し、意思決定を擁護・支持するための方法を考えることができる。</li> <li>5. クリティカルな状態にある患者に対する具体的な看護方法について理解し、実施できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>中島 恵美子 編集(2022):ナースング・グラフィカ成人看護学(4)周術期看護[第4版]。メディカ出版。ISBN: 978-4840475396(成人看護学 I で購入済)</p> <p>矢永勝彦,小路美喜子編集(2017):系統看護学講座別巻1臨床外科看護総論 [第11版]。医学書院。ISBN: 978-4-260-02769-4(病態と治療で購入済)</p> <p>本庄恵子,吉田みつ子監修(2020):新訂版 写真でわかる臨床看護技術 2アドバンス・インターメディカ。ISBN: 978-4-89996-414-8</p> <p>NANDA - I (日本看護診断学会監訳):NANDA - I 看護診断 2021-2023。医学書院。ISBN:978-4-260-04628-2(1年次に購入済)</p>							
参考書および参考文献	北島政樹,江川幸二編集(2017):系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論 [第11版]。医学書院。ISBN:978-4-260-02769-4							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前学修:授業前には教科書の指定箇所を熟読し、授業内で指示する内容については、事前に調べて授業に臨む。(90分×15回)</p> <p>事後学修:授業後には授業での学びを整理しておく(90分×15回)。</p>							
成績評価	<p>筆記試験と課題レポートにより評価する。</p> <p>原則として毎回出席すること。遅刻、欠席、早退や劣悪な授業態度は減点の対象とする場合がある。</p>							
評価項目		割合	評価基準					
定期試験		50%	筆記試験にて理解度を確認する。					
課題レポート		50%	課題に対する内容の適切性について評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>第1回 周手術期看護:ガイダンス/急性・回復期看護の特徴【講義】(小山)</li> <li>第2回 看護過程の展開①:事例紹介・情報収集【講義・演習】(小山,その他教員)</li> <li>第3回 看護過程の展開②:アセスメント【講義】(小山)</li> <li>第4回 看護過程の展開③:アセスメント【演習】(小山,その他教員)</li> <li>第5回 看護過程の展開④:看護診断【講義・演習】(小山,その他教員)</li> <li>第6回 看護過程の展開⑤:看護目標【講義・演習】(小山,その他教員)</li> <li>第7回 看護過程の展開⑥:看護計画【講義・演習】(小山,その他教員)</li> <li>第8回 看護過程の展開⑦:看護援助【講義】(小山)</li> <li>第9回 看護過程の展開⑧:(プレゼンテーション)看護援助:術前訓練【演習】(小山,その他教員)</li> <li>第10回 看護過程の展開⑨:(プレゼンテーション)看護援助:術後1日目の離床援助【演習】(小山,その他教員)</li> <li>第11回 看護過程の展開⑩:評価【講義・演習】(小山,その他教員)</li> <li>第12回 クリティカルケア看護:人工呼吸器装着中の患者の看護:気管吸引・体位ドレナージ【講義】(小山)</li> <li>第13回 クリティカルケア看護:救急看護:BLS・AED・十二誘導心電図【講義】(小山)</li> <li>第14回 クリティカルケア看護:BLS・AED【演習】(小山,その他教員)</li> <li>第15回 クリティカルケア看護:気管吸引【演習】(小山,その他教員)</li> </ol> <p>ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある。</p> <p>・課題レポートは授業内で返却し、フィードバックを行う。</p>							
ナンバリング	NRGM2004							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	98180				
科目	9818 成人看護学演習Ⅱ		授業種別	週間授業				
担当教員	豊島 由樹子		単位数	1				
その他担当者	山本 義昭							
授業概要	慢性病とともに生きる患者の紙上事例を用いて看護過程を展開することから、慢性病を抱えながらもその人らしい生活の実現に向けた看護援助を行うために必要な臨床判断能力を養う。また慢性病とともに生きるためにセルフマネジメントを必要とする患者に特有な看護技術について学修する。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	○	◎	○	○	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性病とともに生きる患者を総合的に理解するために必要な病態・検査・治療などの知識について説明できる。</li> <li>2. 慢性病を抱えて生活する患者・家族の紙上事例を通して、系統的に情報を整理できる。</li> <li>3. 整理した情報を科学的思考をもとに解釈・分析・統合し、慢性病を抱える対象者の看護上の問題を明確化できる。</li> <li>4. 慢性病とともに生活する患者・家族の看護上の問題を解決するための看護計画を立案できる。</li> <li>5. 慢性病とともに生きるためにセルフマネジメントを必要とする患者を支援するために必要となる看護技術を修得できる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	「糖尿病治療の手引き 改訂第58版」、日本糖尿病学会編著、南江堂、2020年、ISBN:978-4524227280 「成人看護学概論(成人看護学①)」、安酸史子他編、メディカ出版、2022年、ISBN:978-4840475280(既に購入済) 「成人看護学 慢性期看護 改訂第3版」、鈴木久美 他編、南江堂、2020年、ISBN:978-4524241989(既に購入済)							
参考書および参考文献	授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を随時配布する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修として、「成人看護学概論」「成人看護学Ⅱ」の内容を復習し、グループワークに必要な参考図書や文献・資料を選択し自分で調べた上で、毎授業に臨むこと。また看護技術演習については「基礎看護学技術」で修得した知識・技術を復習した上で演習に臨むこと(第1～15回/30分程度)。 事後学修として、各自でグループワークで得た気づきと学びをもとに、個人で看護過程レポートを作成する(第1～10回/30分程度)。また看護技術演習については、演習後に得た気づきと学びをまとめる(第11～15回/30分程度)。 1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることを踏まえ、自己学修を行うこと。							
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成状況を、課題レポート、実技に対する取り組み、定期試験から評価する。なお、遅刻、早退、劣悪な授業態度、提出物の不備については減点対象とする。							
評価項目	割合	評価基準						
課題レポート(看護過程記録)	40%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する。						
課題レポート(授業内課題)	10%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する。						
実技に対する取り組み	20%	実技の修得状況、演習記録から確認する。						
定期試験	30%	筆記試験にて理解度を確認する。						
授業の実施方法と授業計画	第1回：授業ガイダンス・慢性病とともに生きる事例の看護過程の展開① 事例紹介 <講義>(豊島) 第2回～3回：慢性病とともに生きる事例の看護過程の展開②③ 事例についての情報整理 <演習・個人ワーク>(豊島・山本) 第4回～5回：慢性病とともに生きる事例の看護過程の展開④⑤ 病態関連図の作成 <演習・グループワーク>(豊島・山本) 第6回～7回：慢性病とともに生きる事例の看護過程の展開⑥⑦ 全体関連図の作成 <演習・グループワーク>(豊島・山本) 第8回～9回：慢性病とともに生きる事例の看護過程の展開⑧⑨ 看護計画立案 <演習・グループワーク>(豊島・山本) 第10回：慢性病とともに生きる事例の看護過程の展開⑩ 看護過程まとめ <講義>(豊島) 第11回：糖尿病患者に対するセルフマネジメント支援 <講義>(ゲストスピーカー) 第12回：糖尿病患者・家族を支援する看護師の役割と実践 <講義>(ゲストスピーカー) 第13回：血糖自己測定・インスリン自己注射の看護技術 <実技>(豊島・山本) 第14回：安全な輸液管理の看護技術 <実技>(豊島・山本) 第15回：慢性病とともに生きる患者・家族を支える社会資源 <講義>(豊島)							
	提出物に関しては、その後の学修に役立てられるようコメントを行う。また全体で共有すべき質問・意見等は授業内でフィードバックを行うとともにGoogle Classroomに掲載する。ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。							
ナンバリング	NRBM3008							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	98230		
科目	9823 老年看護学演習			授業種別	週間授業		
担当教員	相羽 利昭			単位数	1		
その他担当者	森 裕介						
授業概要	<p>老年期に特有な健康障害をもつ高齢者と家族について紙上事例を用いて目標指向型思考でQOLの維持・充実に向けた看護展開を学修する。また、健康障害をもち療養生活を送る高齢者のセルフケア能力をいかに生活機能を支える看護について学修する。</p> <p>※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	△	△	△	△
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者のヘルスアセスメントに用いられる評価方法を説明できる。</li> <li>2. 健康障害をもち療養生活を送る高齢者の紙上事例に対して、生活機能の視点から目標指向型思考を用いて、身体的・心理的・社会的な側面を総合した全体像のアセスメント・看護目標の明確化、および看護計画の立案ができる。</li> <li>3. 高齢者の加齢変化を疑似体験し、環境調整や日常生活援助のあり方を考えて、記述することができる。</li> <li>4. 高齢者のセルフケア能力をいかに生活機能を支える援助方法を修得できる。</li> </ol>						
テキスト(教科書)	<p>(既に購入済)</p> <p>「新体系看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論／老年保健」, 亀井智子編, メチカルフレンド社, 2020年, ISBN 978-4839233723</p> <p>「新体系看護学全書 老年看護学② 後年看護の実践－病態－」, 亀井智子編, メチカルフレンド社, 2021年, ISBN 978-4840472098</p>						
参考書および参考文献	<p>「カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 第2版」, 大塚真理子 編, 医歯薬出版, 2018年, ISBN 978-4263237151</p> <p>「生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第4版」, 山田律子 編, 医学書院 2016年, ISBN 978-4260042741</p> <p>その他、授業の中で適宜紹介する。教員作成の補足資料を随時配布するとともに、Google Classroomにも掲示する。</p>						
受講条件	必修科目。履修条件は付けない。						
事前・事後学修(内容・時間)	<p>事前学修として、「老年看護学概論」「老年臨床看護学」の内容を復習し、グループワークに必要な参考図書や文献・資料を選択して自分で調べた上で、毎回の授業に臨むこと。また看護技術演習については「基礎看護学技術」で修得した知識・技術を復習した上で演習に臨むこと(第1～15回/30分程度)。事後学修として、各自でグループワークで得た気づきと学びをもとに、個人で看護過程レポートを作成する(第1～9回/30分程度)。また看護技術演習については、繰り返し練習するとともに、演習後に得た気づきと学びをまとめる(第10～15回/30分程度)。</p> <p>1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることと踏まえ、自己学修を行うこと。</p>						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標の達成状況を、課題レポート、実技に対する取り組み、定期試験によって総合的に評価する。なお、遅刻、早退、劣悪な授業態度、提出物の不備については減点対象とする。						
評価項目		割合	評価基準				
課題レポート(看護過程レポート)		30%	課題に対して適切な内容・記述になっているかをルーブリック評価を行う。				
実技に対する取り組み		10%	実技の修得状況、演習記録から確認する。				
定期試験		60%	筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	<p>第1回: ガイダンス、健康障害をもち療養生活を送る高齢者事例の看護過程の展開① -演習の進め方・事例紹介- &lt;講義&gt;</p> <p>第2回: 看護過程の展開② -事例についての情報整理(健康障害と身体・心理・社会的な視点)・アセスメント- &lt;演習・個人ワーク&gt;</p> <p>第3回～4回: 看護過程の展開③④ -事例についての全体像の作成- &lt;演習・グループワーク&gt;</p> <p>第5回: 看護過程の展開⑤ -目標指向型思考についての考え方- &lt;講義&gt;</p> <p>第6回: 看護過程の展開⑥ -事例についての目標指向型看護目標の明確化- &lt;演習・グループワーク&gt;</p> <p>第7回: 看護過程の展開⑦ -高齢者の生活機能を支える看護計画立案の考え方- &lt;講義&gt;</p> <p>第8回～9回: 看護過程の展開⑧⑨ -事例についての看護計画立案- &lt;演習・グループワーク&gt;</p> <p>第10回: 高齢者の疑似体験演習の目的・手順・留意点 &lt;講義・演習&gt;</p> <p>第11回～12回: 高齢者疑似体験演習 &lt;実技&gt;</p> <p>第13回: 高齢者の日常生活機能を支える援助演習の目的・手順・留意点 &lt;講義・演習&gt;</p> <p>第14回～15回: 高齢者の日常生活機能を支える援助演習 &lt;実技&gt;</p> <p>提出物に関しては、その後の学修に役立てられるようコメントを行う。また全体で共有すべき質問・意見等は授業内でフィードバックを行うとともにGoogle Classroomに掲載する。ただし、受講学生の習熟度等により授業計画を変更することもある。</p>						
ナンバリング	NRCM3008						

開講年度・開講学期	2023年度 春学期		授業コード	98430				
科目	9843 在宅看護学演習		授業種別	週間授業				
担当教員	蒔田 寛子		単位数	1				
その他担当者	小俣 由佳、鈴木 知代、渡邊 富士子							
授業概要	在宅看護では、様々な対象者に、在宅の場に応じて原理原則を押さえながら臨機応変に援助を実施できる能力が必要である。本科目では、講義と演習を通して、療養者（家族）の健康・生活障害及びニーズを把握し、訪問看護師が実施する看護援助（日常生活援助および医療ケアに伴う援助）を、根拠をふまえて適切に実施できる基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	△	△	△	
到達目標	1.療養者や家族の状況、および生活環境に合わせた日常生活援助の方法を根拠に基づいて具体的に考え実践することができる。 2.医療ケアに伴う援助について、在宅における援助方法および、起こりうるリスクとその対応について説明できる。 3.社会資源の活用および多職種との連携をふまえた、在宅での援助の特徴を説明できる。 4.在宅療養者事例の看護過程の展開ができ、療養者の特徴を踏まえ看護実践する基礎的能力を身につけることができる。 5.訪問看護に必要な基本的マナー、コミュニケーションスキルを身につけることができる。							
テキスト(教科書)	ナーシング・グラフィカ 地域療養を支える技術 第2版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 メディカ出版 (ISBN : 978-4-8404-7544-0) ¥3,080 ナーシング・グラフィカ 地域療養を支えるケア 第7版 臺有桂、石田千絵、山下瑠理子編 メディカ出版 (ISBN : 978-4-8404-7543-3) ¥3,740							
参考書および参考文献	その都度紹介する。							
受講条件	必修科目(専門科目)							
事前・事後学修(内容・時間)	①講義内容に該当するテキストの内容を熟読しておく(第1～8回/30分程度) ②講義内容に該当する援助技術について、基礎看護学で学んだ内容を復習しておく(第1～6回/30分程度) ③演習で学んだ内容は、確実に実施できるように復習する(第2回、4回/30分程度) ④看護過程の自己の課題は完成させて授業でのグループワークに臨むこと(第9～12回/120分程度) ⑤グループワークの課題(ロールプレイ)については、発表までにグループで十分な検討を行い、わかりやすい資料の作成をした上で発表に臨む(第13～15回/120分程度)  以上①～⑤について、1単位の修得には45時間の学修時間が必要であることをふまえ、自己学修を行うこと。							
成績評価	看護過程演習課題、ロールプレイ発表、筆記試験で評価します。 なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする場合があります。							
評価項目	割合	評価基準						
看護過程演習課題	30%	課題に対して適切な内容・記述になっているかを評価する。						
ロールプレイ発表	30%	発表内容および発表後のレポートについて評価する。						
定期試験	40%	講義で学んだ内容の理解度を確認する。						
授業の実施方法及び授業計画	講義は全員で受講し、演習はAグループ、Bグループに分かれて実施します。  第01回 ガイダンス、在宅における日常生活援助の特徴(講義) 第02回 日常生活援助-活動の援助(演習) 第03回 日常生活援助-排泄と清潔の援助(講義) 第04回 医療ケアに伴う援助-在宅酸素療法(講義・演習)(帝人ヘルスケア株式会社講師) 第05回 医療ケアに伴う援助-在宅人工呼吸療法 気管カニューレの管理 腹膜透析 ストーマ管理(講義) 第06回 医療ケアに伴う援助-在宅経管栄養法 輸液管理 インスリン自己管理(講義) 第07回 在宅療養者の看護過程の展開①(講義) 第08回 在宅療養者の看護過程の展開②(講義・個人ワーク) 第09回 在宅療養者の看護過程の展開③(講義・グループワーク) 第10回 在宅療養者の看護過程の展開④(講義・グループワーク) 第11回 在宅療養者の看護過程の展開⑤(講義・グループワーク) 第12回 在宅療養者の看護過程の展開⑥(グループワーク、発表、まとめ) 第13回 訪問看護ロールプレイ演習①シナリオ作成(グループワーク) 第14回 訪問看護ロールプレイ演習②技術練習(演習) 第15回 訪問看護ロールプレイ演習③発表(演習:学生によるプレゼンテーション)  *ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することもあります。 *提出された看護過程演習課題については、コメントをした上で返却します。							
ナンバリング	NRAM3005							

開講年度・開講学期	2023年度 春学期			授業コード	98510			
科目	9851 緩和ケア			授業種別	週間授業			
担当教員	榊原 和美			単位数	1			
その他担当者	大野 裕美							
授業概要	対象者およびその家族の状況を全人的な側面からとらえ、緩和ケアの実際（ホスピス、在宅緩和ケア、非がん疾患を含む）について学修する。また、自らの死生観を問うとともに、エンドオブライフケアにおける意思決定支援についても考察する。 ※この科目は、当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義などを行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	○	○	○	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 緩和ケアの概念・歴史・施策・動向・倫理的問題について述べるができる</li> <li>2. がん患者およびその家族の体験している苦痛・苦悩を全人的視点から述べるができる</li> <li>3. 非がん患者の終末期の特徴をがん終末期との違いから述べるができる</li> <li>4. 症状緩和のためのマネジメント・介入方法について述べるができる</li> <li>5. がんとともに生きることを意味をサバイバーシップの概念と結び付けて述べるができる</li> <li>6. グリーフケアの概念とその実践について述べるができる</li> <li>7. がん医療における意思決定のあり方を自らの死生観を踏まえて述べるができる</li> </ol>							
テキスト（教科書）	宮下光令編：ナーシング・グラフィカ 緩和ケア 成人看護学⑥ 第2版 メディカ出版（ISBN978-4-8404-5378-3） 鈴木久美編：がん看護 南江堂（ISBN978-4-524-24812-4）							
参考書および参考文献	島園進・竹内整一編「死生学とは何か」東京大学出版会2008（ISBN978-4-13-014121-5） ¥2800＋税 <論文> 大野裕美：自分らしく生きていくことと死生観－緩和ケア普及プログラムからの検討－，豊橋創造大学紀要，第22号P.35-43,2018 大野裕美：がん患者のセルフマネジメントに関する研究，豊橋創造大学紀要，第21号P.61-69,2017 大野裕美：がんサバイバーシップとセルフマネジメント－今日的意義と課題に焦点をあてて－豊橋創造大学紀要，第20号P.1-11,2017 その他、必要に応じて紹介する							
受講条件	履修条件を付けない							
事前・事後学修（内容・時間）	<事前学修> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業計画を参照して、テキストの該当ページを読み、分からない箇所を明確にして調べておく（第1～8回：30分程度）</li> <li>2. 講義で示された事前課題に取り組む（第1～8回：30分程度）</li> </ol> <事後学修> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業後は配布資料も含めて自身のまとめノートを作成しておく（第1～8回：60分程度）</li> </ol>							
成績評価	授業の到達目標に沿って評価する。 遅刻・早退・無断欠席、および劣悪な受講態度（私語・居眠り等）は減点の対象とする。							
評価項目		割合	評価基準					
課題提出		20%	提示された課題について適切な内容・記述になっているか評価する					
定期試験		80%	筆記試験において到達度を確認する					
授業の実施方法と授業計画	授業冒頭に確認テストを実施する。確認テストはその場で自己採点し、講義内で解説する。  第1回：緩和ケア概論－概念・歴史・施策・動向・倫理的問題－（ディスカッション） 第2回：がん患者の苦痛と苦悩のマネジメント（プレゼンテーション） 第3回：がんの症状メカニズムとマネジメント（プレゼンテーション） 第4回：がん患者および家族の意思決定－臨床の実際から－（講義） 第5回：緩和ケアと緩和ケアチーム－その人らしさと死生観－（プレゼンテーション） 第6回：エンドオブライフケアとグリーフケア（ディスカッション） 第7回：非がん疾患の緩和ケア（ディスカッション） 第8回：がんサバイバーシップとタナトロジー（プレゼンテーション）  ※受講者の習熟度により内容を変更する場合がある。							
ナンバリング	NRCM3010							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	98630				
科目	9863 成人看護学実習Ⅰ		授業種別	実習				
担当教員	小山 順子		単位数	3				
その他担当者								
授業概要	<p>実習施設にて、疾病の急性・回復期にあり、医療機関において侵襲の大きい治療を受ける患者とその家族を生理的な状況だけではなく心理社会的な全体的な見地から統合的に理解し、生命維持に向けた治療の特徴や回復過程に応じた看護援助のための基礎的能力を養う。  *この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員がその実務経験を生かして講義等を行う科目です。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期、クリティカルな状態にある患者とその家族に対して、積極的な関心を持ち、適切な関係を築くことができる。</li> <li>2. 周手術期、クリティカルな状態にある患者の生理的、心理社会的状態をアセスメントし、看護診断できる。</li> <li>3. 周手術期、クリティカルな状態にある患者の看護介入について立案できる。</li> <li>4. 周手術期、クリティカルな状態にある患者に全人的理解に基づいた看護を実践できる。</li> <li>5. 患者の権利を擁護し、看護専門職者としての倫理観を身につけることができる。</li> <li>6. 患者にかかわる医療関係者との連携の重要性が理解できる。</li> <li>7. 看護学生として責任ある行動をとることができ、専門職者として常に学び続ける姿勢をもつことができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	<p>本庄恵子,吉田みつ子監修(2020):新訂版 写真でわかる臨床看護技術 2アドバンス [Web動画付],インターメディカ. ISBN: 978-4-89996-414-8 (成人看護学演習Ⅰで購入済み)  中島 恵美子 編集(2017):ナースング・グラフィカ成人看護学(4)周術期看護[第3版].メディカ出版. ISBN: 978-4-8404-5376-9 (成人看護学Ⅰで購入済み)  矢永勝彦, 高橋則子編集(2017):系統看護学講座別巻1臨床外科看護総論[第11版].医学書院. ISBN: 978-4-260-02769-4 (病態と治療で購入済み)</p>							
参考書および参考文献	<p>北島政樹,江川幸二編集(2017):系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論[第11版].医学書院. ISBN: 978-4-260-02769-4</p>							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	<p>★実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、また、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。  実習前の事前学修:実習ガイドンスで提示した事前課題を調べて実習に参加すること。  実習中の事前学修:実習中の課題に取り組むこと。  事後学修:実習での学びを実習記録にまとめること。</p>							
成績評価								
実習評価表により評価を行う。								
評価項目	割合	評価基準						
実習内容、実習記録、提出物、カンファレンス参加度	100%	評価表に基づき評価する						
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.周術期実習(豊橋医療センター、豊川市民病院、岡崎市民病院、成田記念病院) <ol style="list-style-type: none"> <li>①実習期間:2週間</li> <li>②実習内容:手術療法を受ける患者を受け持ち、術前から術後回復期までの看護を実践する。</li> </ol> </li> <li>2. クリティカルケア実習(浜松医療センター、豊橋ハートセンター) <ol style="list-style-type: none"> <li>①実習期間:1週間</li> <li>②実習内容: クリティカルケアが提供される場(ICU、救命センター等)で実習する。</li> </ol> </li> </ol> <p>詳細は事前オリエンテーションで説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題は担当教員との実習前面接時にフィードバックを行い、返却する。</li> <li>・課題レポート・実習記録は担当教員との実習後面接時にフィードバックを行う。</li> </ul>							
ナンバリング	NREM3009							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	98640				
科目	9864 成人看護学実習Ⅱ		授業種別	実習				
担当教員	豊島 由樹子		単位数	3				
その他担当者	山本 義昭							
授業概要	慢性病とともに生きる患者とその家族を総合的に理解し、その人らしい生活の実現に向けた看護実践に必要な基礎的能力を養う。 ※この科目は当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かし講義等を行う科目である。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	○	○	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性病とともに生きる患者とその家族に対して、適切な援助的人間関係を築くことができる</li> <li>慢性病とともに生きる患者を総合的に理解し、看護過程の思考を用いて、その人らしい生活の実現に向けた看護が実践できる。</li> <li>慢性病とともに生きる患者・家族に関わる医療チームにおいて、看護専門職の役割を認識して行動することができる。</li> <li>慢性病とともに生きる患者と家族の権利を擁護し、看護専門職としての倫理観を身につけることができる。</li> <li>看護学生として責任ある行動をとることができ、専門職者として常に学び続ける姿勢をもつことができる。</li> </ol>							
テキスト(教科書)	(既に購入済) 「成人看護学概論 (成人看護学①)」, 安酸史子他編, メディカ出版, 2022年, ISBN:978-4840475280 「成人看護学 慢性期看護 改訂第3版」, 鈴木久美他編, 南江堂, 2020年, ISBN:978-4524241989 「糖尿病治療の手引き 改訂第58版」, 日本糖尿病学会編著, 南江堂, 2020年, ISBN:978-4524227280							
参考書および参考文献	適宜紹介する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。ただし、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については各自学修を行うこと。 事前学修:「成人看護学概論」「成人看護学Ⅱ」「成人看護学演習Ⅱ」で学修した内容を復習して実習に臨む。また、指定された事前課題を期日までに行う。 事後学修:実習中の課題に取り組む。実習後は、理解が不十分であった内容について、国家試験に向けて各自復習を行う。							
成績評価	実習目標、到達目標が達成できているかを、実習内容、実習記録、カンファレンスでの発言、実習態度等について、実習評価表に基づいて総合的に評価する。							
評価項目	割合	評価基準						
実習内容、実習記録、カンファレンスへの参加度	100%	実習評価表に基づき評価する						
授業の実施方法及び授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性看護病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習期間:2週間</li> <li>実習場所:豊橋医療センター、豊川市民病院、浜松市リハビリテーション病院</li> <li>実習内容:慢性病を抱えて入院している患者1~2名を受け持ち、看護過程を用いて看護を実践する。</li> </ol> </li> <li>透析クリニック実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>実習期間:1週間</li> <li>実習場所:医療法人社団三遠メディメイツ 豊橋メイツクリニック</li> <li>実習内容:慢性病(腎不全・透析治療)とともに地域で生活している患者とその家族への看護について学修する。</li> </ol> </li> </ol> <b>実習方法</b> (1) 学内オリエンテーション・臨地オリエンテーション:実習施設の概要、診療記録の閲覧方法等について説明を受ける。 (2) 臨地で実習指導者・教員の指導のもと、看護学生として責任をもって実習を行う。 (3) カンファレンス:毎日、学生主体で行う。臨地最終日に臨地実習指導者も交えて、実習のまとめカンファレンスを行う。 (4) 最終日には、実習施設合同のカンファレンスを行い、実習目標について学びの共有をはかる。 事前学修および実習記録等に関しては、その後の学修に役立てられるようコメントを行う。 詳細については、「成人看護学実習Ⅱ実習要項」参照。							
ナンバリング	NREM3010							

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期			授業コード			98670		
科目	9867 小児看護学実習			授業種別			実習		
担当教員	河合 洋子			単位数			2		
その他担当者									
授業概要	<p>小児とその家族の特徴を理解し、成長・発達を促す援助や健康レベルに適した援助についての基本的な知識・技術・態度を学び、あらゆる健康レベルおよび成長・発達過程にある小児とその家族への看護実践能力を養う。  *この科目は該当授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその経験を活かし実習指導を行う科目である。</p>								
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	△	○	○	◎		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長・発達段階に応じた援助を実践することができる。</li> <li>2. 病気・障害、および入院などの環境が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、対象となる子どもと家族の状態を適切に捉えることができる。</li> <li>3. 対象となる子どもと家族にとつての最適な健康状態をめざした看護援助を実践することができる。</li> <li>4. 子どもの権利擁護の重要性を理解したうえで、子どもと家族を尊重した関わりができ、援助的人間関係が形成できる。</li> <li>5. 自らの看護を振り返り、自己の課題を明らかにすることができる。</li> <li>6. 子どもと家族に関わるチームの一員として、役割をはたすことができる。</li> </ol>								
テキスト(教科書)	なし								
参考書および参考文献	適宜紹介する								
受講条件	必修科目 履修条件を付けない								
事前・事後学修(内容・時間)	実習は45時間をもって1単位とする。但し、実習開始にあたり不足する内容、実習後に補う内容については、各自で学習を行うこと。 <具体的な内容> ①専門基礎科目、専門科目での講義・演習(特に関連する病態と治療Ⅳ、小児看護学概論、小児臨床看護学、小児看護学演習)で、これまで学修した内容の復習 ②事前課題として指示した内容について、実習中活用できるように整理しておくこと								
成績評価									
実習内容、実習記録、カンファレンスでの発言内容、実習への取り組み姿勢により、評価表に記載の評価項目、評価基準にそって総合的に評価する。なお、実習における取り組みが誠実でない場合(欠席、遅刻など)は減点の対象とする。									
評価項目	割合	評価基準							
実習内容・実習記録・カンファレンスでの発言(討議)内容	90%	本科目の到達目標(上記1～5)に対する細項目について、5段階の基準にそって評価する(詳細は評価表参照のこと)							
実習への取り組み姿勢	10%	本科目の到達目標(上記6)について、実習への取り組み姿勢、貢献度、実習記録の提出状況などを含めた5段階の基準にそって評価する(詳細は評価表参照のこと)							
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前オリエンテーション <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全体オリエンテーション(学内)</li> <li>2) 病院・病棟オリエンテーション</li> </ol> </li> <li>2. 保育園実習(2日間)  保育園実習は、病棟実習前豊橋市内の指定された保育園で実施する。各施設の日課や行事に従い、配属されたクラスの保育士の指導のもと、一緒に保育活動に参加する。</li> <li>3. 病棟実習(8日間)  病棟実習は、臨地実習計画表に基づき、指定された病院で実習を行う。入院している小児を受持ち、看護過程の展開を通して、看護を実践する。  &lt;実習の進め方&gt;  1日目:病院・病棟オリエンテーション、受持ち患児の決定など  2日目以降:看護計画の立案および計画に基づく援助の実施  ※病棟実習最終日:最終カンファレンス(病院により時間は異なる。)  8日目:学内実習   詳細は小児看護学実習要項を参照のこと  *事前課題および実習記録については、教員または実習指導者が適宜内容を確認し、フィードバックする。また、病棟実習ではルーブリック評価表を用いて中間評価面談を実施する。 </li> </ol>								
ナンバリング	NRGM3007								

開講年度・開講学期	2023年度 秋学期		授業コード	986B0			
科目	986B 老年看護学実習Ⅱ		授業種別	実習			
担当教員	相羽 利昭		単位数	2			
その他担当者	森 裕介						
授業概要	<p>老年期に特有の健康障害をもつ高齢者を全人的に捉え、療養生活を送る高齢者と家族のその人らしい生活の実現に向けた看護実践に必要な基礎的能力を養う。  ※この科目は、当該授業内容に関する看護師の実務経験を有する教員等がその実務経験を活かして講義等を行う科目です。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
ディプロマポリシーとの関連性	◎	◎	◎	○	○	○	○
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者・家族に合わせたコミュニケーション技術を用いて、適切な人間関係を築くことができる。</li> <li>2. 加齢変化および健康障害をもつ高齢者を全人的に捉えることができる。</li> <li>3. 目標指向型思考を用いて、高齢者のその人らしい生活の実現に向けた看護目標の明確化、看護計画の立案ができる。</li> <li>4. 高齢者のもつセルフケア能力をいかした生活機能を支える看護を実践できる。</li> <li>5. 療養生活を送る高齢者の生活を支える医療福祉チームの一員として、看護の役割を認識して行動できる。</li> <li>6. 看護学生として責任ある行動をとり、積極的に実習に取り組むことができる。</li> </ol>						
テキスト(教科書)	「新体系看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論/老年保健」、亀井智子 編, メヂカルフレンド社, 2020年, ISBN 978-4839233723 「ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践」、堀内ふき他 編, メディカ出版, 2021年, ISBN 978-4840472098						
参考書および参考文献	適宜紹介する。						
受講条件	必修科目 履修条件を付けない。						
事前・事後学修(内容・時間)	事前学修: 「老年看護学概論」「老年臨床看護学」「老年看護学演習」で学修した内容を復習して実習に臨む。また、指定された事前課題を期日までに(3時間) 事後学修: 実習中の課題に取り組む(実習記録に毎日記録する。(1時間))						
成績評価	実習目標、到達目標が達成できているかを、事前学修、実習記録、看護実践、カンファレンスでの発言、実習態度について、実習評価表に基づいて評価する。						
評価項目	割合	評価基準					
実習内容・実習記録	80%	実習目標・到達目標の達成状況の評価する。					
実習への取り組み	20%	評価表に基づき、看護学生として責任ある行動がとれているかを評価する。					
授業の実施方法と授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習期間: 2023年度秋学期開講(2週間)</li> <li>2. 実習場所: 介護老人保健施設、病院など</li> <li>3. 実習方法: 1施設に複数名の学生グループを編成し、さらに各フロアに分かれて実習する。</li> <li>4. 実習内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 施設オリエンテーション: 臨地で、実習施設の概要、各療養棟の構造と物品、診療記録の閲覧方法等について説明を受ける。</li> <li>2) 実習施設において、療養生活を送る高齢者を1名受け持ち、看護師とともに日常生活の援助に関わりながら、老年看護過程を展開し、評価、修正を行う。</li> <li>3) カンファレンス: 毎日、学生主体で行う。臨地最終日に臨地実習指導者も交えて実習報告会を行う。</li> <li>4) 学内実習では、個人ワーク、グループワーク等により、実習の学びを深める。</li> </ol> </li> </ol> <p>最終日には、実習目標について学びの共有を行う。</p> <p>事前学修および実習記録等に関しては、その後の学修に役立てられるよう日々コメントを行う。詳細については、「老年看護学実習Ⅱ実習要項」参照。</p>						
ナンバリング	NRFM3009						